

2018年度シラバス目次

授業コード	科目名称	担当教員	頁
BA0101	基礎ゼミナール	近藤・中神・荒金・鈴木・星・植松・榎田・林・羽場	19
BA0201	人間環境学	城田純平	21
BA0301	医療キャリアの基礎	石井／森川／山田／藏本／大林／日本マナーサービス(株)	23
BB0101	英語 I	西牟田祐美子	24
BB0102	英語 I	Cabrido Erwin Figarola	25
BB0103	英語 I	Ngaire Anne Keenan	26
BB0104	英語 I	Lisa D. Mandziak	27
BB0105	英語 I	Lisa D. Mandziak	27
BB0201	英語 II	西牟田祐美子	28
BB0202	英語 II	Cabrido Erwin Figarola	25
BB0203	英語 II	Ngaire Anne Keenan	26
BB0204	英語 II	Lisa D. Mandziak	27
BB0205	英語 II	Lisa D. Mandziak	27
BB0301	英語 III	西牟田祐美子	29
BB0302	英語 III	Cabrido Erwin Figarola	30
BB0303	英語 III	Ngaire Anne Keenan	31
BB0304	英語 III	Lisa D. Mandziak	32
BB0305	英語 III	Lisa D. Mandziak	32
BB0401	英語 IV	西牟田祐美子	33
BB0402	英語 IV	Cabrido Erwin Figarola	30
BB0403	英語 IV	Ngaire Anne Keenan	31
BB0404	英語 IV	Lisa D. Mandziak	32
BB0405	英語 IV	Lisa D. Mandziak	32
BB0501	中国語 I	川口奈々美	34
BB0601	中国語 II	川口奈々美	36
BB0701	コンピュータ基礎・情報処理法	市川誠一／西川まり子／高久道子	38
BB0702	コンピュータ基礎・情報処理法	市川誠一／西川まり子／高久道子	38
BC0101	日本国憲法	木幡洋子	40
BC0201	愛知を学ぶ	朝井佐智子	42
BC0301	人間関係論	木幡洋子	44
BC0401	教育心理学	宮田延実	46
BC0501	フィットネススポーツ	伊藤敦子	47
BC0502	フィットネススポーツ	鳥居果奈	48
BC0601	体育実技	伊藤敦子・鳥居果奈	49
BC0701	家族社会学	市川季夫	50
BC0801	生命倫理学	佐藤労	51
BC0901	社会福祉学	塚本銳裕	52
BC1001	国際文化論	大野和基	54
BC1101	教育社会学	松浦善満	55
BC1201	社会保障論	塚本銳裕	56
BC1301	哲学	松浦明宏	57
BC1401	ヨーロッパの芸術文化	日比野雅彦	58
BC1501	日本の歴史と文化	田浦雅徳	59
BC1601	経営学の基礎	磯貝明	60
BC1701	社会・環境と健康	朝山正己	62
BD0101	教職論	折出健二	63
BD0201	教育原理	折出健二	64
BD0301	教育方法論	北島信子	65
BD0401	教育課程論	今井理恵	67
BD0501	道徳教育・特別活動論	山口匡／宮田延実	68
BD0601	生徒指導論	折出健二	69
BD0701	教育相談	折出健二	70
BD0801	ボランティア実習	森川英子	71
BD0901	養護実習 I	松原紀子	72
BD1001	養護実習 II	松原紀子・森川英子	72
BD1101	教職実践演習（養護教諭）	森川英子・山田裕子・松原紀子	74
BE0101	解剖生理学 I A	石黒士雄	75
BE0201	解剖生理学 II A	石黒士雄	76

授業コード	科目名称	担当教員	頁
BE0301	解剖生理学ⅠB	石黒士雄	77
BE0401	解剖生理学ⅡB	石黒士雄	78
BE0501	微生物学	石原由華	79
BE0601	生化学	太田美智男	81
BE0701	栄養学	太田美智男	83
BE0801	適応・協闘の生理学	朝山正己	84
BF0101	病理学	太田美智男	86
BF0201	疾病・治療論Ⅰ	石黒士雄	88
BF0301	疾病・治療論Ⅱ	安藤／岡本／前田／太田	90
BF0401	疾病・治療論Ⅲ	澤田／関谷／藤井／宮村／前田	92
BF0501	老年疾病治療論	岡本和士	94
BF0601	薬理学	堀田芳弘	95
BG0101	統計学	西川まり子／市川誠一／高久道子	97
BG0201	疫学	西川まり子／市川誠一	99
BG0301	保健看護情報学	市川誠一／永坂和子	100
BG0401	公衆衛生学	藤原奈佳子／原田裕子	102
BG0501	保健医療福祉行政論	三井明美	104
BG0601	臨床心理学	西牟田祐美子	105
BG0701	カウンセリング	西牟田祐美子	106
BG0801	チームケア論	石井／加藤容／牧ヶ野／夏目／渡辺	108
BG0901	医療リスクマネジメント論	藤原奈佳子／石井英子／廣瀬小巻	109
BG1001	人権擁護と成年後見制度	塚本銳裕	111
BG1101	医療経営論	大村いつみ	112
BH0101	看護学概論Ⅰ	篠崎恵美子	113
BH0201	看護学概論Ⅱ	倉田／内藤／三徳／西川／臼井／柴山／郷良／山本	115
BH0301	看護学概論Ⅲ	篠崎恵美子	117
BH0401	生活援助方法論	篠崎恵美子／服部美穂	118
BH0501	生活援助方法演習	篠崎・服部・伊藤・山口・大林	120
BH0601	診療援助方法論	山口貴子／伊藤千晴	122
BH0701	診療援助方法演習	山口・伊藤・篠崎・服部・大林	124
BH0801	看護コミュニケーション論	篠崎恵美子	126
BH0901	看護倫理	伊藤千晴	128
BH2101	看護管理学	藤原奈佳子／川北美枝子／白井麻希	129
BH2201	組織とリーダーシップ論	藤原奈佳子／永坂和子	130
BI0101	小児看護学概論	倉田節子	132
BI0201	小児看護援助論Ⅰ	倉田節子／深谷久子	134
BI0301	小児看護援助論Ⅱ	深谷久子／倉田節子	136
BI0401	小児看護援助論Ⅲ	倉田節子／深谷久子	138
BI0501	小児看護技術論	深谷久子	140
BI0601	小児看護学外演習	深谷久子・植松裕子	142
BI0701	小児看護演習	深谷久子	144
BI2101	母性看護学概論	内藤直子	146
BI2201	母性看護援助論Ⅰ	藏本直子／杉下佳文	148
BI2301	母性看護援助論Ⅱ	杉下／藏本／星／内藤	149
BJ0101	成人看護学概論	柴山健三／加藤亜妃子	151
BJ0201	急性期看護援助論Ⅰ	柴山健三	153
BJ0301	急性期看護援助論Ⅱ	中神友子／柴山健三	154
BJ0401	慢性期看護援助論Ⅰ	加藤亜妃子	156
BJ0501	慢性期看護援助論Ⅱ	加藤亜妃子／永坂和子	157
BJ0601	がん看護援助論	加藤亜妃子	159
BJ0701	がん看護技術論	加藤亜妃子	160
BJ0801	がん看護学外演習	加藤亜妃子	161
BJ0901	がん看護演習	加藤亜妃子	162
BJ2101	高齢者看護学概論	臼井キミカ／安藤純子	163
BJ2201	高齢者看護援助論Ⅰ	臼井キミカ／安藤純子／甲村朋子	165
BJ2301	高齢者看護援助論Ⅱ	臼井／安藤／甲村／櫻井	167
BJ2401	認知症看護援助論	安藤純子／甲村朋子	169
BJ2501	認知症看護技術論	臼井／安藤／甲村／櫻井	170
BJ2601	認知症看護学外演習	臼井・安藤・甲村・櫻井	171
BJ2701	認知症看護演習	臼井キミカ／安藤純子	172
BK0101	在宅看護学概論	福田由紀子／山本純子	173

授業コード	科目名称	担当教員	頁
BK0201	在宅看護援助論Ⅰ	石井英子／福田由紀子／山本純子	175
BK0301	在宅看護援助論Ⅱ	山本純子／福田由紀子	177
BK0401	終末期看護学	島内節／朝倉由紀／山本純子	179
BK0501	在宅・終末期看護援助論	島内節／山本純子／朝倉由紀	180
BK0601	在宅・終末期看護技術論	山本純子・朝倉由紀	182
BK0701	在宅・終末期看護学外演習	福田由紀子・山本純子	183
BK0801	在宅・終末期看護演習	福田由紀子・山本純子	184
BK2101	地域看護・公衆衛生看護学概論	三徳和子／森川英子	186
BK2201	公衆衛生看護援助論Ⅰ	石井英子／三徳和子／山田裕子	188
BK2301	公衆衛生看護援助論Ⅱ	山田裕子／荒金英里子／石井英子	190
BK2401	公衆衛生看護援助論Ⅲ	石井・三徳・山田・西川・森川	192
BK2501	公衆衛生看護援助論Ⅳ	三徳和子	194
BK2601	学校保健	松原紀子	195
BK2701	養護概説	松原紀子	197
BK2801	健康相談活動論	松原紀子	199
BK4101	国際看護学Ⅰ	西川まり子	201
BK4201	国際看護学Ⅱ	西川まり子	203
BK4301	国際看護学Ⅲ	西川まり子／朝倉由紀	205
BK4401	国際看護学Ⅳ	西川まり子	207
BK4501	国際看護学海外研修	西川まり子	208
BK6101	精神保健看護学概論	郷良淳子	210
BK6201	精神看護援助論Ⅰ	松浦利江子／郷良淳子	212
BK6301	精神看護援助論Ⅱ	松浦利江子／三浦藍／郷良淳子	213
BL0101	家族看護論	山崎あけみ／川原妙	215
BL0201	看護過程	篠崎／内藤／伊藤／三浦／山口／大林	216
BL0301	ヘルスアセスメントⅠ	篠崎／伊藤／服部／大林	218
BL0401	ヘルスアセスメントⅡ	柴山／郷良／深谷／安藤／福田／山本／藏本／櫻井	220
BL0501	看護教育論	渡邊順子	222
BL0601	災害看護学	畠吉節未	223
BL0701	緩和ケア・ターミナル看護論	岩井美世子／井上さよ子	224
BL0801	看護総合科目	三井明美	225
BL0901	ストレスマネジメント論	郷良淳子／服部希恵	226
BL1001	研究方法論	藤原奈佳子／山田裕子／北川眞理子	227
BL1101	看護研究	倉田節子他33名	229
BM0101	基礎看護学実習Ⅰ	篠崎・伊藤・服部・山口・大林・栗田	230
BM0201	基礎看護学実習Ⅱ	篠崎・伊藤・服部・山口・大林・栗田	232
BM0301	小児看護学実習	倉田節子・深谷久子・植松裕子	234
BM0401	母性看護学実習	杉下・藏本・星・内藤	236
BM0601	急性期看護学実習	柴山健三・中神友子	238
BM0701	慢性期看護学実習	永坂和子・加藤亜妃子・林容子	240
BM0801	在宅高齢者看護学実習	臼井・安藤・石井・甲村・櫻井・榎田	242
BM0901	高齢者看護学実習	臼井・安藤・甲村・櫻井	244
BM0501	精神看護学実習	松浦・三浦・鈴木	246
BM1001	国際看護学実習	西川まり子	248
BM1101	在宅看護学実習	石井・福田・山本・山田	249
BM1201	公衆衛生看護学実習Ⅰ	石井・三徳・山田・荒金	250
BM1301	公衆衛生看護学実習Ⅱ	石井・三徳・山田・荒金	251
BM1401	統合実習	倉田節子他 名	252

科目区分	基礎科目-専門学修の基礎			成るためには、ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BA0101-09				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	基礎ゼミナール				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		判断力		
担当教員	近藤・中神・荒金・鈴木・星・植松・榎田・林・羽場				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的	<p>基礎ゼミナールは1年生前期の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的技能や知的探究心を鍛錬することを目的にしている。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育てることを目的とする。</p>																						
授業内容	<p>これから大学で勉強していく上で必要な基礎的技能として下記のことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・社会生活におけるマナー（受講方法、メール、訪室時等） ・レポート・プレゼンテーション資料作成に必要なPC基本操作（Word、Excel、PowerPoint） ・レポートの書き方（形式、記載内容、文献引用のルール、剽窃行為等） <p>知的探究心を鍛錬するため、また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育むために下記のことを学習する。</p> <p>医療・保健・看護に関連するテーマを用いて、9～10名程度の少人数のグループで討論を通して、関心あるテーマに関する理解を深めることができる。さらに文献検索等を通して理解を深めたことをふまえ、自分なりに考えをまとめて人に伝える工夫をすること、他者との討論を通して異なる意見を受けとめ、それを取り入れさらに理解を深めることができる。これらを通して、理解したテーマについての学びをレポートにまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索の方法（図書館の利用方法、文献の種類等） ・グループワーク・グループディスカッションの方法、実践 ・プレゼンテーションの方法、実践（司会、書記、タイムキーパー等の役割） 																						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールには積極的に参加すること。 ・「コンピュータ基礎・情報処理法」で学習することを活用すること。 ・授業計画および学習課題（予習・復習）は、図書館実習の開催時期、学習の理解状況等により、各担当教員で進度の変更をすることがある。 ・医療・保健・看護に関連するテーマは、各担当教員の指示に従う。 ・この単位を修得するにあたり、およそ30時間程度の授業時間外の学修（学習課題に示されている予習・復習）が必要となる。 ・グループディスカッション、発表についてのフィードバックはその都度講義時間内に行う。 																						
教材	<p>知へのステップ第4版：学習技術研究会編、くろしお出版、2015、1,944円</p>																						
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コースオリエンテーション スタディスキルズとは</td> <td>第I部第1章「スタディスキルズとは」について読み、大学で何をどのように学ぶのか考え、今後の計画を立てる。 自己紹介を兼ねて発表し、親睦を深める。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大学生活・社会生活におけるマナー (受講方法、メール、訪室時等)</td> <td>第II部第2章「ノート・テイキング」について読み、講義の受講方法を理解し、実践する。アポイントの取り方、メールでの連絡方法、訪問の基本を理解し、実践する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療・保健・看護に関連するテーマの決定</td> <td>第II部第3章「リーディングの基本スキル」について読み、興味・関心のあるテーマを決定する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）</td> <td>第III部第5章「大学図書館における情報収集」を読み、図書館の利用方法を理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）</td> <td>第III部第6章「インターネットによる情報収集」を読み、文献検索方法を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>					回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	コースオリエンテーション スタディスキルズとは	第I部第1章「スタディスキルズとは」について読み、大学で何をどのように学ぶのか考え、今後の計画を立てる。 自己紹介を兼ねて発表し、親睦を深める。	2	大学生活・社会生活におけるマナー (受講方法、メール、訪室時等)	第II部第2章「ノート・テイキング」について読み、講義の受講方法を理解し、実践する。アポイントの取り方、メールでの連絡方法、訪問の基本を理解し、実践する。	3	医療・保健・看護に関連するテーマの決定	第II部第3章「リーディングの基本スキル」について読み、興味・関心のあるテーマを決定する。	4	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第5章「大学図書館における情報収集」を読み、図書館の利用方法を理解する。	5	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第6章「インターネットによる情報収集」を読み、文献検索方法を理解する。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																					
1	コースオリエンテーション スタディスキルズとは	第I部第1章「スタディスキルズとは」について読み、大学で何をどのように学ぶのか考え、今後の計画を立てる。 自己紹介を兼ねて発表し、親睦を深める。																					
2	大学生活・社会生活におけるマナー (受講方法、メール、訪室時等)	第II部第2章「ノート・テイキング」について読み、講義の受講方法を理解し、実践する。アポイントの取り方、メールでの連絡方法、訪問の基本を理解し、実践する。																					
3	医療・保健・看護に関連するテーマの決定	第II部第3章「リーディングの基本スキル」について読み、興味・関心のあるテーマを決定する。																					
4	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第5章「大学図書館における情報収集」を読み、図書館の利用方法を理解する。																					
5	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第6章「インターネットによる情報収集」を読み、文献検索方法を理解する。																					

6	文献検索・文献の整理	第Ⅲ部第 7 章「情報の整理」について読み、決定したテーマに関する文献検索、文献の整理をする。
7	文献の整理・要約	第Ⅱ部第 4 章「より深いリーディングのために」について読み、テーマに関する文献の要約をする。
8	グループワーク・グループディスカッション	テーマに関する文献の要約をふまえ、グループワーク・グループディスカッションを通して理解を深める。
9	グループワーク・グループディスカッション	テーマに関する文献の要約をふまえ、グループワーク・グループディスカッションを通して理解を深める。
10	レポートの書き方	第Ⅳ部第 8 章「アカデミック・ライティングの基本スキル」について読み、レポートの書き方（形式、記載内容、文献引用のルール、剽窃行為等）を理解する。
11	レポート作成と PC 基本操作	第Ⅳ部第 9 章「効果的なアカデミック・ライティングのために」について読み、レポート作成に必要な PC 基本操作（Word、Excel）を理解する。
12	レポート作成と PC 基本操作	第Ⅳ部第 10 章「パソコンによるライティング・スキル」について読み、レポート作成に必要な PC 基本操作（Word、Excel）を実践する。
13	発表準備	第Ⅴ部第 11 章「プレゼンテーションの基本スキル」について読み、プレゼンテーション資料作成に必要な PC 基本操作（Word、Excel、PowerPoint）を理解し、実践する。
14	発表	第Ⅴ部第 12 章「わかりやすいプレゼンテーションのために」について読み、プレゼンテーションの方法を理解し、司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
15	発表	第Ⅴ部第 12 章「わかりやすいプレゼンテーションのために」について読み、プレゼンテーションの方法を理解し、司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。

評価方法 および評価基準

課題レポート 50%、授業態度 50%

S (100~90 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に誠実に取り組むことができる。

A (89~80 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に誠実に取り組むことができる。

B (79~70 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が不十分な点はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基礎科目-専門学修の基礎			ディプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BA0201				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	人間環境学				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力		
担当教員	城田純平				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
人間環境大学の建学の精神である人間環境学について、その学問の起こりと理念を理解することが本講義の目的である。また同時に、受講生各自が看護学部での専門的な学びを、人間環境学という理念のもとに捉えられるようになることを狙う。		
授業内容		
<p>「人間環境学」という建学の理念のもとに目指されているのは、〈知の全体性を取り戻すこと〉に他ならない。学問の個別専門化が進む中で、学問知はその全体的な〈まとまり〉を失い、私たち一人ひとりの生との具体的な〈つながり〉を欠きつつある。では、私たちはこの危機的状況をいかにして打ち破ることができるのか。人間環境学の理念は、こうした鋭い問題意識のもとに建立されたものである。そのため、「人間と環境」と言われるときの「環境」には、自然環境という、狭い意味での環境にとどまらず、精神環境、歴史環境、文化環境、社会環境など、私たち人間を取り巻くあらゆるものが含まれている（「environment」とは元々「取り巻くもの」を意味している）。他方で、ここでの「人間」とは、（西洋近代において前提とされたような）孤立的な個人のことではなく、むしろ共同体の中で他者と共に生きる存在を意味しており、また同時に、それは単に精神的存在であるだけでなく身体的存在でもある。そして、このようにして「人間」と「環境」それぞれについての知の全体的な〈まとまり〉を保った上で、私たち「人間」と「環境」との間の生きた〈つながり〉——すなわち「人間と環境」の「と」——これを追究し、恢復（かいふく）するのが、人間環境学である。本講義では、この理念が指し示すところに従って、私たち一人ひとりが「生きる」ということ、すなわち人間の「生」という根本現象——ここにはいつも既に環境との関わりが見られるわけであるが——に焦点を合わせることで、知の〈まとまり〉と〈つながり〉を維持しつつ、看護学・心理学・環境科学という、人間環境大学の各学部・学科の柱となっている領域へと向かって議論を展開していく。</p> <p>具体的には、第一回・第二回で人間環境学への導入を行った後に、第三回から第五回にかけては私たちの生と自然環境との関わりについて、第七回から第十回にかけては他者の生への関わりについて、第十二回から第十四回にかけては心と身体の問題について考えていく。なお、第六回・第十一回・第十五回はそれぞれ、それまでの内容を復習し、まとめるためのコマとする。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>講義内には私語厳禁であるが、自由な質疑応答の時間も設けるので、積極的に発言すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> * この科目的単位を修得するにあたり、「学習課題(予習・復習)」に示されている授業時間外学修が 60 時間程度必要。 * 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。 		
教材		
教科書は特に指定しない（講義内でプリントを配布）。参考書としては、例えば、マルティン・ハイデガー『存在と時間 I』（原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス、2003 年）、パトリシア・ベナー、ジュディス・ルーベル『現象学的人間論と看護』（医学書院、1999 年）など。他の文献は講義内で指示。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	人間環境学概論	予習：人間環境大学のホームページの「学長あいさつ」と、本科目シラバスの〈科目的概要〉を読む。 復習：今回の教材として配布された資料を熟読し、人間環境学のポイントを理解する。
2	私たちの「生」から始める人間環境学	予習：今回のコマシラバスを読んでおく。また、今回の教材を第一回講義の終わりに配布するので、これについても一読する。 復習：今回の講義のポイントを復習し、各点について 3 分程度で説明できるようにする。
3	私たちの「生」の二重性—人間的な「生」（ビオス）と生物的な「生」（ゾエ）—	予習：今回の教材プリントをあらかじめ読んでおく。 復習：今回取り上げるプラトンとニーチェの考え方、互いにどのように異なっていたかを説明できるようにする。
4	私たちの「生」は「環境」とどのように関わっているのか？—動物との比較から—	予習：今回の教材プリントをあらかじめ読んでおく。 復習：シェーラーの議論を復習し、人間の「世界開放性」とはどのようなことを表しているのか、3 分程度で説明できるようにする。
5	人間が環境を守ることの「なぜ」と「どのように」—社会環境との関わりの中で—	予習：高等学校の「公民」で学んだ「環境税」、「排出権取引」について復習しておく。 復習：ヨナスとルーマンの議論を復習し、それぞれを説明できるようにしておく。

6	復習コマ(1)—日本と西洋における「人間環境」の捉え方の違いを視野に入れて—	予習：第三回・第四回で学んだシェーラーの人間観が、第三回の前半で検討した古代ギリシアの人間観とどのような関係にあったのかを整理しておく。 復習：丸山の議論を復習し、西洋と日本における自然観の相違を押さえる。
7	私たちの「生」の本質としてのケア—他者への「ケア」とはどういうことか?—	予習：教材を読み、〈自己実現のために相手の成長をたすけること〉と、〈相手の成長をたすけることによって自己実現すること〉との違いを考える。 復習：「他者へのケア」と「自己へのケア」が本質的につながっている、というポイントを復習しておく。
8	他者の「生」と「環境」—二人称の生と三人称の生—	予習：第二回講義の復習課題に再度取り組んだ上で、配布プリントを熟読しておく。 復習：他者の生への「同行」とは何を意味するのか、説明できるようにしておく。
9	他者の「生」の終わりへの眼差し—「脳死」の問題を例として—	予習：「脳死」についてインターネットで調べてまとめておく。 復習：人の「死」を見る二つの視点（二人称の視点・三人称の視点）の違いを説明できるようにする。
10	他者の「生」の始まりへの眼差し—「人工妊娠中絶」の問題を例として—	予習：「母体保護法」における「人工妊娠中絶」に関する規定をインターネットで調べておく。 復習：二人称の視点から見る場合と、三人称の視点から見る場合では、人の生はいつから始まるかという問題について、どのような異なった考えが成立するか、ミニレポート（600字程度）を作成する。
11	復習コマ(2)—時間性の観点から—	予習：自分自身のこれまでの人生において重要だったと思う出来事を5つピックアップし、なぜそれが重要だと考えられたのか、未来の自分自身の在り方という視点から説明できるようにする。 復習：第七回から第十回の復習課題に再度取り組む。
12	「生」の学としての「プシュケーの学」—古代ギリシアにおける「プシュケー」（魂）と「ソーマ」（身体）—	予習：第三回の講義の内容を振り返っておく。 復習：プシュケー（魂）とソーマ（身体）との関係が、プラトンとアリストテレスにおいてどのように異なったのかという点を中心に復習しておく。
13	私たちの「心」と「身体」はどういうに関わっているのか?—「心身問題」—	予習：私たちの日常生活における「心」と「身体」が関わり合っている例を三つ以上考えておく。 復習：日常における「心」と「身体」との関わりを具体例として「心身問題」について説明できるようにしておく。
14	「生きた身体」—私たちの「生」の現場へ戻る—	予習：自分の生活中で「からだで憶えている」と思うこと（例えば、「車の運転」、「ピアノの演奏」、「目をつぶっていても目覚まし時計を止められる」など）を5つ以上ピックアップしておく。 復習：デカルトとメルロー＝ポンティの「身体」の捉え方の違いを説明できるようにしておくと共に、第十二回・第十三回の復習課題にも再度取り組み、「心」と「身体」についての問題を総復習する。
15	まとめ	予習：シラバスの〈科目の概要〉欄と第一回講義の欄を再読し、人間環境学の理念を再度正確に押さえるために、第一回講義の復習課題にもう一度取り組む。 復習：期末試験に備えて、全ての回の内容をよく復習しておく。

評価方法 および評価基準

期末試験 100%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	基礎科目-専門学修の基礎			成するための デジタルマネジメント能力	豊かな人間性	○	
授業コード	BA0301				広い視野	○	
授業科目名	医療キャリアの基礎				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		判断力		
担当教員	石井/森川/山田/藏本/大林/日本マーサービス株				探究心	○	

講義目的												
1. 将来の医療キャリア形成に必要な考え方や看護職の基本的な仕事内容を理解する。 2. 医療職業人として必要な接遇について基本的な態度を培う。 3. 上記1及び2を通して4年間のキャリア形成について具体的な目標を描くことができる。												
授業内容												
1. 本講座の医療キャリアは、人として、看護師として成長していくための生涯のプロセスと理解し、看護師を基礎にして保健師、助産師及び養護教諭になるための道筋や教育の仕組みを学ぶ。 2. 専門職として人の心と体の両面を支え、人々の健康を見守る職務に求められる最低限度の接遇を身につける。												
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）												
1. 各時間には専門職としての服装、態度及びエチケット等を体現して授業に臨むこと 2. 各授業では感想をまとめて、疑問や自分の将来像とつなげること 3. この科目的単位修得には、授業時間の外に30時間の予習及び復習が必要である 4. 課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う												
教材												
1. 授業担当教員著 「医療キャリアの基礎」人間環境大学看護学部 2017年 2. 篠田弥寿子著 「心に届くマナーと声かけ 介護・福祉・医療」ひかりのくに 2005年												
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容	学習課題（予習・復習）										
1	看護職としてのキャリア形成	予習：看護職のイメージができた体験を思いお子いて授業に参加する 復習：・看護職の資格は、生涯を通じた自立した職業の典型であることを確認する。 ・計画的にスキル・キャリアアップを図る自分の人生設計を描く										
2	看護師の仕事とは	予習：生育暦を通して看護師との出会いを具体的に整理して授業に出席する 復習：感想「看護師に必要な基本的態度について」提出										
3	養護教諭の仕事とは、養護教諭になるには	予習：小・中・高の学校生活で養護教諭に抱いた感想をまとめる 復習：成長が著しい子どもの身体と学校生活の関係に关心を持つ										
4	助産師の仕事とは	予習：出生時の話を助産師とのつながりで保護者に聞き、授業に参加する 復習：将来のキャリア設計に助産師を位置づけるための課題を整理する										
5	保健師の仕事について実際場面と特徴を知る	予習・復習： 保健師の資格取得に向けた各自の考えをまとめ、イメージ化を図る。 保健師課程の選択受講に向け、各自が具体的に考えられるよう学習を深める。事前に母子手帳の該当ページ（乳幼児健康診査等）を確認し、保護者から健診開催場所、その時の健診内容や担当者等について可能な限り話を聞いたうえで受講する。										
6	グループワーク	予習：1～5回の授業での感想を整理しておくこと 復習：本学の特徴である「強化プログラム」選択に役立てる。										
7	看護職に必要なマナー 接遇(1)・(2) *授業日は講師と調整の上、改めて連絡する	予習：テキストの下記の章をしっかり読み込み、学修課題を明確にすること (1) 介護・福祉・医療スタッフの基本マナー (2) 現場での実践マナー (3) コミュニケーションマ-										
8		復習：講義や演習で学修した各項目を10回ずつ練習して体得すること										
評価方法 および評価基準												
レポート100%												
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）												
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）												
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある（Good）												
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている（Pass）												
D(60点未満)：Cのレベルに達していない												

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BB0101				広い視野		
授業科目名	英語 I				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力		
担当教員	西牟田祐美子				探究心		

講義目的		
<p>英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。</p> <p>現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。</p>		
授業内容		
<p>グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聞く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。</p> <p>日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行なうが、個別に時間外に設定する事もある。</p>		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介の練習
2	発音/スピーキング、リーディング	発音について理解し練習する。
3	リスニング/クラスルームイングリッシュ、歌手に関するリサーチ	英語の歌、歌手について調べる
4	時間、スケジュール	時間の読み方の練習する。
5	プレゼンの準備	文章を覚える/プレゼンの練習する。
6	病気、ペアワーク	質問に答える/辞書を使う。
7	マインドマップ/病気、経験したことを書く	クロスワード、病気の体験についてインタビューの準備をする。
8	リスニング、病気についてインタビュー、ロールプレイ	リスニングの練習をする。
9	グループワーク、患者さんとの会話	ダイアローグAとBを読む。
10	ペアワーク	ダイアローグAを覚える。
11	ダイアローグ	ダイアローグBを覚える。
12	復習/経験を尋ねる	経験を書き出す。
13	プレゼン/スキットを覚える、クイズ	自分のパートについて書く。
14	復習/夏休みの予定をたてる	それまでに学修したことを見返す。
15	確認テスト	それまでに学修したことを見返す。
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>
授業コード	BB0102 BB0202	広い視野	<input type="radio"/>			
授業科目名	英語 I 英語 II	知識・技術	<input type="radio"/>			
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	各2		判断力	<input type="radio"/>
担当教員	Cabrido Erwin Figarola	探究心	<input type="radio"/>			

講義目的		
This course is designed for students with a basic knowledge of general English, who now require an elementary course in nursing.		
授業内容		
The topics reflect the latest developments in nursing, making them immediately relevant to students' needs. Each topic uses clearly defined language and function objectives.		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
The students will be required to participate actively in class. They should review the lesson in the previous week before coming to class. They should also look up unfamiliar words in the dictionary. Every week, there will be a quiz to check the students' understanding of the lessons.		
In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time(preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.		
教材		
English for Nursing 1 by Rose Wright and Bethany Cagnol, Pearson Longman, ISBN 9781408269930		
授業計画および学習課題(予習・復習)		
回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	Meeting Colleagues	Introductions, Schedule, Meeting patients and visitors
2	Nursing Assessment	Checking patient details, Describing symptoms
3	Nursing Assessment	Assessing common childhood diseases, Taking a blood sample
4	The Patient Ward	Monitoring body temperature, The patient ward
5	The Patient Ward	Nursing duties, Qualities of a responsible nurse
6	Food and Measurements	Hospital food and beverages, Measurements and quantities
7	Food and Measurements	Helping a patient order, Assisting the patient at mealtimes
8	The Body and Movement	Limbs and joints, Torso and head
9	The Body and Movement	Setting goals and giving encouragement, Documenting ROM exercises
10	Medication	Medication routes and forms, Dosages and frequency
11	Medication	Side effects, Communicating with relatives
12	The Hospital Team	Moving and handling patients, Communicating with team members
13	The Hospital Team	Ordering supplies, Giving simple safety instructions
14	Recovery and Assessing the Elderly	Caring for a patient in the recovery room, Removing sutures
15	Recovery and Assessing the Elderly	Talking about old age, Assessing an elderly care home resident
評価方法および評価基準		
期末試験 70%、課題レポート 30%		
S (100~90 点) : The student can communicate in almost perfect English and has excellent knowledge of nursing vocabulary.		
A (89~80 点) : The student can communicate effectively in English and has very good knowledge of nursing vocabulary.		
B (79~70 点) : The student can communicate well in English and has good knowledge of nursing vocabulary.		
C (69~60 点) : The student can communicate in basic English and has rudimentary knowledge of nursing vocabulary.		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BB0103 BB0203				広い視野		
授業科目名	英語 I 英語 II				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	Ngaire Anne Keenan		各2		探究心		

講義目的		
The aim of the class is to focus on the simple communication skills of listening and speaking bearing in mind that these will be very important in the future careers of the students.		
Developing confidence in speaking clearly in simple sentences and responding appropriately to questions with ease will come from a lot of practice with oral communication during class time. Basic grammar and writing skills will remain less of a focus.		
授業内容		
All lessons will contain a variety of communication exercises. Role play, pair work, group work, presentations and games will all feature the topic or function of the lesson. Pronunciation will also be practiced often but not in each lesson. The aim is that the most of the class time will be spent with the students speaking and memorization of new learning as well as preparation for the next lesson will be done at home.		
留意事項（履修条件他）		
Class participation is the most important requirement of this class and a large part of the grade depends on it. Willingness to try and a good sense of humor are also important. It is vital that students maintain a high standard of regular attendance to get the practice and review needed to really improve both listening and speaking skills. Coming to class on time and prepared are expected. Being prepared means reviewing the previous lesson and previewing the next one. In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time(preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.		
教材		
Talk a Lot Book one, by David Martin. EFL Press		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Orientation, how are you?	Family blood types
2	Days and dates, appointments	Family birthdays
3	Personal information, patient cards	Personal patient card
4	Likes& dislikes, Vital signs	Interview prep
5	Frequency, health advice	Make health survey
6	Abilities, simple health checks	Write up survey
7	Family, basic body parts	Review body parts
8	Appearances, famous people	Describe somebody
9	Jobs, jobs in a hospital	Vocabulary check
10	Telling time, shift schedule	Making shift plan
11	Job information, job questions	My part time job
12	Past experiences, medical history	A recent trip
13	Sports& exercise, sports & health	Describe a sport
14	Review	
15	Test	
評価方法 および評価基準		
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, Role play 5% :100 点		
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives		
A (89~80 点) : Very good level of achievement		
B (79~70 点) : Good level of achievement		
C (69~60 点) : Sufficient to pass		
D (60 点未満) : Failure		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BB0104・05 BB0204・05				広い視野		
授業科目名	英語 I 英語 II				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	Lisa D. Mandziak		各2		探究心		

講義目的		
The aim of the class is familiarize students with English needed in various nursing situations and give them more confidence interacting with foreigners.		
授業内容		
A variety of speaking, listening, presentations, role playing tasks and short tests.		
留意事項（履修条件他）		
Students are required to come to class prepared to be active in the lesson. Please bring notebook, pens, dictionaries. Be prepared for an active class requiring students to interact with others. It is not a class where you can sit alone, quietly taking notes and hope to pass. English is a language used to communicate. Communication doesn't happen alone, it happens between two people or more. In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time(preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.		
教材		
By Brian Cullen and Sarah Mulvey, Scraps 3rd Edition, Perceptia Press		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Introductions and talking about health page 41/42	HW page 43
2	Scraps introduction Unit 1 pages 6,7,8	HW Page 79# 2,3
3	Unit 1 continued Explain presentations	HW prepare presentations
4	Presentation (small groups)First Aid pgs24,25 Nursing English pgs 34,35	HW p15 (pgs20,25)
5	Continue 34,35	HW memorize dialogue
6	Dialogue presentation Listening-song- body parts	HW watch video
7	Unit 2 Scraps	HW read page 20. Do handout p 69
8	Presentation (small groups)	HW Do handout p68
9	Conversation p 51,52. Nursing P24	
10	Conversation p45,46	HW preview Scraps Unit 3
11	Unit 3 Scraps	HW read p 36
12	Unit 4 Scraps	HW read p 37
13	Presentation	HW review unit 1-4
14	Review	
15	Test	
評価方法 および評価基準		
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5% :100 点		
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives		
A (89~80 点) : Very good level of achievement		
B (79~70 点) : Good level of achievement		
C (69~60 点) : Sufficient to pass		
D (60 点未満) : Failure		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	BB0201				
授業科目名	英語Ⅱ				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		
担当教員	西牟田祐美子				

講義目的		
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授業内容		
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。 日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介の練習をする。
2	月日 曜日 診断の予約を入れる	家族の誕生日、血液型を調べる。
3	個人情報、問診票	問診票の書き方、書かせ方を理解する。
4	好き嫌い、バイタルサイン	インタビューの準備をする。
5	頻度、健康アドバイス	健康調査の書き方を理解する。
6	能力体力、簡単な健康診断	調査結果レポートを作成する。
7	家族、基本的な身体部位	身体部位の復習をする。
8	外見、有名人	人の特徴を表す語の確認をする。
9	職業、病院内の仕事	学修した単語の確認をする。
10	時間、シフト計画	シフト計画を立てる。
11	仕事の情報、質問	自分のバイトについて説明する。
12	過去の経験、病歴	最近の旅行について説明する。
13	スポーツ、運動、健康	スポーツについて説明する。
14	復習	学修したことの単語を中心にまとめる。
15	確認テスト	これまでに学修したことを文法中心にまとめる。
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			成するためには、 デイゴロマボリシイを達 成するためには、 豊かな人間性	○	
授業コード	BB0301				広い視野	
授業科目名	英語Ⅲ				知識・技術	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力	
担当教員	西牟田祐美子				探究心	

講義目的		
<p>英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。</p> <p>現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。</p>		
授業内容		
<p>グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。</p> <p>日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学修課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。</p>		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	会話、夏休み	スクラップページを作成する。
2	プレゼン	病院実習について書く。
3	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。
4	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。
5	怖い話	怖かった出来事について作文する。
6	ハロウィン	仮定法の練習をする。
7	発音、許可を求める	空欄を埋める
8	アドバイスする	質問文を作る
9	過去について話す	写真を準備する
10	経験についての文章をつくる。	完了形（現在、過去）の文の練習をする。
11	こうであつたら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。
12	リスニング	歌を覚える
13	歌、ダイアローグ	カード、手紙を書く。
14	復習	学修したことを単語中心に復習する。
15	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>
授業コード	BB0302 BB0402	広い視野	<input type="radio"/>			
授業科目名	英語Ⅲ 英語Ⅳ	知識・技術	<input type="radio"/>			
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	各2		判断力	<input type="radio"/>
担当教員	Cabrido Erwin Figarola				探究心	<input type="radio"/>

講義目的		
This course is designed for students with an elementary knowledge of general English, who now require a pre-intermediate course in nursing.		
授業内容		
The topics reflect the latest developments in nursing, making them immediately relevant to students' needs. Each topic uses clearly defined language and function objectives.		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
The students will be required to participate actively in class. They should review the lesson in the previous week before coming to class. They should also look up unfamiliar words in the dictionary. Every week, there will be a quiz to check the students' understanding of the lessons.		
In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time (preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.		
教材		
English for Nursing 2 by Rose Wright and Maria Spada Symonds, Pearson Longman, ISBN 9781408269947		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Patient Admissions	Hospital jobs and personnel, Hospital department and facilities
2	Pain	Locating and describing pain, Pain assessment
3	Pain	Successful communication, Pain relief
4	Vital Signs	Statistics and vital signs, Describing readings
5	Vital Signs	Taking vital signs, Circulation and the heart
6	Symptoms	Symptoms and injuries, Asking about symptoms and injuries
7	Symptoms	Asthma emergency, SOAP notes
8	Food and Nutrition	Nutrition, Nutrition status
9	Food and Nutrition	Food allergies and intolerances, Advice on diet
10	Personal Care	Patient hygiene, Activities of daily living
11	Personal Care	Empathy, Wound management
12	Elimination	Assessing patient elimination, Describing bodily functions
13	Elimination	Diarrhea, Presenting a patient case
14	Patient Discharge	Evaluation levels of independence, Patient discharge plan
15	Patient Discharge	Explaining medication, Making appointments on the phone
評価方法 および評価基準		
期末試験 70%、課題レポート 30%		
S (100~90 点) : The student can communicate in almost perfect English and has excellent knowledge of nursing vocabulary.		
A (89~80 点) : The student can communicate effectively in English and has very good knowledge of nursing vocabulary.		
B (79~70 点) : The student can communicate well in English and has good knowledge of nursing vocabulary.		
C (69~60 点) : The student can communicate in basic English and has rudimentary knowledge of nursing vocabulary.		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>
授業コード	BB0303 BB0403	広い視野	<input type="radio"/>			
授業科目名	英語Ⅲ 英語Ⅳ	知識・技術	<input type="radio"/>			
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	各2		判断力	<input type="radio"/>
担当教員	Ngaire Anne Keenan				探究心	<input type="radio"/>

講義目的		
<p>The aim of the class is to focus on the simple communication skills of listening and speaking bearing in mind that these will be very important in the future careers of the students.</p> <p>Developing confidence in speaking clearly in simple sentences and responding appropriately to questions with ease will come from a lot of practice with oral communication during class time. Basic grammar and writing skills will remain less of a focus..</p>		
授業内容		
<p>All lessons will contain a variety of communication exercises. Role play, pair work, group work, presentations and games will all feature the topic or function of the lesson. Pronunciation will also be practiced often but not in each lesson. The aim is that the most of the class time will be spent with the students speaking and memorization of new learning as well as preparation for the next lesson will be done at home.</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>Class participation is the most important requirement of this class and a large part of the grade depends on it. Willingness to try and a good sense of humor are also important. It is vital that students maintain a high standard of regular attendance to get the practice and review needed to really improve both listening and speaking skills. Coming to class on time and prepared are expected. Being prepared means reviewing the previous lesson and previewing the next one.</p> <p>In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time(preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.</p>		
教材		
Talk a Lot Book one, by David Martin. EFL Press		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Countries &nationalities, bones	Fill in the table
2	Experiences 2, medical department	Vocabulary
3	Location 1, on the ward	Medical departments
4	Location 2, directions in the hospital	Draw plan
5	Giving directions, directions to the hospital	Subway map
6	Food & health, menu choices	Food groups
7	Rules, hospital rules	Abbreviations
8	Future events,a stay in hospital	Q&A prep
9	Basic body parts, medical instruments	Vocabulary
10	Large organs, digestive system	Spelling
11	Common illnesses, symptoms	Matching
12	Serious illnesses, treatment	Translation
13	First aid, role play	Review
14	Review	
15	Test	
評価方法 および評価基準		
<p>Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5% :100 点</p> <p>S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives</p> <p>A (89~80 点) : Very good level of achievement</p> <p>B (79~70 点) : Good level of achievement</p> <p>C (69~60 点) : Sufficient to pass</p> <p>D (60 点未満) : Failure</p>		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BB0304・05 BB0404・05				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	英語Ⅲ 英語Ⅳ				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	Lisa D. Mandziak				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
The aim of the class is familiarize students with English needed in various nursing situations and give them more confidence interacting with foreigners.		
授業内容		
A variety of speaking, listening, presentations, role playing tasks and short tests.		
留意事項（履修条件他）		
Students are required to come to class prepared to be active in the lesson. Please bring notebook, pens, dictionaries. Be prepared for an active class requiring students to interact with others. It is not a class where you can sit alone, quietly taking notes and hope to pass. English is a language used to communicate. Communication doesn't happen alone, it happens between two people or more.		
In order for students to successfully complete this unit, it is necessary for them to have approximately 60 hours of work outside of class time(preparation and review of each topic). I will make sure that students get feedback from the comprehension test and homework reports during class hours, or individually outside class time.		
教材		
By Brian Cullen and Sarah Mulvey, Scraps 3rd Edition, Perceptia Press		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Scraps Unit 5	HW make scrap page (summer holiday)
2	Presentation (whole class)	HW pgs 46,47
3	30 day challenge	HW watch video
4	30 challenge continued	HW start challenge
5	30 challenge continued	HW continue challenge
6	Have you ever...? Pgs 28,29	HW read p 31
7	Have you ever...? Continued	HW prepare presentation
8	Presentation 30 day challenge	
9	Scraps unit 6&7	HW pgs 54,55
10	Scraps Unit 8	HW pgs 62,63
11	Share pages	HW watch video
12	Writing	HW group work
13	Event	
14	Review	
15	Test	
評価方法 および評価基準		
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5% :100 点		
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives		
A (89~80 点) : Very good level of achievement		
B (79~70 点) : Good level of achievement		
C (69~60 点) : Sufficient to pass		
D (60 点未満) : Failure		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BB0401				広い視野		
授業科目名	英語IV				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力		
担当教員	西牟田祐美子		2		探究心		

講義目的		
<p>英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。</p> <p>現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。</p>		
授業内容		
<p>グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。</p> <p>日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学修課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。</p>		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	会話、夏休み	スクラップページの作成する。
2	プレゼン	国、国籍、骨を覚える。
3	経験、病院の科	病院の科を覚える。
4	位置、病棟	病院実習の経験について書く。
5	位置、病院内の位置	治療計画を立てる。
6	道を教える、病院までの道順	地下鉄の地図が説明できるようにする。
7	食事、健康、メニューから選ぶ	食品群を覚える。
8	規則、病院内の規則	看護、医療の略語を調べ学修する。
9	未来の出来事、入院中の1日	質問/回答の準備をする。
10	基本的な身体の部位、医療器具	新出単語を覚える。
11	大きな臓器、消化器官	繰の練習をする。
12	一般的な病名、症状	病名と症状のマッチングの練習を行う。
13	深刻な病気と治療	英文を翻訳する。
14	復習	これまでに学修した単語の復習をする。
15	確認テスト	これまでに学修したことをまとめること。
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BB0501				
授業科目名	中国語 I				
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		
担当教員	川口奈々美				

講義目的		
中国語の声調練習から始めて、挨拶の言葉や自己紹介の言葉を身につける。 また、出身地である台湾のこと、旅行に行った際に役立つ言葉などについての説明も交えながら、第二外国語として中国語に興味を持ってもらえるような講義を行っていく。		
授業内容		
第一課から第五課までの学修目標は中国語の音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。また、挨拶の言葉や自己紹介の言葉を身につける。第六課から第八課までは色々な場面での尋ね方（生年月日、時間など）を学修する。授業の流れとしては、①前回の復習 ②単語の読み方練習、文法の説明 ③基本文と会話の文章を読む ④入れ替え練習と応用。授業中、たくさん会話練習ができるような講義を行う。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
第1から5回の授業では、発音の練習は授業中だけではなく毎日1時間くらい授業時間外の発音練習が必要である。毎回の授業、予習復習を含めて毎週3時間以上授業時間外の学修が必要である。この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。 小テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書：「新訳第3版 中国語会話301」康玉华・来思平、語文研究社 2013年、1365円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	①中国語について説明する。 ②授業計画を説明する。 ③音節の構造、声調練習。	中国語の音節の構造、声調練習を理解できるようにする。母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。
2	第一課 挨拶（一）こんにちは 挨拶の言葉を学修する。	こんにちは「你好」、お元気ですか「你好吗？」などの挨拶の言葉を言えるようにする。宿題：教科書第7、8頁の練習。
3	第二課 挨拶（二）お変わりありませんか? 挨拶の言葉や数字の読み方を学修する。	ありがとう「谢谢」、さよなら「再见」などの挨拶の言葉、数字の読み方を言えるようにする。宿題：教科書第14、15頁の練習。
4	第三課 挨拶（三）お仕事はお忙しいですか? 挨拶の言葉や家族の呼び方を学修する。	家族の呼び方、年月日の読み方を言えるようにする。宿題：教科書第24、25頁の練習。
5	発音の復習 病院で使える中国語を紹介する。	ピンインの復習も交えながら、病院で使える言葉の発音を言えるようになる。
6	第四課 初めて会う（一）お名前は何とおっしゃいますか? 人の名前の聞き方、自分の名前の紹介の仕方を学修する。	「姓、叫、是」の違いを説明できるようにする。文末に疑問詞「吗」をつける疑問文と疑問代名詞を用いる疑問文を理解できるようにする。宿題：教科書第32、33頁の練習。
7	第五課 初めて会う（二）ちょっとご紹介します。 自分が「どこに行く?」、「どこにいる?」の紹介の仕方を学修する。	動詞述語文を説明し、どこに行く「去哪儿?」、どこにいる「在哪儿?」というフレーズを言えるようにする。宿題：教科書第41、42頁の練習。
8	復習一 副詞「也」と「都」の配置をまとめて説明する。	副詞「也」と「都」の配置をわかるようにする。「也」と「都」が同時に述語にかかる時は「也」は「都」の前に置かなければならないことを覚える。
9	第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか? 名詞述語文を説明する。年月日、曜日の表し方をまとめて学修する。	年月日、曜日の表し方を言えるようにする。宿題：教科書第54、55頁の練習。
10	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか? 「有、沒有」の使い方を学修する。	いつ何をするか「什么时候 你做什么?」というフレーズを言えるようにする。
11	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか? 「有、沒有」の使い方を学修する。	ある「有」とない「沒有」の言葉を使えるようにする。宿題：教科書第63、64頁の練習。
12		前置詞構造を理解し、自分がどこで何をしているか「在哪儿做什么?」というフレーズを言えるようにする。

13	第八課 尋ねる（三）今何時ですか? 時間詞の使い方を学修する。	何時何分「几点几分」、何時何分前「差几分几点」などの時間の読み方を言えるようにする。 宿題：教科書第73、74頁の練習。
14		自分の一日、何時に起きる「几点起床」、何時にご飯「几点吃饭」、何時に授業「几点上课」何時に寝る「几点睡觉」などを言えるようにする。
15	①第一課から第八課までの復習 ②台湾屋台料理を紹介する。	①第一課から第八課まで教科書中の練習をマスターできるようにする。②台湾屋台料理の読み方をピンインで発音できるようにする。
評価方法 および評価基準		
<p>確認テスト 30%、課題レポート 40%、期末試験 30%</p> <p>S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)</p>		

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BB0601				
授業科目名	中国語Ⅱ				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		
担当教員	川口奈々美				

講義目的		
中国語Ⅰに続き、それぞれの場面に応じ、学んだ中国語を使って、コミュニケーションができるようにします。 また、出身地である台湾のこと、旅行に行った際に役立つ言葉などについての説明も交えながら、第二外国語として中国語に興味を持ってもらえるような講義を行っていく。		
授業内容		
第九課と第十課は方向と道などの尋ね方を学修する。第十一課から第十五課までは買い物用語、車の乗り換え、両替などに必要な表現を学修する。授業の流れとしては、①前回習った単語やセンテンスの聞き取りテスト ②単語の読み方練習、文法の説明 ③基本文と会話の文章を読む ④入れ替え練習と応用。授業中、たくさん会話練習ができるような講義を行う。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
毎回の授業、予習復習を含めて毎週3時間以上授業時間外の学修が必要である。この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。 小テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書：「新訳第3版 中国語会話301」康玉华・来思平、語文研究社 2013年、1365円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第九課 尋ねる（四）お住まいはどちらですか？自分が「どこに住んでいるか」を紹介するフレーズを学修する。	よく使われる「来」「去」を用いて目的関係を示す連動文を理解できるようにする。 宿題：教科書第81、82頁の練習。
2		どこに住んでいるか「住在哪儿？」、どこで勉強しているか「在哪儿学习？」、どこで仕事をしているか「在哪儿工作？」というフレーズを言えるようにする。
3	第十課 尋ねる（五）郵便局はどこですか？方位詞を勉強し、「場所はどこですか」「どうやって行きますか？」などのフレーズを学修する。	動詞、形容詞などの肯定形と否定形の組み合わせで疑問文を表す反復疑問文を理解できるようにする。
4		前置詞の「在」、介詞の「离」と「往」を区別し、理解できるようにする。 宿題：教科書第89、90頁の練習。
5	第十一課 必要（一）みかんを買いたいです。動詞の「要（ほしい）」と能願動詞の「要（したい）」を学修する。	状況が変化したことを表す語氣助詞「了」の使い方①を理解できるようにする。 動詞の重ね型（例えば「看看」「听听」「尝尝」）を理解できるようにする。
6		動詞の「要」と能願動詞の「要」を区別し、使い分けができるようにする。 宿題：教科書第101、102頁の練習。
7	第十二課 必要（二）セーターを買いたいです。能願動詞の「想（したい）」を学修する。	能願動詞「想、要、可以、会」の使い方を理解できるようにする。
8		数を10以下と推測する場合は「几」、10以上と推測する場合は「多少」を使うことを理解できるようにする。宿題：教科書第109、110頁の練習。
9	第十三課 必要（三）乗り換えが必要です。「…する必要がある」「…しなければならない」という必要、義務があることを表す「要」を学修する。	二重目的語文を理解できるようにする。よく使う数量詞（例えば「两张票」「五个学生」）を覚えるようにする。
10		切符を買う時に使える言葉を言えるようにする。 宿題：教科書第118、119頁の練習。
11	第十四課 必要（四）両替に行きたいです。両替の時に使える言葉を学修する。	「叫」、「让」を用いる兼語文、語氣助詞「了」の使い方②を理解できるようにする。両替の時に使える言葉を言えるようにする。
12		教科書第138頁を見ながら第126、127頁の練習を完成し、能願動詞「想、要、会、能、可以」を理解できるようにする。
13	第十五課 必要（五）写真を撮りたいです。郵便局で切手を買う時に使える言葉を学修する。	結果補語「完」、「到」、「通」を理解できるようにする。宿題：教科書第135、136頁の練習。
14		前置詞「给」は動作の対象を導く「～に…をする」や動作の受益者を導く「～に…してあげる」の違いを説明できるようにする。
15	復習三 能願動詞「想、要、会、能、可以」を理解できるようにする。	買い物やバス乗る時に使えるフレーズを言えるようにする。 宿題：教科書第139、140頁の練習。

評価方法 および評価基準

確認テスト 30%、課題レポート 40%、期末試験 30%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

科目区分	基礎科目-コミュニケーションの基礎			豊かな人間性 ○ 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BB0701・02				
授業科目名	コンピュータ基礎・情報処理法				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		
担当教員	市川誠一/西川まり子/高久道子				

講義目的		
<p>汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ交換ができるように情報活用能力(リテラシー)を向上する。基本的なデータ処理能力を身につけることで、保健医療情報や社会情報の収集・整理・活用能力を養い、加えて統計ソフト、データマイニング、数値地図システム(GIS)等の専門的なソフトウェア利用の準備性を高める。また保健医療情報を扱う看護職者として、情報倫理やリスク管理を理解してインターネット環境での情報処理ができるようにする。</p>		
授業内容		
<p>情報処理演習室でコンピュータ(PC)の使い方を説明し、その後、実際にPCを使用しながら、文章作成ソフト(Word)による文章作成、レポート作成、表計算ソフト(Excel) エクセル)を用いた表計算や簡単なデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(Power Point)での文章・表・グラフによる発表などを演習する。保健統計や医学検査等のデータを課題について集計・グラフ作成に取り組み、各人が課題に対するレポートを完成させることを目指す。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>情報室(401教室)にて、PCを用いた情報処理を学習する。 大学指定の学生メールアドレスにデータ等を送付することがあるのでデータのダウンロードが必要となる。また授業でのデータを保存するために各自USBを用意し、データを管理する。 この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。</p>		
教材		
<p>情報books plus! インターネット社会を生きるための情報倫理、実況出版、400円+税 講義プリント、参考書は適宜紹介する</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	①3限（クラスA,B） 西川まり子 看護において保健医療情報を取り扱うことについて 専門的ソフトGISの説明と保健医療面での活用について	看護実習等を控え、個人情報、患者データなどを取り扱ううえでの倫理について講義する また、専門的ソフトGIS(地理情報システム)の説明と活用について講義する
2	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 ガイダンス：演習室の使い方、授業の進め方などの説明	本学での情報処理に関するガイド 演習室におけるPCの使用について、インターネット利用、プリンター使用などについて説明する
3	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 情報システムの利点とリスク、情報倫理概説	個人情報、保健医療情報など、情報を取り扱ううえでの倫理を身につける。
4	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 WindowsのGUI(Graphical User Interface)の基本操作	Windows操作の基本をマスターする。 PCやWindowsソフト処理能力について、学生同士がグループワークとして理解できるようにする
5	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-1 入力と文書作成	Wordを用いた文書作成についての基本操作をマスターする
6	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-2 文書作成と出力	Wordを用いて与えられたテーマのレポートを作成し、プリンターで出力し、提出する
7	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習1 入力と表作成	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表の作成の基本操作をマスターする
8	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習2 表とグラフ作成、出力	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、グラフ作成の基本操作をマスターする
9	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 市川、高久 表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習3 エクセル関数を用いた統計量の計算	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作をマスターする

10	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習4 エクセル関数を用いた統計量の計算	市川、高久	Excel の基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel 関数を用いた簡単な集計の基本操作を活用してレポートを作成し、印刷して提出する
11	①2限（クラスA）②3限（クラスB） プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習1	市川、高久	Power Point による発表スライドの作成（文章・表・グラフ）についての基本操作をマスターする
12	①2限（クラスA）②3限（クラスB） プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習2	市川、高久	Power Point の基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフ作成の基本操作をマスターする
13	①2限（クラスA）②3限（クラスB） プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習3	市川、高久	Power Point の基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフを作成し、レポートとして印刷する
14	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 情報処理の演習1	市川、高久	演習の課題として、保健医療データを与える。 Excel、Power Point 等を活用し、Word を用いてレポート作成の演習を行う
15	①2限（クラスA）②3限（クラスB） 情報処理の演習2	市川、高久	与えられた演習課題について、各人でレポート作成の演習を行い、まとめたものを印刷して提出する。
評価方法 および評価基準			
課題レポート 80% 授業への参加 20%			
S (100~90 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理が十分にできる。			
A (89~80 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理ができる。			
B (79~70 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理がほぼできる。			
C (69~60 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理がややできる。			
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない			

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0101				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	日本国憲法				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	木幡洋子		2		探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
<p>1. 近代憲法と日本国憲法の関係について、日本国憲法制定の歴史的背景を踏まえて理解する。</p> <p>2. 日本国憲法の基本理念・基本構造を理解する。</p> <p>3. 人権と暮らしの関わりについて事例を通して理解する。</p>		
授業内容		
<p>日本国憲法が制定された経緯と世界的な人権概念の発展の関係について詳説し、日本における人権の意味の理解を促す。そのうえで、現代社会における人権の現状と新たな課題について講義し、女性、子ども、高齢者などの人権の現状と憲法との関係を詳説する。また、憲法が生活においてどのように活かされるべきかを考えるために、判例や事例を紹介して、憲法を活用して社会における多様な問題について常に考える習慣をつけることを指導する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。</p> <p>講義時の聴講と復習が重要なため、講義は真摯な態度で聴講しないと理解が困難である。</p> <p>人権に対する理解を問う課題レポートと復習小テストを実施して理解を促すため、出席と自習は重要である。単位取得条件である学修時間30時間が求められる。また、毎回コメント・ペーパーを提出してもらうことで、各自の理解と講義の改善点を明らかにする。コメント・ペーパーへの回答と復習小テストなどの解答と説明は講義時に行う。</p>		
教材		
<p>教科書：講義時に資料を配布する。</p> <p>参考書：授業の進行にあわせて、適宜紹介する。</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス（受講上の注意と憲法を含む日本の法構造について）	人権は他者のへの尊重が基礎であることを理解し、その心得がすべての受講態度につながることを理解する。
2	人権の歴史と憲法の意義	人間解放を背景にした人権獲得の歴史とそれが定着していく過程を理解する。
3	日本国憲法制定の過程	日本国憲法が制定されるに至る事情の独自性が西欧とは異なる憲法観を生み出したことを理解する。
4	情報時代の到来と人権の変容	人権は時代に伴いその内容が変化していくことと、新たな時代とそれに伴う人権構造の変化を理解する。
5	人権の国際的動向	国際化の時代における新たな人権の国際的動向と変化を理解する。
6	教育と人権（教育人権と学校内における人権）	教育人権の意義と今日の日本国憲法のもとで何が保障されているか、また何か問題となっているかを理解する。
7	福祉と人権（生存権と福祉的人権）	生存権の基礎である人間の尊厳を理解し、現在の日本の状況がどのような福祉に関する課題を抱えているかを理解する。
8	労働者と人権（労働権・男女雇用機会均等法）	労働者の人権の変遷とそれに伴う労働法制の変化と労働者の人権の実際を理解する。
9	女性と人権（女性の憲法上の権利・セクハラ訴訟）	日本の女性の人権の歴史と女性差別撤廃条約批准後の女性の人権の変化を理解する。
10	子どもと人権（子どもの権利条約の背景と子どもの人権）	国際的な子どもの人権の動向と日本における影響と現在の子どもの人権の実際を理解する。
11	障害者と人権（障害者の権利条約・障害者の人権問題）	障害者の権利条約批准に伴う障害者の人権保障法制の動向を理解する。
12	高齢者と人権（高齢者の人権問題）	高齢社会の到来と高齢者の人権の意義と現状を理解する。
13	司法と人権（司法の役割と課題）	司法制度の枠組みと裁判員制度の現状と課題を理解する。
14	国会と行政（議員定数問題・行政権の限界）	国会と行政（内閣）の憲法枠組みとそれをめぐる課題と行政権の限界を理解する。
15	まとめ（日本国憲法の意味と現状）	日本国憲法制定から今日に至るまでの、日本国憲法をめぐる議論と意義を理解する。

評価方法 および評価基準	
期末試験	70%、課題レポート 30%。学生の聴講状況によっては「課題レポート」は小テストに変更する。
S (100~90 点) :	講義内容を十分に理解し、基礎概念を理解したうえで自己の見解を構築する段階に至っている。 レポートでは、客観的な事実に基づき自己の見解を十分に形成する段階に至っている。
A (89~80 点) :	講義内容を十分に理解し、諸説を客観的に理解している。 レポートでは、事実に基づき自己の見解を示している。
B (79~70 点) :	講義内容を理解し、自分で考える態度を示しているが、客観性が不十分である。 レポートでは、事実に基づいているが自己の見解の形成が不十分である。
C (69~60 点) :	講義内容を理解している。 レポートでは、事実に基づいているが分析が不十分である。
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デ・プロマ・ポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0201				広い視野		
授業科目名	愛知を学ぶ				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	朝井佐智子		2		探究心		

講義目的		
まず愛知の歴史を古代から現代まで通史として概観することによって基礎的な知識を身につける。次に、愛知の基盤となっている産業がどのような歴史をたどり、現在に至っているのかを学習する。その上で、これら身についた知識をコミュニケーションのツールとして利用できるようになることを目的とする。		
授業内容		
愛知県は日本の中央に位置し、木曽三川、濃尾平野、伊勢湾など自然に恵まれた地であり、「モノづくり王国あいち」と称されるように、日本の製造業の中心地でもある。こうした現在の愛知を培った木材産業、窯業、醸造業などさまざまな産業の発展過程や、豊田佐吉、福沢桃介、森村市左衛門など現在の礎となった人物にスポットをあて学んでいく。近代愛知の歴史がどういった歩みをしたかを振り返ることによって、現在の愛知をみつめなおすきっかけとすることができる。		
留意事項（履修条件他）		
授業のなかで随時説明していくが、中学・高校時代に学んだ日本史（特に近代史）を復習しておくとより理解しやすい。また博物館や産業遺産を訪ねるなど近代の雰囲気を感じ取っておくことが望ましい。 なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートやワークシートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
特に定めないが、資料を適宜配布する。参考資料として、中部産業遺産研究会 編『ものづくり再発見：中部の産業遺産探訪』アグネ技術センター2005年を一応挙げておく。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス	なぜ、愛知のことを学ぶ必要があるのか。愛知県の概要を理解し、基本的知識を身に着ける。
2	近代成立以前の愛知1	古代から中世までの愛知がどのように発展してきたかを理解する。
3	近代成立以前の愛知2	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など愛知県出身の武将について学び、理解する。
4	近代への出発	明治維新以降、どのような産業が起り、現在とどのような繋がりがあるかを理解する。
5	紡ぎと織	近代紡績業の成立と三河のガラ紡や知多・三河木綿について理解し、現在の産業との関連性について考える。
6	陶磁器と瓦産業	瀬戸、常滑など人々が食器として利用する陶磁器だけでなく、産業として利用されている陶磁器や瓦産業などについて学習する。
7	いのちの水と水運	大河川が流れるめぐまれた地形にある愛知の人々が、どのようにその水運を利用してきたかを理解する。
8	愛知と食	酢、味噌、味噌など愛知は食品産業も盛んな地域であった。その発展の過程と食品産業から他業種への発展の過程を理解する。
9	愛知の鉄道網	日本の中心に位置する愛知の鉄道網がどのように発展したか、また鉄道発展による産業発展の歴史を理解する。
10	愛知の電気事業	人の生活の基本となる電気産業がどのように発展したかを理解する。
11	木曽からのめぐみ木材産業	木曽のめぐみが、もたらした木材関連の産業にはどのようなものがあるか、また現在なぜ衰退したのかを考える。
12	ものづくり王国あいちへ1	愛知は、世界に誇れる多くの産業が発展した。今まで紹介した産業以外にどのような産業があるのかを中心に理解する。
13	ものづくり王国あいちへ2	自動車産業の発展を豊田佐吉、豊田喜一郎という二人の人物から愛知を振り返る。
14	近代から現代へ	アジア太平洋戦争は、民衆も産業も甚大な被害を受けるものであった。その実情を知るとともに、現在の産業がどのように復活したのかを理解する。
15	まとめ	今まで学習してきた成果として、現在の産業はどうであるかを学習する。また産業発展の歴史を今に残す遺産がどのように保存されているかを学ぶ。

評価方法 および評価基準

課題レポート 70% 授業内議論の参加貢献度・授業内感想文など 30%

S (100~90 点) : レポート評価基準（レポート課題配布時に説明する）をすべて満たして、授業内議論に積極的に参加している。

A (89~80 点) : レポート評価基準を十分満たして、授業内議論に積極的に参加している。

B (79~70 点) : レポート評価基準を満たして、授業内議論に参加している。

C (69~60 点) : レポート評価基準に不十分な点はあるが、授業内議論にやや参加している。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デ・プロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0301				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	人間関係論				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	木幡洋子				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における人間関係の特徴を理解する。 2. 人間関係に関する新たな理論の展開と応用について理解する。 3. 看護の場面における人間関係のあり方について理解する。 		
授業内容		
<p>人間が関係的存在であることが、どのように理論的に発展してきたかを概観し、さらに専門職者とその対象との関係が、権力関係からパートナーシップ関係へと変わってきていることを理解する。また、こうした変化の歴史と実際の事例を紹介し、さらに、具体的なパートナーシップ構築のための手法として、「共感」に基づくコミュニケーションとはどのようなものであるかを、ワークショップにより経験する。教科書は用いるが、その他の資料を配布して最新の学説と動向を紹介する。授業は教科書に沿って行われるが、新たな動向や学説を紹介するため教科書通りではない。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>人間関係論は理論的にも実践においても大きく変化している領域であるため、講義時にそうした変化を紹介していく。また、前半では事例問題による復習小テストを行い、後半ではワークショップも行うため、講義への出席と真摯な参加が不可欠。自習は、単位取得のための学習時間 30 時間が必要。小テストや自己評価の結果は、講義時に講評あるいは統計資料を配布することで各自の学習の振り返りを促す。小テストは、原則として欠席者に配布はしない。</p>		
教材		
<p>教科書 系統看護学講座基礎分野『人間関係論第2版』医学書院（最新版）</p> <p>参考書 トマス・ゴードン『医療・福祉のための人間関係論』丸善株式会社（2000 年）</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス・現代社会と人間関係	人間関係論とは何かを踏まえた受講の心得を説明したうえで、人間関係の社会的意味を考える
2	人間存在と人間関係	人間関係のとらえ方について学び、人間存在の特質と社会的役割について理解する。
3	人間関係における社会的相互作用	人間関係が社会的相互関係によって定められ、そこでの看護師に求められる社会的役割を理解する。
4	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの特質と構造について学び、看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。
5	人間関係の研究・共感	人間研究の変遷を学び、さらに看護における人間関係における共感の重要性を事例に基づき理解する。
6	共感的な聞き方	共感的な聞き方の意義を、資料掲載（トマス・ゴードン）の事例に基づいて理解し、実践する。
7	能動的な聞き方	資料掲載（トマス・ゴードン）の能動的な聞き方の実例を理解し、実践してみる。
8	人間関係研究の看護ケアへの応用	面接と援助のための技法を学び、看護ケアの特質における応用について考察する。
9	医療におけるチームとしての人間関係	患者の権利を学んだうえで、チーム医療と各種専門職の存在を理解する。
10	チームにおける看護師の役割と「思いやりのスキル」	医療従事者の倫理を学んだうえで、看護師の役割とチームにおける役割を理解し、自己評価を行う。
11	闘病生活を支える人間関係	闘病生活とは何かを理解し、それぞれの段階に応じた支援を理解する。
12	終末期の患者と家族を支える人間関係とスピリチュアル・ケア	終末期とは何かを理解し、患者とその周辺の人々への看護師による支援の必要性を理解する。
13	終末期における患者の意思決定支援と看護師の役割	資料掲載（日本看護協会冊子）の事例問題を通して家族関係を理解し、看護師の役割を考える。
14	ソーシャルサポートと人間関係	人間の生活の多様性とそこでの患者を支える社会資源の存在を理解する。
15	まとめ（人間関係と医療における意味）	学んだことをもとに、医療における人間関係の特質と看護師の役割を考え、各自の課題を見極める。

評価方法 および評価基準
期末試験 60%、小テスト 30%、レポート 10%。聴講生の状況に応じて、レポートは小テストに変更する。
S (100~90 点)： 人間関係の現代的意味を理解し、看護師が担う医療現場におけるコミュニケーションの実際に適切に対応し、複雑な状況にも基礎理論をもとに柔軟に対応することができる。
A (89~80 点)： 人間関係の現代的意味を理解し、看護師の役割についての十分な応用をすることができる。
B (79~70 点)： 人間関係の現代的意味を理解し、看護師の役割と実践についても理解している。
C (69~60 点)： 人間関係の現代的意味を理解し、看護師特有の役割について理解している。
D (60 点未満)： Cのレベルに達していない

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0401				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	教育心理学				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	宮田延実		2		探究心	<input type="radio"/>	

講義目的											
教育心理学の諸理論について、単に知識として習得するだけでなく、それらについて自分なりに考え、日頃の学校における人間関係や教育現場に活かす豊かな発想ができるることをめざす。											
授業内容											
学校教育に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、児童生徒の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも教育評価や学級集団等の重要な概念も学ぶ。											
これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の教師像のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。											
毎回、講義後に確認テストを行う。確認テストの内容は、予習内容からも出題するので予習を欠かさず行うこと。確認テストなどの課題レポートのフィードバックはその都度、講義時間内に行う。											
教材											
教科書：「教育心理学エッセンシャルズ」第 2 版 ナカニシヤ出版 参考書・参考資料等：適宜、紹介します。											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	第 1 回：オリエンテーション、教育心理の概念と歴史	第 1 章を読み、教育心理学の目的、領域、歴史について理解する。									
2	第 2 回：学習のメカニズム	第 2 章を読み、条件づけと観察学習について理解する。									
3	第 3 回：記憶のメカニズム	第 3 章の「情報処理論的アプローチ」を読み、記憶・知能・忘却について理解する。									
4	第 4 回：個人差（知的能力／パーソナリティ）	第 4 章の「パーソナリティ」「知能」を読み、パーソナリティの定義について理解する。									
5	第 5 回：動機づけ	第 5 章を読んで、2 つの動機付けとその理論について理解する。									
6	第 6 回：学習過程	第 6 章を読んで、各種の教授学習モデルについて理解する。									
7	第 7 回：発達①	第 7 章を読んで、発達段階と発達課題について理解する。									
8	第 8 回：発達②	第 8 章、第 9 章を読んで、乳幼児期から児童期の発達について理解する。									
9	第 9 回：発達③	第 10 章を読んで、思春期から青年期後期の発達について理解する。									
10	第 10 回：学校適応①	第 12 章の「不登校」を読んで、不登校の定義やその問題について理解する。									
11	第 11 回：学校適応②	第 12 章の「いじめ」を読んで、いじめのメカニズムとその防止について理解する。									
12	第 12 回：発達障害①	第 13 章を読んで、発達障害の諸相について理解する。									
13	第 13 回：発達障害②	第 14 章を読んで、発達障害児へのアセスメントと支援方法について理解する。									
14	第 14 回：教育評価	第 15 章を読んで、教育評価とテスト理論について理解し、教育心理学に関するテストを作成する。									
15	第 15 回：まとめ	各自の作成したテストを通して全体のまとめを行い、学修したこと全体でシェアリングする。									
評価方法 および評価基準											
定期試験(70%)、毎回の小レポート(30%)											
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)											
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D (60 点未満) : C のレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デ・プロマ・ポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0501				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	フィットネススポーツ				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	伊藤敦子		1		探究心	<input type="radio"/>	

講義目的										
自分の健康についての意識を高め、運動により快適な心身をつくる										
* 健康体操により体の調子を整え、柔軟性、調整力、筋力の向上を図る										
* スポーツ（バドミントン・ミニサッカー）を楽しみながら体力の向上を図る										
* 生涯にわたる運動習慣の重要性を理解し、実践につなげる										
授業内容										
1. 準備運動としての健康体操（体操が正しくできること）										
2. トレーニングとしての健康体操（自己の体力を向上させる）										
3. 体を整える健康体操（快適な体をつくる）										
4. スポーツ（バドミントン・ソフトバレー）の実践										
留意事項（履修条件他）										
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。										
教材										
特になし										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容		学習課題（予習・復習）							
1	オリエンテーション (クラス分け、授業目的、内容の説明)		本授業の目標と進め方、成績評価、運動の意義・目的を理解する。							
2	準備運動としての健康体操		自分の体力について知り、体力の維持向上のためのプランを考える							
3	体力測定	バドミントン	体を整える健康体操							
4	準備運動としての健康体操		準備運動としての体操、体を整えるための体操について理解し、自分に合った内容の体操を考える							
5	バドミントン	体を整える健康体操	バドミントンの練習方法を理解し実践する							
6・7	準備運動としての健康体操 バドミントン 体を整える健康体操		各自考案の体操について実践 バドミントンのルールを理解し、実際にゲームができるようになる							
8・9	準備運動としての健康体操 バドミントン 体を整える健康体操		各自考案の体操について実践 バドミントンのルールを理解し、実際にゲームができるようになる							
10・11	トレーニングとしての健康体操 ソフトバレー		トレーニングとしての体操について理解し、自分に合ったトレーニング的体操を考える ソフトバレーの練習方法を理解し実践する							
12・13	トレーニングとしての健康体操 ソフトバレー		各自考案のトレーニングとしての体操を実践 ソフトバレーのルールを理解し、実際にゲームができるようになる							
14・15	体力測定	ソフトバレー	体力測定の結果を最初と比較して、自分の体力向上プランについて検証する ソフトバレーの応用・工夫							
評価方法 および評価基準										
受講態度 70% 実技テスト 20% レポート 10%										
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)										
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)										
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)										
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)										
D (60 点未満) : C のレベルに達していない										

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための デジタルマネジメント力 達成するための 知識・技術 判断力 探究心	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0502				広い視野		
授業科目名	フィットネススポーツ				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力		
担当教員	鳥居果奈		1		探究心		

講義目的												
運動が身体に及ぼす影響について理解し、楽しみながら体力向上を図る。												
健康の維持・増進のための運動習慣の重要性を理解し、実践につなげる。												
安全に配慮し、自分たちで運動プログラムの作成・指導をする能力を身につける。												
授業内容												
特別な道具を必要とせず、日常生活にあるものを工夫して使用し、楽しく運動を行う。												
また、簡単な運動を人に教えることができるようになる。												
簡単にできる運動として、レクリエーションスポーツ(軽スポーツ)を行う。												
留意事項（履修条件他）												
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。												
教材												
特になし												
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容		学習課題（予習・復習）									
1	オリエンテーション（クラス分け、授業目的、内容の説明）		本授業の目標と進め方、成績評価、運動の意義・目的を理解する。									
2	体力測定・レクリエーション		各自でレクリエーションにはどのようなものがあるか調べる。									
3												
4	ダンスエクササイズ		よく動かした部分を自分なりに考え、ケアを行う。									
5												
6	レクリエーションスポーツ(卓球・アルティメット)		ルールや技術などを確認する。									
7												
8	レクリエーションスポーツ(ドッジビー・ミニサッカー)		同上									
9												
10	ダンスエクササイズ(講義・グループ分け)		各グループで集まり、発表内容や指導方法を決定する									
11												
12	グループ発表(ダンスエクササイズ・レクリエーション)		グループ発表にて、工夫した点や反省点、改善点について自己評価する。									
13												
14	グループ発表(体力測定・ダンスエクササイズ・レクリエーション)		同上									
15												
評価方法 および評価基準												
受講態度 70% 発表 20% 提出物(グループ活動用紙) 10%												
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)												
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)												
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)												
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)												
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない												

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0601				広い視野		
授業科目名	体育実技				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	伊藤敦子・鳥居果奈		1		探究心		

講義目的												
運動は健康の維持・増進に有効であることを感じることができる。												
健康体操やスポーツによって、自分自身の体力向上の効果を体験する。												
一生続けることの出来る運動について考える。												
安全に配慮し、運動に取り組むことができる。												
授業内容												
リズムに合わせ健康体操(ウォーミングアップ、筋コンディショニング、ストレッチングの一連の流れ)を行う。												
基本的なルールや技術を学び、自身や他の人たちが楽しく運動に取り組めるよう、ルールの工夫ができるようにする。												
レクリエーションなどの簡単な運動の指導の実践も行う。												
留意事項（履修条件他）												
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。												
教材												
教材プリント配布												
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容		学習課題（予習・復習）									
1	オリエンテーション(授業の目標および進め方、運動の目的・意義など)		本授業の目標と進め方、成績評価、運動の意義・目的を理解する。									
2	簡易体力測定・バドミントン		自分の体力を知る。									
3			バドミントンの基本的なルールを調べる。									
4	リズムに合わせた健康体操・ソフトバレー		ソフトバーレーボールの基本的なルールを調べる。バーレーボールとの違いを調べる。									
5												
6	リズムに合わせた健康体操・バスケットボール		バスケットボールの基本的なルールを調べる。									
7												
8	リズムに合わせた健康体操・ドッジビー		ドッジビーの基本的なルールを調べ、オリジナルのルールを考える。									
9												
10	リズムに合わせた健康体操・ミニサッカー		フットサルの基本的なルールについて調べる。									
11			サッカーとの違いを調べる。									
12	体力測定・卓球		運動の継続で体力を向上させることができたか確かめる。高齢者の体力測定にはどのようなものがあるのか体験する。									
13			卓球の基本的なルールを調べる。									
14	実技評価(みんなで楽しめる運動を考え出す)		子ども、障害者、高齢者も楽しめる運動を考える。									
15												
評価方法 および評価基準												
受講態度 75% 実技テスト(実技評価) 25%												
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)												
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)												
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)												
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)												
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない												

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			ディプロマポリシーを達成するためには、必ずしも以下の能力を備えている	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0701				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	家族社会学				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	市川季夫				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的			
戦後日本における家族の変遷を通して、「健康な家族」がどのように発展を遂げてきたのか？ そのような時代的背景を念頭に置き、家族の①形態、②機能、③役割を理解し、家族と看護職者の関わりを理解する。			
授業内容			
テキストを中心に進めながら、時事問題を取り入れ現実の家族の持つ力を学ぶ。			
留意事項（履修条件他）			
配布する資料は授業が終了するまで各自で保管をする。 隨時レポート提出とコメント この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。課題のフィードバックはその都度講義内に行う。			
教材			
山崎 あけみ・原 礼子編集「家族看護学」改訂第2版 南江堂 2015 2300円+税			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	家族とは	家族をイメージする	
2	家族看護における対象者理解	家族周期を通して	テキスト§ I—①②
3	家族を理解するツール	マッピング法	テキスト§ I—③
4	家族を理解するポイント	場・情報・多様化	テキスト§ I—④
5	健康な家族について①	ストレス（事例①）	テキスト§ II—①
6	健康な家族について②	ストレスと看護過程	テキスト§ II—②③
7	家族を取り巻く社会的背景①	戦後日本の家族の特徴	テキストIII
8	家族を取り巻く社会的背景②	近代家族の形成	テキストIII
9	家族を取り巻く社会的背景③	近代家族のゆらぎ DVD 「家で死ぬということ」	
10	家族看護実践に役立つ考え方①	事例から 学ぶ	テキストIV・VI
11	家族看護実践に役立つ考え方②	事例① DV	テキスト§ IV—①
12	家族看護実践に役立つ考え方③	事例③ うつ	テキスト§ IV—③
13	家族看護実践に役立つ考え方④	事例④ 癌	テキスト§ IV—4
14	家族看護実践に役立つ考え方⑤	事例 男の生きづらさ	資料配布
15	振り返り 新たな発見と報告	講師コメント	
評価方法 および評価基準			
期末試験 60%、課題レポート40%			
S (100~90 点) : Aに加えて「健康な家族」をサポートする諸方法を理解する。			
A (89~80 点) : Bに加えて時事問題を通して、現実的な「健康な家族」を理解する。			
B (79~70 点) : Cに加えて社会変動が「健康な家族」に与える影響を理解する。			
C (69~60 点) : 家族の変遷を理解する。			
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない			

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0801				広い視野		
授業科目名	生命倫理学				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力		
担当教員	佐藤労				探究心		

講義目的											
倫理学の基本を習得すること。 生命に関する倫理学の基本を習得すること。 医療臨床で生じる倫理的出来事に気づき解決する方策を考えさせること。 命を大切に扱う方法について考え・行動できること。											
授業内容											
倫理学とはもともとギリシャではエーテス（慣習）の学であり、生活の規則（生き方）を対象とする学問である。そして生命倫理学は、人間の生命に関する慣習を扱う学問である。ただし、現在ではこの生命に関する価値観は、医療の高度化にともない再考や変更を迫られている。それゆえ現在の倫理観だけでなく、「人間のくいのち>は、これからどうであるべきか」という将来の倫理観「あるべき倫理」を考察するのが生命倫理学の目的である。授業は次の5つの単元がある。生殖補助医療の倫理学、人工妊娠中絶の倫理学、移植医療の倫理学、終末期医療の倫理学、遺伝子医療の倫理学。これらの概念について考察し、自らの倫理観を培う基礎力を養う。											
留意事項（履修条件他）											
* この科目的単位を修得するにあたり、「学習課題(予習・復習)」に示されている授業時間外学修が60時間程度必要。 * 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
教材											
資料を配布する											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	生命倫理学とは何か？導入	倫理学の基本と、生命倫理学の発生を学ぶ									
2	生殖補助医療の倫理学（1）	生殖補助医療の基礎を学ぶ、									
3	生殖補助医療の倫理学（2）	生殖補助医療の体験者から、悩みと解決策を探る									
4	人工妊娠中絶の倫理学（1）	人工妊娠中絶の基礎を学ぶ									
5	人工妊娠中絶の倫理学（2）	人工妊娠中絶の体験者から、悩みと解決策を探る									
6	生殖補助医療・人工妊娠中絶のグループワーク（1）	ケースをもとに、倫理的葛藤と調整の手法を学ぶ									
7	生殖補助医療・人工妊娠中絶のグループワーク（1）	ケースを作成し、発表して、討論する。									
8	移植医療の倫理学（1）	移植医療の基礎を学ぶ									
9	移植医療の倫理学（2）	移植医療の体験者から、悩みと解決策を探る									
10	終末期医療の倫理学（1）	終末期医療の基礎を学ぶ									
11	終末期医療の倫理学（2）	終末期医療の体験者から、悩みと解決策を探る									
12	移植医療・終末期医療のグループワーク（1）	ケースをもとに、倫理的葛藤と調整の手法を学ぶ									
13	移植医療・終末期医療のグループワーク（2）	ケースを作成し、発表して、討論する。									
14	動物の命の倫理と、研究倫理	実験動物の倫理、研究者の倫理を学ぶ									
15	まとめ	まとめと、テスト対策									
評価方法 および評価基準											
期末試験 50%、作成ケース 50%											
S (100~90点) : 臨床の倫理問題を十分に説明でき、倫理調整に十分に取り組むことができる。											
A (89~80点) : 臨床の倫理問題を概ね説明でき、倫理調整に概ね取り組むことができる。											
B (79~70点) : 臨床の倫理問題を不十分ながら説明でき、倫理調整に不十分ながら取り組むことができる。											
C (69~60点) : 臨床の倫理問題を考えることができ、倫理調整に取り組む努力をしている。											
D (60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			ディプロマポリシーを達成するための必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC0901				広い視野		
授業科目名	社会福祉学				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力		
担当教員	塚本銳裕		2		探究心		

講義目的		
本授業では、現代社会における子育てや高齢者の介護、障害、疾病や失業などが与える地域生活の問題点、福祉ニーズを整理するとともに、生活問題の解決に向けた社会福祉制度の現状と課題について理解を深める。特に、地域生活を軸に在宅医療や看護、地域保健との連携の重要性、住民を中心に据えた包括的支援を意識することで、看護専門職が社会福祉分野を理解する。		
授業内容		
現代社会における社会福祉の必要性と、社会福祉と医療、看護領域との関連性について学ぶ。社会福祉の歴史、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、生活保護、生活困窮、地域福祉、司法福祉等について基礎的知識を身につけるとともに、現代社会における地域課題と各福祉分野の必要性について具体的な事例を交え理解する。特に医療や保健、福祉領域の連携、地域包括ケアの視点を身につける。授業の形態としては、映像を駆使した教材を中心に講義を進めるとともに、ケースメソッドを活用し、事例を基に学生同士のグループディスカッションや講師との意見交換等にて理解力を高める。必要に応じ、各福祉分野において直近で起きてているトピックや社会問題、新聞報道等にも触れるとともに、現場で活躍する社会福祉士等の実践報告を聞く機会を作る。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
5回以上の欠席は評価の対象としない、授業中の設定課題に関する感想や意見、レポートも評価の対象とする。テーマごとの確認テストや課題レポート、感想や質問等のフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
予習および復習として、新聞やニュースを通して、社会福祉や社会保障の動向に関心をもつようにしておくこと、特に気になった用語やキーワードについて、参考文献やインターネットを通じ、掘り下げてみること。疑問点は授業の開始前ないしは終了時に講師に尋ねること。(60時間程度)		
教材		
参考文献：新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 メジカルフレンド社 定価 2,000円+税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	社会福祉の考え方と理念	社会福祉とは何かを考え整理する
2	社会構造の変容と社会福祉	現在における児童、高齢者の生活問題をニュースや新聞報道から考えてくる
3	欧米及び日本における社会福祉の歴史	欧米の福祉制度を自分なりに把握してみる
4	公的扶助①（生活保護の歴史と概要）	憲法25条との関係を考えてみる
5	公的扶助②（仕組みと問題点及び生活困窮者自立支援）	自立助長とはどのように理解するか考える
6	高齢者福祉制度①（高齢者福祉の歴史と高齢者福祉サービスの概要）	高齢者にとっての生きがい、社会参加を考える
7	高齢者福祉②（介護保険制度の仕組みと問題点）	介護保険の目的、医療との結びつきを整理する
8	高齢者福祉③（地域包括支援センターと高齢者虐待防止、成年後見制度）	地元の地域包括支援センターの活動を調べる
9	障害者福祉①（障害者福祉の歴史と理念及びノーマライゼーション）	ノーマライゼーションについて自分の考えをまとめる
10	障害者福祉②（身体障害者福祉と総合支援法）	身体障害者がもつ問題を把握し解決策を考える
11	障害者福祉③（知的障害者福祉と総合支援法）	知的障害者がもつ問題を把握し解決策を考える
12	障害者福祉④（精神障害者福祉と総合支援法、医療福祉制度、成年後見制度）	精神障害者がもつ問題を把握し解決策を考える
13	児童福祉（児童福祉の歴史と児童福祉制度、保育制度、児童手当、児童虐待防止）	地元の児童福祉政策を把握しておく
14	母子寡婦福祉（母子寡婦福祉の歴史と防止寡婦福祉制度及び児童扶養手当、DV防止）	DVと母子世帯が持つ問題と解決策を考える
15	地域福祉（社会福祉協議会、ボランティア、共同募金、NPO）及び全体のまとめ	行政以外で地域で支える機関を把握してくる

評価方法 および評価基準

期末試験 70%、授業の参加及び毎回の課題提出 30%

S (100~90 点) : 社会福祉制度の内容や限界、問題点も理解し、インフォーマルな機関や制度との連携、新たな取り組みの必要性も併せて考えることができる

A (89~80 点) : 社会福祉制度の内容が理解でき、適切に制度の活用と関係機関の連携を考えることができる

B (79~70 点) : 社会福祉制度の内容が概ね理解でき、生活課題をもつ人々に対して制度の活用が図れる

C (69~60 点) : 社会福祉制度の目的が概ね理解でき、周りに対して大まかに説明できる

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための デジタルマトリクスを達 成するための 知識・技術 判断力 探究心	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1001				広い視野		
授業科目名	国際文化論				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		判断力		
担当教員	大野和基				探究心		

講義目的	<p>自国から離れて生活したことがない人は、自国の文化の視点からものをみて判断してしまう。しかし、それは非常に危険なことである。日本とは文化の基盤がかなり異なるアメリカの文化を取り上げることで、新しい視点からものごとをみることができるようにする。たとえばアメリカ人の銃に対する見方を理解しないで、日本の視点からだけで批判するとそれは的外れなものになる。</p>										
授業内容	<p>アメリカの制度や社会問題を知り、その背景にある課題や文化的な特徴を知ることで、視野を広く持つ素地を養う。具体的には、科目担当者の様々な分野の著名人とのインタビューで得た知識や経験を学ぶことを通して、それによる知識を自己の生活に応用させる素地を養い、自己の生活の足元を見ながら、遠くの目標を見据えることを学ぶ。日本の常識は世界の非常識であることを認識する。</p>										
留意事項（履修条件他）	<p>この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。フィードバックはその都度講義内に行う。</p>										
教材											
配布する資料											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	大統領はいかにして選ばれるか	政治制度の違いを学ぶ									
2	日米の教育システムの違い	特に大学教育のあり方の違いを学ぶ									
3	日米の司法制度の違い	特に司法取引の功罪を考える									
4	日米の危機管理に対する考え方の違い	子供を徹底的に守るアメリカ、道路の作り方									
5	セカンドチャンスを与えない日本社会	失敗を栄誉を考えるアメリカについて									
6	アメリカの銃文化	銃に対するまったく異なる見方について									
7	トランプをうんだアメリカの社会の変化	アメリカ社会の急速な変化について									
8	A I 時代にますます英語が重要になる	英語をなぜやらないといけないのか、その重要性について									
評価方法 および評価基準											
課題レポート 100%											
S (100~90 点) : 日米の違いをきちんと理解している。文章の構成ができる。											
A (89~80 点) : 日米の違いは理解しているが、文章が幼稚である。											
B (79~70 点) : 日米の違いの理解がいまいち足りない。											
C (69~60 点) : 日米の違いを理解していないだけでなく、文章も幼稚である。											
D (60 点未満) : C のレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための デプロマポリシーを達 成するための 必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1101				広い視野		
授業科目名	教育社会学				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力		
担当教員	松浦善満				探究心		

講義目的											
教育社会学における基礎的な学説に学ぶ。また学校制度・学級経営を背景にした教育問題について社会学的に学ぶことを目的にする。特に児童期、青年期を生きるライフステージの質を考え人間生活の健全なあり方について探求する。											
授業内容											
教育社会学の基礎知識を学ぶ。次に、学校現場でのプロブレム（いじめ・不登校。教員の多忙化等）の実態・要因を明らかにし、解決へのプログラムを考える。調査データ、フィールド調査ビデオも視聴して豊かに学ぶ。参加学生が作成したプログラムのプレゼンテーションを行う。											
留意事項（履修条件他）											
出席を重視する。この科目的単位を修得するにあたり、確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。また講義ではプレゼンテーションのたびに個別指導を行うが、自宅での課題を設定し、個人的にもリフレクションできるように工夫する。											
この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。											
教材											
随時資料を配布する。											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	教育社会学とは①（デュルケームからパーソンズへ）	デュルケーム「自殺論」からパーソンズ「家族論」を紹介									
2	教育社会学とは②（清水義弘から森田洋司へ）	清水、森田の教育社会学の仕組みを理解させる。									
3	教育問題の社会学①（いじめ問題の実態・データと事例に見る）	大河内清輝君いじめ自殺事件の遺書を読む									
4	教育問題の社会学②（いじめ問題の国際比較）	イギリス・日本・ノルウェー・オランダ4カ国調査結果から									
5	教育問題の社会学③（いじめの解決策・日本と諸外国）	ピアサポート・ピアカウンセリングを学ぶ									
6	いじめ問題の解決策を考える（ワークショップ）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。									
7	教育問題の社会学④（不登校問題の実態・データと事例に見る）	「私の弟の不登校」を読む・文部科学省データを読む									
8	教育問題の社会学⑤（不登校問題の要因を探る）	拙著「教室から見た不登校」（森田洋司共編・東洋館出版参照）に学ぶ									
9	不登校問題の解決策を考える（ワークショップ）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。									
10	不登校問題の社会学⑥（北星学園余市高校調査から考える）	ビデオ（北海道放送制作・文部省協力）視聴									
11	教育問題の社会学⑦（教師の多忙化の実態をみる）	ビデオ（NHK共同制作）視聴									
12	教育問題の社会学⑧（教師の多忙化の要因分析）	多忙調査データ紹介									
13	教育問題の社会学⑨（教師の多忙化を克服する方策を考える）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。									
14	これからの教育問題と教職の課題（学校現場からのレポート）	卒業生の声を学生に届ける									
15	まとめ・それでも教師は楽しい仕事（教員文化と教師の生きがい）	これからの学校改革の見通しを提示する。									
評価方法 および評価基準											
課題レポート 50% プレゼン 50%											
S (100~90点) : 課題レポートとプレゼンに特別に優れていること											
A (89~80点) : 課題レポートとプレゼンに優れた成果をあげる。											
B (79~70点) : 課題レポート又はプレゼンのどちらかに優れた成果をあげる。											
C (69~60点) : 課題レポートとプレゼンを実施することができる。											
D (60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための デジタルマトリクスを達成するための 必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1201				広い視野		
授業科目名	社会保障論				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力		
担当教員	塚本銳裕				探究心		

講義目的											
国内外の社会保障制度の歴史を概観し、現在日本の社会保障制度の体系と各制度の基本的構造を理解する。少子高齢化、核家族化、地域生活の変化、雇用をめぐる状況等社会的課題と各制度との関係や課題についても理解する。また、看護職として、社会保障制度を住民の健全な生活基盤の安定に結び付け理解していく。											
授業内容											
日本の社会保障制度の中心をなす、年金保険制度・医療保険制度・介護保険制度等の仕組みと現状・課題を理解することを目的とする。疾病、高齢、児童等の社会生活上の課題を軸に日本の社会保障制度の必要性と問題点を事例や統計データを基に整理する。また、社会保障構造改革に向けてどのような改革を行おうとしているのかを国的情報等から理解を深める。授業の形態としては、講義を中心としつつ、事例を基に学生間でのディスカッションや講師等との意見交換を行い理解力を高める。必要に応じ、新聞報道などで配信されているトピックや社会問題についても触れる。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
5回以上の欠席は評価の対象としない、授業中の設定課題に関する感想や意見、レポートも評価の対象とする。テーマごとの確認テストや課題レポート、感想や質問等のフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
予習および復習として、新聞やニュースを通して、社会福祉や社会保障の動向に関心をもつようにしておくこと、特に気になった用語やキーワードについて、参考文献やインターネットを通じ、掘り下げてみること。疑問点は授業の開始前ないしは終了時に講師に尋ねること。(60時間程度)											
教材											
参考文献：『社会保障（第4版）（共編著）』久美出版 2,200円（税別）											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	社会保障の理念と機能、社会保障制度の体系	社会保障とは何かを考えてくる									
2	欧米における社会保障の歴史的展開	欧米の社会保障制度の概要を調べてみる									
3	日本における社会保障の歴史的展開	昭和初期からの社会保障制度を概観しておく									
4	年金制度の概要と国民年金	年金制度について調べ概要を把握しておく									
5	厚生年金保険と共済年金、年金制度をめぐる近年の動向	両親が加入している年金を確認してみる									
6	医療保険制度の沿革及び国民健康保険制度	自分が加入している医療保険を確認する									
7	後期高齢者医療制度、健康保険制度、共済医療制度	国民健康保険との相違を整理しておく									
8	労働保険の沿革と概要及び労働者災害補償保険	労働者災害とはどのような災害か調べてみる									
9	雇用保険と労働保険制度をめぐる近年の動向	雇用保険制度の受給要件を把握する									
10	介護保険制度の創設の経緯と概要	介護保険制度創設のねらいを把握する									
11	介護保険制度をめぐる近年の動向	行政の資料等から介護サービスを把握する									
12	社会福祉制度の沿革と概要、生活保護制度、生活困窮者自立支援	生活保護法1条から8条までを確認する									
13	高齢者福祉と障害者福祉の概要と課題	高齢者、障害者福祉法の目的を把握する									
14	児童福祉、母子及び寡婦福祉、社会手当の概要と課題	児童、母子寡婦福祉法の目的を把握する									
15	まとめ、全体の振り返り	理解不足な点を整理しておく									
評価方法 および評価基準											
期末試験70%、課題レポート30%											
S(100~90点)：住民が持つ生活課題に対して社会保障制度を総合的に活用でき、生活変化の予測にも対応できる											
A(89~80点)：社会保障制度全般が理解でき、住民の生活課題にあわせ制度の説明及び活用を図ることができる											
B(79~70点)：社会保障制度の内容が概ね理解でき、住民の生活課題にあわせ情報として伝えられる											
C(69~60点)：社会保障制度の目的を概ね理解でき、周りの人々に対しても説明できる											
D(60点未満)：Cのレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			感するためには、必ずしも自然や人間、社会の学問的な追求は成功しているとは言えない状態です。それは人間理解の限界がニーチェ以来暴露され批判されたからです。授業ではヨーロッパの哲学史を存在と理性の概念を軸にたどり、今日の文明や文化、思想、そして人間の生き方の問題を根本から理解することを試み、生命や環境などの個別の問題の見通しについても検討していきます。	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>						
授業コード	BC1301				広い視野							
授業科目名	哲学				知識・技術							
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力							
担当教員	松浦明宏				探究心							
講義目的												
哲学の歴史をたどり、学問や人間を深く理解すること												
授業内容												
古代ギリシアに誕生した哲学は、その後自然学、自然科学や人間学、社会科学へと分化し、今日の組織化された学問体系へと発展を遂げました。これはヨーロッパに生まれた特殊な学問の歴史です。しかし、現代においては、必ずしも自然や人間、社会の学問的な追求は成功しているとは言えない状態です。それは人間理解の限界がニーチェ以来暴露され批判されたからです。授業ではヨーロッパの哲学史を存在と理性の概念を軸にたどり、今日の文明や文化、思想、そして人間の生き方の問題を根本から理解することを試み、生命や環境などの個別の問題の見通しについても検討していきます。												
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）												
履修条件は特にありません。授業時間外には、毎回授業中に配布されるプリントや講義中にとったノートに目を通した上で（約1時間）、インターネットや図書館で関連内容を調べる（約1時間）のがよいでしょう。なお、各回の授業の末に書いていくだけミニット・ペーパーへのコメントを、次回授業の冒頭約15分かけて行い、前回の授業内容を復習した上で新たな授業内容へと移っていきます。												
教材												
適宜プリントを配布します。参考書についても適宜、授業中に指示します。												
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容	学習課題（予習・復習）										
1	哲学とは何か？ フィロソフィアの誕生とその意味	哲学という言葉の意味を調べる										
2	ただ生きるだけでなく、よく生きることが大切である	ソクラテスの思想を調べる										
3	プラトン的な愛（プラトニック・ラブ）と哲学	プラトンの思想を調べる										
4	魂の輪廻転生とイデア論	ピタゴラス派とプラトンの思想を調べる										
5	人間の存在基盤としての愛（フィリアー）	アリストテレスの思想を調べる										
6	古代哲学のその後とキリスト教	ヘレニズム時代の哲学とイエスの思想を調べる										
7	神の存在証明	中世キリスト教哲学の主要問題を学ぶ										
8	古代・中世哲学の意義	理性主義と宗教等、古代・中世哲学の特徴を確認する										
9	われ思う。ゆえに、われ在り。	デカルトの思想を調べる										
10	科学と道徳	カントの思想を調べる										
11	芸術と倫理	ショーペンハウアーの思想を調べる										
12	神の死とニヒリズム	ニーチェの思想を調べる										
13	ニヒリズムのキリスト教的克服	キルケゴーの思想を調べる										
14	現代の哲学の限界と可能性 非ヨーロッパ思想の可能性	ヨーロッパ以外の思想、例えば東洋思想の現代的な役割を考える										
15	総括講義 -現代社会と哲学-	哲学の歴史の大きな流れを確認する										
評価方法 および評価基準												
確認レポート 50%、期末レポート 50%												
S (100~90点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題と可能性について適切に理解している												
A (89~80点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題と可能性について理解している												
B (79~70点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題と可能性について一部理解している												
C (69~60点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題と可能性について一部を知っている												
D (60点未満) : C のレベルに達していない												

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための デジタルマトリクスを達 成するための 知識・技術 判断力 探究心	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1401				広い視野		
授業科目名	ヨーロッパの芸術文化				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	日比野雅彦		2		探究心		

講義目的		
西欧文化の基礎を歴史的に考察し、芸術と社会との関わりを考える。		
授業内容		
ヨーロッパの芸術文化について言語・文学・美術の各分野にわたって概観する。言語についてはヨーロッパの言語の歴史と近代化の中で言語がはたした役割について検証する。文学については古代ギリシャ時代から現代にいたる演劇の歴史、詩と音楽の関係、印刷術の進化とともに歩んできた小説などについて様々な角度から光をあてる。美術の分野では建築・彫刻・絵画について歴史の流れをたどる。また、芸術文化が技術の発展とどのようにかかわってきたかを検証し、社会と芸術文化の今後を考える。		
留意事項（履修条件他）		
各回の授業テーマにあわせた項目に関する基礎的な知識を学修しておくこと。また、レポート作成のために関心のあるものについては直接資料にあたってみることがぞましい。この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。課題についてはフィードバックを講義時間内におこなう。		
教材		
プリント配布		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ヨーロッパとは	世界の中でヨーロッパがどこに位置するのか、また歴史的にどのような存在であったのか世界史の教科書で確認しておくこと
2	ヨーロッパの言語の歴史	ヨーロッパの言語にはどのような者があるのか確認しておくこと
3	現在のヨーロッパの言語	時代とともに言語が形成されていくことをみるためヨーロッパの歴史を確認しておくこと
4	古代ギリシャ・古代ローマの文学：『オイディップス王』	古代ギリシャ・古代ローマの遺跡にはどのようなものがあるのか確認しておくこと
5	キリスト教と教会美術	キリスト教の布教活動と教会建築・美術との関係を調べるために『聖書』の内容について簡単に調べておくこと
6	中世の文学：『アーサー王』	中世の騎士道精神がどんなものであったのか確認しておくこと
7	ルネサンス：印刷術の発明と大航海時代	印刷術が発明されることによって社会にどのような影響が起きたと考えられるか調べておくこと
8	演劇の時代（1）：シェークスピア	演劇が社会に与える影響について調べておくこと。代表作の「ロミオとジュリエット」の内容を調べておくこと
9	演劇の時代（2）：フランス古典劇	同時代の哲学者デカルトやパスカルについて調べておくこと
10	啓蒙の時代：『百科全書』	どのような科学的な発見があったのか確認しておくこと
11	芸術家の誕生：バッハからベートーベンへ	バッハ、モーツアルト、ベートーベンの音楽の特色を調べておくこと
12	教育制度の整備：小説の時代	フランス革命後の19世紀に起きた社会の変化を確認しておくこと
13	絵画と写真	印象派の絵画がどのような特徴をもっているのか調べておくこと
14	映画の誕生	19世紀末から20世紀初冬にかけての社会の変化を調べておくこと
15	ヨーロッパの食文化	食文化がどのように形成してきたのか、またフランス料理、イタリア料理などの特色を調べておくこと
評価方法 および評価基準		
課題レポート 80%、授業貢献度 20%		
S (100~90点) : ヨーロッパの芸術文化について十分な知識を身に附けている		
A (89~80点) : ヨーロッパの芸術文化について一般的な知識を身に附けている		
B (79~70点) : ヨーロッパの芸術文化について基礎的な知識が十分あるが不十分な点がある		
C (69~60点) : ヨーロッパの芸術文化についての基本が理解できている		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デジタルマトリクスを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1501				広い視野		
授業科目名	日本の歴史と文化				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力		
担当教員	田浦雅徳				探究心		

講義目的											
高校時代までに学んだ歴史知識の確認を第一として、古代から現在までの我が国の歴史を広い視点から学ぶ。また、周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、我が国が如何なる発展をしてきたかを考え、現在の我が国がどのようにして形成してきたかを理解する。											
授業内容											
我が国の歴史・文化の基礎的知識の理解を通じて、今後の我が国のあるべき姿の指針を得ることを目標とし、先史時代から現在までの我が国の歴史の流れを学ぶ。その際、各時代を代表する政治的、文化的重要事項・事件や政治的・文化的な代表人物等を中心として講義し、その時代理解の一助とする。また、我が国の周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、その中で、我が国がいかなる歩みをしたのかを考え、現在の我が国をとりまく諸問題を歴史的に理解する。そして、今後、我が国が取るべき指針を得る。											
留意事項（履修条件他）											
過去の日本人の生き方や知恵を学ぶことは看護師としてきっと役立つことが多いであろう。そのためにテキストをしっかりと読んで、わからないところは日本史辞典などで調べるようにすると一段と理解が深まります。(60 時間の授業時間外学修) フィードバックはその都度講義内で行う。											
教材											
もういちど読む山川日本史：五味文彦・鳥海靖編 山川出版社 2009、1,500 円+税											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	日本のあけぼの	テキスト第1章を読み、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の特徴について知る。									
2	大和政権の成立	第2章を読み、大和政権の成立や古墳文化の特徴について知る。									
3	東アジア情勢と古代国家の成立	第3章をよく読む。隋や唐という中国における巨大帝国の成立という状況のなかで、朝鮮半島の情勢を踏まながら、飛鳥・奈良時代の日本が如何にして律令国家の形成を行ったかを知る。									
4	律令国家の変質と摂関政治	第4章を読み、平安時代における藤原氏の台頭と摂関政治の進行と衰退を武士団の発生と関連づけてながらみていく。									
5	武家社会の形成	第5章を読み、院政から平氏政権を経て鎌倉幕府の成立いたる過程とその展開をみていく。									
6	蒙古襲来と武家社会の転換	第6章を読み、蒙古襲来によって鎌倉幕府が衰退し、南北朝時代を経て室町幕府が成立した時代を知る。									
7	下剋上と戦国大名	第7章を読み、応仁の乱を経て守護大名がやがて戦国大名に取って代わられる時代をみていく。									
8	幕藩体制の確立	第8章を読み、戦国時代から織豊政権を経て、徳川将軍のもと幕府が諸藩を支配する幕藩体制の成立にいたる歴史をみていく。									
9	幕政の安定と町人の活動	第9章を読み、徳川綱吉の時代を中心に町人の台頭と元禄文化の繁栄をみていく。									
10	幕藩体制の動搖	第10章を読み、動搖しゆく幕府政治のなかで行われた享保・寛政・天保の三大改革を中心にみていく。									
11	幕末の動乱と明治維新	第11章1～3節を読み、黒船来航から始まる幕末の動乱のなかで倒幕から明治維新へ大転換していく時代の動きを知る。									
12	近代国家の成立と明治立憲制の形成	第11章4～9節を読み、西洋をモデルに急速な近代化の発展と立憲政治の確立に努力する明治日本の苦闘の歴史をみていく。									
13	日清・日露戦争と帝国主義的発展	第12章を読み、朝鮮問題や満州をめぐって日清・日露の両戦争に勝利した日本が、植民地を持ち大陸へ進出して帝国主義的な発展をとげていく明と暗の側面をみていく。									
14	日本をめぐる内外情勢	第13章を読み、大正時代から昭和戦前期にかけて、政党政治を確立した第一次大戦後の日本が、列強のうごめく国際社会のなかで、政治の不安定化をかかえながら如何にして自国の自立と発展をとげようとしたかをみていく。									
15	「大東亜戦争」と戦後日本	第14・15章を読み、満州事変・日中戦争を経て「大東亜戦争」の開戦に踏み切り、あえなく敗戦のどん底に落ち込んだものの、そこから再び国際社会の有力な一員として発展するまでに回復した悲劇と栄光の歴史をみていく。									
評価方法 および評価基準											
試験 100%											
S (100～90 点) : 日本史の知識と流れについて理解が極めてよくできている。 A (89～80 点) : 日本史の知識と流れについて理解がよくできている。 B (79～70 点) : 日本史の知識と流れについて理解が概ねできている。 C (69～60 点) : 日本史の知識と流れについて理解が不十分だがある程度できている。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない											

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1601				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	経営学の基礎				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	磯貝明				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
大学生のキャリア教育の基礎いわば社会人としての必須教養として、広く社会経済への関心を促すとともに、企業・産業と経済の問題について考える力を涵養することを意図し、経営学の入門的知識を修得させる。		
授業内容		
アップトゥデイトな話題を紹介しつつ、企業論的視点から、企業行動に関する基礎知識を修得させるとともに、経済主体の一つである企業行動の影響を理解させ、産業の動向や日本経済の実際を広く理解させるよう展開していく。また、医療法人も一つの企業であることから、医療法人内での組織を可能なかぎり想定し、実際に医療の現場で働く際のマネジメントや組織管理について、各自に想定を促し、経営学的視点から解説していく。		
留意事項（履修条件他）		
この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修が必要であり、その内容は学習課題（予習・復習）に示したとおりである。なお、受講生から、求められた事例などに関して、講義中に積極的な意見が展開されることを期待している。		
教材		
教科書：北中英明『プレステップ経営学』弘文堂、2009 年		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	イントロダクション・経営学とは何か	予習：教科書第 1 章を読んでおく。 復習：配布プリントを熟読しておく。
2	企業の概念と類型	予習：講義の該当部分の教科書を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
3	組織論・マネジメント・	予習：教科書第 2 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
4	経営管理の誕生 DVD 視聴	予習：小テストに備え、教科書中のキーワードの意味を理解しておく。 復習：DVD の内容をまとめておく。
5	人的資源管理・DVD 視聴	予習：教科書第 3 章を読んでおく。 復習：講義中に事例として紹介したケースの身近な例を考えておく。 DVD の内容をまとめておく。
6	企業の戦略行動—経営戦略（1）	予習：教科書第 4 章を読んでおく。 復習：講義中に事例として紹介したケースの身近な例を考えておく。 教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
7	企業の戦略行動—経営戦略（2）ケーススタディ	予習：前回の経営戦略の事例をもう一度考え、身近な例を探してておく。 復習：小テストの結果を確認し、正解を導き出せるようにしておく。
8	生産管理・トヨタ生産方式・DVD 視聴	予習：教科書第 5 章を読んでおく。 復習：DVD の内容をまとめておく。小テストの結果を確認し、正解を導き出せるようにしておく。
9	市場参入とマーケティング（役割・4P・プロセス）	予習：教科書第 6 章を読んでおく。 復習：講義中に事例として紹介したケースの身近な例を考えておく。 教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
10	営業管理（営業技術管理・顧客管理）	予習：教科書第 7 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
11	意思決定（プロセスとコントロール）	予習：教科書第 8 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
12	会計のしくみ	予習：教科書第 9 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
13	財務管理（資金調達と投資判断）	予習：教科書第 10 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく。
14	サプライチェーンマネジメント・経営情報	予習：教科書第 11 章・12 章を読んでおく。 復習：教科書中のキーワードの意味を理解し覚えておく

15	企業の社会的責任と環境経営	<p>予習：あらかじめ配布された資料を読んでおく。 復習：自らのグリーンコンシーマーとなっているか、具体例を考えてみる。講義で紹介された事例以外に、企業の社会的責任が問われた事例を検索してみる。医療法人であればなおよい。</p>
評価方法 および評価基準		
期末試験 70%、レポート・小テスト 30%		
S (100~90 点) : 学習目標である経営学の入門的知識をほぼ完全に習得している		
A (89~80 点) : 学習目標である経営学の入門的知識を相応に習得している		
B (79~70 点) : 学習目標である経営学の入門的知識を相応に習得しているが不十分な点がある		
C (69~60 点) : 学習目標である経営学の入門的知識の最低限は習得している		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	基礎科目-人間と生活の理解			成するための必要能力 デジタルマトリクスを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BC1701				広い視野		
授業科目名	社会・環境と健康				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力		
担当教員	朝山正己				探究心		

講義目的											
21世紀日本の健康、医療、福祉領域における最大の課題は少子高齢化社会と地球温暖化問題などの環境問題に対する対応である。本講では、第2次世界大戦後から今日に至るまでの日本経済や社会の変遷と健康新政策の足跡と実態を理解させる中で、健康と社会や環境の係りについて学び、21世紀社会の医療人としての基礎を養う。											
授業内容											
授業の目的を達成するために、主に次の内容で講義を構成する。 ①健康についての理解を深めるとともに、社会や環境とヒトの健康との関わりについて明らかにする。 ②日本が取り組んできた健康新政策の変遷と、今後、日本が取り組むべき健康に対する課題について明らかにする。 ③少子高齢社会の「光と陰」について述べ、今後、日本が取り組むべき課題について学ぶ。 授業は、指定の教科書を使い、授業の要点をパワーポイントによって提示する。また、必要によって印刷物を資料として配布する。											
留意事項（履修条件他）											
受講者の授業に対する理解度と出席を確認するために、毎回、小テストを実施する。 授業には、学生の積極的な参加を促し、双方向型の授業展開に心掛ける。 この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。課題・テストのフィードバックは講義内にその都度行う。											
教材											
朝山・井谷・芳本著「イラスト健康管理概論」（東京教学社）をテキストとして使用。											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	健康とは？	WHO憲章、日本国憲法・法規から健康を考える									
2	社会と健康	戦後日本の経済発展と日本人の健康との係りを理解する。									
3	環境と健康（1）	健康と環境との係りを理解するとともに、環境基本法の理解に努める。									
4	環境と健康（2）	環境汚染と健康被害について過去の公害問題から学ぶ。									
5	環境と健康（3）	地球温暖化の問題とその健康被害について熱中症予防対策法を中心に理解する。									
6	国民衛生の動向（1）	人口の推移と人口構成の変化から少子高齢社会の問題について考える。									
7	国民衛生の動向（2）	各種の死亡統計から日本人の健康に対する課題を考える。									
8	国民衛生の動向（3）	各種の死亡統計の国際比較から日本人の健康に対する課題を考える。									
9	生活習慣病の現状と対策（1）	我が国の健康新政策の変遷と社会の動向について学ぶ。									
10	生活習慣病の現状と対策（2）	健康づくりの3原則とその対策について健康新政策と絡めて理解する。									
11	生活習慣病の現状と対策（3）	健康のリスクファクター（喫煙、飲酒）の現状と対策について諸外国の現状とも比較しながら対応を考える。									
12	健康寿命を高めるための方策（1）	人生100年時代に求められる生き方について考える。その授業の内容を参考に課題を与え、次の講義に発表させる。									
13	健康寿命を高めるための方策（2）	前講に基づいて、受講生自ら考案した健康寿命を高めるための方策について発表する。									
14	グローバル社会への対応	感染症対策を中心にグローバル社会への対応について考える。									
15	まとめ	本講の全体を通して、学習の目的が達成できたかどうか確認する。									
評価方法 および評価基準											
期末試験60%、課題レポート40%											
S(100~90点)：本講義の内容が十分に理解され、しかも、得られた学習知識が今後の生活の中で十分応用できるだけの実践力が養成されたと認められる。											
A(89~80点)：本講義の内容が十分に理解され、授業にも積極的に参画できたと認められる。											
B(79~70点)：本講義の内容が十分に理解されが、授業には積極的に参画できたとは認められない。											
C(69~60点)：本講義の内容が十分に理解されていると必ずしも言えないが、授業には積極的に出席し、課題の提出等で評価する。											
D(60点未満)：Cのレベルに達していない											

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BD0101				
授業科目名	教職論				
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		
担当教員	折出健二				

講義目的		
目的：教職についての基本的な知識を身につけるとともに、教職の社会的意義と専門性への理解を深め、関心を高めて、自らのめざす教師像を意識化することをめざす。		
目標：①教職の意義及び役割を説明することができる。 ②創造性・同僚性・組織性（研修、服務が定められ、身分保障があること）を事例から説明できる。 ③教職実践に対する知見と課題意識を持って自己の省察と検証を行う素地を修得する。		
授業内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・教職の役割と機能、その職責と可能性を学ぶ。 ・教員の研修、服務、身分保障などを具体的に学ぶ。 ・教員等へのインタビュー等による具体事例との出会いを通じて、各自の教職への理解と関心を高め、教師になる基礎を構築する。 		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教師インタビューは教職を具体的に理解する学習機会なので、必ず参加して実施し、全員が各自の考察に基づいたプレゼンテーションを行う。そのフィードバックは講義時間内に行う。別的小課題レポートも同様である。(60 時間の授業時間外学習を要す)		
教材		
テキスト 秋田喜代美・佐藤学編著：新しい時代の教職入門（改訂版） 有斐閣 参考書 片山紀子編、富永直也：学校が見える教職論 大学教育出版他		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、教職とは	養護教諭を含めた教職の社会的意義、専門性について考える。
2	子どもの学びを導き伴走する教師の役割	授業者・支援者としての教師のあり方を考える。
3	子どもの発達を支える教師の意義と役割	一人の子どもの発達と広義の学びに及ぼす教師の役割の大きさを考える。
4	子どもの心に寄り添うことと教師のあり方	子どもを育むことと教師のあり方を考える。
5	教師の仕事の実際と教師としてのアイデンティティ	一日の活動を例に学校での教師の実際の動きを考察すると共に教職について考える。
6	現職教員等へのインタビュー・プラン(1)	小・中・高校のいずれかの特定教師への聞き取りをする意義とその技法について知る。
7	現職教員等へのインタビュー・プラン(2)	聞き取りのポイントを考え、各自の予定教師への聞き取りの計画を立案する。
8	教師の勤務と学校づくり（同僚性と教師文化）	同僚と共に学校を創ることの具体的課題を考察する。
9	教職の専門性と教師の服務・規律・研修等	学校という組織の構成員としての教師の立ち位置や役割を考察する。教師インタビューの参考にする。
10	時代と共に歩む教師（1）	近代の学校成立以降、時代と共に歩んできた教師を通して、子どもと関わる教師の生き方を探る。
11	時代と共に歩む教師（2）	戦後教育の経緯を通して、現代の教師像を探る。
12	教師の仕事とジェンダー	女性教師養成をめぐる諸問題や、男女平等基盤に基づく教職のあり方を考える。
13	インタビュー結果のプレゼンテーション	インタビューの概要、教職について得られた知見など、聞き取り内容を発表する。
14	教育改革と教師の未来	今日の学校改革の動向を考察し、教職の意義と教師の使命を考える。
15	学びつづける教師	本講の総括を兼ねて、現代教師のあり方を考え、まとめをする。
評価方法 および評価基準		
現職教員聞き取りの課題発表 40%、期末試験 60%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	資格科目-教職関連科目			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0201				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	教育原理				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	折出健二				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
(1) 人を育て自らも育つ、育ちあい（共育）についての理念、(2) 教育はどのような歴史を経てきたか、(3) 子どもの発達と教育の関係はどうあればいいのか、(4) 学校における教師・子どもの関係とは、(5) 生涯を通じて学びとはどういう役割を果たすか、という基本的な観点から教育を学ぶことを目的とし、主題に応じて教育と看護の関連性や人間性をはぐくむ方法などについて基礎的知識を身につけることを目指す。		
授業内容		
授業の概要		
(1) 子どもの発達を支える教育思想の成立や教育実践の原理について概観する。 (2) 発達と教育等の原理をふまえ、子どもの人権保護、学校の役割、家族の子育てと地域社会等の考えを深める。 (3) 子どもにとっての学び、指導観や教師像（教師の専門的成长）について理解を図る。		
留意事項（履修条件他）		
下記の学習計画にあげる基本的なテーマを講述し、関連する応用テーマでは学生同士の調べ学習も取り入れ、教育について自分で考える機会を創り出したい。 基本的内容については小課題のテストまたはレポートによって理解と修得を図ることとしたい。（60時間の授業時間外学習を要す）		
教材		
参考図書 折出健二：人間的自立の教育実践学 創風社 大田堯：教育とは何か（岩波新書） 田嶋・中野・福田・狩野共著：やさしい教育原理（第3版） 有斐閣		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	教育とは何か（1）	教育の原点、学びと教える関係を考える。
2	教育とは何か（2）	発達と個性の形成にとっていかに教育が不可欠で重要な役割を持つかを理解する。
3	学校とは何か（1） 西洋の学校史から	近代学校の成立や性格について理解する。
4	学校とは何か（2） 日本の学校史から	日本の「近代化」と学校教育の関わりを理解する。
5	こころとからだを育てること	身体文化と教育、道徳性の発達と教育などについて考える。
6	学びの可能性と学校教育	学習の意味と学校教育のあり方を考える。
7	学びの在り方と教育評価	教育評価の本質と機能などを理解する。
8	授業をつくること	授業づくりの原理が学校づくりを支える柱であることを理解する。
9	教師の仕事	教職の意義を考え、何が教師としての人間的成长を支えるかを考える。
10	子どもの〈支援〉〈指導〉とは何か	主に思春期・青年期の自分探しと向き合う教師の教育実践を通して教師の支援・指導について知る。
11	社会教育と生涯学習の可能性	〈人は学び続ける存在である〉ことを支える原理と実際について考える。
12	教育への権利と「子どもの権利条約」	「子どもの権利条約」の意義を問しながら、権利主体としての子どもについて理解する。
13	教育的指導者・援助専門職者としての教師	教職論とのつながりで教師の専門職性について考える。
14	よりよい教育の探求と教育研究の役割	子どもを主人公とする教育のあり方を、これまでの推移・現状を通して考え、その未来を展望する。
15	本講の総括	改めて「教育」「個の形成」には何が必要かを問い合わせ直し、各自の意見交流を基に講述でまとめる。
評価方法 および評価基準		
期末試験 80%、課題レポート（調べ学習を含む） 20%		
S (100~90点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について十分に説明でき、今日の教育問題を自主的に思考することができる		
A (89~80点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について基本を理解し概ね説明できる		
B (79~70点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について概ね理解し、不十分ながらも説明できる		
C (69~60点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について関心を抱き、その理解と説明に努力している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0301				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	教育方法論				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	北島信子				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的		
「(教育職員免許法施行規則第6条)」を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 授業の良否や展開に影響する諸条件やそのための最善策を考えることができる。 学校で、教育する側の論理や概念を理解し、自らその視座で考えることができる。 児童生徒に対する指導言（発問・指示・説明）を工夫し、その結果の反応も予想できる。 		
授業内容		
<p>児童生徒に何を教えるかを考えるために、実際の授業を進める上の不可欠な概念、教育方法の基本的な理論を取り上げる。また、子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解をはかる。</p> <p>教育方法のあり方について理論・歴史・実践の多様な角度から学ぶ。原則、毎時授業内レポートを課し、翌週に添削したものを返却することによって、フィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックは講義時間内に行うが、個別へのフィードバックは時間外に設定する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
養護教諭コース選択希望者は必修のこと		
教材		
毎回プリント教材を配布する。原則、毎時次週の予習課題（実践事例等）を配布する。添削済みのレポートも必ず復習すること。授業外の自習（予復習）時間は全15回で60時間が目安である。		
テキスト：使用しない 参考文献：佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス：授業の進め方、教育方法の概要	シラバスを確認しておくこと（予習）、プリント教材（復習）
2	教育方法の理論と歴史1：西欧・近代教育方法論（1）	「教授論」（コメニウス・ペスタロッチ）資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
3	教育方法の理論と歴史2：西欧・近代教育方法論（2）	「教授論」（ヘルバート・デューイ）資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
4	子ども理解と授業づくり	「子ども理解」についての実践資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
5	学習指導要領と学力問題	「学習指導要領」（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
6	授業設計と指導方法（1）教育内容と教材・教具	「教材・教具論」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
7	授業設計と指導方法（2）教科書研究	「教科書研究」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
8	授業設計と指導方法（3）学習形態	「学習形態（協同学習）」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
9	授業設計と指導方法（4）発問の技法	「発問の技法」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
10	授業設計と指導方法（5）授業展開の方法	「授業展開の方法」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
11	教育評価の方法と課題	「教育評価の歴史と課題」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
12	授業づくりと学習環境	「現代の授業づくり」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
13	情報リテラシー教育の指導方法	「現代における情報教育指導方法」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
14	授業における情報機器の活用と課題	「教育メディアとその活用と課題」資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）
15	まとめ	資料（予習）、プリント教材・添削済み授業内レポート（復習）

評価方法 および評価基準

試験 60%、授業内レポート 40%にもとづき、総合的に評価する。

S (100~90 点)： 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標が十分に達成された。

A (89~80 点)： 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標が十分に達成された。

B (79~70 点)： 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標がおおむね達成された。

C (69~60 点)： 子どもたちの指導にあたっての必要な技術についての本授業の目標が達成された。

D (60 点未満)： Cのレベルに達していない

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要能力 デジタルマトリクスを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0401				広い視野		
授業科目名	教育課程論				知識・技術		
配当学年/学期	2 / 前期		単位数		判断力		
担当教員	今井理恵				探究心		

講義目的												
(1) 初等教育における教育課程の意義について説明することができる。												
(2) 学習指導要領と教育課程編成、教科書検定制度との関係について理解し、説明できる。												
(3) 近年の関連事項（総合的な学習の時間、外国語活動等）について、概要を説明できる。												
授業内容												
この授業では、中等教育に比べ教科及び教科外の境界が未分化な初等教育を中心に、その教育課程の意義、編成の方法に関する事項を扱う。												
留意事項（履修条件他）												
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。この科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習指導要領ならびに、教育課程関連文献、教育実践記録などを講読すること）が必要である。課題のフィードバックは講義時間内に適宜行う。												
教材												
テキスト：学習指導要領解説 総則編			参考文献：適宜、紹介する									
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容		学習課題（予習・復習）									
1	オリエンテーション		授業の概要について知り、教育課程の論理に関心を持つ									
2	教育課程とは何か（1）教育課程の歴史		教育課程の歴史的変遷について学ぶ									
3	教育課程とは何か（2）教育課程と学習指導要領		教育課程と学習指導要領の関係を捉え、学習指導要領の意義について学ぶ									
4	わが国の教育課程改革の歴史（1）明治期～戦前①		明治期～戦前①における教育課程改革の歴史について学ぶ									
5	わが国の教育課程改革の歴史（2）明治期～戦前②		明治期～戦前②における教育課程改革の歴史について学ぶ									
6	わが国の教育課程改革の歴史（3）戦後「新教育」のカリキュラム改革		戦後「新教育」のカリキュラム改革の特質について学ぶ									
7	わが国の教育課程改革の歴史（4）学習指導要領の変遷		学習指導要領の変遷について学ぶ									
8	わが国の教育課程改革の歴史（5）現代の教育課程改革の展望		現代の教育改革の課題と展望について学ぶ									
9	諸外国におけるカリキュラム改革の展望		諸外国におけるカリキュラム改革の特質と展望について学ぶ									
10	教育課程に関する諸法規		教育課程に関する諸法規の特質について学ぶ									
11	初等教育における教育課程の類型		教育課程の類型を知り、その特質について学ぶ									
12	教科書制度と学習指導要領		教科書制度と学習指導要領の関連について学ぶ									
13	学習指導案と授業設計（1）学習指導案とは何か		学習指導案づくりについて学ぶ									
14	学習指導案と授業設計（2）学習指導案の実際と授業実践		授業を構想し、学習指導案を作成する									
15	まとめ		今日における教育課程にかかわる課題									
評価方法 および評価基準												
期末試験 80%、課題レポート 20%												
S (100～90 点)： 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を十分に検討することができ、子どもの学びにとって意味ある充実した授業構想と学習指導案を作成することができる。												
A (89～80 点)： 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を検討することができ、子どもの学びにとって意味ある授業構想と学習指導案を作成することができる。												
B (79～70 点)： 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を検討することにはやや不十分さはあるが、子どもの視点に立った授業を構想し学習指導案を作成することができる。												
C (69～60 点)： 今日の教育課程の意義について検討し、授業構想と学習指導案を作成することができる。												
D (60 点未満)： C のレベルに達していない												

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要能力 デ・プロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0501				広い視野		
授業科目名	道徳教育・特別活動論				知識・技術		
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力		
担当教員	山口匡/宮田延実				探究心		

講義目的												
道徳教育及び特別活動に関して基礎的な理解を得ると同時に、それらの指導実践の基礎となる方法論を身につけるとともに、児童生徒の実態に即した対応力を培う。												
授業内容												
(1) 道徳教育及び特別活動の諸概念、歴史、学習指導要領の内容の理解を図る。 (2) 実践事例の考察と学習指導案の作成を通して、指導方法の基礎固めを図る。 (3) いじめや発達障害の文献討論を通し、望ましい指導実践の在り方を探求する。												
留意事項（履修条件他）												
養護教諭コース選択希望者は必修のこと。この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。フィードバックはその都度行う。												
教材												
教科書：小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」、「特別活動編」												
授業計画および学習課題（予習・復習）												
回	内 容		学習課題（予習・復習）									
1	オリエンテーション（目的、概要、担当決め）、道徳教育改訂の要点		道徳の教科化をめぐる状況									
2	道徳の目標		「学習指導要領」の理解									
3	道徳の内容、道徳教育の歴史		日本における道徳教育の歴史（戦前・戦後）									
4	道徳の指導計画		道徳教育の全体計画、年間指導計画、学習指導案									
5	道徳の時間の指導		学習指導案の作成①：内容項目とねらい									
6	教育活動全体を通じて行う指導		学習指導案の作成②：主題設定の理由、学習過程									
7	家庭や地域社会との連携		現代の道徳的課題、子どもの状況と学校の役割									
8	児童理解に基づく道徳教育の評価		評価の観点と方法：「学習指導要領解説 道徳編」									
9	特別活動改訂の趣旨と要点		中教審の教育課程に関する情報の理解									
10	特別活動の目標		「学習指導要領」の理解									
11	各活動・学校行事の目標及び内容		各活動・学校行事の内容についての理解									
12	指導計画の作成と内容の取扱い		特別活動の課題についての理解									
13	指導計画の作成に当たっての配慮事項		指導計画案の作成①：目標と内容									
14	内容の取扱いについての配慮事項		指導計画案の作成②：指導過程									
15	特別活動における評価		評価の観点と方法：「学習指導要領解説 特別活動編」									
評価方法 および評価基準												
試験 70%、感想シートのコメント 30%												
S (100~90点)： 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)												
A (89~80点)： 学習目標を相応に達成している (Very Good)												
B (79~70点)： 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)												
C (69~60点)： 学習目標の最低限は満たしている (Pass)												
D (60点未満)： Cのレベルに達していない												

科目区分	資格科目-教職関連科目			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0601				広い視野		
授業科目名	生徒指導論				知識・技術		
配当学年/学期	2 / 後期		単位数		判断力		
担当教員	折出健二		2		探究心		

講義目的											
<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導の歴史を概観し、現代の学校教育における生活指導・生徒指導の原理と意義を学ぶ。 ・児童生徒の人権と指導・支援の関係認識に立ち、適切かつ必要な生活指導・生徒指導を説明できる。 ・いじめ・非行などの多様な事象への適切な指導方針、状況の分析など職員集団として継続的に学ぶための基礎力の定着を図る。 											
授業内容											
<p>生活指導・生徒指導（以下、現代の教育に関しては生徒指導とする。）の歴史を踏まえ、今日の生徒指導の基礎理論を学び、児童生徒を理解するに当たり、彼や彼女を取り巻く現代社会の状況や諸問題に関する理解と関心をも視野に置くことを学び、児童生徒の成長の支援のあり方を考える。さらに、教員の実践記録等から生徒指導の実際を学び、関連して養護教諭の役割を考える。</p>											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
<p>テキストに収録した実践的なテーマを学生による報告と意見交換で深める。また、教育実践記録の分析においては、教師の指導・支援に着目して読み取るようにして、子どもと教師の関係性を考察する。学生の報告並びに小課題のレポートのフィードバックについては、講義時間内で講評と解説をする。60時間の授業外の学習を要す。</p>											
教材											
テキスト 折出健二編著：教師教育シリーズ13 生活指導～生き方についての生徒指導・進路指導とともに（改訂版） 学文社											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	オリエンテーション（生徒指導の意義と原理）	改めて学校生活における生徒指導の役割を考える手がかりを得る。各自の教育体験も交流する。									
2	生徒指導の歴史的展開と諸理論	歴史的起源となった生活指導の系譜とその固有の役割を理解する。									
3	生徒指導とは何か（教師の生徒理解、教師の自己理解）	生徒理解の基本を考える。									
4	教育課程における生徒指導の位置	教育課程の構造的な理解をめざし、学習指導と並ぶ生徒指導の実践的な機能を考える。									
5	学級・ホールームづくりの意義と生徒指導	学級・HRの生活集団的役割を理解する。									
6	学びの共同性と生徒指導の課題	学びとの関連を考え、学習集団と生活集団について理解する。									
7	発達障害児の理解と生徒指導	発達障害の基本的理解に努めると共に生徒指導的にはどう支援するかについて考える。									
8	子ども虐待と生徒指導の実践	子ども虐待の実態を知ると共に、実際の指導・支援の観点を学ぶ。									
9	生徒指導の実践（「いじめ」への対応）	実践記録の分析と意見交流に参加する。									
10	生徒指導の実践（「インターネット」、「携帯」等にかかわる課題への対応）	実践記録の分析と意見交流に参加する。									
11	生徒指導の実践（「非行」への対応）	実践記録の分析と意見交流に参加する。									
12	生徒懲戒をめぐる諸問題	教育的懲戒の意義や、近年の「ゼロ・トレランス」動向について考える。									
13	生徒指導の進め方と学校運営	学校内の生徒指導をめぐる連携のあり方、学級担任を支援するシステムについて考える。									
14	生徒指導における学級・HRと地域や家庭との連携	教師と保護者の連携の力ぎを握るのが対話・コミュニケーションであることを理解する。									
15	本講義の総括	生活指導の成立と展開、生徒指導としての教育機能についてまとめる。									
評価方法 および評価基準											
実践記録分析レポート 30%、討論への参加態度 10%、 期末試験 60%											
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B(79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)											
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D(60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BD0701				
授業科目名	教育相談				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		
担当教員	折出健二				

講義目的		
教育相談の核となるカウンセリングやケアの理論的な基礎を身につけると共に、教育相談に必要な技能の意味を考察する。児童生徒理解を柔軟でより深いものとするために、従来の教科指導・生徒指導の枠組みにとらわれないで、援助者としての教師の役割を教育実践の足もとから追究し、そこに教師の自己変革と成長の可能性があることを探る。		
授業内容		
全ての教師にとって教育活動と教育相談は不即不離の関係になっていることを具体例で理解すると共に、重要な「いじめ」「不登校」について、具体的な事例を考察しながら教育相談の態度について学ぶ。そのことを通じて、養護教諭の役割の面からも子どもたちの心の問題に対応する面からも今求められることを学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
事例を基にした話し合い・討論には積極的に参加して意見交換を行い、それを小課題レポートにまとめる。そのフィードバックは講義時間内に行う。60時間の授業外の学習を要す。		
教材		
テキスト 広木克行編著：教師教育シリーズ14 教育相談 学文社		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	「教育相談」の役割と意義	学校教育における教育相談の位置と役割を理解する。
2	カウンセリングと教育相談	カウンセリングの方法の基礎的理解をえる。
3	子どもたちの発達の多様性と教師の役割	発達障がいを含む子どもの発達課題について理解する。
4	現代社会の変貌と教育相談	教育相談の諸事例の背景にある社会的現実について考える。
5	学級づくりと教師の教育相談のあり方（1）小学校	いじめ・不登校の事象との向き相方を学ぶ。
6	同上（2）中学校	思春期と関わらせて、いじめ・不登校との向き合い方を学ぶ。
7	教育相談とケアの視点	ケア及びケアリングの観点から教育相談の人格形成機能を考える。
8	「いじめ」問題とそのとらえ方	「いじめ」の今日的な問題と総合的な理解の基礎を身につける。
9	児童生徒の問題事例（1）小学校の事例とその対応	報告された事例を話し合いで検討する。
10	同（2）中学校・高等学校の事例とその対応	同上。
11	障がいのある子どもの教育と教育相談	特別支援教育における教育相談のあり方を考える。
12	保護者への援助と教育相談	教育相談の対象としての保護者とその支援について考える。
13	学校における教育相談システム	スクールカウンセラーの役割、養護教諭の関わり方など、学校の有機的な相談システムを考える。
14	教育相談と地域諸機関との連携	地域の専門的諸機関との連携を考える。
15	本講義のまとめ	要点を振り返りながら、教育相談の本質と機能についてまとめる。
評価方法 および評価基準		
小課題のレポート 30%、感想文提出 10%、期末論述試験 60%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD0801				広い視野	<input type="radio"/>	
授業科目名	ボランティア実習				知識・技術	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力	<input type="radio"/>	
担当教員	森川英子				探究心	<input type="radio"/>	

講義目的											
1. 大府市連携協定に基づき特別支援教育をとおして大府市の障がいを持つ児童の教育活動から教員の資質を学ぶ。 2. 特別支援教育を通して学校の仕組み、教育制度を学ぶ。 3. 上記1及び2を通して4年間のキャリア形成について具体的な目標を描く。											
授業内容											
本講座は、大学が特別に開設した特徴ある科目であり、障がいを持つ児童との交流を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図る。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
1. ボランティアとして事前学習を復習し、児童との距離感を常に意識化する。 2. 実習記録の作成を通して、特別支援教育の教育課程及び教育方法の理解に努める。 3. 事後学習では体験内容の報告会を開催に備え、予め内容を準備する。											
教材											
1. 「ボランティア実習の要項」を熟読すること											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内容	学習課題（予習・復習）									
回	I	21時間以上の実習 大府市教育委員会との協議により各学校の教育計画に基づき特別支援学級等の児童生徒に関する日常教育活動に伴う実習内容 1. 障がいの重度・重複化、多様化の事実とその対応方法の把握 2. 障がいを持つ一人ひとりの児童に応じた指導が展開されている事実の把握 ・登校時のお出迎え ・朝の会 ・給食時の補助 ・下校時の送迎等 3. 自立活動へのかかわり 4. 交流及び共同学習の具体例の把握と実習生としての役割									
	II	II及びIIIは、合わせて9時間以上目途とする その他、大府市教育委員会が管轄する教育的行事（就学時検診、林間学習等の宿泊行事等）に代表される行事に学生のスケジュールが合致すれば参加 ・児童生徒の教育環境の保全活動 ・児童生徒の教育活動の補助									
	III	その他の内容については大府市教育委員会と看護学科教職担当者と協議する。									
評価方法 および評価基準											
レポート100%											
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B(79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)											
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D(60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要能力 デイリープロマネジメント達成	豊かな人間性	○	
授業コード	BD0901 BD1001				広い視野	○	
授業科目名	養護実習 I 養護実習 II				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1 · 4		判断力	○	
担当教員	森川英子・松原紀子				探究心	○	

実習目的

養護実習の目的は、学校現場で具体的に学ぶことで実践的指導力を身につけることである。看護学部で学んだ教育に関する様々な理論を実際の教育活動の実習を通して理解を深め、再び授業でその理論を深める。その上で健康に関する指導者として養護実践を行い、振返りの中から改善点を見出し、次の実践で試みることで実践力を豊かにする。この理論と実践の往還から総合的な実践指導力の獲得をめざす。

また、養護実習は、これまでの学ぶ側から指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を喚起し、自分の夢と希望を育てるために資する

実習内容

養護実習は養護実習 I と II で構成される。

1 実習施設は、愛知県内の公立小学校・中学校となる。

2 実習期間は、養護実習 I は 1 単位として事前指導と事後指導を学内で行う。

事前指導は、打ち合わせの進め方、実習日誌等の実習に関する心構え

事後指導は、自己省察及びグループワーキングにより課題整理

養護実習 II は 4 単位として指定された各学校で行う。

3 実習方法は次のとおりとする。

- 1) オリエンテーション：養護実習の目的・意義の整理、養護実習 I の授業計画
- 2) 学校組織、教育課程、学校行事と保健室機能・保健事務・保健室における 1 日の流れ
- 3) 教材づくり
- 4) 保健室での児童対応のシミュレーション（外科的・内科的）
- 5) 学校歯科保健活動の意義と学校歯科保健活動の実際と教材づくり（歯科衛生士）
- 6) 健康診断及び身体計測の実技
- 7) 授業実践（保健指導・保健学習）7 名
- 8) 授業実践（保健指導・保健学習）7 名
- 9) 学校環境衛生の意義と実際（薬剤師）
- 10) 養護実習から学んだこと、学びたかったこと
- 11) 教育実践演習で互いに確認したい課題（グループ討議）

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- 1) 2 年生から教職課程の学生には適性、意志を確認しながら必要な単位をすべて修得
- 2) 3 年生で教員免許状授与の所要資格取得要件を満たしており、実習にむけて、専門科目の修得
- 3) 4 年生で養護実習 I ・ II の履修登録を済ませた後、養護実習 I では 8 回の授業を欠席しないこと
- 4) 4 年生は全員が教員採用試験の受験の義務付け

教材

なし

実習計画及び学習課題

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講話	講話の内容を振り返る
2	参加（職員の朝の打ち合わせ）	挨拶の練習
3	観察（保健室）	子どもの訴えとその受容について分析する
4	観察（教室）	子ども集団とその中の孤立傾向化を捉える
5	観察（運動場及び体育館・プール）	子どもの集団行動と逸脱の子どもの実態
6	参加（朝の会）	健康観察について復習
7	参加（給食）	給食室から教室までの運搬の安全管理
8	参加（給食）	配膳及び喫食での子どもの動き
9	参加（給食）	片付けと歯磨き
10	体験（応急処置）	子どもへの観察とともに実施できたか

11	体験(管理職・担任・保護者等への連絡)	観察内容を実践できたか
12	体験(応急処置の事後処理)	応急処置の時間的経過の把握
13	体験(保健室での対応件数のまとめ)	ITによる処理ができたか
14	体験(上記について週間・月間等のまとめ)	ITによる処理ができたか
15	体験(ほけんだよりの作成)	子どもの理解力を勘案する
16	体験(保健学習・保健指導)	指導案を予め作成しておく
評価方法 および評価基準		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	資格科目-教職関連科目			成するための必要な能力 デイリープロセスを達成するための必要な能力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BD1101				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	教職実践演習（養護教諭）				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	森川英子・松原紀子・山田裕子				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

授業目的

教職生活の円滑なスタートに資する本科目は、教員として4つの事項が含まれる。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 | 2 社会性や対人関係能力に関する事項 |
| 3 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 | 4 養護教諭としての指導力に関する事項 |

授業内容

養護実習の振り返りを通して、グループワークや発表、ディスカッションにより実習での学びを学生間で共有し、自己の課題について考える。毎回の授業においてコメント等フィードバックを重ねることで、学生一人一人が養護教諭に関する課題について考察し、教職員及び養護教諭としてのあり方や効果的な実践について考えを深める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- 1) 2年生から教職課程の学生には適性、意志を確認しながら必要な単位をすべて修得
- 2) 3年生で教員免許状授与の所要資格取得要件を満たしており、実習にむけて、専門科目の修得
- 3) 4年生で養護実習Ⅰ・Ⅱの履修登録を済ませた後、養護実習Ⅰでは8回の授業を欠席しないこと
- 4) 4年生は全員が教員採用試験の受験の義務付け（60時間の授業時間外の学修が必要である。）

教材

なし

授業計画

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	救急処置活動、定期健康診断及び事後措置のGW（担当：松原紀子）	法的根拠を確認する
2	疾病予防及び管理と評価、疾病予防及び管理と評価のGW（担当：森川英子）	学校における過去の大流行に関する新聞記事等を見つけておく
3	個人及び学校全体の健康問題の把握と評価、健康観察と評価のGW（担当：森川英子）	各実習校での課題を発見しておく
4	配慮を要する児童生徒の支援と評価、心の健康の保持増進と評価のGW（担当：松原紀子）	配慮を要する子どもの様子についてまとめる
5	講義：外部講師「学校管理と校長の役割」と質疑応答（担当：松原紀子）	学校の組織と管理について振り返っておく
6	模範授業：外部講師「スーカーの白い馬」と質疑応答（担当：森川英子）	国語教材を例に45分の授業の流れを学ぶ
7	ティームティーチングによる授業参画と評価、保健学習のGW（担当：松原紀子）	得意分野を補完して授業を構成する授業づくりを学ぶ
8	健康・安全・体育的行事等の学校行事等の保健指導の体験と評価のGW（担当：松原紀子）	特別活動での安全指導を予め学ぶ
9	児童保健委員会の運営と評価、学級活動における保健指導と評価のGW（担当：森川英子）	委員会活動を活性化させる仕掛けを予め考える
10	啓発活動（保健便り、掲示物等）と評価のGW（担当：松原紀子）	保健便りのパターン化をSBに保存する
11	心身の健康問題への対応、保健室経営計画と評価のGW（担当：松原紀子）	保健室経営と保健学習を例にしてまとめる
12	環境管理と養護教諭の関わりのGW（担当：松原紀子）	水質検査を例にして結果を資料化、見える化する
13	学校保健情報の管理と活用のGW（担当：松原紀子）	健康観察の結果を資料化する
14	保健室の備品・器具・衛生材料の整備保管と評価のGW（担当：松原紀子）	保健室の器具の消毒方法を整理する
15	学校保健委員会等の組織活動と評価、保健所との関わりGW（担当：山田裕子）	学校と地域の保健所、保健師との関係を復習

評価方法 および評価基準

学生のプレゼンテーション内容（60%）、グループワークの参加貢献度（30%）、授業の参加態度（10%）を評価する。

S（100～90点）：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）

A（89～80点）：学習目標を相応に達成している（Very Good）

B（79～70点）：学習目標を相応に達しているが不十分な点がある（Good）

C（69～60点）：学習目標の最低限は満たしている（Pass）

D（60点未満）：Cのレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するための必要能力 デジタルマトリクス達成度	豊かな人間性	
授業コード	BE0101				広い視野	
授業科目名	解剖生理学 IA				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	石黒土雄				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的									
形態とは身体を構成する臓器、器官の構造を意味し、機能はその構造から生ずる。器官・臓器の正常構造を学ぶことから始まり、人体を構成する諸器官の機能分担と調節機構、内在する法則性を理解することが目的である									
授業内容									
人体の基本的な形態と機能を理解し説明できることが目標となる。各臓器（循環器、呼吸器、中枢神経系、感覚器、内分泌、泌尿器、血液系）の機能・形態を知ること、その結果、全体として統合された恒常性を保持することができる仕組みが理解できる。その仕組みの異常が疾病であり、その成因を理解することが目標である。この科目では、人体の成り立ち、細胞の構造や組織・臓器の構成、骨格系、筋系、神経系、感覚器官の構造を理解する。									
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）									
看護の基礎となる科目である。正常な生体の基本を学ぶことは疾病の理解に直結する。単位習得にあたっては、授業を理解する上の予習復習が必須であり、およそ 20 時間が必要である。 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。									
教材									
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800 円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社									
授業計画および学習課題（予習・復習）									
回	内 容	学習課題（予習・復習）							
1	人体の成り立ち：人体構造と器官系	人体を作り上げている構造の階層的構成について述べることができる							
2	細胞の構造	細胞内の構造と機能について理解することができ、細胞質、核、遺伝子の働きを述べることができます							
3	組織・臓器の構成	人体を構成する 4 大組織の名称を挙げ、それぞれの特徴を述べることができます							
4	発生と三胚葉	胚子期に起こる主な発達経過について説明することができる							
5	上皮・外皮	さまざまなタイプの上皮組織の構造、局在、機能について述べることができます							
6	骨格系：骨の種類、成長と骨年齢	骨の働きと骨格系を述べることができます							
7	骨格系：脊柱と姿勢	全身の骨のそれぞれの位置と働きを述べることができます							
8	形態観察の方法：X 線と構造	骨の内部構造、形態を調べる方法を述べることができます							
9	骨の連結：関節の構造	骨の連結の構造と機能の分類を述べることができます							
10	筋系	筋細胞の組織構造とともに各部位における筋の所在と機能について述べることができます							
11	神経系：中枢神経	神経系の基本機能を理解し、神経インパルスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができます							
12	神経系：交感神経、副交感神経	交感神経系と副交感神経系の伝導路の構成を理解し、その働きの違いを述べることができます							
13	神経系：感覚神経（眼球・聴器官）	特殊感覚の構造と機能を述べることができます							
14	血管の構造、循環	血管の構造と機能を理解し、身体各部の主要な循環路を比較説明できる							
15	輸血と血液型	ABO 式、Rh 式血液型を述べることができます							
評価方法 および評価基準									
小テスト 45%、期末試験 45%、課題 10%									
S (100~90 点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる									
A (89~80 点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる									
B (79~70 点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる									
C (69~60 点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している									
D (60 点未満) : C のレベルに達していない									

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するための必要能力 デ・プロマ・ポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BE0201				広い視野		
授業科目名	解剖生理学ⅡA				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	石黒士雄				探究心	○	

講義目的											
現代の複雑な医療環境のなかで、看護活動を正しく行うためには、人体の解剖学的知識とともに、その機能について十分理解することが基本である。まず、人体を作りあげている分子、および、細胞の働きを学ぶ。それぞれの細胞が集まつた組織・器官がその機能を統合し、調整を行うことで人体の生命維持が可能であることを理解するのが目的である											
授業内容											
ひとの身体は組織・器官が働くことで内部環境の恒常性が図られている。すなわち、消化・血液・循環・免疫・呼吸・排泄の仕組みを学ぶ。また生体が内部環境を維持するうえで、外部からの刺激（感染、放射線、化学物質）に対する対応（情報伝達、免疫、組織修復）も知る必要がある。生殖のシステム、発生、老化などの現象を理解し、その機能を受け繋いでゆくための遺伝情報の理解も重要である。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
看護の基礎となる科目である。正常な生体の基本を学ぶことは疾病の理解に直結する。単位習得にあたっては、授業を理解する上の予習復習が必須であり、およそ20時間が必要である。											
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
教材											
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	ホメオスタシス	ホメオスタシスを定義し、フィードバックシステムの構成要素を述べることができる									
2	生命と化合物	糖質、脂質、たんぱく質の機能を論じることができる									
3	染色体の構造	DNA, RNA, ATP の重要性を説明することができる									
4	遺伝子の働き	タンパク質の合成の仕組みを述べることができます									
5	細胞分裂	体細胞分裂における細胞周期の各段階で起きる出来事とその意義を述べることができます									
6	外部環境の影響	内部環境の維持と外部環境の影響を比較し論ずることができます									
7	細胞活動と電気	神経インパルスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができます									
8	細胞間伝達機構：神経伝達物質、サイトカイン	細胞間の情報伝達の方法と伝達物質のタイプを説明することができます									
9	内分泌系：下垂体、副腎	視床下部と下垂体の位置と相互関係について理解し、下垂体から分泌される個々のホルモンの機能について述べることができます									
10	内分泌系：甲状腺、性腺、胰	個々の内分泌臓器の位置とホルモン、機能について述べることができます									
11	フィードバック機構	ネガティブ、ポジティブフィードバック機構を述べることができます									
12	インスリンと膜抵抗性：胰ランゲルハンス島	胰ランゲルハンス島の位置、ホルモン、内分泌機能を述べることができます									
13	カルシウム調節	副甲状腺の位置、ホルモン、機能を述べることができます									
14	網膜と視力	眼の付属器官、眼球壁の構造、水晶体、眼球の内部、結像のメカニズム、両眼視について述べることができます									
15	聴覚：感音系と伝音系	外耳、中耳、内耳の構造について述べることができます、また聴覚、平衡覚の受容器及びその伝導路について述べることができます									
評価方法 および評価基準											
小テスト 45%、期末試験 45%、課題 10%											
S (100~90点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる											
A (89~80点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる											
B (79~70点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる											
C (69~60点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している											
D (60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するためには デプロマポリシーを達成する 能力	豊かな人間性		
授業コード	BE0301				広い視野		
授業科目名	解剖生理学ⅠB				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	石黒士雄				探究心	○	

講義目的											
形態とは身体を構成する臓器、器官の構造を意味し、機能はその構造から生ずる。器官・臓器の正常構造を学ぶことから始まり、人体を構成する諸器官の機能分担と調節機構、内在する法則性を理解することが目的である											
授業内容											
人体の基本的な形態と機能を理解し説明できることが目標となる。各臓器（循環器、呼吸器、中枢神経系、感覚器、内分泌、泌尿器、血液系）の機能・形態を知ること、その結果、全体として統合された恒常性を保持することができる仕組みが理解できる。その仕組みの異常が疾病であり、その成因を理解することが目標である。この科目では、人体の成り立ち、細胞の構造や組織・臓器の構成、骨格系、筋系、神経系、感覚器官の構造を理解する。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
看護の基礎となる科目である。正常な生体の基本を学ぶことは疾病の理解に直結する。単位習得にあたっては、授業を理解する上の予習復習が必須であり、およそ20時間が必要である。											
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
教材											
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円											
参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	呼吸系：上気道	鼻・咽頭・喉頭の構造と機能を述べることができる									
2	呼吸系：気管支、肺、胸腔	気管・気管支・肺の構造と機能を述べることができ 吸息と呼息がどのように行われるかを説明することができる。									
3	循環系：血液（血球）	血液の産生・成分と機能について論ずることができる									
4	循環系：血液（体液）	失血や浮腫を防ぐメカニズムに関して述べることができる									
5	循環系：心臓	心臓の位置、および壁の層と部屋について述べることができる									
6	循環系：動脈	異なる種類の血管の構造と機能について説明することができる									
7	循環系：静脈、リンパ管	身体各部への主要な循環路を比較説明することができる									
8	消化器系：上部消化管	消化器系の各器官の所在及びその基本的な機能を正確に述べることができる									
9	消化器系：腹腔、胃腸管	腹腔の構造を理解し、胃・小腸の機能を説明することができる									
10	消化器系：肝臓、胆道、脾臓	肝臓・胆嚢・脾臓の位置、構造、機能について述べることができる									
11	泌尿器系：腎	泌尿器系の構成要素とその一般的機能を列挙することができる									
12	泌尿器系：尿路	尿管、膀胱、尿道の構造と機能について述べることができる									
13	臓器の形態検査：造影、シンチグラム	各臓器の形態を観察する方法について説明することができる									
14	臓器の形態検査：MRI、エコー	各臓器の形態を観察する方法について説明することができる									
15	生殖器	男性、女性性器の構造と機能を説明できる									
評価方法 および評価基準											
小テスト 45%、期末試験 45%、課題 10%											
S(100~90点)：人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる											
A(89~80点)：人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる											
B(79~70点)：人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる											
C(69~60点)：人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している											
D(60点未満)：Cのレベルに達していない											

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成才のための必要な能力 デイリーフラボリシート達成度	豊かな人間性		
授業コード	BE0401				広い視野		
授業科目名	解剖生理学ⅡB				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力	○	
担当教員	石黒士雄				探究心	○	

講義目的											
現代の複雑な医療環境のなかで、看護活動を正しく行うためには、人体の解剖学的知識とともに、その機能について十分理解することが基本である。まず、人体を作りあげている分子、および、細胞の働きを学ぶ。それぞれの細胞が集まった組織・器官がその機能を統合し、調整を行うことで人体の生命維持が可能であることを理解するのが目的である											
授業内容											
ひとの身体は組織・器官が働くことで内部環境の恒常性が図られている。すなわち、消化・血液・循環・免疫・呼吸・排泄の仕組みを学ぶ。また生体が内部環境を維持するうえで、外部からの刺激（感染、放射線、化学物質）に対する対応（情報伝達、免疫、組織修復）も知る必要がある。生殖のシステム、発生、老化などの現象を理解し、その機能を受け継いでゆくための遺伝情報の理解も重要である。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
看護の基礎となる科目である。正常な生体の基本を学ぶことは疾病の理解に直結する。単位習得にあたっては、授業を理解する上の予習復習が必須であり、およそ20時間が必要である。											
確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
教材											
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	呼吸機能	肺気量分画と肺容量について定義することができる									
2	ガス交換（内呼吸・外呼吸）	肺胞気と血液との間の酸素と二酸化炭素の交換と血液と組織細胞間の酸素と二酸化炭素の交換について説明することができる									
3	ヘモグロビンの働き	血液が酸素と二酸化炭素をどのように運搬するのかを述べることができる									
4	圧と生体機能：血圧、静脈圧、脳圧	生体内の各種の圧がどのように影響しているのかを述べることができる									
5	心機能：刺激伝導系（筋収縮と膜電位）	心臓の1回ごとの拍動が、どのように始まり、どのように維持されているのかを説明することができる									
6	心機能：心電図	心電図の意味と診断学的な価値を述べることができる									
7	体液の働き：浸透圧	毛細血管の血液への物質の出入りの仕組みについて述べることができる									
8	電解質と酸塩基平衡	水と溶質の獲得および排出の方法について述べることができ、どのように調節されているかを説明することができる									
9	免疫：自然免疫と獲得免疫	自然免疫の様々な構成要素を理解し、獲得免疫との違いを述べることができる									
10	免疫：細胞性と液性	細胞性と液性免疫の違いを比較説明できる									
11	栄養代謝：タンパク	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる									
12	栄養代謝：糖・脂肪	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる									
13	臓器の機能検査	機能的面から各臓器の評価法を理解することができる									
14	尿の生成	糸球体、尿細管、集合管の機能を説明することができる									
15	発生と遺伝	遺伝を定義でき、優性遺伝、劣性遺伝および伴性遺伝の特性について述べることができます									
評価方法 および評価基準											
小テスト45%、期末試験 45%、課題10%											
S(100~90点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる											
A(89~80点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる											
B(79~70点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる											
C(69~60点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している											
D(60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するための デプロマポリシーを達 成するための 必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BE0501				広い視野	
授業科目名	微生物学				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	石原由華				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
微生物学・感染症が理解でき、感染防御法の基礎知識を得る。また、特異的生体防御機構として免疫の理解できる。		
授業内容		
病原微生物と感染症について学び、感染症の治療及び予防のための基本的知識の習得を目指す。病原微生物として細菌、ウイルス、真菌ならびに原虫の性質を説明した後に、肺炎、尿路感染症など各種感染症のメカニズムと発病、それに伴う生体の反応について説明する。さらに、感染症の検査、感染防止対策、滅菌・消毒方法等を解説する。また、微生物による感染から生体を守り、異物の侵入に対して特異的に反応する力である免疫について説明する。		
留意事項（履修条件他）		
講義内容が多いので、講義で配布された資料について自宅で1時間程度復習する。予習については指定教科書の当該部分について読んでおく。講義出席は基本であり、授業中の私語を慎むようにする。配布された講義資料はファイルして整理しておくこと。		
小テスト(15%)は講義毎に評価する。小テストについては授業の最後に解説を行い、講義内容のポイントについて再確認する。		
教材		
教科書：藤本秀士 編「病原体・感染・免疫」改訂2版 南山堂 参考書：斎藤紀先「休み時間シリーズ 休み時間の免疫学 第2版」 講談社		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	病原微生物：細菌、ウイルス、真菌、原虫の概説と増殖	病原微生物とは何かについて予習する。 細菌、ウイルス、真菌、寄生虫の構造、病原性、増殖のしかた等について復習する。またブリオンとは何かについても復習する。
2	感染のメカニズム：微生物の病原性、感染経路、ヒトの感染感受性と炎症反応	感染とは何か、感染の成立を決定する因子について予習する。 感染症の経過、感染経路、日和見感染、と易感染宿主、病原因子について復習する。
3	感染症の診断と治療：微生物の検査法、抗菌薬	感染症を診断する上で必要な微生物の検査法について予習する。 感染症診療のながれと治療法の選択、原因微生物の検査と各種検体採取法について復習する。また化学療法とは何か、化学療法の副作用についても復習する。
4	多剤耐性菌：ESBL、MRSA、VRE、多剤耐性緑膿菌、結核菌、キノロン耐性菌など	黄色ブドウ球菌、緑膿菌、腸球菌、結核菌について予習する。 多剤耐性菌であるMRSA、VRE、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌、ESBLs产生菌とは何か、それらの耐性菌の感染経路について復習する。
5	血液感染ウィルス：B、C型肝炎ウィルス、HTLV-1、HIV	肝炎ウイルスについて予習する。 A型肝炎ウイルス、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルスの感染経路、感染様式などについて復習する。特にB型肝炎ウイルスの3種類の抗原については復習して理解を深める。 レトロウイルスであるHTLV-1、HIVについても感染経路、感染から発症までの経過について復習する。
6	主要ウィルス感染：インフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス、水痘、ヘルペス、ノロウイルス	インフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス（流行性耳下腺炎）、水痘、ヘルペス、ノロウイルス感染症がどのような病気であるのかを予習する。 インフルエンザウイルスの変異と流行のメカニズム、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、ムンプスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、ノロウイルス、ヘルペスウイルスの感染経路ならびに感染の経過、治療、予防について復習する。
7	AIDS（疫学、感染経路、治療ならびに予防）、新興・再興感染症など	HIV感染により発症するAIDSについて予習する。また新興・再興感染症とは何かについても予習する。 HIV感染者ならびにAIDS患者の世界や日本における動向について復習し、HIV感染経路別対策や予防についても復習する。 レジオネラ症、腸管出血性大腸菌感染症とその他の食中毒、肺炎球菌性肺炎、大腸菌感染症、マイコプラズマ肺炎についても復習する。
8	感染予防策：標準予防策、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策、血液感染予防策	標準予防策（スタンダードプロセション）について予習する。 標準予防策の定義・基本、感染経路別予防策である接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策、血液感染予防策について復習する。
9	消毒薬概論および各論	消毒とは何か、滅菌とは何かについて予習する。 消毒と滅菌の違い、各種滅菌法、消毒水準分類、消毒薬の特性や副作用、各種消毒薬の抗微生物スペクトルと使用方法、実際の医療現場における消毒と滅菌について復習する。

10	(A) 免疫に関与する細胞、組織：リンパ球、マクロファージ、リンパ組織、好中球 (B) 先天性免疫と食細胞	免疫を担当する細胞や組織は何かについて予習する。 各免疫細胞やリンパ組織の具体的な働きについて復習する。また先天性免疫とは何かについて理解を深め、食細胞の働きや炎症についても復習する。
11	免疫の成立：抗体（免疫グロブリン）、抗原（異物）、補体、モノクローナル抗体、抗原抗体反応と臨床検査	獲得免疫とは何かについて予習する。 獲得免疫の特徴、抗体の基本構造、抗体の種類や働き、抗原とは何か、抗原提示とリンパ球の活性化、抗原抗体反応と臨床検査について復習する。
12	免疫応答：一次応答、二次応答と免疫記憶、ワクチン	ワクチンについて予習する。 液性免疫、免疫応答、免疫記憶、ワクチンの種類、予防接種法、ワクチンの副反応、各種ワクチンについて復習する。
13	細胞性免疫：T リンパ球、マクロファージ、サイトカインの働き、SIRS、移植免疫、輸血	細胞性免疫について予習する。 細胞性免疫、臓器移植と移植免疫、血液型と輸血について復習する。
14	アレルギー：I、II、III、IV型アレルギーと疾患	アレルギーとは何かについて予習する。 I型～IV型アレルギーの発症機序や各アレルギーの関連疾患について復習する。
15	自己免疫疾患と膠原病：臓器特異的自己免疫病、慢性関節リューマチ、SLE、ベーチェット病	自己免疫疾患と膠原病とは何かについて予習する。 自己免疫疾患の発症機序、自己抗体、慢性関節リューマチ、SLE、シェーグレン症候群、ベーチェット病、臓器特異的自己免疫疾患について復習する。

評価方法 および評価基準

期末試験 85%、小テスト 15%

S (100～90 点)： 期末試験と課題レポートで合計 90～100 点を S とする。

A (89～80 点)： 期末試験と課題レポートで合計 80～89 点を A とする。

B (79～70 点)： 期末試験と課題レポートで合計 70～79 点を B とする。

C (69～60 点)： 期末試験と課題レポートで合計 60 点以上を C とする。

D (60 点未満)： C のレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するための必要能力 デジタルマトリクス達成度	豊かな人間性	
授業コード	BE0601				広い視野	
授業科目名	生化学				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	太田美智男				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
①人体を構成する成分の構造と機能を知る。またそれらの合成過程、代謝過程を理解する。		
②各種栄養素の働きを理解する。		
③人体および細胞の機能を生化学的に理解する。		
④病気を生化学的に理解できる。		
授業内容		
人体や細胞を構成する成分を学び、それぞれの成分の働きを分子レベルで理解して細胞の活動を学ぶ。特に核酸、タンパク質、糖質ならびに脂質の働きと代謝の基本的なメカニズムを学び、それらを支えるビタミンやミネラルなどの役割も含めて生命維持の機構を理解する。さらに遺伝の機構と遺伝子の役割を知る。また生命維持機構の破綻として生じる各種疾患を生化学的に理解する。授業はプリントを配布してそれを基に講義と小テストを行う。		
留意事項（履修条件他）		
各回の講義について教科書の内容を1時間予習することが望ましい。また毎回の講義内容を、配布したプリントを基に3時間復習することを課す。土日に集中して復習を可とする。		
教材		
書名：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 著者名：宮澤 恵二編集 出版社・出版年：メディカ出版／2017年 價格：2808円 ISBN978-4-8404-4527-6		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	人体を構成する元素、化合物と細胞の構造	各元素の名前と記号、化学結合について理解する。 細胞の構造を理解する。
2	糖の吸収、代謝	ブドウ糖の吸収メカニズムならびにブドウ糖の代謝機構を理解する。
3	糖新生、血糖値の調節	肝臓におけるブドウ糖合成のメカニズムについて理解する。 インスリンをはじめとする各種ホルモンによる血糖値の調節機構について理解し、記憶する。
4	生体エネルギーと ATP	解糖系、ケン酸回路におけるATP産生の機構を理解する。 ATPの役割について理解する。
5	蛋白とアミノ酸：摂取と代謝、尿素サイクル	蛋白の吸収機構を理解する。アミノ酸の分解・排泄機構を理解する。
6	蛋白の機能：酵素、血清蛋白、さまざまな蛋白	酵素の働きを理解する。疾患と酵素の関わりについて知る。 血清蛋白について理解する。
7	補酵素、ビタミン	補酵素・ビタミンの代謝における役割を理解する。主要ビタミンの作用について覚える。
8	人体に位必要なミネラル	人体にとって必要な主要ミネラルを知り、欠乏症を覚える。
9	脂質代謝、脂質合成、ステロイド、エイコサノイドの合成	脂肪酸の分解・合成について理解する。ステロイドの役割、エイコサノイドの産生機構と作用について理解する。
10	ヘモグロビン、ヘムの合成と代謝：ビリルビン異常症、貧血	ヘモグロビンの役割を理解する。ヘムの代謝と排泄、異常症について理解する。貧血について分類し、理解する。
11	核酸の合成と代謝、DNAの複製、転写、翻訳、蛋白の合成	DNA、RNAの合成機構とDNA複製機構を理解する。 転写/翻訳による蛋白合成機構を理解する。
12	遺伝子、変異と遺伝病、遺伝子組換え	遺伝子について知る。遺伝子の変異のメカニズムについて理解し、主要遺伝病について学ぶ。
13	ホルモン1：主要ホルモンと分泌臓器、分泌の調節	人体のホルモン分泌臓器とそれぞれのホルモンについて理解する。ホルモン分泌調節機構について理解する。
14	ホルモン2：各種ホルモンの働き	主要ホルモンの作用について理解し、覚える。
15	栄養吸収、代謝における各臓器の役割	エネルギー代謝における肝臓、脾臓、脂肪組織、筋、脳の役割を理解し覚える。
16	期末試験不合格者への試験問題の補習講義	試験内容について講義前に全てを振り返ることを義務とする。

評価方法 および評価基準

期末試験の成績90%、小テストなど授業参加の評価を10%とする。

S (100~90点) : 試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている

A (89~80点) : 試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。

B (79~70点) : 講義内容が理解できていると考えられる。

C (69~60点) : 講義内容がほぼ理解できていると考えられる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			成するための必要な能力 ディプロマポリシーを達成するための必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BE0701				広い視野		
授業科目名	栄養学				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	太田美智男				探究心	○	

講義目的		
①各種栄養素の人体における働きを理解する。 ②食と健康のあり方について学ぶ。 ③各種疾患と食の関わりについて理解する。 ④栄養管理における看護師の役割を理解する。		
授業内容		
食と健康の関わりを科学的に理解し、成長過程における各種栄養素の必要性と問題点を学ぶ。また免疫と食の関係についても学ぶ。さらに糖尿病、脂質異常症など代謝疾患およびメタボリック症候群などと栄養の関係を学ぶ。また消化器疾患、循環器疾患、腎疾患、癌など各種疾患の病態と栄養の関係について学ぶとともに、栄養管理について基本を理解する。講義は毎回配布のプリントおよび教科書に沿って行い、小テストを実施して理解を深める。		
留意事項（履修条件他）		
毎回の講義の内容は、生化学の講義を踏まえて行う。さらに臨床医学的な内容が加えられる。講義内容を理解し記憶するために、各回の予習1時間、講義後の復習を3時間課する。復習は土日に行っても良い。		
教材		
書名：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 著者名：關戸啓子編集 出版社・出版年：メディカ出版／2017年 價格：3024円 ISBN：978-4-8404-4911-3		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	人生各期における必要な栄養。栄養不良症（クワシオルコル、マラスムス）、高齢者の食事の問題点	乳児期・小児期、成人、高年期における栄養摂取の特徴を理解する。 栄養不良症を理解する。
2	エネルギー消費量の基準、基礎代謝とホルモンの働き：甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、アドレナリン、活動時エネルギー消費量、メツツ値	エネルギー消費量の基準について理解する。 基礎代謝と基礎代謝に影響を与える各種ホルモンの作用を理解する。
3	①食事摂取基準：エネルギー及び炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルの摂取量の基準。②栄養アセスメント：NSTと栄養アセスメントの方法	各種栄養摂取基準を理解する。栄養アセスメントの意義と方法を理解する。
4	①経腸栄養と高カロリー輸液：経腸栄養(EN)、高カロリー輸液(TPN) ②摂食・消化・排泄と消化器の機能：胃、小腸、大腸の機能、炎症性腸疾患の食事	経腸栄養法、高カロリー輸液について、内容を理解する。 栄養摂取における腸管の機能と、その障害について理解する。
5	①肝臓、脾臓の機能と疾患、②糖尿病：食事療法、インスリン療法、糖尿病合併症	栄養摂取における肝臓と脾臓の役割およびその傷害による疾患を理解する。 糖尿病について理解し、治療法の概略を説明できる。
6	脂質異常症：食事療法と治療薬、動脈硬化、メタボリック症候群と予防	脂質異常症を理解し説明できる。 メタボリック症候群とその予防法について理解する。
7	腎臓、心臓の機能と栄養：栄養代謝における腎の働き、電解質バランス、腎不全と栄養、高血圧と食事	栄養代謝における腎臓の役割を理解する。腎不全の病態とその栄養治療について理解する。 栄養代謝における心臓の働きを理解する。高血圧発症のメカニズムとその予防のための食事を理解する。
8	免疫と栄養、各種疾患と食事：免疫機能と栄養、食物アレルギー、腸内細菌の働き、周術期、熱傷、褥瘡、急性膀胱炎、多発外傷、脳卒中、癌患者の食事	免疫機構を理解し、栄養の免疫系への影響を理解する。 食物アレルギーについて知り、説明できる。 手術、熱傷、脳卒中、がんなどの患者の食事の留意点を理解する。
評価方法 および評価基準		
期末試験の成績90%、小テストなど授業参加の評価を10%として合計する。		
S (100~90点) : 試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている		
A (89~80点) : 試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。		
B (79~70点) : 講義内容が理解できていると考えられる。		
C (69~60点) : 講義内容がほぼ理解できていると考えられる。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-人体の構造と機能			ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を育む	
授業コード	BE0801				
授業科目名	適応・協調の生理学				
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		
担当教員	朝山正己				

講義目的		
<p>ヒトは、外部からの刺激に対して体の諸機能を調節することで生体機能を一定に保とうとする働き（恒常性）を有するが、運動負荷や高温暴露などの「刺激とそれに対する反応」が繰り返されることによって、恒常性の能力が亢進する。この働きを適応と言う。換言すると、健康な状態とは適応反応が正常に働いている状態であり、健康増進とは適応能力を高めることと言える。一方、病気は適応能力が低下ないしは破綻した状態と言える。</p> <p>本講では、呼吸、循環、エネルギー代謝あるいは体温などのヒトの生理機能に対する基礎知識を学習とともに、それらの運動や暑熱負荷に対する生理調節反応と機序について述べる。講義を通してバイタルサインの基本的な指標である体温の基礎知識を学ぶ。また、健康づくりの基本となる運動による健康増進のための基礎知識を養成する。さらに、体温や体液バランスの不調がもたらす熱中症の病態と予防方法についても習得する。</p>		
授業内容		
<p>授業の目的を達成するために、講義は次の内容で構成する。</p> <p>①運動の強度や量を科学的に理解するために、その基礎となる呼吸、循環、エネルギー代謝等の生理学に関する基礎知識を学習する。</p> <p>②温熱環境に対する適応を理解するために、その基礎となる体温調節の機序について学習する。</p> <p>③上記で得た知識をもとに、体温等のバイタルサインによる健康管理の要諦について学習する。</p> <p>また、熱中症などの暑熱障害やその予防策、あるいは交叉適応についても学習する。</p> <p>授業は、指定の教科書を使い、学習の要点をパワーポイントによって提示する。また、必要に応じて簡単な模擬実験を行いながら授業を展開する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>授業の理解度と出席の状況を確認するために、毎時の授業に小テストを行う。</p> <p>テスト・課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。</p> <p>この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。</p>		
教材		
朝山他編著「イラスト運動生理学」（東京教学社）をテキストとして使用。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	運動と適応（1）呼吸の仕組み	呼吸や換気運動についての概要について理解させる
2	（2）血液による酸素と炭酸ガスの運搬	呼吸ガスが血液によってどのように運ばれるか、その基本について理解させる。
3	（3）呼吸調節の仕組み	呼吸を調節する仕組みについて理解させる。
4	（4）運動と酸素	運動と酸素の関係を理解し、有酸素運動と無酸素運動の違いについて理解させる。
5	（5）運動とエネルギー代謝	運動とエネルギー代謝の関係を学び、それに基づいて運動の強度と量の違いを科学的に理解し、健康運動の基礎知識を養成する
6	（6）循環の仕組み	循環の仕組みについて学習させる。
7	（7）運動と循環	運動に対する循環反応を学び、その反応から運動強度の表し方や、運動処方の指標に応用する技術を学ばせる。
8	環境と適応（1）体温とその調節	体温とは何か。ヒトの体温変動の要因について理解させる。
9	（2）体温の体熱バランス（その1）	体温は熱放散と熱産生のバランスによって調節されるが、この講義では熱放散要因について理解させる。
10	（3）体温の体熱バランス（その2）	前週に続いて、体温の体熱バランスの熱産熱要因について学ばせる。
11	（4）体温調節の機序	体温は数々の生理的、物理的要因が係って調節される。この講義では体温調節の仕組みについて学ばせる。
12	（5）体温の病態生理	疾患と体温の変動、あるいは小児の体温低下の実態と原因などについて知ることによって、体温による健康管理の要諦を学ばせる。
13	交叉適応（1）運動適応と体温調節	運動時の体温反応や運動鍛練者の暑熱適応反応の特性から交叉適応についての基礎知識を学ばせる。

14	(2) 暑熱適応と体温調節	暑熱環境下における体温調節反応特性を明らかにして環境に対する適応や馴化について理解させる。
15	まとめ	講義のまとめとして、ヒトの生命活動や健康の維持にどのようにヒトの適応協同のメカニズムが係っているか総括する。
評価方法 および評価基準		
期末試験 60%、課題レポート 40%		
<p>S (100~90 点) : 本講義の内容が十分理解され、しかも、得られた学習知識がお応用できる実践力あると認められる。</p> <p>A (89~80 点) : 本講義の内容が十分理解され、授業にも積極的に参加できたと認められる。</p> <p>B (79~70 点) : 本講義の内容が十分理解されるが、授業には積極的に参加できたとは認められない。</p> <p>C (69~60 点) : 本講義の内容が十分理解されたとはいえないが、授業には積極的に出席し、課題の提出等の成績を含めて評価できる。</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>		

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			成するための必要能力 デ・プロマ・ポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BF0101				広い視野	
授業科目名	病理学				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	太田美智男				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
①病理診断の手順を知る。 ②人体器官・組織の障害・再生・老化等について学ぶ。 ③外的侵襲に対する生体の反応を学ぶ。 ④各種病気の機序を学び、その原因を理解する。		
授業内容		
さまざまな病気の原因を科学的に理解し、病気の機序を学びその結果として人体にどのような影響が現れるかを学ぶ。とくに組織の構造や機能に現れる変化を学ぶ。授業はプリントを配布しプリントと教科書に沿って講義形式で行い、毎回小テストを実施して理解を深める。テストのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
留意事項（履修条件他）		
講義内容を理解し記憶するために、当該の内容について予習を課すとともに、毎回の授業の後で1時間半の復習を必須とする。		
教材		
カラーで学べる病理学「第4版」（ヌーベルヒロカワ）、2700円 ISBN:978-4-86174-062-6		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	病理学の領域：病理学の概要、医療における臨床病理学の役割、組織診断の手順、腫瘍概論	臨床病理学について理解する。 組織診断の手順を説明できる。
2	細胞・組織とその障害、再生と修復：細胞・組織の構造と機能、細胞ならびに組織の障害、再生と分化、創傷治癒、老化	細胞の傷害と修復機構を理解できる。 創傷治癒のメカニズムを理解できる。 老化について考え方を知る。
3	炎症：炎症の病変・メカニズム、慢性炎症、肉芽腫性病変、SIRS、感染症	炎症反応の機構を理解する。 全身性炎症反応疾患を理解する。 主要感染症に対する生体反応、症状を理解する。
4	免疫とアレルギー①：免疫系の仕組み、免疫系の役割と作用機構、免疫記憶、免疫寛容	免疫のしくみと役割を理解できる。
5	免疫とアレルギー②：アレルギー、自己免疫疾患、膠原病、免疫不全	免疫の関与する疾患（アレルギー、自己免疫病、膠原病、免疫不全症）を理解し説明できる。
6	血液凝固と塞栓症：凝固・止血機構、凝固に関する疾患、血栓・塞栓症	血液凝固のメカニズムを理解できる。 凝固に関する疾患の説明ができる。
7	循環障害：充血・うっ血、虚血と梗塞、心不全、ショック、高血圧	循環の機構を説明できる。 梗塞、心不全、高血圧について理解できる。
8	代謝異常：糖質代謝とその異常、脂質代謝異常、核酸代謝異常、生活習慣病	糖代謝異常症について理解できる。 脂質代謝異常症について理解できる。 核酸代謝異常症について理解できる。 生活習慣病を説明できる。
9	内分泌臓器：内分泌臓器の分泌ホルモンと機能、それぞれの内分泌臓器の疾患（自己免疫病、良性腫瘍、ホルモン分泌異常症）	各種内分泌疾患について、原因、症状を理解し説明できる。
10	血液と骨髄：血液細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫	各種血液疾患について、理解できる。
11	呼吸器：鼻腔・咽頭・気道・肺の構造と機能、COPD、肺炎、肺がん	呼吸器の機能を理解し、COPD、肺炎、肺がんを説明できる。
12	消化管：食道・胃・小腸・大腸・肛門の構造と機能、潰瘍、各部位の腫瘍、イレウス	消化管の各部位の機能を理解できる。 各部位の潰瘍、腫瘍について説明できる。
13	肝臓、脾臓：肝臓・脾臓の構造と機能、肝炎、肝臓癌、胆道系疾患、脾炎、脾癌	肝臓・脾臓の機能を理解し、その破綻のメカニズムを理解できる。 肝がん、胆管癌、脾がんを理解できる。

14	脳・神経系疾患、運動器系疾患：脳浮腫、脳血管障害、神経変性疾患、脱髄性疾患、感染症、外傷、脳腫瘍、骨折、骨・関節の炎症、骨・関節の腫瘍、脊椎疾患、筋肉の疾患	脳神経疾患をあげ、それぞれの疾患を理解し説明できる。 骨・関節疾患を理解し説明できる。 筋肉の疾患を理解できる。
15	腎・泌尿器、生殖器：腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、腎がん、膀胱腫瘍、泌尿器系感染、前立腺疾患、精巣腫瘍、子宮疾患、卵巣疾患、乳がん	腎・泌尿器疾患を理解し腎臓の機能に基づいて説明できる。 男性生殖器の疾患を理解できる。 女性生殖器の疾患を理解できる。
評価方法 および評価基準		
試験による評価を90%、小テストを含む授業態度を10%として評価する。		
S(100~90点)：試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている		
A(89~80点)：試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。		
B(79~70点)：講義内容が理解できていると考えられる。		
C(69~60点)：講義内容がほぼ理解できていると考えられる。		
D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BF0201				
授業科目名	疾病・治療論 I				
配当学年/学期	2 / 通年	単位数	2		
担当教員	石黒士雄				

講義目的

生体（臓器）の形態や機能についての知識をベースとして疾病と症状の関係を理解する。症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法を学ぶ。疾患と関連付けた代表的な治療法を理解する

授業内容

主要な疾患について症状、成因、検査、治療法を述べることができることが目標となる。
疾患（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を理解し適切な対応について説明できる。外科的適応疾患については麻酔、人工換気療法を含めた

集学的な治療法を学ぶ

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

単位習得にあたっては、授業を理解する上の予習復習が必須であり、およそ20時間が必要である。

確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。受講後、不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと

教材

ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦疾病と治療

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	疾病の診断に必要なことがら	疾患の病態・診断・治療について一連のプロセスを理解し、必要性を考える
2	呼吸器①急性疾患、肺がん	肺急性疾患の症候・治療法を理解し、説明できる
3	呼吸器②慢性閉塞性肺疾患	肺慢性疾患の症候を理解し、それへの対応を検討できる
4	呼吸器③呼吸管理	呼吸管理が必要な病態を説明でき、機器の管理・運用が説明できる
5	循環器①虚血性心疾患	虚血性心疾患の病態・症候を説明できる
6	循環器②不整脈：WPW、房室ブロック	不整脈の種類ごとの変化を説明でき、対応を述べることができる
7	循環器③不整脈：細動、脚ブロック	不整脈の種類ごとの変化を説明でき、対応を述べることができる
8	循環器⑤心臓手術	疾患ごとの手術法の違いを理解し、対応法の重要性を述べることができる
9	麻酔①：全身麻酔と人工換気療法	麻酔の方法・薬物について説明でき、異常時の対応法を述べることができる
10	麻酔②：局所麻酔	局所麻酔薬の種類・方法について説明ができる
11	脳神経系疾患①血管障害	血管の異常の部位や状態により異なった病態になることを理解し、それへの対応を説明できる
12	脳神経系疾患②変性疾患	神経細胞の代謝異常などの変化を理解し、治療法を考えることができる
13	脳神経系疾患③腫瘍	頭蓋内に発生する腫瘍での特殊な病態症状を理解することができる
14	脳神経系疾患③脊髄	伝導路の構成を理解し、症候と病変部の関連を理解できる
15	脳神経系疾患：末梢神経疾患	外傷、感染、自己免疫疾患など多様な原因で発生する疾患ごとに病態を理解でき対応を説明できる
16	血液疾患①出血・凝固異常	血管が破れて出血すると生体は止血機構を働かせる、この止血機構の障害がどのような症状をきたすのか理解、説明できる
17	血液疾患②貧血、白血病	造血機構の炎症、腫瘍、先天性疾患などを理解し、その対応を説明できる
18	内分泌①糖尿病	糖尿病の発症には遺伝因子、環境因子、生活習慣が関与する。治療の基本となる患者自身への教育や、心理面のサポートを理解できる
19	内分泌②クッシング症候群、バセドウ病	全身的に起きる多彩な症状の原因を理解し説明できる
20	感染症と免疫疾患	感染症への標準的予防策を理解し、疾患ごとに異なる対応を考えることができる

21	腎疾患①：腎機能と糸球体疾患	腎炎は1つの病気を意味する言葉でないことを理解し、疾患ごとの対応を理解できる
22	腎疾患②：腎不全	腎臓が働かなくなった腎不全では透析治療が重要となる。長期治療が必要な病態と対応を説明できる
23	泌尿器疾患	結石、感染、腫瘍、先天異常による障害が引き起こす症状を理解することができる
24	消化器①口腔・食道・胃	腹痛、嘔吐などの症状をきたす疾患を説明でき、それへの対応を考えることができる
25	消化器②小腸、大腸	腹満、下痢、便秘などがどのような消化管の病変で起きるのかを理解できる
26	消化器③肝	黄疸、腹水など肝臓が原因できたす症状は複雑である。その病態、治療法を説明できる
27	消化器④胆道、脾	早期に診断を付けにくく、検査法が特殊な臓器の特性を理解し、対応を説明できる
28	消化器手術と管理法	切除手術は開腹のみならず、内視鏡手術でも行われる。適応について理解し、その利点、欠点を説明できる
29	運動器疾患①骨、関節	年齢ごとに異なる疾病がどのように発生するのかを理解し、対応法を説明できる
30	運動器疾患②腫瘍	診断方法、治療法を説明できる

評価方法 および評価基準

小テスト 45%、期末試験 45%、課題 10%

S (100~90点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を十分理解し適切な対応について説明できる

A (89~80点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を概ね理解し適切な対応について説明できる

B (79~70点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を不十分な点もあるが理解し適切な対応について説明できる

C (69~60点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を理解しようと努力している

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			成するための必要能力 デ・プロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BF0301				広い視野		
授業科目名	疾病・治療論Ⅱ				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 前期		単位数		判断力	○	
担当教員	安藤 / 岡本 / 前田 / 太田		1		探究心	○	

講義目的		
1. 精神医学の代表的な疾患の病因、症状や治療法について理解できる。 2. 老年期の特徴と老年期の代表的な疾患の症状や治療について理解できる。 3. 耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法の基本的な内容について理解できる。		
授業内容		
この科目では、看護師が知っておくべき精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。精神医学では、代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できる。老年医学では、高齢者の健康問題の特徴と高齢者がかかりやすい疾患やその予防、治療法について理解できる。耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法についてその基本が理解できることを目的とする。		
留意事項（履修条件他）		
* 毎週の決まった時間の講義ではないため、このシラバスで授業日をよく確認しておくこと。 * 専門的な内容のため解剖生理学や病理学で学んだ知識をこの授業で学ぶ疾患の基礎として復習して授業に臨むこと。 * この科目の単位を修得するにあたり、「学習課題(予習・復習)」に示されている授業時間外学修が 60 時間程度必要。 * 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
授業中に資料を配布する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習内容）
1	皮膚科の疾患と治療の基礎	解剖生理学や病理学で習った皮膚科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。他の臨床科目と関連して学習することを身に付けてください。
2	精神医学① 精神科疾患総論	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
3	精神医学② 双極性障害、ストレス因関連障害①	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
4	眼科の疾患と治療の基礎	解剖生理学や病理学で習った眼科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。
5	精神医学③ 双極性障害、ストレス因関連障害②	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
6	老年医学①高齢者の身体的、生理的特徴	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の復習をして授業に臨んでください。
7	老年医学②高齢者における疾病の特徴	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の復習をして授業に臨んでください。
8	老年医学③高齢者における循環器疾患	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の復習をして授業に臨んでください。
9	精神医学④ 不安障害、強迫性障害など	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
10	精神医学⑤ 統合失調症①	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
11	老年医学④高齢者における精神疾患について	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の復習をして授業に臨んでください。
12	老年医学⑤高齢者における神経学的疾患・内分泌疾患	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の復習をして授業に臨んでください。
13	精神医学⑥ 統合失調症②、自閉症スペクトラム障害	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
14	精神医学⑦ 摂食障害、睡眠障害、治療など	精神保健看護学概論のテキストの精神看護学②第1部精神疾患とその症状・検査・治療を読んで授業に臨んでください。
15	耳鼻科の疾患と治療の基礎	解剖生理学や病理学で習った耳鼻科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。

評価方法 および評価基準

期末試験 100%で評価します。各回を 10 点として 150 点満点を 100 点に換算して評価をします。

100 点換算後の 60 点以上を合格とします。60 点未満の再試験は 1 回のみです。

S (100~90 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、十分に説明できる。

A (89~80 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、十分に説明できる。

B (79~70 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、概ね説明できる。

C (69~60 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、不十分ながら最低限の内容は説明できる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BF0401				広い視野	
授業科目名	疾病・治療論Ⅲ				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	澤田 / 関谷 / 藤井 / 宮村 / 前田				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
<p>産婦人科医学における到達目標は、以下とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠経過と妊娠期の異常について理解する。 2. 正常な分娩と分娩期の異常について理解する。 3. 正常な産褥期と産褥期の異常について理解する。 4. 不妊治療や更年期の特徴や治療について理解する。 5. 解剖生理学、病理学の基礎的知識を基盤に、女性生殖器腫瘍の病理と治療について理解する。 <p>小児医学では、常に発達、成長する子どもの特徴を理解し、小児期に特有の疾患の病態と治療、新生児・未熟児医療、小児神経疾患等について学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学、病理学の基礎的知識を基盤に、小児期に特有の疾患の病態と治療について理解する。 2. 小児の成長・発達にあわせた治療、検査の特徴について理解する。 3. あらゆる健康段階にある小児の疾患の診断と治療について理解する。 		
授業内容		
<p>この科目は、小児医学と産婦人科医学を教授する科目である。女性の生殖器と周産期に関する健康問題に対し、基礎的知識を教授する。</p> <p>女性の性・生殖に関する解剖生理の復習と、更年期・老年期にいたるまでの生理を解説する。また、女性の健康問題の早期発見と適切なケア、予防教育の提供を目標に、周産期に起こりうる健康問題や代表的な疾患を、さらには、婦人科系疾患の病理・診断、治療に関して知識を教授する。</p> <p>小児医学では、周産期及び小児期に特有の疾患の診断と治療に関する基礎的知識を学修する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。</p> <p>* この科目的単位を修得するにあたり、「学習課題(予習・復習)」に示されている授業時間外学修が60時間程度必要。</p> <p>* 確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。</p>		
教材		
<p>(母性看護学概論で用いる教科書) 森恵 系統看護学講座 母性看護学1 母性看護学2 医学書院 2015年 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円+税</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	正常な妊娠経過と妊娠期の異常 （澤田）	予習として、1年次に学習した女性生殖器の解剖生理学の部分のテキストや授業内容を復習し押さえておくこと。2年前期の病理学の女性生殖器に関連する部分についても復習しておくこと。 復習として、授業の資料をよく理解すること母性看護学概論で用いたテキストの左記の部分を読んでおくこと。
2	女性生殖器の解剖・生理について （宮村）	
3	不妊と治療 （澤田）	
4	更年期医学 （澤田）	
5	分娩の生理と正常分娩、分娩期の異常 （関谷）	
6	正常な産褥期、産褥期の異常 （関谷）	
7	女性生殖器の腫瘍の病理、診断および治療 （藤井）	
8	循環器疾患（先天性心疾患、川崎病） （前田）	テキストの第8章A総論およびBおもな疾患①先天性心疾患②川崎病③後天性心疾患⑤心臓律動の異常⑥突然死を読む。授業では実例画像を示し最近の治療法を紹介して先天性心疾患の発生や病態の理解を深める。授業後は循環器疾患全体の考え方を整理し、先天性疾患の発生や病態を系統的に理解する。
9	染色体異常、先天異常、新生児疾患、低出生体重児疾患（RDS、NEC） （前田）	テキストの第1章染色体異常の項目おもな疾患、第2章①新生児の疾患②低出生体重児の疾患③成績異常を読む。授業では実際のNICUなど新生児疾患の管理方法などを学習し、産科を含めた周産期医療の在り方の理解を深める。
10	代謝性疾患（I型糖尿病）、内分泌疾患、及び特別講義「地域包括ケア時代における母子手帳の在り方」 （前田）	テキスト第3章代謝性疾患と看護Bおもな疾患①新生児マスースクリーニング、②先天性代謝異常③代謝異常（糖尿病）、第4章Bおもな疾患①下垂体②甲状腺③副甲状腺④副腎⑤性腺を読み、生理学各項の関連を再度一読しておく。授業後は生理学と病態学を関連付け、臨床を知る。「母子手帳からの生涯健康手帳」の新しい考え方を紹介する。

11	免疫疾患、アレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー） リウマチ性疾患（JIA）（前田）	テキストの第5章A看護総論Bおもな疾患①アレルギーのメカニズムを読み、生理学の生体防御機構の項も再度読み返し理解しておく。②アレルギー疾患③原発性免疫不全④リウマチ性疾患を読む。授業では各疾患の最近の治療法などを交え、病態と臨床の理解を深める。授業後は生体防御機構と各疾患の関連性を整理し、免疫アレルギーなどの病態生理全体の理解を深める。
12	感染症（ウイルス感染症、細菌感染症）、呼吸器疾患（クループ、細気管支炎、肺炎）（前田）	テキストの第6章A看護総論①子供の感染に関する基本的知識、Bおもな疾患①微生物総論②ウイルス感染症①から②、③細菌感染症①から⑪を読み、④⑤その他も目を通しておく。第7章A看護総論Bおもな疾患①②③④を読む。授業では小児一般診療の最も多い感染症と呼吸器疾患と合わせてその臨床を理解する。授業後は感染症と呼吸器、消化器、皮膚疾患など関連付けて理解を深める。
13	消化器疾患（先天性疾患、腸炎）および 血液・造血器疾患（ITP、血友病）、悪性新生物（白血病、その他固形腫瘍）（前田）	テキスト第9章A看護総論、Bおもな疾患①から⑩を読み消化器疾患の多様性を知っておく。授業では重要な疾患の臨床の理解を深める。その後先天性から感染症までの臨床の理解を深める。テキストの第10章Bおもな疾患①②③を読み、血液の成分の役割や血液凝固、血液型等を生理学を読み返し理解しておく。第11章Bおもな疾患①②④を読む。（脳腫瘍等は「神経」で）
14	腎・泌尿器疾患（先天奇形、ネフローゼ、CKD、AKI、腫瘍等）、生殖器疾患（底流精巣、尿道下裂等）、及び事故・外傷に対する医療（前田）	テキスト第12章Bおもな疾患①から⑪および、ウイルムス腫瘍を読み先天性、急性疾患、慢性疾患、腫瘍などの多様な疾患を知っておく。授業ではそれぞれの病態生理を深め、その診断、治療などを学習する。第19章A看護総論Bおもな疾患①から⑨を読み、日本の小児の死因第1位の事故・外傷に応対できる知識を持ち、虐待児への対応も学ぶ。
15	神経疾患（てんかん、筋ジストロフィー）、（脳腫瘍、神経腫瘍）および発達障害（前田）	テキスト第13章A看護総論Bおもな疾患①から⑨および第11章③④を読み神経筋疾患を知る。テキスト第18章A看護総論Bおもな疾患①から⑤を読む。授業では神経筋の代表的疾患の位階を深め、発達障害に対する考え方の理解を深める。神経疾患及び発達障害の後病態を理解を深め、在宅医療、家族、学校、社会など多職種連携について理解を深める。

評価方法 および評価基準

（産婦人科） 期末試験 100% （小児医学） 期末試験 80%、レポート 20%

S (100~90 点) : 看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が十分に理解できる。

小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が十分理解できる。

A (89~80 点) : 看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が概ね理解できる。

看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が概ね理解できる。

B (79~70 点) : 看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が、不十分な点もあるが理解できる。

看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が不十分な点もあるが、理解できる。

C (69~60 点) : 看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が理解できるよう努力している。

看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が理解できるよう努力している。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			成するための必要能力 デイリーマップリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BF0501				広い視野		
授業科目名	老年疾病治療論				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	岡本和士				探究心	○	

講義目的											
近年、老齢人口の増加とともに、我が国では世界でも類を見ない早さで高齢社会を迎えた。今後医療に携わるうえで、高齢者とのかかわりは不可欠となる。だが、高齢者の場合特異的とも言える兆候・症状を示すことが少なく、老化現象と疾患の境界がつけにくいという特徴を有する。本講では「加齢による身体的および生理学的特徴の理解を基礎に、成人と異なる高齢者の特異的な疾患の症状・兆候の理解と習得」を最大の教育目標とする。											
授業内容											
老年に特有の疾患の特徴、病因、経過、治療の特徴を理解できる。特に、認知症の種類を学び、種類によって看護に違いがあることを、根拠とともに理解できるようになる。また看護に活かせるコミュニケーションの取り方や、総合的な機能評価も含めて講義を行い、高齢者への関わり方の基礎が、根拠をもって習得できるようにする。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
講義は必ずしも教科書にそって行うものでないので、必ずノートを取ること。 専門的な内容のため、解剖生理学や病理学の知識をこの授業で学ぶ疾患の基礎として予習し授業に臨むこと。 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行うこと。30時間の授業外学習が必要。											
教材											
「老年系疾病論－老化と疾病的理解－」 岡本和士編集 三恵社											
授業計画および学習課題（予習・予習）											
回	内 容	学習課題（予習・予習）									
1	①科目的狙い ②到達レベル ③講義計画等の説明 高齢者に対する理解	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
2	高齢者の身体的、生理的特徴	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
3	加齢に伴う身体的、生理的变化	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
4	高齢者における疾病的特徴	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
5	高齢者に見られる全身的徵候	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
6	高齢者に見られる循環器疾患	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
7	高齢者に見られる精神疾患-認知症を中心に-	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
8	高齢者に見られる神経学的疾患・内分泌疾患	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で習った内容の予習をして授業に臨んでください。									
評価方法 および評価基準											
期末試験 100%											
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)											
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D (60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	専門基礎科目-疾病の治療と回復促進			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BF0601				広い視野		
授業科目名	薬理学				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 後期		単位数		判断力	○	
担当教員	堀田芳弘		1		探究心	○	

講義目的		
ヒトへの薬物療法を効果的に行える能力を身につけるため、薬物の生体に対する作用機序と共に、生体の薬物に対する効果反応を理解し説明できるようにする。疾患と重ね合わせることにより薬物の薬効メカニズムを理解し、副作用、相互作用の機序、薬物の保管・管理方法などを理解し、より実践的な知識を身につけ臨床の場で応用できる力をつける。		
授業内容		
総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして各論の総論とも言われている自律神経系に作用する薬物を中心として臨床で使用されている薬物について理解し、中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。教科書・参考書などを読むことにより理解できることを教育の優先とする。講義を受ければ重要な薬物のポイントを認識でき、他の薬物も類推できるようになる。		
留意事項（履修条件他）		
看護専門領域の基礎となる重要な科目の一つである。授業に積極的に参加できるように教科書・プリントなど事前に予習する。授業中には重要な医薬品の名前・薬学的作用機序について示されるので理解できるようにする。なおこの単位を修得するには、およそ30時間の時間外の学習が必要である。確認試験・課題レポートのフィードバックは講義時間内に行うが、個別の課題については時間外に設定する。		
教材		
テキスト：薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 吉岡允弘ら著、 医学書院 参考書：クイックマスター薬理学、新訂版、鈴木正彦著、サイオ出版 シンプル薬理学、第5版、野村隆英、石川直久編集、南江堂		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	薬理学の基礎知識1（薬理学の概要、法令）	薬理学の概要(薬力学・薬物動態学)を理解し、ヒトへの薬物の治療応用の有効性・安全性から臨床薬理学へつなげる。薬物の法律である医薬品医療機器等(旧薬事法)によって規制されている薬物についても理解する。
2	薬理学の基礎知識2（薬物の作用、作用に効果を及ぼす要因）	薬物の薬力学である主・副作用の機序として作用点(受容体など)の関与を理解し説明できるようにする。
3	薬理学の基礎知識3（適用方法、薬の体内動態、副作用、医薬品の命名法など）	生体の薬物に対する効果である薬物動態学(吸収・分布・代謝・排泄)を理解し有害な副作用情報を説明できるようにする。薬物の名前である一般名・商品名などを命名法として理解する。
4	末梢神経作用薬1（自律神経作用薬）	各臓器に一対の交感神経・副交感神経(自律神経系)が結合しており、臓器の機能水準を一定に保っていることから各論の総論とされ、作用薬・遮断薬が臨床では汎用されている。各臓器の機能を理解できれば全体の薬理作用を理解できる。
5	末梢神経作用薬2（局所麻酔薬、筋弛緩薬）	自律神経以外の神経に作用する筋弛緩薬・局所麻酔薬の機序・有害作用について説明できるようにする。
6	中枢神経作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬など）	うつ病・パーキンソン病・學習・記憶などに中枢神経系の各ニューロン間の情報伝達に関与している神経伝達物質を理解し、作用機序・有害作用について理解し説明できるようにする。
7	アレルギー用薬・抗炎症薬（抗ヒスタミン薬、非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬）、痛風治療薬、片頭痛薬	アレルギー薬を理解し炎症に関連するオータコイド(生体自己調節物質)について説明できるようにする。治療薬として用いられている副腎皮質ステロイド薬と非ステロイド薬(NSAIDs)の作用機序・有害作用について区別して理解する。
8	心臓血管系作用薬（心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、高脂血症薬、利尿薬）	高血圧・心不全など循環系の疾患は、心臓・脳・腎臓血液などへの障害の予防にも関係する。心不全治療薬の治療法は神経系の関与、血液量・心収縮力・末梢血管抵抗などから説明できるようにする。
9	血液造血系作用薬（貧血/白血球減少症治療薬、血液凝固阻害薬/抗血小板薬、血栓溶解薬/止血薬）	貧血治療薬・血液凝固薬/抗血小板薬などの機序から疾患について理解できるようにする。
10	呼吸器系作用薬（呼吸促進薬/鎮咳去痰薬、気管支喘息薬）	気管支喘息薬に関して副腎ステロイド薬、気管支拡張薬、抗アレルギー薬の疾患に対する使用法を学ぶと共に有害作用を理解する。

11	消化器系作用薬（健胃消化薬/制酸薬、消化性潰瘍薬、下剤/止瀉薬、制吐/利胆薬）	消化性潰瘍薬・健胃・消化管運動促進薬の機序の理解と薬物の使用方法について説明できるようにする。
12	生殖器作用薬・物質代謝作用薬（子宮収縮薬、性ホルモン/経口避妊薬、ビタミン、ホルモン、輸血/栄養/電解質製剤）	糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬と治療薬としてのビタミン剤の機序について理解し説明できるようにする。
13	抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬	抗感染症治療薬と抗がん薬の作用機序と有害作用について理解する。
14	皮膚科用薬・眼科用薬、漢方薬、消毒薬、薬物・毒物中毒の処置	皮膚病薬は外用療法について眼科用薬は眼内障治療薬について説明できるようにする。漢方薬の有害作用・有効性のエビデンスについて理解する。消毒薬・薬物中毒についての対処法についても理解する。
15	まとめ	全体についてまとめ理解し説明できるようにする。

評価方法 および評価基準

出席状況 10%、試験・小テスト・提出レポート 90%から総合的に評価する。
S (100~90 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について十分に説明することでき、患者への有害作用にも十分に対応できる。
A (89~80 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について概ね説明することでき、患者の有害作用に対応できる。
B (79~70 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について不十分でもあるが説明することでき、患者の有害作用にも対応できる。
C (69~60 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について考えることでき、患者への有害作用にも対応するために努力している。
D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			感覚するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を育む	
授業コード	BG0101				
授業科目名	統計学				
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		
担当教員	西川まり子/市川誠一/高久道子				

講義目的

統計は何れかの集団の特徴を数値化したもので把握し活用する学問である。授業では保健統計に焦点をあてて、国レベルのデータの解読や、疫学的研究から得られたデータをより的確に処理する統計学の基礎を身につける。

- ・国民の健康や生活衛生の動向を把握するうえで必要となる保健統計について学習する。
- ・国民の健康や疾病に関する健康指標、疫学情報を調査、分析する上で基礎となる統計学について学習する。

授業内容

保健統計（1-7回）と統計学（8-15回）に分けて学習する。

保健統計では、主に「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口静態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口静態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査などでみる国民の生活と健康の特徴などを把握する。

統計学では、保健医療データの統計処理を理解するために必要な基本統計学、保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する比較検定を学習する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

11回以降は、情報室（401教室）にて、実際の医学検査データについてPCを用いた統計処理を学習する。なお、講義で使用する医学検査データをあらかじめ大学指定の学生メールアドレスに送付があるので、講義前にダウンロードしておくこと。また授業でのデータを保存するために各自USBを用意し、データを管理する。

この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。講義配布資料の内容は教材で確認し、学習すること。

テスト・レポート内容のフィードバックはその都度授業時間内に行う。

教材

- ①財団法人 『厚生統計協会 国民衛生の動向』 最新号、2315円+税
- ②牧本清子 疫学・保健統計学 最新版（標準保健師講座） 医学書院、2800円+税
- ③講義では、内容に応じた資料を配布する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義の目標と内容について 保健統計 1) 国民衛生の動向、人口静態統計 (市川)	「国民衛生の動向」により、人口静態統計に基づく日本の最新の人口統計および世界の人口統計の特徴を理解する。
2	保健統計 2) 人口動態統計 出生と死亡、その動向 (市川)	「国民衛生の動向」により、人口動態統計の概要、出生の動向、出生に関連する指標、死亡に関連する指標を理解し、日本と世界の動向を理解する。
3	保健統計 3) 人口動態統計 主要死因とその動向 (市川)	「国民衛生の動向」により、主な死亡原因とその動向（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）、外因死の動向、日本と世界の相違について理解する。
4	保健統計 4) 人口動態統計 妊娠・出産関連と乳児死亡 (市川)	「国民衛生の動向」により、妊娠から出産、養育における動態統計の指標（死産、乳児・新生児死亡、妊娠婦死亡、周産期死亡等）の日本と世界の動向を理解する。
5	保健統計 5) 人口動態統計 平均余命・平均寿命 (市川)	「国民衛生の動向」により生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命について日本と世界の動向を理解する。特定死因と平均寿命との関連、健康寿命に関連する要因から看護職者の役割を理解する。
6	保健統計 6) 健康状態と受療状況 国民生活基礎調査・患者調査 (市川)	「国民衛生の動向」により、国民生活基礎調査、患者調査が示す国民の健康状況、外来・入院の受療状況を理解し、保健医療が抱える課題、看護職者の役割を理解する。
7	保健統計 7) 生活習慣と保健統計 飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等 (市川)	「国民衛生の動向」により、国民健康・栄養調査が示す国民の食生活、喫煙、飲酒等の状況を理解し、これらの要因の改善、疾病予防における看護職者の役割を理解する。
8	疫学的生物統計の基礎 (1) サンプリング (西川)	サンプリング：サンプリングとは何か・学ぶ理由・種類や方法 「疫学・保健統計」 p20-24 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」 p89-110

9	疫学的生物統計の基礎（2）記述統計1 （西川）	統計を学ぶ意義、データの整理、グラフの見方や作成における留意点 「疫学・保健統計」p 107-123 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」p 7-26
10	疫学的生物統計の基礎（3）記述統計2 （西川）	平均、標準偏差、変数の種類、中央値、最頻値、範囲、外れ値、四分位 「疫学・保健統計」p 107-123 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」p 7-26
11	疫学的生物統計の基礎（4）母集団の推定 （市川）	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いた基本統計量の算出、平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を理解する。
12	疫学的生物統計の基礎（5） 生物統計における仮説検定、母平均と標本平均の比較検定 （市川）	生物統計における仮説検定を理解する。 健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出し、母平均と比較する統計方法を理解する。
13	疫学的生物統計の基礎（6） 生物統計における仮説検定、二つの標本平均の比較検定 （市川）	二つの標本平均の比較統検定に関する統計方法を理解する。健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて「対応がある場合」「対応がない場合」の検定を理解する。
14	疫学的生物統計の基礎（7） 生物統計における仮説検定、相関関係 （市川）	相関係数の算出や検定方法を理解する。健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出、相関図の作成、相関関係の検定を理解する。
15	疫学的生物統計の基礎（8） 生物統計における仮説検定、百分率の比較検定 （市川）	離散量（百分率等）に関するデータについて、エクセルを用いて、母集団の推定や、カイ二乗検定による標本百分率の比較などの方法を理解する。

評価方法 および評価基準

中間試験(1-7回分)20%、(8-10回分)20%、(11-15回分)20%、期末試験30%、課題レポート10%

S (100~90点) : 保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

保健医療データに基づく統計的処理について十分に理解している。

A (89~80点) : 保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

保健医療データに基づく統計的処理について理解している。

B (79~70点) : 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。

保健医療データに基づく統計的処理についてある程度理解している。

C (69~60点) : 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。

保健医療データに基づく統計的処理についての基本的な理解をしている。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	
授業コード	BG0201				
授業科目名	疫学				
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		
担当教員	西川まり子/市川誠一				

講義目的		
疫学は、看護師と保健師課程に必要で、根拠に基づいた看護や保健活動を実践するための基礎であり、活動に必要な集団の健康指標に関する情報資源で、保健統計学とともに学ぶ。授業を看護活動、地域保健、国際看護におけるヘルスの指標、評価と診断および健康促進に役立てる。		
授業内容		
この授業では主に疫学の基礎である(1)疫学の概念、歴史、その重要性、(2)集団の健康状態の把握の方法を述べ、計算する(3)疫学的研究方法(4)疾患の予防とスクリーニング(5)疫学と地理情報 GIS(6)感染症の基礎を学生の身近な事柄、地域、国際状況と照らし合わせながら学ぶ。初めて学ぶ学生にとっては難解な言葉も多いが、やさしい解説とクイズを解きながら自然に楽しく学ぶ。そのうえで、将来自分の実施してみたい疫学的研究内容や方法のイメージを持つ。		
留意事項（履修条件他）		
疫学は、看護活動や保健師活動の国内外の情報を得るための基礎になります。しっかりと学びましょう。この科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。全体と個人のフィールドバックは、授業毎の小クイズとその解説で行う。		
教材		
① 牧本清子『疫学・保健統計』医学書院 最新号, ISBN978-4-260-00751-1 ¥2800 ② 倉田博史『大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』, KADOKAWA, 2017, ISBN978-4-04-602000-0 ¥1500 ③ 服部兼敏, 西川まり子, 木村義成『地域支援のためのコンパクトGIS—地図太郎入門』古今書院 ¥2800 ④ 財団法人『厚生統計協会 国民衛生の動向』2016-2017 ¥2500 (参考図書) 三砂ちづる『疫学への招待』医学書院, 2005年, ISBN-13: 978-4260334051 ¥2300		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	疫学の概念 概念と定義 (西川)	予習・復習 教科書: ① p2-17
2	集団の健康状態の把握：有病率と罹患率死亡率とその比較 (西川)	予習・復習 教科書: ① p8-17
3	疫学的研究方法（1）対象集団の選定／観察研究 (西川)	予習・復習 教科書: ① p20-23 ② p24-35
4	疫学的研究方法（2）主な観察研究 (西川)	予習・復習 教科書: ① p26-35
5	疫学的研究方法（3）主な介入研究 (西川)	予習・復習 教科書: ① p36-39
6	疫学的研究方法（4）主な介入研究 (西川)	予習・復習 教科書: ① p36-40
7	疫学的研究方法（5）信頼性と妥当性、因果関係の立証、疫学研究の問題、調査票と倫理 (西川)	予習・復習 教科書: ① p41-54 p 18-23
8	スクリーニング（1）疾病の予防3段階 (西川)	予習・復習 教科書: ① p 60-65
9	スクリーニング（2）疾病の予防とスクリーニング (西川)	予習・復習 教科書: ① p 60-72
10	看護師・保健師活動と地理情報：GIS (西川)	予習・復習 教科書: ③ p1-25
11	看護師・保健師活動と地理情報：GIS (西川)	予習・復習 教科書: ③ p135-177
12	ここまでくるとクイズ、疾病登録 (西川)	予習・復習 教科書: すべて ① p 61-73
13	感染症（1）基本概念 (市川)	予習・復習 教科書: ④ p 143-155
14	感染症（2）主要な感染症と法律 (市川)	予習・復習 教科書: ④ p 156-172
15	感染症（3）アウトブレイク時の調査 (市川)	予習・復習 教科書: ① p 55-59
評価方法 および評価基準		
クイズ 30% 期末試験 60% 授業への積極的な参加 10%		
S (100~90 点) : 疫学全般について、かなり良く理解できている		
A (89~80 点) : 疫学全般について理解できている		
B (79~70 点) : 疫学全般についてまあまあ理解できている		
C (69~60 点) : 疫学全般について、理解しようと努力している		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BG0301				
授業科目名	保健看護情報学				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		
担当教員	市川誠一/永坂和子				

講義目的		
1. 看護職者が取り扱う保健医療に関する情報について、インターネット、電子カルテなどの情報通信技術（CIT）を活用したデータ収集と情報処理、情報を取り扱う上での倫理と法律、管理と漏えい防止について習得する。		
2. 看護職者が取り扱う保健医療に関する情報が、人々の健康や疾病の管理および対策を構するうえで重要であることを理解し、看護実践や地域保健活動への活用について考える力を養う。		
授業内容		
1. インターネット、電子カルテなどの情報通信技術（CIT）の仕組み、エビデンスに基づくデータの収集、利点とリスク、倫理、法律を学修する。 2. 看護職者が保健看護領域で CIT を用いてどのような情報を、どのように収集するかを理解し、データベース、統計解析、データマイニングなどの分析技術を用いてどのように処理され、情報として伝達されるかを学修する。 3. 病院看護、地域保健看護における CIT の活用を学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。フィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
(参考書) 太田勝正、前田樹海編集 看護情報学(エッセンシャル) 医歯薬出版、2600 円+税 ISBN978-4-263-23586-7 太田勝正、猫田泰敏編集 看護情報学 医学書院 2800 円+税 ISBN978-4-260-00572-2		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護における情報とその活用 (市川)	看護実践の中でどのような情報を取り扱い、また活用しているのかを理解し、看護情報の重要性を理解する
2	情報通信技術（ICT）、コンピュータリテラシーと情報リテラシー (市川)	看護情報を取り扱う上で必要なコンピュータリテラシーと情報リテラシーを習得するための基本的な知識、考え方を学習する
3	看護情報の倫理的側面（1）情報倫理、情報セキュリティ (市川)	患者の権利と情報提供、看護情報を取り扱う際の守秘義務、情報への不正アクセスや改ざん防止のための情報セキュリティを理解する
4	看護情報の倫理的側面（2）個人情報保護、医療における倫理指針 (市川)	看護情報を活用する際の説明と同意、個人情報保護、OECD8 原則、医学研究における倫理指針、医療機関における個人情報の適切な取扱いなどを理解する
5	地域看護における情報の活用 (市川)	地域で生活する人々の健康や QOL の向上を目指す地域看護活動において、地域住民の健康に関連する多種多様な情報の活用について学習する
6	病院情報システムと看護情報システムの位置づけとルール (永坂)	診療で扱う情報の種類と流れ・各部門のシステム等より看護情報システムの位置づけ、ルールについて理解する。 第 5 章 113~125 を予習
7	電子カルテの概要と診療録・電子カルテに求められる条件 (永坂)	診療録に必要な条件を理解し、看護師が電子カルテを運用する上の責務、業務に活用する視点を学習する。 第 5 章 127~134 を予習
8	看護情報支援システム (永坂)	個々の患者に適切なケアを提供するための看護情報のシステムを学習する。 第 5 章 P132~137 を予習
9	看護用語の標準化の取り組み (永坂)	看護・医療分野の専門用語の管理、なぜ看護用語の標準化が必要なのかを理解する。 第 6 章 146~163 を予習
10	看護におけるデータ・情報の特徴、看護記録 (永坂)	看護師が利用する情報の種類、情報活用の流れ、看護師が行う記録について学習する。 第 3 章 P56~74 を予習
11	情報管理システムの構築と運営 (永坂)	情報システム導入の実際、データに基づく意思決定、マスター作成、職員教育等の運営について理解する。

12	看護サービスのための情報活用とマネジメント (永坂)	安心・安全で質の高いケアを提供するために、どんな情報活用からマネジメントを行っているかを学習する。
13	地域医療連携のための医療・看護情報システム (永坂)	医療制度改革が進む中、地域医療連携システム、電子地域バス、遠隔看護等の実際を学習する。 P178～181 予習
14	地域看護における情報システム、電子@連絡帳 (永坂)	多職種ネットワークで共有する在宅療養に関わる在宅支援ツールについて学習する。 P167～177 予習
15	看護データの処理演習 電子カルテの課題と将来 (永坂)	事例を通して、多職種による院内外の連携・継続、情報の共有をグループで考える。また電子カルテの課題について理解する。
評価方法 および評価基準		
期末試験：1-5 回分 30%、6-15 回分 60%、出席 10% S (100～90 点) : 看護情報の意義、情報倫理、情報収集とその活用について十分に理解している A (89～80 点) : 看護情報の意義、情報倫理、情報収集とその活用についてほぼ理解している B (79～70 点) : 看護情報の意義、情報倫理、情報収集とその活用について理解しているが、やや不十分な点がある C (69～60 点) : 看護情報の意義、情報倫理、情報の収集と活用について最低限の理解は満たしている D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			感 る た めに 必 要 能 力	豊かな人間性		
授業コード	BG0401				広い視野	○	
授業科目名	公衆衛生学				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	藤原奈佳子/原田裕子				探究心	○	

講義目的		
公衆衛生に関する基礎知識を得ることを目的とする。集団としての健康の増進と疾患の予防の具体的方策を考えることができるよう、以下を目標とする。		
<p>(1) 社会の中で、疾病と健康を扱うための理論と実践について説明することができる。</p> <p>(2) 健康・疾病・障害と生活の関わりの基礎的な概念を説明することができる。</p> <p>(3) 自然科学的な研究方法論である疫学の考え方を説明することができる。</p> <p>(4) 実践活動としての、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を説明することができる。</p>		
授業内容		
公衆衛生の歴史と公衆衛生行政の発展を学び、併せてプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの理念等を踏まえて健康を規定する要因および、公衆衛生の概念を理解できる。また、公衆衛生の健康指標、健康づくり支援技術の根拠となる保健医療福祉制度・公的根拠を理解し、対象別及び集団・地域の公衆衛生の実践、学校及び産業の場における公衆衛生の実践、災害保健や健康危機管理における公衆衛生活動など、様々な公衆衛生の実践の場と看護師・保健師などの役割について学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
日頃から地域や世界でおこっている保健医療の動向に関心をもって講義に積極的に臨むこと。毎回の授業後に教科書の章末のゼミナール、復習と課題を復習しておく。この科目の単位を取得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。フィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書： ①系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生、神馬征峰、他著、医学書院、2200円（本体）、ISBN9：78-4-260-01989-7 ②図説 国民衛生の動向 2017/2018、厚生労働統計協会、1528円（本体）、ISBN:978-4-87511-732-2 参考書： 国民衛生の動向、厚生労働統計協会		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	公衆衛生の概念（藤原）	公衆衛生の概念を説明できる。（予習：教科書の目次を参考に目を通しておく。序章を読み、公衆衛生とは何かを考え、授業に臨む。）
2	公衆衛生の歴史（藤原）	公衆衛生の歴史を概観して、人々の健康に関する諸制度と保健活動が組織的に推進されていることが理解できる。（予習：教科書第1章Aをよく読み、公衆衛生、健康について考え、授業に臨む。）
3	公衆衛生行政の発展、地域保健活動（原田）	国・地方公共団体など公の責任で実施される公衆衛生の体系や活動を理解できる。（予習：教科書第2章Aを読み、自身が属する社会集団について考えておく。）
4	感染症とその予防（原田）	感染症の成立要因、伝播様式、予防や蔓延防止を理解できる。感染症法、予防接種法を理解できる。（予習：教科書第7章Gをよく読んで授業に望む。今までに自分が受けた予防接種を確認しておく。）
5	食品保健と栄養（原田）	食中毒、食品衛生管理、国民栄養の現状、食の安全を理解できる。（予習：教科書第4章B②をよく読んで授業に臨む。よく飲食する食品や最近一週間の飲食したものの栄養成分表示を持参する。）
6	公衆衛生の健康指標（原田）	人口静態統計、人口動態統計、平均余命、有病率、罹患率等、基本的な指標について理解できる。（予習：教科書第6章Bならびに国民衛生の動向、第2編衛生の主要指標と、巻末の統計表目次に目を通して授業に臨む。）
7	ヘルスプロモーション、生活習慣病とその予防（藤原）	健康の定義について考えることができる。生活習慣病の概念とその対策について説明できる。（予習：教科書第7章B-①から④をよく読み、生活習慣病について疾病予防対策としてどのようなことがあるか考えておく。ヘルスプロモーションについて、プライマリヘルスケアとの相違を第1章D①とD②を読んで授業に臨む。）

8	健康と環境・疫学的方法（藤原）	疫学の視点から人に関する環境をとらえることができる。根拠に基づいた判断とは何か考えることができる。（予習：教科書第6章A、C、D、Eをよく読んで授業に臨む。）
9	生活環境の保全、産業保健（原田）	地球環境、生活環境について考えることができる。公害について理解できる。（予習：教科書第4章Bをよく読み、身のまわりの環境と健康について考えておく。） 労働安全衛生管理や法的枠組みについて理解できる。職業性疾病について考えることができる。（予習：教科書第9章をよく読み働く人々をささえるしくみを考えておく。）
10	医療の歴史、医療制度、難病（藤原）	わが国の医療制度の概要を説明できる。難病に対する政策について理解できる。（予習：医療保険について自分の健康保険証を確認する。日本の医療保険について厚生労働省の下記ホームページ< http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/iryouhoken01/index.html >を閲覧して授業に臨む。）
11	母子保健（原田）	少子高齢化社会での母子保健を考えることができる。妊娠から出産、子育てをライフサイクルの中で理解できる。母子保健行政を理解できる。（予習：教科書第7章Aをよく読み、可能であれば自分の母子健康手帳に目を通しておく。）
12	学校保健、精神保健福祉（原田）	学校保健の保健教育、保健管理、環境衛生、学校安全を理解できる。学校感染症について理解できる。精神障害者の人権尊重について考えることができる。こころの健康づくりや精神保健福祉制度について理解できる。（予習：教科書第8章、第7章Dをよく読んで授業に臨む。）
13	グループワーク 「公衆衛生学のミニ模擬授業をしてみよう」（原田）	公衆衛生学で学んだ領域や公衆衛生に係るデータから自分たちの生活と結びつく健康の必要性や課題を考えることができる。
14	ミニ模擬授業（原田）	公衆衛生学で学んだ領域や公衆衛生に係るデータから自分たちの生活と結びつく健康の必要性や課題を考え、発表することができる。
15	ミニ模擬授業、これからの公衆衛生（原田）	公衆衛生学で学んだ領域や公衆衛生に係るデータから自分たちの生活と結びつく健康の必要性や課題を考え、発表することができる。社会環境の変化を理解し、将来の健康課題への対応を考えることができる。

評価方法 および評価基準

課題レポート 40%、期末試験 60%

S (100~90 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、集団特性に応じた保健活動を考えることができる。

A (89~80 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、健康指標や示されたデータを解釈できる。

B (79~70 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、集団の健康増進と疾病の予防を考えることができる。

C (69~60 点) : 公衆衛生学の基本的な概念と、用語などに関する基本的事項について理解している。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			感覚するためには、必要な能力 ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BG0501				広い視野	○	
授業科目名	保健医療福祉行政論				知識・技術		
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	三井明美				探究心	○	

講義目的		
保健医療行政論は、保健活動の根底をなす概念である。保健と医療及び福祉のつながりを行政計画の関連性を理解し、利用者のQOLを高める援助が考えられるようになる。		
授業内容		
保健医療及び福祉のネットワークについて理解し、看護職として必要な厚生行政と医療福祉制度を学び、利用者の立場に立った看護ができるようになるために、保健医療福祉計画を理解する。更には保健と医療及び福祉サービスの連携について学習する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
この講義は法律科目である。人体の構造や機能とは少し異なる学問なので、必ず復習をすること。毎回の講義終了時に次回の講義内容の説明をし、具体的な予習内容と教科書の該当ページを指定するので必ず読んでから講義に参加すること。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修が必要である。フィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書 ①健康支援と社会保障④「医療関係法規」今西春彦著 メディカ出版 3,240円 ISBN978-4-8404-6131-3 教科書 ②医療職のための関係法規入門 武田看護教育研究所編著（株）武田看護教育研究所 2,052円 ISBNなし ただし、②の教科書は授業中に配布し、集金する予定。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	行政法の一般原則	予習 特になし 復習 行政法が何かを知る
2	保健医療福祉行政財政の仕組み	講義の最後に指示します
3	社会保障制度 1	講義の最後に指示します
4	社会保障制度 2	講義の最後に指示します
5	社会保障制度 3	講義の最後に指示します
6	社会保障制度 4	講義の最後に指示します
7	社会保障制度 5	講義の最後に指示します
8	社会保障制度 6 中間テスト	講義の最後に指示します
9	地域保健行政と保健活動 1	講義の最後に指示します
10	地域保健行政と保健活動 2	講義の最後に指示します
11	地域保健行政と保健活動 3	講義の最後に指示します
12	保健師の活動	講義の最後に指示します
13	保健医療福祉計画	講義の最後に指示します
14	保健医療福祉計画の評価	講義の最後に指示します
15	総合問題演習	
評価方法 および評価基準		
中間テスト 40%、期末試験 60%		
S (100~90点) : 行政法の原理原則が十分理解でき、関係法規を社会資源として活用することができる		
A (89~80点) : 行政法の原理原則が理解でき、関係法規を社会資源として活用する視野がある		
B (79~70点) : 行政法の原理原則及び関係法規がおおむね理解できた		
C (69~60点) : 関係法規がおおむね理解できた		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成才をめざす 必要な能力 ディプロマポリシー達成	豊かな人間性	
授業コード	BG0601				広い視野 <input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	臨床心理学				知識・技術	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	西牟田祐美子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的									
臨床心理学とは何か考えるところから始め、その歴史や臨床心理実践を支える理論についてそれぞれ学習し、理解を深める。医療における心理学の概念と、歴史や、健康、心理アセスメントの要点、メンタルヘルス、医療現場で行われる心理療法について、ディスカッションや体験的な学習を通して正しい理解と習得をすることを目標とする。									
授業内容									
臨床心理学の歴史的な発展と個々の文化の中での変遷、方法論に関する学術的理解を深める。また個人対個人の心理療法から、家族療法のような集団の関係性の中での療法などについても考察、理解する。医療現場における、心理学的な考え方の重要性について理解することのみならず、実際にアセスメント面談を実践するなど経験的な理解をも促し、また事例検討を通して他の医療従事者やコミュニティとの連携の重要性についても理解できる。									
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）									
積極的に授業に参加することが望まれる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。									
教材									
書名：徹底図解 臨床心理学 編著者名：青木紀久代 出版社・出版年：新星出版社 2010 年 價格：1,500 円									
授業計画および学習課題（予習・復習）									
回	内 容	学習課題（予習・復習）							
1	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心発展してきた、行動療法、来談者中心療法、という心理療法の理論と実践における方法論についての理解を育む。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、臨床心理学の歴史と様々な方法論に関して理解する（テキスト 10、11、16、17、58、59、202 ページ）。							
2	心理療法の代表的な 3 つのアプローチについて理解を深める。フロイトの精神分析的アプローチについて学修する。	心理療法の 3 つのアプローチについて理解する。 テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの精神分析的アプローチについて理解する（テキスト 64—67 ページ）。							
3	ユング、アードラーの療法理論と、技術について理解する。信頼についてのワークショップを行う：ブラインドウォーク	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論（テキスト、78、79 ページ）と、夢分析について理解する（テキスト 80—82 ページ）。							
4	ヒューマニスティックアプローチについての理解を深める。心理療法におけるラポールと転移について理解する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、来談者中心療法について理解する（テキスト 70—73 ページ）ラポール、転移、逆転移について理解する（62、63 ページ）。							
5	マズローの自己実現階層モデルを理解する。家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、家族療法についての理解を深める（テキスト 101—113 ページ）。							
6	行動療法、認知療法の理論について学修する。心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、アイゼンクらの行動療法、エリス、ペックの認知療法について理解する（テキスト 74、75 ページ）心理アセスメントについて理解する（テキスト 38—56 ページ）。							
7	認知行動療法の理論と技法（とくにエリスの論理情動療法）をロールプレイを通じて習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、認知行動療法の A B C D E 理論を理解する（テキスト 74 ページ）。自身の不安、敵意に対してこの技法を試してみる。							
8	確認テスト、課題提出	テキストと講義ハンドアウトをもとに、学修したことをまとめ、夢分析の課題を仕上げる。							
評価方法 および評価基準									
筆記テスト 30%、授業への取り組み 65%、夢分析レポート 5%									
S (100~90 点) : 臨床心理学の理論と実践に関しての深い理解に達している。									
A (89~80 点) : 臨床心理学の理論と実践に関しての相応な理解に達している。									
B (79~70 点) : 臨床心理学の理論と実践に関してのある程度の理解に達しているが、不十分な点がある。									
C (69~60 点) : 臨床心理学の理論と実践に関しての一応の理解に達している。									
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。									

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の能力が必要です。	
授業コード	BG0701				
授業科目名	カウンセリング				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		
担当教員	西牟田祐美子				

講義目的		
カウンセリングの歴史他基本的な知識を学修する。カウンセリングを学ぶことは対人関係が重要である職種（看護、心理、教育、保育等）で働きたい人、または通常の家庭生活を営む上でも有効である。カウンセリングは人の関わりのみならず、自分との関わり、社会との関わりを考える上でも大切なことを提供してくれる。本講義ではカウンセリングの諸理論、技法、特に傾聴について学修する。		
授業内容		
カウンセリングとは何か？という問い合わせから、様々な心理的アプローチ（1対1の傾聴、エンカウンターグループのような集団的療法、行動論的療法、折衷的なアプローチ等）の理論と技法、また医療看護現場のみならず起こりうる社会的問題行動（いじめ、虐待、薬物乱用等）の理解とそれに対するカウンセリングも学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや、確認テスト、傾聴課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		
教材		
「暮らしの中のカウンセリング入門」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部心理学科 北大路書房		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	カウンセリングとは? カウンセリングの基本的スタイル	テキストや講義時のプリントをもとに、カウンセリングとは何か、またどのように行われるか理解する（テキスト 12 ページから 29 ページ）、カウンセリングの一つのスタイルとしての精神分析、グループカウンセリングについても理解する（33 ページから 49 ページ）。
2	対人関係を見直すカウンセリング 家族療法	テキストや講義時のプリントをもとに、対人関係療法、家族療法の技法等を理解する（テキスト 53 ページから 72 ページ）。
3	トラウマを癒すカウンセリング 子供を元気にするプレイセラピー	テキストや講義時のプリントをもとに、トラウマカウンセリング、プレイセラピー（テキスト 57 ページから 71 ページ）を理解する。
4	ちょっとした落ち込みからうつ病に対するカウンセリング 子供の不登校	テキストや講義時のプリントをもとに、落ち込み、抑うつ時のカウンセリングについて（テキスト 97 ページから 103 ページ）理解する。
5	発達障害 摂食障害	テキストや講義時のプリントをもとに、発達障害摂食障害（テキスト 116 ページから 137 ページ）について理解する。
6	大きな不安を感じた時 大切な誰かを亡くした時	テキストや講義時のプリントをもとに、大きな不安を感じた時の認知行動療法、大切な誰かを亡くした時の自助グループ（テキスト 116 ページから 150 ページ）を理解する。
7	傾聴の基本態度 傾聴プロジェクト 1 の計画	講義時のプリントをもとに、傾聴について理解する。 傾聴プロジェクト 1：友人に 10 分間インタビューし、テープ起こしをしてまとめる。
8	傾聴したインタビューのテープ起こしとまとめ	テープ起こしをして、インタビューの仕方等についてペア、及び全体で意見交換する。
9	笑いとユーモア	テキストや講義時のプリントをもとに、ユーモア、ナチュラルキラー細胞（テキスト 163 ページから 174 ページ）について理解する。
10	欲求との付き合い方 我慢力について	テキストや講義時のプリントをもとに、欲求コントロール、我慢する（テキスト 176 ページから 197 ページ）について理解する。
11	私と公のバランス、ジェンダーについて	テキストや講義時のプリントをもとに、ジェンダー（テキスト 200 ページから 209 ページ）について理解する
12	カウンセラーとしての訓練	テキストや講義時のプリントをもとにカウンセラー（テキスト 213 ページから 235 ページ）について理解する

13	傾聴を妨げる心の動き 傾聴プロジェクト2の計画	講義時のプリントをもとに、傾聴を妨げる心の動きについて理解する。 傾聴プロジェクト2：家人、または親戚の人に20分間インタビューし、テープ起こしをしてまとめる。
14	傾聴したインタビューのテープ起こしとまとめ	テープ起こしをして、インタビューの仕方等についてペア、及び全体で意見交換する。
15	まとめと復習テスト	これまで学修したことをまとめる。
評価方法 および評価基準		
<p>筆記テスト 30%、授業への取り組み 60% 課題 10%</p> <p>S (100~90点) : カウンセリングの理論と実践に関しての深い理解に達している。</p> <p>A (89~80点) : カウンセリングの理論と実践に関して相応な理解に達している。</p> <p>B (79~70点) : カウンセリングの理論と実践に関してある程度の理解に達しているが、不十分な点がある。</p> <p>C (69~60点) : カウンセリングの理論と実践に関して一応の理解に達している。</p> <p>D (60点未満) : Cのレベルに達していない。</p>		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	豊かな人間性		
授業コード	BG0801				広い視野	○	
授業科目名	チームケア論				知識・技術		
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	石井 / 加藤容 / 牧ヶ野 / 夏目 / 渡辺				探究心	○	

講義目的		
在宅療養上の保健医療との連携・協働の必要性を理解できる。 1) 保健医療との連携・協働に必要な知識を習得する。 2) 保健医療サービス関係者との多連携との協働について、実践者の実際の援助方法を習得する。		
授業内容		
職種ごとの最近の動向、地域にある社会資源、指導方法などについて講義を行う。 在宅ケアチーム員である、訪問看護総括管理者は地域における在宅ケアチームの社会資源の意義、実際の在宅療養する方への訪問看護ステーション管理者としての事例（ALS 患者など）の提供、さらに生活の QO のための理学療法士の生活復帰の計画的な支援を専門職種間の情報共有の方法と支援の内容の確認方法を教授する。課題は、地域における居宅サービスの種類、利用状況などを居住する自治体の情報収集し、関心のある課題を取り上げ、課題に対して地域の中ではどのようなサービスや人々の支援が行われているのかの実際を調べるなど学習を深めていく。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
この科目的修得にあたり、およそ 16 時間の学外学習時間（予習・復習・課題）が必要である。授業への積極的に参加することが求められる。学生は、授業内容の理解度を示すため、毎回授業終了時教員へのコメントを提出する。教員はコメントを元に授業内容の検討と修正を行いながら学生の理解を深める。また、課題は期日・時間厳守とし、欠席および提出物の遅れは減点対象となる。やむを得ない事情がある場合は教員への事前連絡を行うこと。コメントやレポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
必要に応じて資料を配布する。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅療養での多職種での連携の意義（石井）	多職種間の連携の基本的概念、理念、定義を理解できる。
2	在宅ケアに必要な専門職種の必要性と在宅ケアサービスの意義（加藤）	在宅ケアに必要な専門職種間の現状とその必要性及び在宅における連携による在宅ケアサービスの意義を理解できるよう復習する。
3	訪問看護サービスの提供方法や実践例から多職種連携の重要性と看護師の役割（牧ヶ野）	訪問看護総括管理者は地域における在宅ケアチームの社会資源の意義の理解を深めることができる。4 年次前期で体験した在宅看護学実習での学びを予習して授業に臨む。
4	療養者のうち、嚥下障害や摂食障害患者など難病患者の訪問事例から看護師としての連携（牧ヶ野）	嚥下障害や摂食障害患者など難病患者の事例については、2 年次の在宅看護援助論 II で行われた事例を通して患者との関わる職種間の連携について、予習で取りまとめておく。実践者である管理者から看護師の果たす役割をとその介護介入を理解できるための復習を行いその課題を見つける。
5	居宅における医療チームのリハビリテーションの必要性と理学療法の意義（夏目）	居宅におけるリハビリテーションの意義の理解を基に症例への応用を理解することができる。そのため、復習し、授業に臨む。
6	理学療法士の役割および実践からの役割（夏目）	実際の事例から、3, 4 の授業の復習と実践への適応について理解できる。理学療法士の居宅サービスにおける役割の確認と症例への応用を理解する。
7	介護度や生活環境に応じて、介護計画（ケアプラン）を作成する上での介護支援専門員（ケアマネジャー）連携の必要性（渡辺）	チーム医療における多職種連携モデルの介護保険サービスの実際の適応を理解し、応用できるための復習を行う。
8	介護支援専門員（ケアマネジャー）が行うサービス提供に関する連絡や調整方法（渡辺）	この科目で学んできた内容を総合的に活用する方法が理解できる。
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。 S (100~90 点) : 社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。 A (89~80 点) : チームケアまたは、多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。 B (79~70 点) : 多職種の連携のあり方、退院調整について説明できる。 C (69~60 点) : サービス提供に関し連絡することがわかる。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成するための デジタルマネジメントを達成するための 必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BG0901				広い視野	○	
授業科目名	医療リスクマネジメント論				知識・技術		
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	藤原奈佳子/石井英子/廣瀬小巻				探究心	○	

講義目的						
1. 看護師として病院などにおける医療安全対策及び医療安全に関する法律や理論を理解し、組織的に医療安全対策に取り組む仕組みを学ぶ。						
2. 事故発生時のメカニズムと発生防止の考え方や医療現場及び地域におけるリスクマネジメントの基本的な考え方 医療安全に関する基礎知識を学び、自分自身の力で医療事故を回避できる最低限度の方策を理解する。						
これらの学修をとおして、医療の提供者と医療を受ける者を対象とした医療安全管理の考え方を学び理解できることを目的とする。						
授業内容						
わが国の医療安全対策および医療安全に関する知識や技術について、講義と討議、演習、グループにおける情報共有などから学ぶ。基礎看護学実習Ⅱなど臨地実習で体験した事例を通して、事故発生のメカニズムを振り返る場面設定を行う。特に、医療安全対策に必要な事例提供者として感染管理認定看護師から医療現場におけるリスクマネジメントの具体的な情報提供を得て、看護職者として安全に働くことのイメージができる場面設定し共有する。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
実習先での医療安全対策発生防止の考え方を個々にレポート化し、グループ間での情報交換によって事故分析と危険予知を整理し、自己のリスクマネジメントへの学習意欲を高めるための時間外学修を実施する。この科目的単位取得を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。グループ学習やレポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。						
教材						
1. 教科書：ナーシング・グラフィカ、看護統合と実践②医療安全：メデカ出版（最新版） 2. 必要に応じ提示する						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容	学習課題（予習・復習）				
1	医療安全と看護の責務（藤原） 1. 看護師及び看護業務の法的な規定 2. 看護職能団体の取り組み	予習：看護の定義、業務独占、名称独占、法的責任の種類について調べる				
2	医療安全施策と医療の質の評価（藤原） 1. 医療安全に関する国を取り組み 2. 医療事故等の定義・分類 3. 医療の質の評価	予習：今、なぜ医療安全が注目されるか 復習：基礎看護学実習Ⅱや文献を通して、医療安全について自分の考えをレポートにする。「看護師に必要な基本的態度について」提出				
3	事故発生のメカニズムと防止対策（藤原） 1. 事故発生のメカニズム 2. 事故分析 3. 事故対策	予習：人間の特性について（事故発生などについて）レポートする 復習：ヒューマンエラーとは何かを調べる				
4	医療機関における感染管理認定看護師の役割（廣瀬） 1. 基本的な感染予防策：①標準予防策 ②個人防護具の説明 ③感染経路別予防策 ④職業感染対策：結核対策 ⑤CASE テスト	予習・復習：病院実習をとおして感染管理の組織的取り組みがどのようにされていたか振り返る。				
5	医療機関における感染管理認定看護師の役割（廣瀬） 2. 職業感染対策：①針刺し・切創・粘膜曝露対策 ②流行性ウイルス感染症対策 3. 医療器具感染防止とサーベイランス：①血管内留置カテーテル由来血流感染 ②尿道カテーテル関連尿路感染 ③人工呼吸器関連肺炎 ④手術部位感染 ⑤サーベイランス症例検討と報告	復習：感染管理認定看護師の役割、医療関連感染サーベイランスの実践、施設の感染・予防・管理システムを位置づけるための課題を整理する 7~8 コマに向けて 予習：教科書や資料（文献、インターネット、新聞など）から医療事故・判例の事例を2つ調べる				
6	在宅看護における安全対策（石井） 1. 在宅・地域における安全対策 2. 在宅看護におけるリスク管理 3. 訪問看護ステーション・行政機関などとの連携	予習：在宅における医療事故が起こる背景について調べる 復習：在宅と病院などとの起こりうる医療事故を整理する				

7	事故分析（演習、グループ討議）（藤原、石井） 1. 事故分析（RCA 分析など）と危険予知訓練（KYT） 2. 1にそって各グループでテーマ設定し、分析考察する	予習：1～6までの授業の整理をする 予習：事故分析（RCA 分析など）、危険予知訓練（KYT）の必要性を認識する 復習：講義や演習、グループ討議で学修した各項目を整理しレポートにする
8	グループ発表とまとめ（藤原、石井） 7のテーマ設定した項目からグループ発表を実施 事故分析と危険予知、危険予知訓練（KYT）を確認できる	復習：医療の提供者と医療を受ける者を対象とした医療安全管理の考え方を学び理解することができる
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、レポート 50%		
S (100～90 点)：医療安全対策及び医療安全に関する法律や理論を十分に理解した上で、事故発生時のメカニズムと発生防止の考え方を修得し、危険予知訓練を具体的に応用できる		
A (89～80 点)：医療安全対策及び医療安全に関する法律や理論、事故発生時のメカニズムと発生防止の考え方をほぼ理解し、危険予知訓練に応用できる		
B (79～70 点)：医療安全対策及び医療安全に関する法律や理論、事故発生時のメカニズムと発生防止の考え方をほぼ理解し、危険予知訓練を考えることができる		
C (69～60 点)：医療安全対策及び医療安全に関する法律や理論、事故発生時のメカニズムと発生防止の考え方をほぼ理解し、危険予知訓練の必要性が認識ができる		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成するための必要能力 デジタルマネジメントを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BG1001				広い視野	○	
授業科目名	人権擁護と成年後見制度				知識・技術		
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	塚本銳裕				探究心	○	

講義目的											
障害や疾病を有することで自分の意思や日常生活の判断能力が不十分なために、自らの生活に不利益を被らないよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業等を活用し、権利擁護に結び付けることを学ぶ。											
高齢者や障害者の虐待への支援を通じ、狭義の権利擁護から広義の権利擁護に視野を広げるとともに、障害者等の犯罪から司法福祉領域まで幅を広げた権利擁護を学ぶ。											
授業内容											
知的障害や認知症等により日常生活上の支援が必要な者に対する社会的排除や虐待など権利侵害の現状を認識し、権利擁護への対応の必要性について理解することを目標とする。 成年後見制度、日常生活自立支援制度、虐待防止法など関連法を基本に、財産管理や身上監護等権利侵害への対応を中心とした狭義の権利擁護から、エンパワメント、自己決定の重要性まで含めた広義の権利擁護の視点を身につける。 授業の形態としては、映像を活用した講義を行うとともに、新聞報道等にて取り上げられる事例を基に意見交換や対応方法について、講師とやり取りしながら理解力を高める。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
3回以上の欠席は評価の対象としない、授業中の設定課題に関する感想や意見、レポートも評価の対象とする。テーマごとの確認テストや課題レポート、感想や質問等のフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
予習および復習として、新聞やニュースを通して、社会福祉や社会保障の動向に関心をもつようにしておくこと、特に気になった用語やキーワードについて、参考文献やインターネットを通じ、掘り下げてみること。疑問点は授業の開始前ないしは終了時に講師に尋ねること。(45 時間程度)											
教材											
参考文献：『新社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規 2,376円（税込）											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	現代における人権とは何か（世界人権宣言、日本国憲法、権利擁護（アドボカシー）等）	人権に関する自分自身の認識を整理してくる									
2	権利擁護活動の関連法規と行政・組織と専門職	法に基づく人権、権利擁護について読み込んでくる									
3	成年後見制度の目的、概要	成年後見制度の概要を事前に学んでくる									
4	成年後見制度の手続き	手続きの流れを理解してくる									
5	成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業	どのような事例があるか調べてくる									
6	権利擁護活動の実際（認知症、消費者被害、近隣トラブルへの対応）	1つの事例を基に、地域社会でのトラブルの原因や解決策を自分なりに考えをまとめてくる									
7	権利擁護活動の実際（虐待への対応、司法福祉）	同上									
8	総括（広義の権利擁護としての自己決定を考える）	広義の権利擁護（本人の望む生活）とはどういうものか自分の考えをまとめてくる									
評価方法 および評価基準											
期末試験 70%、授業の参加及び毎回の課題提出 30 %											
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)											
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	専門基礎科目-健康と生活支援			成するための 必要な能力 デプロマポリシーを達成するための 必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BG1101				広い視野	○	
授業科目名	医療経営論				知識・技術		
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	大村いづみ				探究心	○	

講義目的											
本科目の達成目標は、1) 看護経営に必要な知識を習得することと、2) 医療政策と医療福祉制度の仕組み、組織と人間関係について理解することである。											
保健医療福祉をめぐる社会環境は非常なスピードで変化している。グローバル化に伴う経営面への変化は、とくに看護サービス部門は医療界へも影響を与えている。訪問看護管理運営の視点が医療人に求められる時代となった。この科目では、訪問看護ステーションを一早く立ち上げ、実務家の経験からも学び、創造的で個性的な人材に成長してくれることを期待する。											
授業内容											
医療政策と医療福祉制度のしくみ、組織と人間関係、看護経営に必要な知識について講義・演習を行う。看護管理者の医療経営、看護職者の起業・会社経営（訪問看護ステーション等）の実際について学習し、看護事業運営計画を試案する。講義を通して、社会経済における看護実践の意義について考える。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。											
教材											
教科書：特になし											
参考書：1) 看護管理者のための医療経営学第2版、尾形裕也著、日本看護協会出版会、2015 2) 最新訪問看護研修テキストステップ2 9 訪問看護経営管理、佐藤美穂子編集、日本看護協会出版会、2005 3) 新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル、日本訪問看護振興財団監修、日本看護協会出版会、2007 4) 国民衛生の動向・厚生の指標 増刊63(9)、厚生労働統計協会、2016											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	日本の経済動向と医療福祉政策	日本の財政状況と社会保障が占める割合について予習する。国民一人の一生にかかる社会保障費がいくらか考える。									
2	日本の医療福祉制度と海外比較	医療保険制度、介護保険制度について復習しておく。看護職者として何ができるか考える。									
3	医療経営の基本と戦略的マネジメント（組織と人間関係）	医療福祉業界は「利益」をあげてはいけないのか考えておく。身近な組織について注目し、リーダーシップや人間関係について考える。									
4	医療経営の実際（会計の基本）	財務管理としての会計の基本について知る。									
5	医療機関の経営（看護管理、専門職を活用した対人サービス）	医療機関の経営に対し、看護職者の与える影響について考える。看護管理者の役割について考える。									
6	訪問看護ステーションの経営①:訪問看護ステーションの設置	訪問看護事業を起業する社会的意義と理念について考える。									
7	訪問看護ステーションの経営②:訪問看護ステーションの経営運営	訪問看護ステーションにおける経営資源、経営計画について知る。【課題】新しい看護事業運営計画を試案する。									
8	医療経営からの看護の展望	これからの看護はどうあるべきか、将来の展望について考える。									
評価方法 および評価基準											
期末試験 50%、レポート 30%、出席状況・講義中の態度 20%											
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)											
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)											
B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)											
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)											
D (60点未満) : Cのレベルに達していない											

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	○	
授業コード	BH0101				広い視野		
授業科目名	看護学概論 I				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	篠崎恵美子				探究心	○	

講義目的		
看護学の導入として、看護の科学化に貢献する諸理論を学び、看護の過去・現在・未来について探求する。それらの学修を通して、看護実践者としての基礎を培うことを目指す。具体的には以下のことを目指す。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義・概念を理解する 2. 看護の歴史的変遷を知る 3. おもな看護理論から基本的な看護の役割と機能を理解する 4. 看護実践を支える法律、制度を理解する 5. 看護実践に関わる倫理綱領について理解する 6. 看護の対象とは何かを考え、対象にふさわしい看護を実践するための論理的思考を理解する 		
授業内容		
看護の対象・役割と機能を学修するために看護の概念・定義、看護の歴史的変遷や主な看護理論を講義する。また、看護に関わる法制度や倫理的側面について考察するために、看護と倫理、看護と法律について事例を提示しながら講義する。さらに看護専門職として対象と向きあうための基本的態度を考察するために、クリティカルシンキングと看護過程を講義する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護専門領域の基礎となる科目であるため、主体的な学修を求める。したがって、毎回の講義時には授業時間のほかにおよそ30時間の指定する学習課題（予習と復習）が必要である。課題提出は時間厳守とする。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論：志自岐康子他編著、メディカ出版、2015、3,024円 ・新版看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理、日本看護協会監修、日本看護協会出版会、2006、840円 ・看護覚え書 本当の看護とそうでない看護、フローレンス・ナイチンゲール（著）、小玉香津子他訳 日本看護協会出版会、2004、1,470円 ・看護の基本となるもの、ヴァージニア・ヘンダーソン（著）、湯槻ます他訳、日本看護協会出版会、2016、1296円 		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護の概念・定義	看護とは何かを看護学を学び始めた今の自分の考えを言語化する 課題1（現時点で考える看護について）
2	看護の歴史と成立（諸外国）	テキストp36-41を熟読する
3	看護の歴史と成立（日本）	テキストp36-56を熟読する
4	看護理論とは	テキストp104-126を熟読する
5	看護理論（ナイチンゲール）	看護覚え書を読み、本当の看護とは何かを考える
6・7	看護と倫理	新版看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理を読み、倫理とは何かを考える
8	看護理論（オレム）	テキストp112-114, 121-122を読み、セルフケアについて理解する
9	看護の対象とケアリング（ワトソン）	テキストp58-78, 109を読み、ケアリングについて理解する
10	看護と健康	テキストp80-88を読み、健康について自分の考えをまとめる
11	看護理論（ヘンダーソン）	テキストp110-112を読み、基本的ニードとは何かを理解する
12	看護と法律	テキストp180-219を読み、看護を取り巻く法を把握する
13	クリティカルシンキングと看護過程	テキストp172-177を読み、看護過程について理解する
14	看護診断・看護成果・看護介入	看護診断・成果・介入の関連を理解する
15	看護の役割と機能とは	テキストp150-172を読み、自分が考える看護について言語化する 課題2（講義を終えてあなたの考える看護について）

評価方法 および評価基準

期末試験 50%、課題テスト 30%、課題レポート 20%

S (100~90 点) : 看護の科学化に貢献する諸理論を十分に理解し、看護の過去・現在・未来について十分に探求できる。

また看護実践者としての基礎を培うことができる

A (89~80 点) : 看護の科学化に貢献する諸理論を概ねに理解し、看護の過去・現在・未来について探求できる。

また看護実践者としての基礎を培うことができる

B (79~70 点) : 看護の諸理論を理解し、看護の過去・現在・未来について知り、考えることができる。

また看護実践者としての基礎を培うことができる

C (69~60 点) : 看護の諸理論を知り、看護の過去・現在・未来について知ることができます。

また看護実践者としての基礎を培う努力ができる

D (60 点未満) : 看護の科学化に貢献する諸理論を十分に理解し、看護の過去・現在・未来について十分に探求できる。

また看護実践者としての基礎を培うことができる

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			成るためには 豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 ディプロマポリシーを達成するためには 必要な能力	
授業コード	BH0201				
授業科目名	看護学概論Ⅱ				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		
担当教員	倉田 / 内藤 / 三徳 / 西川 / 眞井 / 柴山 / 郷良 / 山本				

講義目的		
1. 小児看護学、母性看護学、精神看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、国際看護学の目的や対象や看護の概要（特徴）がわかる 2. 各対象における看護の倫理的課題について知ることができる。 3. 自分の看護のキャリアをイメージしながら、この科目を主体的に学ぶことができる。		
授業内容		
この科目は、その後に続く各領域の看護学で学ぶ内容の導入としての科目である。小児看護学、母性看護学、精神看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、国際看護学の目的や対象および内容の大筋を理解し、基盤看護学との位置づけや統合された看護のイメージや看護職となるうえでの倫理的な課題も含めて学び、今後の学修の動機づけができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. 8回の授業すべてで、レポート等の課題を提示する。1回の授業は、12点満点で評価する。1回欠席するだけで、12点を失う可能性がある。 2. 3回欠席で失格となる。 <u>二の科目を失格した場合、「基礎看護学実習Ⅰ」は履修できない（学生便覧・履修の手引き p. 30）。</u> 結果的に4年で卒業ができなくなる可能性が大きい。その自覚をもって、授業に臨むこと。(20分以上の遅刻は欠席となる) 3. 看護専門領域の基礎となる科目であるため、主体的な学修を求める。 なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。各担当教員の課題に対するフィードバックは、各講義時間にその方法を提示する。		
教材		
授業中に資料を配布する 改訂版「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程 11 事例」、内藤直子他、ふくろう出版・2014 年：3000+税 円、ISBN:9784861865985（第2回目授業で使用）		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	現代社会・医療における子どもの状況と小児看護の役割 (倉田) 5/22	現代の子どもの医療をめぐって話題となっていることを新聞やインターネット等で検索し、自己の意見を持って授業に臨むこと。授業後は講義資料を振り返り2年次の概論に備えること。授業中の課題レポートで評価します。
2	母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題 (内藤) (日程は別途提示)	広い意味で母性看護学を考え、今の社会的課題や看護理論や倫理などに关心を持って参加しましょう。講義後のレポートによって評価します。
3	成人看護学の役割と今日的課題 (柴山) 6/5	新聞の医療に関する記事を読むように努めてください。講義後のレポートによって評価します。
4	高齢者看護学の学び (眞井) 6/12	わが国の高齢者の実態について新聞や各種ニュース等の最新の情報に目を通して参加しましょう。授業中の課題レポートで評価します。
5	在宅看護学の学び (山本) 6/19	訪問看護ステーションの特徴とそこで働く訪問看護師の役割について調べておいてください。授業中のレポートで評価します。
6	地域看護学・公衆衛生看護学の学び：地域の中で行う公衆衛生看護活動（保健師活動）の目的、方法、意義とは (三徳) 6/26	地域における保健師の活動事例を図書館で入手し、地域とは、保健師とはについて考えてください。保健師活動の展開方法と役割・意義について学びます。レポートによって評価します。
7	精神保健看護の役割と今日的課題 (郷良) (日程は別途提示)	新聞やインターネットなどで精神保健に関連する記事に目を通して、自分なりの意見を持っておいてください。授業後も精神保健の課題について書籍や新聞、インターネットでの情報から自分の考えを持ち、2年生の概論に臨むこと。授業中のレポートで評価します。
8	国際看護学への招待：国際看護とは・世界のヘルスのゴール・世界のヘルスの指標 (西川) 7/10	2015年9月の国連総会で正式に採択された、持続可能な開発目標（SDGs）のヘルスに関連する事項について自分で調べてきてください。授業中のクイズによって評価します。

評価方法 および評価基準

(12点×8回=96点、8回すべて出席した場合、4点の出席点を加算 合計100点満点)

授業の評価は授業中の小テストやレポート、あるいは授業終了後のレポート提出によって行う。期末試験は行わない。

S(100~90点)：この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を授業の内容をもとに、十分に説明でき、各対象における倫理的な課題を説明ができる。授業に積極的に参加し、自己の課題を明確にすることができます。

A(89~80点)：この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を授業の内容をもとに、概ね説明できる。各対象における倫理的な課題を概ね理解できる。授業に積極的に参加し、自己の課題を明確にすることができます。

B(79~70点)：この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を、不十分ながら説明できる。各対象における倫理的な課題を学ぶことができる。授業に参加し、自己の課題を学ぶことができる。

C(69~60点)：この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を、学ぶことができる。各対象における倫理的な課題を知る。授業に参加し、自己の課題を不十分ながら知ることができます。

D(60点未満)：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			成するための デジタルマトリクスを達 成するための 知識・技術 判断力 探究心	豊かな人間性	○	
授業コード	BH0301				広い視野		
授業科目名	看護学概論Ⅲ				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	篠崎恵美子				探究心	○	

講義目的		
1. これまでの看護学の学び・経験した看護実践を振り返り、看護とは何かを探求する 2. 自らの看護観を表現する 3. 他者の看護観を共有する 4. 看護専門職者として生涯学び続けることの必要性を考える		
授業内容		
これまで学んだ看護の定義・概念や看護学実習で体験した看護実践を振り返り、あらためて「看護とは何か」を探求する。グループワークを通して、自らの言葉で自己の看護観を明らかにし、ともに学んできた学生や指導を受けてきた教員である他者へ伝えることや、他者が語る看護観を共有することで、看護専門職者として生涯学び続けるための基盤を強化する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護学概論Ⅲでは、既に学修した全ての看護学に関する知識と看護学実習で体験した看護実践を結び付けて振り返ることが必要となる。自分の体験した看護を振り返り、それを自分の言葉で表現し、他者へ伝えることが求められる。したがって常に主体的に参加し、問題意識を明確にして授業に出席することを求める。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
その都度、提示する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護とは 看護学概論Ⅲの進め方について	看護学概論Ⅰの資料等を再読し、看護の定義を確認する
2	グループワーク①	自らが体験した看護を振り返り課題①を実施する
3	グループワーク②	グループワークを終えて、再度自らの看護を振り返り、課題②を実施する
4	グループワーク③	
5	グループワーク④	
6	中間報告	グループで中間発表のための準備をする
7	グループワーク⑤	グループで最終の全体報告会の準備をする
8	全体発表	自己の看護観をまとめる
評価方法 および評価基準		
グループワークへの参加 50%、課題 50%		
S (100~90点) : これまで学んだ看護の定義・概念や看護学実習で体験した看護実践を振り返り、あらためて「看護とは何か」を探求し、他者に伝えることができる		
A (89~80点) : これまで学んだ看護の定義・概念や看護学実習で体験した看護実践を振り返り、あらためて「看護とは何か」を探求し、表現することができる		
B (79~70点) : これまで学んだ看護の定義・概念や看護学実習で体験した看護実践を振り返り、あらためて「看護とは何か」を探求することができる		
C (69~60点) : これまで学んだ看護の定義・概念や看護学実習で体験した看護実践を振り返り、あらためて「看護とは何か」を探求するように努力している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			感 る た め に 必 要 能 力	豊かな人間性	○	
授業コード	BH0401				広い視野		
授業科目名	生活援助方法論				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	篠崎恵美子/服部美穂				探究心	○	

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の日常生活行動の援助に必要なケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 2. 有害なものに対する防御を支援するケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 3. 身体機能を支援するケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 4. ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアが理解できる。 5. 心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアが理解できる。 		
授業内容		
<p>生活援助方法論では、看護学概論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、並行して学習する看護コミュニケーション論の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤となる生活行動の援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。具体的には、「感染予防の技術」、「安楽確保の技術」、「環境を整える技術」、「活動・休息の援助技術」、「食生活と栄養摂取の援助技術」、「排泄の援助技術」、「清潔・衣生活の援助技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を学修する。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目である。1年次・前期に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA）および専門科目（看護学概論Ⅰ・Ⅱ）などの知識と技術が基盤となる。また、並行して行われる生活援助方法演習では、この科目で学習した内容の演習を行うため、30時間程度の予習・復習が必須となる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。各授業の終わりには、確認テストを実施する。課題レポートや確認テストのフィードバックはその都度講義時間内に行う。</p>		
教材		
<ul style="list-style-type: none"> 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ：深井喜代子編集、メヂカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3293-1 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：深井喜代子編集、メヂカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3294-8 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2016、5,940円、ISBN978-4-260-01928-6 		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス 看護技術の位置づけと概要	予習：シラバス、テキスト第1部：p2～12 シラバス、テキストを読む
2	感染予防の技術	予習：テキスト第1部：p240～293
3	感染と感染予防策の基礎知識 感染予防における看護師の責務と役割・感染源への対策 感染経路への対策	技術テキスト：p700～762、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
4	安楽確保の技術 看護における安楽の意義・安楽な体位の保持 ボディメカニクスの基本・体位変換	予習：テキスト第1部：p326～342、第2部：p118～130 技術テキスト：p150～169、195～210、216～225、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
5	環境を整える技術 環境の諸要素とその調整・病室と病床の環境調整	予習：テキスト第2部：p2～21 技術テキスト：p2～18、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
6	活動の援助技術 活動の意義・アセスメント 運動機能の低下した人の援助	予習：テキスト第2部：p108～142 技術テキスト：p170～210、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）

7 8 9 10	清潔・衣生活の援助技術 清潔の意義・更衣・整容・入浴・部分浴・全身清拭	予習：テキスト第2部：p150～191 技術テキスト：p234～332、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
11	休息の援助技術 休息の意義・睡眠の援助	予習：テキスト第2部：p142～148 技術テキスト：p211～214、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：授業資料を読む
12 13	食生活と栄養摂取の援助技術 食事・栄養摂取の意義としくみ 食事・栄養摂取のアセスメント 食事の援助	予習：テキスト第2部：p24～37 技術テキスト：p20～67、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
14 15	排泄の援助技術 排泄の意義としくみ・排泄のアセスメント 排泄の援助	予習：テキスト第2部：p60～106 技術テキスト：p88～113、課題レポート テキストを読み課題レポートを行う 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
評価方法 および評価基準		
期末試験 60%、課題レポート（予習）15%、確認テスト 25%		
S (100～90点)：日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を十分に説明することができる。		
A (89～80点)：日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を概ね説明することができる。		
B (79～70点)：日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を不十分な点もあるが説明することができる。		
C (69～60点)：日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を最低限説明することができる。		
D (60点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			感覚するためには、 豊かな人間性 デイ・プロマ・ボリシーを達成するためには、 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BH0501				
授業科目名	生活援助方法演習				
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		
担当教員	服部・篠崎・伊藤・山口・大林				

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の日常生活行動の援助に必要なケアの原理・原則、留意点に則って実践できる。 2. 有害なものに対する防御を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 3. 身体機能を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 4. ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 5. 心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 		
授業内容		
<p>生活援助方法演習では、看護学概論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、並行して学習する看護コミュニケーション論の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤となる生活行動の援助にかかる看護技術とのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「感染予防の技術」、「安楽確保の技術」、「環境を整える技術」、「活動・休息の援助技術」、「食生活と栄養摂取の援助技術」、「排泄の援助技術」、「清潔・衣生活の援助技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を学修する。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となり、基礎看護学実習Ⅱと直結する科目である。1年次・前期に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA）および専門科目（看護学概論Ⅰ・Ⅱ）などの知識と技術が基盤となる。事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニングとして、60時間程度の予習・復習が必須となる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。本科目は実技試験の合格者を評価対象とする。課題レポートやSP（模擬患者）セッションのフィードバックはその都度演習時間内に行う。</p>		
教材		
<ul style="list-style-type: none"> 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3293-1 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3294-8 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2016、5,940円、ISBN978-4-260-01928-6 		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1 2	ガイダンス 感染予防の技術 手指衛生・個人防護具の着脱・感染性廃棄物の取扱い	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
3 4	安楽確保の技術 安楽な体位の保持・体位変換 環境を整える技術 ベッドメーキング・環境調整	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
5 6	環境を整える技術 臥床患者のリネン交換・環境調整	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
7 8	活動・休息の援助技術 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 清潔・衣生活の援助技術 足浴 洗髪	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
9 10	清潔・衣生活の援助技術 足浴 洗髪	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り

11	清潔・衣生活の援助技術 足浴	清潔・衣生活の援助技術 洗髪	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
12	清潔・衣生活の援助技術 洗髪	清潔・衣生活の援助技術 足浴			
13			予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
14	清潔・衣生活の援助技術		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
15	全身清拭・寝衣交換				
16					
17	食生活と栄養摂取の援助技術		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
18	食事の援助・口腔ケア				
19					
20	排泄の援助技術		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
21	便尿器の援助・おむつ交換・陰部洗浄				
22					
23					
24	実技試験		予習：課題レポート（事前）、実技試験の事前練習 復習：実技試験の自己評価、課題レポート（試験後）		
25					
26					
27	実技試験フィードバック		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
28	事例への介入（グループワーク・援助技術の練習日）				
29			予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り		
30	SP セッション				
評価方法 および評価基準					
期末試験（実技試験）50%、演習への取り組み 25%、課題レポート（事前・演習後） 25%					
S (100~90 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な日常生活援助技術を対象に合わせて実施することができる。					
A (89~80 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な日常生活援助技術を概ね実施することができる。					
B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った日常生活援助技術を実施することができる。					
C (69~60 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った日常生活援助技術を最低限実施することができる。					
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。					

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	BH0601				
授業科目名	診療援助方法論				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		
担当教員	山口貴子/伊藤千晴				

講義目的

1. 有害なものに対する防御を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。
 2. 身体機能を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。
 3. 恒常性調節を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。
 4. ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。
 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度を説明できる。

授業内容

診療援助方法論では、看護学概論Ⅰ、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習、基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかる看護技術とそのエビデンスを学修する。

具体的には、「生命の兆候を観察する技術」、「感染予防の技術」、「検査に伴う看護技術」、「与薬の技術」、「呼吸・循環を整える技術」、「食生活と栄養摂取の技術」、「排泄の援助技術」、「創傷管理技術」の根柢となる知識と 看護介入の方法を学修する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

看護専門領域の基礎となる科目である。1年次に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB、生化学、微生物学）および専門科目（看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習）などの知識と技術が基盤となる。また、並行して行われる診療援助方法演習では、この科目で学習した内容の演習を行うため、30時間程度の予習、復習（診療援助方法演習の予習がこれに相当する）が必須となる。欠席・遅刻、早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、各授業の終わりには、確認テストを実施し、中間テストも実施する。確認テスト、中間テスト、提出物へのフィードバックはその都度授業時間内に行う。

教材

- ・新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術 I : 深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2017、3,348 円、ISBN978-4-8392-3321-1
 - ・新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術 II : 深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2017、3,348 円、ISBN978-4-8392-3222-8
 - ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500 円、ISBN978-4-260-01928-6

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス、診療援助とは	予習：シラバス
2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録	予習：テキストI：p100-123 技術テキスト：p610-625 読んでくること
3		予習：テキストI：p100-123 技術テキスト：p610-625、課題レポート① テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
4	感染予防の技術 ①滅菌と消毒 ②滅菌手袋の装着 ③無菌操作	予習：テキストI：p239-293 技術テキスト：p724-748、課題レポート② テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
5	検査に伴う看護技術 ①検査時の援助 ②検体採取 ③静脈血採血	予習：テキストII：p349-394 技術テキスト：p626-675、課題レポート③ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
6		

7	与薬の技術 ①与薬における法的根拠 ②与薬のための基礎知識、③与薬の方法 ④服薬管理 ⑤注射	予習：テキストⅡ：p277-347 技術テキスト：p436-564 課題レポート④ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
8	中間テスト（第8回までの内容の復習）・フィードバック	既習の内容の学習
9	呼吸を整える技術 ①呼吸のアセスメント ②肺理学療法 ③吸入療法 ④口・鼻腔内吸引	予習：テキストⅡ：p193-211 技術テキスト：p344-381、課題レポート⑤ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
10	食事生活と栄養摂取の技術 ①栄養状態のアセスメント ②経管栄養法 ③中心静脈栄養法	予習：テキストⅡ：p23-57 技術テキスト：p20-86、課題レポート⑥ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
11	排泄の援助技術 ①排泄の障害 ②自然な排泄を促す援助 ③浣腸・摘便 ④導尿	予習：テキストⅡ：p59-106 技術テキスト：p88-135、課題レポート⑦ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
12	創傷管理技術 ①創傷の治癒過程 ②創傷管理 ③褥瘡のケア ④包帯法	予習：テキストⅡ：p251-275 技術テキスト：p404-434、課題レポート⑧ テキストを読んで課題レポートを行う。
13	体温を整える技術 ①体温の恒常性、②温罨法、冷罨法	予習：テキストⅡ：p242-249 技術テキスト：p226-232、課題レポート⑨ テキストを読んで課題レポートを行う。 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
14		
15		
評価方法 および評価基準		
期末試験 70%、課題レポート（予習） 10%、 確認テスト 10%、 中間テスト 10% <p>S (100~90点) : 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を十分に説明することができる。</p> <p>A (89~80点) : 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を概ね説明することができる。</p> <p>B (79~70点) : 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を不十分な点もあるが説明することができる。</p> <p>C (69~60点) : 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を最低限説明することができる。</p> <p>D (60点未満) : Cのレベルに達していない</p>		

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BH0701				
授業科目名	診療援助方法演習				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		
担当教員	山口・伊藤・篠崎・服部・大林				

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 有害なものに対する防御を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 身体機能を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 恒常性調節を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。 		
授業内容		
<p>診療援助方法演習では、看護学概論Ⅰ、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習、基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「生命の兆候を観察する技術」、「感染予防の技術」、「検査に伴う看護技術」、「与薬の技術」、「呼吸・循環を整える技術」、「食生活と栄養摂取の技術」、「排泄の援助技術」、「創傷管理技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目である。1年次に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB、生化学、微生物学）および専門科目（看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習）などの知識と技術が基盤となる。事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニングとして、60時間程度の予習・復習が必須となる。欠席・遅刻、早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。実技試験の受験資格は、血圧測定テスト合格者とする。本科目は実技試験の合格者を評価対象とする。実技試験、提出物へのフィードバックはその都度授業内に行う。</p>		
教材		
<ul style="list-style-type: none"> 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3293-1 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2016、3,348円、ISBN978-4-8392-3294-8 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500円、ISBN978-4-260-01928-6 		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	
1	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン	
2		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
3	②一般状態の観察・記録	③血圧測定テスト
4	③血圧測定テスト	②一般状態の観察・記録
5	感染予防の技術 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作	
6		
7	検査に伴う看護技術 ①採血準備 ②静脈血採血	
8		
9		
10	与薬の技術 ①皮下・筋肉内注射	
11		
12	与薬の技術 ②点滴静脈内注射	
13		
14		
15	食事・栄養摂取を促す技術 経管栄養法	呼吸を楽にする技術 口鼻腔内吸引
		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り

16	呼吸を楽にする技術 口鼻腔内吸引	食事・栄養摂取を促す技術 経管栄養法	予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
17	排泄を促す技術 ①導尿		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）演習の振り返り
18			
19	排泄を促す技術 ②浣腸・摘便		予習：課題レポート（事前）技術の手順と留意点 復習：課題レポート（演習後）
20			
21	体温を調節する技術 ①温罨法 ②冷罨法 創傷管理技術 ①包帯法		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
22			
23	実技試験練習		実技試験の事前練習
24	実技試験		実技試験の事前練習
25			
26			
27			
28			
29	実技試験フィードバック まとめ		実技試験の自己評価
30			

評価方法 および評価基準

期末試験（実技試験） 60%、演習への取り組み 20%、 課題レポート（事前・演習後） 20%

S (100~90 点) : ケアの原理・原則を十分に理解し、留意点に則った安全・安楽な診療援助技術を確実に実施することができる。
また、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。

A (89~80 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な診療援助技術を概ね実施することができる。また、
看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。

B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った診療援助技術を実施することができる。ま
た、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施する努力ができる。

C (69~60 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った診療援助技術を最低限実施することができる。また、看護専門職
者としての基本的姿勢と態度で実施する努力ができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			デイブロマボリシー 定める養成する能力	豊かな人間性	○	
授業コード	BH0801				広い視野		
授業科目名	看護コミュニケーション論				知識・技術	○	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	篠崎恵美子				探究心	○	

講義目的		
<p>1. 看護の専門家としてなぜコミュニケーションが求められるのかを理解し、良好なコミュニケーションに必要な技法について学ぶ。</p> <p>2. 看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法を、ロールプレイ・模擬患者とのセッションを通じて理解する。</p> <p>これらの学修を通して、患者中心の看護に必要な解釈モデルを聞くことの重要性を理解し、看護師に求められる基本的な態度を培うことを目的とする。</p>		
授業内容		
<p>看護コミュニケーション論の学習は、【看護専門家としの対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法】から構成される。</p> <p>これらのコミュニケーション技法・面接技法や解釈モデルを聞くことの重要性を学修するために、講義だけではなく、学生間のロールプレイや模擬患者とのセッションを通して、看護師に求められる態度を培う。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目であり、基礎看護学実習、生活援助方法論、生活援助方法演習などの科目と直結する科目になる。また模擬患者とのセッションなどの演習も含まれている。積極的に受講することが条件となる。</p> <p>なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。模擬患者とのセッションについては、全体のフィードバックは講義時間内に行うが、個別へのフィードバックは時間外に設定する。</p>		
教材		
<p>教科書：看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング、篠崎恵美子・藤井徹也著、医学書院、2016、1,944円</p> <p>参考文献：その都度紹介する</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	コミュニケーションとは	序章・第1章を熟読し、看護コミュニケーションを学ぶ必要性を考える 【課題1】看護師を目指すものとしてあなた自身に必要なコミュニケーションについて考える
2	コミュニケーションの種類	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違いを説明できるようにする
3	コミュニケーションに影響するもの	第3章、第4章を読み、良好なコミュニケーション必要なことを考える
4	医療（看護）におけるコミュニケーション 良好なコミュニケーションに必要な技法	5章を読み、質問技法を説明できるようにする
5	良好なコミュニケーションに必要な技法 一質問技法、積極的傾聴と共感	積極的傾聴とは何か、また共感と同情の違いを説明できるようにする
6	ロールプレイ	今までに学んだ質問技法について復習し、ロールプレイの準備をする 【課題2】ロールプレイでうまくできた点と改善すべき点を考える
7	良好なコミュニケーションに必要な技法 一関係構築技法	第7章を読み、NURSEの技法について説明できるようにする
8	看護面接のプロセスの13STEP	看護面接の13STEPを把握する
9	看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション①	提示された事例について看護面接の方法を検討し、模擬患者とのセッションの準備をする
10	看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション②	提示された事例をもとに看護面接の方法を検討し、模擬患者とのセッションの準備をする 【課題3】模擬患者とのセッションでの振り返り
11	看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション③	

12	看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション④	提示された事例をもとに看護面接の方法を検討し、模擬患者とのセッションの準備をする 【課題4】良好な患者一看護師関係を構築するために必要なコミュニケーションについて考える
13	看護コミュニケーション技法 模擬患者とのセッション⑤	
14	看護コミュニケーション技法の振り返り	セッションの振り返りをする
15	良好な患者一看護師関係を構築するための看護コミュニケーション	1回目の講義時に提示されたネガティブな患者の事例に対してどのように対応するのかを検討する
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、確認テスト 25%、模擬患者セッションへ参加状況および課題レポート 25%		
S (100~90点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法について十分に説明でき、模擬患者とのセッション時に誠実に取り組むことができる		
A (89~80点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について概ね説明でき、模擬患者とのセッションに誠実に取り組むことができる		
B (79~70点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について、不十分な点もあるが説明でき、模擬患者に対し、誠実に対応できる		
C (69~60点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について考えることができ、模擬患者に対し、誠実に対応しようと努力している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-基盤看護学-基盤看護学			感 る た め に 必 要 能 力	豊かな人間性	○	
授業コード	BH0901				広い視野	○	
授業科目名	看護倫理				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力		
担当教員	伊藤千晴				探究心	○	

講義目的		
<授業の主旨>		
看護倫理、そしてその基盤となる概念と原則について理解できる。臨床における看護実践と看護倫理の関係について事例を基に学習することで専門職としての倫理的価値観の省察及び倫理的判断力を習得できる。		
<具体的な達成目標>		
1. 看護倫理の基盤となる主要概念を理解できる。 2. 倫理的意思決定モデルを用いた事例検討ができる。 3. 自身の倫理的価値観を省察できる。		
授業内容		
看護を実践するうえで看護倫理は基盤となることを理解し、基礎的な知識として倫理の原理原則や看護者の倫理綱領など事例を用いながら理解することができる。その後、感受性を高めるためのセクション、最後に倫理的問題を解決するための方法を学び、事例を展開させながら検討・発表会を行う。この過程で自分と違う価値観にふれながら自身の倫理的価値観を省察できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
具体的な事例を分析し自身の倫理的価値観を省察していく科目であり、考えながら進めていかなくてはいけないため主体的な姿勢が必須となる。そのため授業時間外に最低15時間は必要となる。また定期試験は設けないが、毎回のレポートや事例展開に関してのフィードバックは行う。		
教材		
<教科書>・『系統看護学講座 別巻 看護倫理』松葉祥一他 医学書院 1,800円+税 <参考図書>・臨床倫理学 赤林朗、藏田伸雄、児玉聰、新興医学出版社 3300円+税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護倫理の意義と目的	1 年次に履修した看護倫理に関する講義資料を見直し、看護倫理を学ぶ必要性を理解する。
2	看護者の倫理綱領 倫理原則	看護者の倫理綱領を復習し、看護師の責務について考える。原則の定義と看護における意味について理解する。
3	ケアリングとナラティブアプローチ	ケアの4相について学び、看護師の倫理的責任について理解する。
4	看護倫理における意思決定モデル 臨床検討シート	倫理問題を議論するための基本ルールを理解する。
5	事例検討（4分割法を用いて）	具体的な倫理的問題に対するアプローチ方法について学ぶ。
6	事例検討会（グループワーク）	臨地実習での倫理的問題について枠組みを用いながらグループで討議する。
7	事例検討会（グループワーク）	自分の考えを相手に伝える、また相手の考えを傾聴する姿勢を身につける。
8	事例発表 看護倫理に関するまとめ	
評価方法 および評価基準		
課題レポート 100%		
S (100~90点) : 毎回の課題レポートについて自分の考えが論理的に述べられ、自身の価値観が省察できている。また事例検討会に積極的に参加でき、倫理的判断ができる。		
A (89~80点) : 每回の課題レポートについて自分の考えが論理的に述べられ、事例に基づく倫理的判断ができる。		
B (79~70点) : 每回の課題レポートについて自分の考えが述べられ、十分ではないが事例に基づく倫理的判断ができる。		
C (69~60点) : 每回の課題レポートについて不十分ではあるが自分の考えが述べられ、倫理的判断ができる。		
D (60点未満) : C レベルに達していない		

科目区分	専門科目-基盤看護学-看護管理学			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BH2101				広い視野	
授業科目名	看護管理学				知識・技術 ○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	藤原奈佳子/川北美枝子/白井麻希				探究心 ○	

講義目的		
<p>1. 保健医療提供システムの中で効果的・効率的に看護を行うために必要な看護管理の概念について理解する。</p> <p>2. 良質な看護を提供するために看護管理者のみならず、すべての看護職が関わっていることを認識し、組織の中における看護職の役割を理解する。</p> <p>3. 看護管理の実際を学び、看護政策の必要性と取り組みを理解する。</p> <p>これらの学修を通して、看護管理に関する基本的な知識と質の高い看護サービスを提供するために個人および組織が担う役割が理解できることを目的とする。</p>		
授業内容		
<p>看護管理の概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策について学ぶとともに、実習施設における看護部門のマネジメントの実際から看護管理の必要性が理解できることをめざす。看護管理は、管理者のみならず適切な看護を提供するためにすべての看護職が必要であることを念頭において学習をすすめる。なお、看護管理の理解に必要な看護情報、病院情報システムについては「保健看護情報学」(3年次、前期)で、リーダーシップなどについては「組織とリーダーシップ論」(4年次、後期)で補強される。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目でもあり、各領域の実習と統合実習と関連する科目になる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。レポートのフィードバックは時間内に行う。</p>		
教材		
<p>書名：看護学管理テキスト Basic & Practice、統合と実践、看護管理 著者名：小林美亜(編集)、出版社・出版年：学研メディカル秀潤社、2013年(または最新版) 価格：2,160円</p>		
授業計画および学習課題(予習・復習)		
回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	看護管理の概念(看護管理の歴史的背景、看護管理の機能)	看護部組織の体系化における変遷から看護管理に求められる視点を理解する(教科書 pp. 2-14)。
2	看護組織論について(組織の構造、病院組織、看護提供システム等)	病院組織最大の集団として看護組織が果たす役割を具体的に考えてみる(教科書 pp. 15-27)。
3	看護部門のマネジメント(労務・看護業務管理、看護部門の役割)	看護職のマネジメントに必要な労働安全衛生を理解し、看護基準とは何か、看護手順とは何かが説明できる(教科書 pp. 28-35)。
4	看護人材マネジメント(専門職とキャリア開発、動機づけ理論、キャリア発達、リーダーシップ)	看護における人材育成の目的や組織-集団を動かすための理論、リーダーシップ理論についての説明ができる(教科書 pp. 36-48)。
5	地域医療構想と病院経営(医療圏、医療の需要と供給、病院機能)	「医療介護総合確保推進法」により、平成27年4月より、各都道府県で「地域医療構想」が策定されている。愛知県地域医療構想 < http://www.pref.aichi.jp/soshiki/iryofukushi/chiiikiiryoukousuu.html >を閲覧しておく。
6	看護と政策(職能団体の役割と機能、看護行政における政策活動)	保健医療福祉の動向を踏まえ、看護政策と政策決定プロセスに関する基本的な構造を理解する。
7	病院における看護管理の実際(医療・看護の質保証と実際の取り組み)	今までの実習病院における実習から、医療・看護の質を保証する取り組みについて、具体的にどのようにされていたのか考える。
8	これからの課題とまとめ	
評価方法 および評価基準		
<p>期末試験 70%、課題レポート 30%</p> <p>S(100~90点)：看護管理の概念と良好な看護を提供するための看護職の役割を理解し、看護実践と統合させ、政策課題をとらえることができる。</p> <p>A(89~80点)：看護管理の概念と良好な看護を提供するための看護職の役割を理解し、看護実践または政策課題と統合させることができる。</p> <p>B(79~70点)：看護管理の概念と良好な看護を提供するための看護職の役割をほぼ理解し、看護実践または政策課題を考えることができる。</p> <p>C(69~60点)：看護管理の概念と良好な看護を提供するための看護職の役割をほぼ理解し、看護実践または政策課題を考える努力をしている。</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>		

科目区分	専門科目-基盤看護学-看護管理学			感覚するためには、必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BH2201				広い視野	
授業科目名	組織とリーダーシップ論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	藤原奈佳子/永坂和子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
良質な医療・看護サービスを提供するためには、組織集団の力動的機能が必要である。組織におけるリーダーと組織を構成する個々の看護職者の相互の作用について学ぶ。		
授業内容		
この授業については、看護職のキャリア形成や組織におけるリーダーシップについての考え方を理解する。病院などの組織で意欲的に継続的に働くための行動科学の諸理論を理解する。ケースメソッドを取り入れた演習を通して、ファシリテーションスキルと問題解決方法（フレームワーク）を学ぶ。実際の病院看護部の役割を理解し、効果的なリーダーシップの役割行動や看護師のキャリア開発に必要な教育計画などを理解できることをめざす。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
3年次に履修した「看護管理学」の授業内容を復習しておくこと。 この科目的単位取得を習得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。レポート・演習成果のフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
3年次に履修した「看護管理学」で使用したテキストを用いる。 書名：Basic & Practice、看護学テキスト 統合と実践一看護管理、SBN-13: 978-4780911022 著者名：小林美亜（編集）、学研メディカル秀潤社、2017		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	組織集団の力動的機能と組織集団を動かすためのプロセス	1. 組織集団の概念、集団の力動的機能を理解できる。 2. 問題解決方法を理解し、考えることができる。 (予習：3年次に履修した看護管理学の授業内容を復習し、今までの臨地実習で、組織と個人の関係を考える。)
2 3	状況対応のための組織とリーダーシップ 講義と演習	1. リーダーシップの定義、集団の活性化、リーダーの役割行動を理解できる。 2. 状況対応リーダーシップ、フォロワーへのアプローチを理解できる。 (予習：提示した事例の問題点を抽出する。)
4 5	質を高めるための組織変革、チーム医療とリーダーシップ 講義と演習	1. 意欲を引き出すための人間行動学的理論を理解できる。 2. リーダーシップと組織変革を理解できる。 (予習：提示した事例の問題点を抽出する。)
6 7	組織と個人、病院と地域を結ぶことを考慮したリーダーシップ 講義と演習	1. 地域包括ケアを考えることができる。 2. 医療施設における看護職のキャリア開発を理解できる。 (予習：提示した事例の問題点を抽出する。)
8	演習の成果発表	組織集団における看護の役割とリーダーシップについて自身の今後の課題としてまとめることができる。

評価方法 および評価基準

課題レポート 100%

- S (100~90 点) : 組織におけるリーダーシップと組織を構成する個々の看護職者の相互の作用を十分に理解している。演習課題に積極的に取り組み、演習課題すべてにおいて考えたことを明確に提示することができる。
- A (89~80 点) : 組織におけるリーダーシップと組織を構成する個々の看護職者の相互の作用を概ね理解している。演習課題に積極的に取り組む努力をし、演習課題において考えたことを明確に提示することができる。
- B (79~70 点) : やや不十分ではあるが、組織におけるリーダーシップと組織を構成する個々の看護職者の相互の作用を理解し、演習課題に考えることができ、とりあげた課題を提示することができる。
- C (69~60 点) : やや不十分ではあるが、組織におけるリーダーシップと組織を構成する個々の看護職者の相互の作用を考えて演習課題に取り組み、問題解決に対応する努力がみられる。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成すべき目標に必要な能力 デイブロマボリントを達成するためには、知識・技術、判断力、探究心の3つの要素が必要である。	豊かな人間性	
授業コード	BI0101				広い視野	
授業科目名	小児看護学概論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	倉田節子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的

小児看護の理念を踏まえ、絶えず成長発達している小児各期の特徴を学び、小児を取り巻く環境と、それらが小児の生活や健康に与える影響について理解する。また、小児看護の対象である小児とその家族への支援について理解し、小児の最善の利益を守るために小児看護の役割について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

1. 小児と家族のおかれた環境を理解し、小児看護の理念と役割を理解する。
 2. 小児各期の成長・発達の特徴と生活を理解することができる。
 3. 小児と家族への支援・アプローチの基本を理解する。

授業内容

現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について学ぶ。小児の成長・発達の基本的知識を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について理解できる。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。小テストのフィードバックは授業時間内に行う。課題レポートのフィードバックは小児看護援助論Ⅰ授業時間内に行う。

教材

奈良間美保、系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学 1、医学書院、2015 年、2800 円税 ISBN : 9784260020022 (第 1 回～15 回で使用)

奈良間美保、系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学 2、医学書院、2015 年、3300 円税、ISBN:9784260019903
(第 14 回で使用)

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	小児看護の特徴と理念	概論第1章 Aを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナール①をノートにまとめる。
2	小児医療と小児看護の変遷	概論第1章 Cを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと現代医療の中の小児看護の課題、育児支援について考えノートにまとめる。
3	小児看護における倫理	概論第1章 Dを熟読し、子どもに関する倫理的問題の事例を収集する（新聞等）。授業後は、第1章 p.20 表1-5
4	小児と家族を取り巻く社会環境（少子化の背景、児童福祉）	概論第1章 B、Eおよび第8章 Aを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと第1章末ゼミナール②③⑤をノートにまとめる。
5	小児の健康増進と疾病予防（母子保健、乳幼児健康診査、予防接種、学校保健）	概論第8章 B、C、D、E、F、Gを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと母子保健事業と予防接種についてノートに整理する。
6	小児の成長と発達（1）成長・発達とは、発達の原則、発達に影響する因子、発達に関する理論	概論第2章 A、B、Cを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナール①をノートにまとめる。
7	小児の成長と発達（2）成長・発達の評価方法	概論第2章 D、Eを熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナール②④をノートにまとめる。（③は3年次技術演習で行う）
8	小児の栄養	概論第3章を熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナール①②③④および第4章末ゼミナール②④をノートにまとめる。5~8回の小テスト。

9	小児各期の特徴と生活＜新生児期・乳児期＞	概論第4章を熟読してくる。授業後は講義資料をもとに新生児・乳児期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
10	小児各期の特徴と生活＜幼児期＞	概論第5章Aを熟読してくる。授業後は講義資料をもとに幼児期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
11	小児各期の特徴と生活＜学童期＞	概論第5章Bを熟読してくる。授業後は講義資料をもとに学童期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
12	小児各期の特徴と生活＜思春期＞	概論第6章を熟読してくる。授業後は講義資料をもとに思春期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
13	小児の健康増進と家族への支援（家族の特徴とアセスメント、子どもの虐待と看護）	概論第7章、総論第8章を熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナールについて考える。9~12回の小テスト。
14	小児に起こりやすい事故とその予防、小児救急	各論第19章、総論第6章「救命処置」を熟読してくる。授業後は講義資料の振り返りと章末ゼミナールをノートにまとめる。
15	小児看護の役割と課題	これまでの授業を通して、現代社会において小児の最善の利益を守るために小児看護の役割について、自己の考えを明確にする。課題レポート提出（日時別途指示）

評価方法 および評価基準

期末試験 70%、課題レポート 15%、授業参加度 15%

- S (100~90点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について十分理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- A (89~80点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について概ね理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- B (79~70点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について不十分な点もあるが理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- C (69~60点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について理解しようと努力し、小児看護の役割について考えようとする姿勢がある。
- D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成すべき目標に必要な能力 ディプロマ・ボーリングを達成するための必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BI0201				広い視野		
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	倉田節子 / 深谷久子				探究心	○	

講義目的		
小児は常に成長・発達過程にあることを踏まえ、さまざまな健康問題をもつ小児とその家族の状況をとらえ、科学的根拠に基づいた看護の方法を学ぶことを目的とする。		
1. 病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護が理解できる。 2. さまざまな状況や疾病経過における小児と家族への看護が理解できる。		
授業内容		
小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児のニーズを把握し、適切な看護の方法について理解する。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識を修得できるようにする。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
小児看護学概論を履修し単位を取得していること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートの全体フィードバックは授業時間内に行い、必要に応じて授業時間外に個別に行う。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	病気や入院が小児に与える影響とその看護（倉田節子）	総論第1章を熟読して授業に臨む。授業後は、講義資料の振り返りと章末ゼミナーをノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）
2	さまざまな療養環境にある小児と家族への看護（外来、入院、在宅）（深谷久子）	総論第2章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナーをノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）
3	病気・障害をもつ小児と家族への看護（深谷久子）	総論第7章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナーをノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）
4	さまざまな症状をもつ小児と家族への看護（深谷久子）	総論第5章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナーをノートにまとめる。
5	治療・処置を受ける小児と家族への看護、プレパレーション（深谷久子）	総論第6章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナーをノートにまとめる。
6	疾病の経過による小児と家族への看護（急性期）（深谷久子）	総論第3章（急性期・周手術期）を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナー③④⑤をノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）
7	疾病の経過による小児と家族への看護（慢性期、成人移行期）（倉田節子）	テキスト1・2持参すること。総論第3章（慢性期）を熟読して授業に臨む。授業後は、講義資料の振り返りと章末ゼミナー①②をノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）
8	疾病の経過による小児と家族への看護（終末期）（深谷久子）	総論第3章（終末期）を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナー⑥をノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）

評価方法 および評価基準

期末試験 70%（倉田 20%、深谷 50%）、課題レポート 22%（倉田 6%、深谷 16%）、授業への参加度等 8%

- S (100~90 点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について十分説明できる。
- A (89~80 点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について概ね説明できる。
- B (79~70 点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について不十分な点もあるが、説明できる。
- C (69~60 点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について説明できるよう努力している。
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成するためには、ディプロマポーリングを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	
授業コード	BI0301				
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		
担当教員	深谷久子 / 倉田節子				

講義目的

さまざまな健康障害をもち、あらゆる成長過程にある子どもとその家族の状況を的確にアセスメントし、適切な看護を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。

1. 健康障害をもつ子どもと家族を包括的にとらえたうえでアセスメントし、看護実践の方法を考えることができる。
2. 小児特有の看護技術を理解し、発達段階に応じた援助方法を考えることができる。

授業内容

子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を考え、健康状態を的確にアセスメントすることができる。さらに、病気や入院中であっても、子どもの成長・発達を促し、子どもが主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰを履修し単位を取得していること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。

この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートのフィードバックは、その都度、授業時間内に行う。看護過程展開・看護技術演習については、全体のフィードバックは授業時間内に行い、グループや個別へのフィードバックは授業時間内・授業時間外に行う。

学修範囲が広く、直接臨地実習に結びつく授業内容であるため、特に事前・事後課題は重要な割合を占めるとともに、予習・復習は必須である。事前学習では、教科書を熟読して授業に臨むこと。事後学習では、臨地実習で活用できるように知識・技術の自己復習・身につけること。服装・教室について、適宜、授業や掲示等で説明をするので注意すること。

教材

奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2,800円税

奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3,300円税

内藤直子・下村明子 改訂版あっそうか！ロイとゴードンで母性小児看護過程 ふくろう出版 2014年 3,000円税

その他参考図書は、授業時に適宜紹介する

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション（演習の概要、事前課題）（深谷久子）	予習：教材3番目のpp166-168熟読。「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」授業資料を熟読して授業に臨む。 復習：課題レポート
2	小児の観察、小児看護技術の特徴（倉田節子）	小児の各発達段階の特徴を復習。総論第4章「コミュニケーション」「バイタルサイン」を熟読して授業に臨む。授業後は講義資料を振り返り、以後の演習に備える。
3	急性期にある子どもの看護過程展開（深谷久子） ：情報のアセスメント・解釈と統合	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート
4	急性期にある子どもの事例による看護過程演習（1）（深谷久子・倉田節子）：情報のアセスメント・解釈と統合・看護計画立案	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
5	急性期にある子どもの事例による看護過程演習（2）（深谷久子・倉田節子）：看護計画立案	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
6	急性期にある子どもの事例による看護技術演習（1）（深谷久子・倉田節子）：看護計画立案、バイタルサイン測定・観察	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
7	急性期にある子どもの事例による看護技術演習（2）（深谷久子・倉田節子）：身体計測、診察の介助、保育器に収容されている低出生体重児の看護	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
8	検査・処置を受ける子どもへの看護技術の演習（1）（深谷久子・倉田節子）：点滴固定、与薬、検査時の体位の固定	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）

9	検査・処置を受ける子どもへの看護技術の演習（2）（深谷久子・倉田節子）：酸素吸入、吸引、吸入、体位ドレナージ、採尿、抗生物質の希釈計算	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
10	慢性期にある子どもの看護過程展開（深谷久子） ：情報のアセスメント・解釈と統合	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート
11	慢性期にある子どもの事例による看護過程演習（1）（深谷久子・倉田節子）：情報のアセスメント・解釈と統合・看護計画立案	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート
12	慢性期にある子どもの事例による看護過程演習（2）（深谷久子・倉田節子）：看護計画立案	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
13	慢性期にある子どもの事例による看護技術演習（1）（深谷久子・倉田節子）：看護過程演習事例のプレパレーション演習・グループ発表会	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
14	慢性期にある子どもの事例による看護技術演習（2）（深谷久子・倉田節子）：入院中の基本的な環境調整と日常生活援助、安全	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
15	子どもの看護過程展開の総括（深谷久子・倉田節子） ：看護過程演習のグループ発表会・課題提出	予習：課題レポート 復習：子どもの看護過程の成果と方法の説明ができる
評価方法 および評価基準		
課題レポート 60%（看護技術 25%、看護過程 35%）、看護過程グループワークでの参加貢献・発表 30%、授業への参加度等 10%		
S (100~90 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護過程の展開について実践への適用が十分にできる (Excellent) A (89~80 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術と看護過程の展開について実践への適用が概ねできる (Very Good) B (79~70 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術と看護過程の展開について不十分な点もあるが実践に適用できる (Good) C (69~60 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術と看護過程の展開について実践に適用できるよう努力している (Pass) D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成するため に必要な能力 デイパラマポリシーを達成	豊かな人間性	
授業コード	BI0401				広い視野	
授業科目名	小児看護援助論Ⅲ				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	倉田節子 / 深谷久子				探究心 ○	

講義目的		
小児と家族をより理解するための理論の活用のしかたや、小児と家族への援助方法を検討するために役立つ知識の統合について学ぶことを目的とする。		
【到達目標】		
1. 小児と家族をより理解するための理論や既習の知識を活用することができる。 2. 既存の知識を統合して、長期的・潜在的健康問題を抱えている小児と家族への看護を考えることができる。 3. 小児と家族への支援のための他職種協働によるチームアプローチを学ぶ。		
授業内容		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱにおける学習を基盤として、小児と家族をより理解するために必要な理論や文献レビューを活用しながら、慢性疾患や先天性疾患あるいは障害をもちながら生活している小児と家族、疾患や障害を抱えながら成人期に移行する小児と家族、危急的状況にある小児と家族などに対する適切な看護や教育・指導、他職種協働によるチームアプローチの必要性について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習の単位を修得し、かつ、選択強化プログラム：小児看護選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートの全体フィードバックは授業時間内に行い、必要に応じて授業時間外に個別に行う。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税 筒井真優美 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第7版 日総研 2014年 3600円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	小児の発達に関する主要理論とその活用（倉田）	予習：発達理論について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
2	小児看護における現代的課題（深谷）	予習：小児看護における現代の課題について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
3	小児の家族を理解するための理論と活用（倉田）	予習：家族看護に関する理論について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
4	慢性的疾患を抱えながら成人期に移行する小児と家族への支援（倉田）	予習：成人移行期、AYA世代が抱える課題について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
5	先天的な障害を抱えながら生活する小児と家族への支援（NICUにおける看護を含む）（深谷）	予習：NICUにおける家族中心の看護について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
6	危機的な状況にある小児と家族への支援（深谷）	予習：危機的な状況にある小児と家族への看護調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
7	小児と家族への教育・指導（退院支援、小児科外来における看護など）（倉田）	予習：小児と家族への継続看護・退院支援・在宅支援等について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート
8	小児看護を支えるチームアプローチ・他職種との協働（倉田）	予習：小児看護における他職種連携について調べ概要をまとめる 復習：課題レポート

評価方法 および評価基準

課題レポート 84%、授業への参加度等 16%

- S (100~90 点) : 小児と家族をより理解するための理論や文献を活用して、小児と家族への統合的な援助方法について十分説明できる。
- A (89~80 点) : 小児と家族をより理解するための理論や文献を活用して、小児と家族への統合的な援助方法について概ね説明できる。
- B (79~70 点) : 小児と家族をより理解するための理論や文献を活用して、小児と家族への統合的な援助方法について不十分な点もあるが、説明できる。
- C (69~60 点) : 小児と家族をより理解するための理論や文献を活用して、小児と家族への統合的な援助方法について説明できるよう努力している。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BI0501				
授業科目名	小児看護技術論				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		
担当教員	深谷久子				

講義目的		
さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族を的確にアセスメントしたうえで、対象にあった看護を提供するために必要な技術を身につけることを目的とする。		
【到達目標】		
<p>1. 小児と家族の状況にあった適切な看護を提供するための技術を修得する。</p> <p>2. 小児の解剖生理学的特徴や健康状態にあわせた技術の提供方法を考えることができる。</p> <p>3. 検査・処置を受ける小児の発達課題に応じた説明や、子どもの主体性を促す関わりについて考えることができる。</p> <p>4. 子どもの親との関係構築の基本を学ぶ。</p>		
授業内容		
ヘルスアセスメントⅠ（小児）および小児看護援助論Ⅱでの学習を基盤として、さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族に対し、必要な看護を提供できるための技術を身につける。そのために、小児の解剖学的特徴をふまえた正しい知識のもとに、小児の発達段階や健康状態にあわせた用具を選択し、小児や家族にわかりやすく、納得を得る説明の方法を考え、小児の反応を確認しながら実施するための技術を修得する。また、小児の親の思いに沿った適切なコミュニケーションのあり方についても学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習の単位を修得し、かつ、「選択強化プログラム：小児看護」選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートの全体フィードバックは授業時間内に行い、グループや個別へのフィードバックは授業時間内・授業時間外に行う。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税 石黒彩子・浅野みどり編 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第3版 医学書院 2017年 3800円税 浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院 2012年 3800円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション（授業の概要、事前課題）（深谷久子）	予習：「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学実習」における自己の課題のふりかえり 復習：課題レポート
2	子どもの看護技術演習（1）（深谷久子）：輸液管理、経管栄養	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
3	子どもの看護技術演習（2）（深谷久子）：排泄、浣腸	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
4	子どもの看護技術演習（3）（深谷久子）：子どもと家族とのコミュニケーションロールプレイ	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
5	子どもの看護技術演習（4）（深谷久子）：子どもと家族とのコミュニケーションロールプレイ	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
6	子どもの看護技術演習（5）（深谷久子）：小児の救急処置、気道内異物除去	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
7	子どもの看護技術演習（6）（深谷久子）：小児の救急処置、心肺蘇生法	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
8	技術演習の評価とふりかえり・まとめ	予習：課題レポート（事前） 復習：子どもの看護技術演習の成果と自己の課題が説明できる

評価方法 および評価基準

課題レポート 76%、授業への参加度等 24%

S (100~90 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践への適用が十分にできる (Excellent)

A (89~80 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践への適用が概ねできる (Very Good)

B (79~70 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、不十分な点もあるが実践に適用できる (Good)

C (69~60 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践に適用できるよう努力している (Pass) 小

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	
授業コード	BI0601				
授業科目名	小児看護学外演習				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		
担当教員	深谷久子・植松裕子				

講義目的		
小児看護に関連するさまざまな機関・施設の見学を通して、小児の療養環境や、母子保健を支える社会資源について現状を把握し、質の高い小児看護を提供するための組織・環境について学ぶことを目的とする。		
【到達目標】		
1. 小児看護に関連する機関・施設の見学を通して、小児の療養環境や社会資源の現状を把握することができる。 2. 小児の望ましい療育環境や母子保健を支える社会資源の活用について課題を明確にすることができる。		
授業内容		
小児看護に関連する機関・施設の見学や、そこで働く職員および療養する子どもや家族へのインタビュー、観察などを通して小児の療養環境や小児の健康増進、療養に必要な社会資源の現状と課題について情報を整理する。そこから、既存の知識に照らして小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源、ネットワークの活用について理解し、統合実習に結びつけることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習の単位を修得し、かつ、「選択強化プログラム：小児看護」選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。学外演習内容のフィードバックは、適宜、全体・グループ・個別に学外演習時間内・時間外に行う。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
▼学外演習期間：平成30年5月～7月		
▼学外演習機関：		
1) 愛知県心身障害者コロニー 中央病院；2) 愛知県心身障害者コロニー こばと学園；3) ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや（名古屋大学医学部付属病院内）		
▼学外演習計画：詳細は「小児看護学外演習の手引き」に準ずること		
1日目：学内日（オリエンテーション、事前学習・自己課題内容の確認） 予習：小児に関して履修した全ての科目的授業内容の復習、事前学習課題 復習：課題レポート、小児看護技術		
2～3日目：学外演習機関での演習 予習：演習記録（演習前） 復習：演習記録（演習後）		
4日目：学内日（演習の総合的まとめ） 予習：演習記録（演習前） 復習：演習記録、学内演習内容		
5日目：学外演習機関での演習 予習：演習記録（演習前） 復習：演習記録（演習後）		
6～8日目：学内日（演習の総合的まとめ・演習成果報告会） 予習：演習記録（学内日前） 復習：演習記録、学内演習内容		

評価方法 および評価基準

学外演習レポート、学外演習内容、出席状況等を総合的に評価する

S (100~90 点) : 学外演習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 学外演習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 学外演習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 学外演習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-発達看護学-小児看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BI0701				
授業科目名	小児看護演習				
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		
担当教員	深谷久子				

講義目的		
小児看護学の講義・演習・実習で学んだ知識・技術を基盤とし、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚と倫理観に基づいた小児看護の実践に必要な知識と技術の統合を目的とする。		
【到達目標】		
<p>1. 既修の理論、知識と技術を統合し、小児看護実践への応用が考えられる。</p> <p>2. 学部小児看護の学修の集大成として、専門職業人への移行に伴う責任を自覚し、小児看護における自己の課題を明確にすことができる。</p>		
授業内容		
小児看護学の講義・演習・実習で学んだ基礎的知識・基本技術を基盤とし、いかなる状況においても小児の成長・発達を促し、小児と家族の最善の利益を守りながら、健康問題における優先性を判断することのできる能力を養う。その判断や予測にもとづいて、適切な看護を提供するための応用的な看護実践能力の修得を目指す。さらに、このことを通して、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚をもち、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。		
小児看護学実習で遭遇しない、長期的な健康問題を抱えながら療養している小児と家族の事例（NICU に長期入院している乳児の退院支援なども含む）、あるいは統合実習で課題が残った事例などを用い、グループ毎に模擬患者・家族を対象に看護の実際（ロールプレイ）を発表する。演習発表の内容について全体で討論を行い、よりよい看護実践、小児看護の役割について検討する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習の単位を修得し、かつ、「選択強化プログラム：小児看護」選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて 3 回で欠席 1 回となる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートの全体フィードバックは授業時間内に行い、グループや個別へのフィードバックは授業時間内・授業時間外に行う。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税 筒井真優美 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第7版 日総研 2014年 3600円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	小児と家族の健康問題に応じた看護（1）（深谷久子） ：事例検討	予習：「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「小児看護実習」「小児看護技術」「小児看護学外演習」における自己の課題のふりかえり 復習：課題レポート
2	小児と家族の健康問題に応じた看護（2）（深谷久子） ：事例検討	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
3	小児と家族の健康問題に応じた看護（3）（深谷久子） ：看護計画立案・計画評価	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
4	小児と家族の健康問題に応じた看護（4）（深谷久子） ：プレゼンテーション準備	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
5	小児と家族の健康問題に応じた看護（5）（深谷久子） ：プレゼンテーション・討議	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
6	小児と家族の健康問題に応じた看護（6）（深谷久子） ：プレゼンテーション・討議	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
7	小児と家族の健康問題に応じた看護（7）（深谷久子） ：プレゼンテーション・討議	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
8	小児と家族の健康問題に応じた看護のまとめ・課題提出	予習：小児と家族の健康問題に応じた看護とその課題をまとめる 復習：小児と家族の健康問題に応じた種々の看護の説明ができる

評価方法 および評価基準

課題レポート 52%、授業への参加度等 48%

S (100~90 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践への適用が十分にできる (Excellent)

A (89~80 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践への適用が概ねできる (Very Good)

B (79~70 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、不十分な点もあるが実践に適用できる (Good)

C (69~60 点) : 子どもと家族への基本的な看護技術や看護の展開について、実践に適用できるよう努力している (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-発達看護学-母性看護学			成するための必要能力 デイプロマリングを達成するための必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BI2101				広い視野	
授業科目名	母性看護学概論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	内藤直子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的

学生は人間のライフサイクルで性科学を理解し考えながら学修する。女性の生涯にわたるライフサイクルを対象に、健康や健康問題と看護を取り上げる。母性看護の基盤となる概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を理解し述べられるよう学修する。母性に関する社会保障制度や統計、母性看護の対象を取り巻く社会的変遷と国際化社会のお産文化や母性看護のあり方を学び、ケアの必要性がクリティカルに理解できるようPBL学習を行う。新しい家族の誕生時の看護ではロイ適応看護モデルの理論から4様式で情報収集・アセスメントし、看護計画・実施・評価し対象への看護実践ができる思考を学修する。

授業内容

学生は性科学とその哲学を学び「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」の概念を基盤に人間のライフサイクルから、性ホルモン変化を理解し適切な行動ができる基礎知識が学べる。授業形態は書籍やPC視聴覚で一斉講義やPBL学習の展開で自主的学習態度を培う。また適時資料・ビデオ教材・人体模型を活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

母性看護学概論は、科目履修後に開講される疾病論の母性領域関連内容や、母性援助論I、母性援助論II、母性看護学の臨地実習でも、本科目で学修した内容の基盤となる概念や知識が必要となる。そこで、この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。

教材

- 母性看護学概論・1、系統看護学講座、」森恵美他、医学書院 2016、第13改訂、3000円+税
- 「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」、内藤直子他、ふくろう出版、3000円+税
- 他は適時に提示する

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	母性看護の概念： 母性とは、父性とは、親性とは 母子関係と家族発達	予習：第1章、A、Bを読み、各自の母性性や父性性、親性を考える。 復習：母性について述べられる。
2	母性看護の概念：セクシュアリティ (人間の性・性の多様性)	予習：第1章、Cを読み、人間の性と発達課題について理論的に調べる。 復習：セクシュアリティが述べられる。
3	母性看護の概念：リプロダクティブヘルス／ライツ	予習：第1章、Dを読み、母性の基盤となる概念を深く理論できるよう調べてみる。 復習：リプロダクティブヘルス／ライツを述べる。
4	母性看護の概念：ヘルスプロモーション、母性看護のあり方、母性看護における倫理	予習：第1章、Eを読み考える。 復習：ヘルスプロモーション、母性看護のあり方、倫理について説明できる。
5	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、 基礎体温測定について	予習：第3章、A、を読み、生殖器の形態機能と性ホルモンを調べる。 復習：生殖器と性ホルモンが述べられるホルモンを調べる。
6	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルと家族、 母性の発達・成熟・継承	予習：第3章、B、Cを読み母性、父性、親性、家族の意味を考え、母性の発達を理解する。 復習：母性、父性、家族が説明できる。 *PBLでGW後、ミニレポートを提出する。
7	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： 母性看護の歴史的変遷と現状 母子保健統計の動向・母性看護に関する組織と法律	予習：第2章、Aを読み、母性看護の歴史から関連法規や母子保健統計の意味を知る。 復習：母性の関連法規や母子保健統計を説明する。
8	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： 母性看護の対象を取り巻く環境と施策 家族・地域社会・生物学的環境・社会文化的環境	予習：第2章、Bを読み、母性看護の対象を取り巻く施策と環境を理解する。 復習：母性の対象に関する施策と環境を説明する。

9	母性看護に必要な看護技術： 母性看護における看護過程・ロイ適応看護モデルを用いた 4様式で情報収集とアセスメント、・自己概念 情報収集技術、②ヘルスアセスメントの方法	予習：第4章、A、B、教材2「ロイの看護過程11事例」の第1章を 読み、看護過程でロイ適応看護モデルを用いた情報収集とア セスメント技法、自己概念を調べる。 復習：看護過程展開の要素を理解する。
10	母性看護で有用な理論と看護技術： 女性の意思決定を支える看護技術、②ヘルスプロモーション、③親になる過程および家族適応を促す看護技術、 ④カルガリーファミリー看護モデルのアセスメント法	予習：第4章、Cを読み自己決定、保健指導、妊娠の受容、親にな る過程、家族適応を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術を、理解する。
11	母性看護で有用な理論と看護技術： ストレス・不快症状・苦痛緩和の看護技術、②次世代の育成・発達を促す看護技術、③リプロダクティブヘルスの健 康障害への対応、④周産期の死への看護技術	予習：第4章、Cを読み、苦痛の緩和と、次世代の成長を促す、看 護技術を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術を理解する。
12	女性のライフステージ各期における看護： 1. 女性の健康と看護の必要性 ①思春期の健康と看護 ②成熟期の健康と看護 ③更年期の健康と看護 ④老年 期の健康と看護 2. 産後ケアと育児支援 3. 多職種と の連携と協働	予習：第5章、A、B、C、D、Eを読み、女性のライフステージ各期 の看護を調べる。 復習：女性のライフステージ各期の看護を理解する。 *課題レポート提出
13	リプロダクティブヘルスケア：①家族計画、②性感染症とそ の予防、③HIVに感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護、⑤喫煙女性の健康と看護	予習：第6章、A、B、C、D、Eを読み、リプロダクティブヘルスケア に関する項目を調べる。
14	リプロダクティブヘルスケア： ① 性暴力を受けた女性に対する看護、②児童虐待と看護 ② 国際化時代の多様なお産文化	予習：第6章、F、Gから性暴力や、国際社会でのグローバルなお産 文化と生命倫理を考える。
15	リプロダクティブヘルス：国際化社会と看護、①母子保健 の国際化、②在日外国人の母子保健と妊産婦ケア 母性看護学の特徴・まとめ	予習：第6章、Hを読み、国際社会でのグローバルなお産文化と日 本での生命倫理を考える。在日外国人の母子ケアを調べる。 復習：母性看護学概論の基盤の概念をまとめる。
評価方法 および評価基準		
期末試験 80% ミニレポート10%、課題レポート10%、		
S(100~90点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の社会的変 遷と看護のあり方を述べることができる (Excellent)		
A(89~80点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の社会的変 遷と看護のあり方を概ね述べることができる (Very Good)		
B(79~70点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の社会的変 遷と看護のあり方を理解することができる。 (Good)		
C(69~60点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の社会的変 遷と看護のあり方を概ね理解することができる。 (Pass)		
D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-発達看護学-母性看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BI2201				広い視野	
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ				知識・技術 ○	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	藏本直子/杉下佳文				探究心 ○	

講義目的		
対象の健康レベルを wellness な視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する援助能力を身につけ、周産期の女性および胎児・新生児の心身の健康現象(生理的変化と病態生理・心理社会的变化)を理解できる。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活適応促進の援助、ハイリスク状況時の適切な援助に向け妊娠期・分娩期の女性にクリティカルな援助技法を理解できる。		
授業内容		
本講義では、周産期の中でも妊娠期および分娩期に焦点を当て、正常経過にある妊産婦と胎児の看護と異常経過にある対象の看護について学修する。特に、妊産婦の身体的特性や心理社会的特性、各期の看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点について理解し、母性看護を実践するための基礎的知識を修得する。また、子どもを産み育てることや親になることを支援する家族形成期に必要な看護について理解し、妊産婦の親役割や家族の新しい役割獲得の準備に向けた援助方法について学修する。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
授業時間外学修では、充分な予習と復習をして、母性看護の基本的知識や援助方法の修得と課題レポートを完成させるように努力することを期待する。本科目の単位修得にあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。課題(確認テストやレポート等)に対するフィードバックは講義時間内に行う。履修者は、講義を積極的に受講することが条件である。20 分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻と早退(途中退席)を合わせて 3 回で欠席 1 回とする。		
教材		
1. 「母性看護学各論[2]: 統系看護学講座」森恵美他、医学書院 第 13 版・2016:(3,000+税) 円 2. 「看護実践のための根拠がわかる母性看護技術」北川眞理子他、メジカルフレンド社・2015:(3,200+税) 円		
授業計画および学習課題(予習・復習)		
回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	妊娠期における看護① 妊婦の日常生活ケア (杉下)	教材 1 の p58-74 を予習した上で受講し、妊娠期の身体的・心理社会的特性を理解する。妊婦の日常生活ケアについて学ぶ。
2	妊娠期における看護② 妊婦の不快症状とリスク・流産早産看護ケア(杉下)	教材 1 の p387-390 を予習したうえで受講する。妊婦のマイナートラブルや異常妊娠へのリスクを理解する。妊娠持続期間の異常について学ぶ。
3	ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症 (藏本)	疾病治療論Ⅲの妊娠期の生理等の復習および教材 1 の第 6 章 B.(p.369-381) を予習した上で受講し、妊娠期の正常と異常の違いを理解する。
4	妊娠期の異常と看護① (藏本)	疾病治療論Ⅲの妊娠期の資料および教材 1 の第 6 章 A.(p.358-369)、C.(p.381-385)、G.(p.393-400) を予習した上で受講し、講義での重要ポイントを整理し、ハイリスク妊婦の看護を学ぶ。
5	妊娠期の異常と看護② (藏本)	疾病治療論Ⅲの妊娠期の資料および教材 1 の第 6 章 C.D.E(p.381-392)、G.(p.393-400) を予習した上で受講し、講義での重要ポイントを整理し、ハイリスク妊婦の看護を学ぶ。
6	分娩期における看護① 分娩の要素、分娩の経過、産婦・胎児、家族のアセスメント (杉下)	教材 1 の第 3 章 A と B(p58-86) を予習した上で受講し、分娩の要素および分娩の経過を理解する
7	分娩期における看護② 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際 (杉下)	第 6 回の産婦・胎児、家族のアセスメントの部分を復習して受講し、胎児を含めた産婦と家族への看護を学ぶ
8	分娩期の異常と看護 (杉下)	第 6 回および第 7 回の講義資料で分娩の経過を復習した上で受講する。教材 1 の p401~455 を予習し、分娩経過の正常と異常の違いおよびその看護について学ぶ。
評価方法 および評価基準		
1. 授業内確認テスト(10%) 2. 課題レポート提出と内容(10%) 3. 期末筆記試験(80%) 以上の総合評価		
S(100~90 点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントを充分に理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊産婦のフィジカルアセスメントに必要な看護を積極的に修得することができる。		
A(89~80 点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントを理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊産婦のフィジカルアセスメントに必要な看護を修得することができる。		
B(79~70 点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントについて概ね理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊産婦のフィジカルアセスメントに必要な看護を修得しようと努力している。		
C(69~60 点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントの最低限は理解し、看護について考えることができる。胎児を含めた妊産婦のフィジカルアセスメントに必要な看護を修得しようと努力している。		
D(60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	専門科目-発達看護学-母性看護学			成すべき目標達成度 ディプロマポリシーを達成する能力	豊かな人間性	
授業コード	BI2301				広い視野	
授業科目名	母性看護援助論 II				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	杉下 / 藏本 / 星 / 内藤				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
<p>対象の健康レベルを wellness な視点でアセスメントし、周産期の女性と胎児・新生児の心身の健康現象（生理的と病態生理・心理社会面）を理解する。健康レベルのアセスメントを行い、看護診断から看護実践の基本技術と日常生活へ適応促進やハイリスクな状況の対象者へクリティカルな援助技法と評価法を修得できる。周産期の看護ケアを通して倫理的な状況判断や実践ができる。</p>		
授業内容		
<p>講義、デモンストレーション、PBL 学習など学生間討議を導入し展開する。主には産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的側面の特徴と看護について学ぶ。学生が内在化している母性性、父性性を確認しながら対象を共感的に理解する視点を醸成し、生命の尊厳について深く考察する。演習は臨床看護実践に必要な母性看護技術の修得や看護過程の学習に個別指導を導入し、補講や時間外の自己学習もある。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>本科目の履修では充分な予習と復習をする努力を期待している。母性看護援助論 I の講義内容の復習を行った上で講義に臨むこと。また、各回の授業内容を時間内に理解しておく事が望ましい。母性看護技術の習得には自己学習が必須である。そこで、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度行う。</p>		
教材		
<p>必携 : 1. 母性看護学各論 「2」：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第 13 版、2016 2. 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 北川真理子他、メジカルフレンド社、2015</p> <p>参考 : 1. 母性看護学概論 「1」：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第 13 版、2016 2. ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田操、医歯薬出版株式会社 第 3 版、2017 3. ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 佐世正勝他、医学書院 第 2 版、2012</p>		
教材 : ビデオ教材、保健指導媒体で学習を深める。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義ガイダンス 紙上事例における看護過程展開（情報収集の方法、アセスメント、関連図、アセスメントの統合からウエルネス看護診断を導き出す方法、看護診断に応じた看護目標、看護計画について） (杉下)	科目の目標を確認する。 予習：既習の看護過程の構成要素を再度確認する。 復習：提示の紙上事例から情報収集、各アセスメント項目、関連図まで展開する。
2	分娩の異常と看護 (杉下)	母性看護援助論 I の 3 回目の「分娩期における看護①②（教材必携 1. p178-250 および講義資料）について復習し受講する。分娩期の正常と異常を理解する。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。
3	産褥期身体的变化と退行性变化および全身状態の回復への看護 産褥期の異常と看護①（子宮復古不全・産褥熱） (杉下)	教材必携 1. p308-319 について予習し受講する。産褥経過の身体的・心理・社会的变化と適応の促進における看護ケアを学ぶ。また p484-500 を復習し、産褥期の異常について理解を深める。
4	産褥経過と進行性変化への看護 産褥期の異常と看護③（乳房トラブル） (藏本)	第 3 回の講義内容及び教材必携 1. p308-349、p. 491-494 について予習し受講する。進行性変化とその異常について理解し、第 10、11 回に行う演習②③の基礎を学ぶ。
5	母乳育児の世界的動向、授乳ケア技術 (藏本)	第 4 回の講義内容と教材必携 1. p308-349、p. 491-494 を予習して受講する。進行性変化のアセスメントと授乳ケア技術について理解する。
6	褥婦の心理社会面アセスメントと家族形成期の看護 産褥期の異常と看護③（精神疾患合併） (杉下)	母性看護援助論 I の第 5 回目の分娩期における看護③（教材必携 1. p401-456 及び講義資料）について予習し受講する。褥婦および家族形成期の心理社会的側面を理解し看護ケアを学ぶ。また p484-500 を復習し、産褥期の異常について理解を深める。

7	新生児期の生理学的適応、出生直後から早期新生児期の看護、沐浴技術 (星)	提示される課題を教材必携 1. 第 5 章を参考に予習を行い受講し、新生児の生理や機能を理解し、アセスメント方法、新生児期の看護について学ぶ。また、沐浴・ドライテクニックの技術を学び、セルフトレーニングする。	
8	新生児の異常と看護 (藏本)	第 7 回の復習および教材必携 1p. 456-483 を予習した上で受講し、新生児に起こりうる異常とその看護について理解する。特に新生児の生理的経過との違いについて理解を深める。	
* 9 14	周産期の看護実践演習① (レオポルド触診法・胎児心拍モニタリング) (藏本・星)	看護過程の紙上展開(1) (杉下)	(実践演習) 事例を用いた胎児心拍数モニタリングを行い、判読およびケアについて理解する。NFRS時のケアについて理解する。 (看護過程) 予習：事例から情報収集、各項目のアセスメント、関連図までを仕上げる。 復習：本時の指導内容を追加学習する。
	周産期の看護実践演習② (婦婦のフィジカルアセスメント・授乳技術) (藏本・杉下)	看護過程の紙上展開(2) (星)	(実践演習) 提示される演習前の自己学習に取り組む。産褥子宮のアセスメントを行い、産褥復古のケア技術を実践する。演習前後に自己学習で技術を修得する。産褥乳房のアセスメントを行い、授乳技術、介助方法のケア技術を実践する。演習前後に自己学習で技術を修得する。 (看護過程) 予習：事例の看護過程展開で看護診断・看護目標・看護計画まで担当教員に提出。 復習：本時の指導内容を追加学習する
	周産期の看護実践演習③ (新生児のフィジカルアセスメント・沐浴) (杉下・星)	看護過程の紙上展開(3) (内藤・藏本)	(実践演習) 教材必携 3. 第V章 (p224-243) を予習し演習内容及び方法を理解する。 (看護過程) 予習：看護診断・看護目標・看護計画の自己学習後、課題レポートの個別指導を受けて看護過程を修得して、科目目標を達成する。 復習：本時の個別指導により追加修正し、看護過程を修得して、最終課題レポートを提出する。(提出日は別途連絡)
15	周産期の看護実践演習④ (新生児期の清潔ケア沐浴)	(杉下・藏本・星)	新生児のフィジカルアセスメントを行い、清潔ケア(沐浴)を実践する。技術チェックを受け、不十分な部分は自己学習を行い、技術習得を行う。

*9~14回の演習は受講生を半数ずつ入れ替えて行う予定である

評価方法 および評価基準

期末筆記試験 70%、レポート 30% (看護過程のレポート 15%、演習レポート 15%)

S (100~90 点) : 周産期の女性と新生児の心身の健康現象(生理的と病態生理・心理社会面)をwellnessにアセスメントし、看護過程展開により、対象の健康ニーズをクリティカルな援助技法と評価法する能力を習得している (Excellent)

A (89~80 点) : 周産期の女性と新生児の心身の健康現象(生理的と病態生理・心理社会面)をwellnessにアセスメントし、看護過程展開により、対象の健康ニーズをクリティカルな援助技法と評価法する能力を概ね習得している (Very Good)

B (79~70 点) : 周産期の女性と新生児の心身の健康現象(生理的と病態生理・心理社会面)をwellnessにアセスメントし、看護過程展開により、対象の健康ニーズをクリティカルな援助技法と評価法を理解している (Good)

C (69~60 点) : 周産期の女性と新生児の心身の健康現象(生理的と病態生理・心理社会面)をwellnessにアセスメントし、看護過程展開により、対象の健康ニーズをクリティカルな援助技法と評価法を学ぶ姿勢がみられる。 (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			成するためには ディプロマポリシーを達 成するためには 豊かな人間性	
授業コード	BJ0101				
授業科目名	成人看護学概論				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		
担当教員	柴山健三/加藤亜妃子				

講義目的
1) 成人各期の発達段階を理解し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を理解できる。
2) 日本の成人保健の動向を理解し、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。
3) 急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）を理解できる。
4) 日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解できる。
5) 慢性的な病気を持つ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、慢性期にある患者の看護援助に必要な概念や理論を理解できる。
6) 慢性的な病気を持つ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察することができる。
7) 成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。

授業内容
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学習する。日本の成人保健の動向を知り、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて習得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解することができる。 また、慢性的な病気を持つ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジーモデル、自己効力理論、変化のステージモデル等）について学習する。また、慢性的な病気を持つ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察できる。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
予習・復習は30時間程度を資料や教科書を熟読にあて、そのフィードバックは講義時間内に行う。

教材
教科書：成人看護学：成人看護学概論 第2版、大西和子、岡部聰子 編、スーザン・ヒル、平成21年、2,200+税 円
系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院・平成25年、2,500+税 円

授業計画および学習課題（予習・復習）
回 内容 学習課題（予習・復習）
1 1 成人期にある人々の理解 1 <柴山> 1) 成人看護学の概念、目的・役割 2) 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴 3) 生活と健康（ライフサイクル、成長発達と発達課題） 4) 家族・社会的役割 5) 成人期にある人々の健康レベル（急性期、慢性期・リハビリテーション期、ターミナル期）、急性期と周手術期 『成人看護学： 成人看護学概論』の第IとII章の熟読。
2 2 成人期にある人々の理解 2 <柴山> 1) 成人保健として人口静態、人口動態（主要疾患別死因）、平均余命などの理解 資料の熟読
3 3 成人期にある人々の理解 3 <柴山> 1) 成人保健として有訴率、受療率、生活習慣病への罹患率などの理解 2) 成人保健として健診受診率などの理解 資料の熟読
4 4 急性期の理解と特徴 1 <柴山> 1) 成人期に発症する急性期疾患（生活習慣病、職業病、ストレス関連疾患など）とヘルスプロモーション 2) 周手術期看護の概念 3) 急性期にある患者およびその家族の身体的・心理的特徴 『成人看護学： 成人看護学概論』の第IIIとV章の熟読。
5 5 急性期の理解と特徴 2 <柴山> 1) 急性期で使用される理論・モデル（生体侵襲理論、悲嘆、危機理論、コーピング） 『成人看護学： 成人看護学概論』の第VI章の熟読。

6	6 急性期の理解と特徴 3 <柴山> 1) 急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護、インフォームドコンセント）	『成人看護学：成人看護学概論』の第IV章の熟読。
7	7 日本の救急医療<柴山> 1) 歴史・体制および救急患者の特徴 2) 救急看護の役割、倫理的課題	『系統看護学講座 別巻 救急看護学』の1, 2, 3章の熟読。
8	8 成人看護学急性期看護のまとめ<柴山>	
9	慢性期の理解と特徴 1 1) 慢性期にある人およびその家族の身体的・心理的特徴 2) 病気からの回復過程（リハビリテーション）にある人の特徴と看護（障害受容を含む）	『成人看護学：成人看護学概論』第V章3、4を読んでおくこと。
10	慢性期の理解と特徴 2 健康促進と成人教育で活用できる理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジーモデルを含む）	『成人看護学：成人看護学概論』第III2とV章2、VI章10、13を読んでおくこと。
11	慢性期の理解と特徴 3 成人教育と健康行動理論（自己効力理論、変化のステージモデル等）	『成人看護学：成人看護学概論』第VI章5～9を読んでおくこと。
12	慢性期の理解と特徴 4 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人の特徴と看護（病みの奇跡の概念を含む）	『成人看護学：成人看護学概論』第VI章14を読んでおくこと。
13	慢性期の理解と特徴 5 人生の最期のときを支える看護（緩和ケアおよびターミナルケアの概念・歴史、倫理的問題）	『成人看護学：成人看護学概論』第IV章、第V章4、5を読んでおくこと。
14	医療システムと成人看護 (チーム医療、外来看護、退院調整、在宅緩和ケア)	配布資料を読んでおくこと。
15	慢性期にある人への看護 まとめ	配布資料を読んでおくこと。

評価方法 および評価基準

期末試験（筆記試験）90点、授業態度10点の総合得点100点満点とする。筆記試験90点の内訳は急性期教員担当分45点、慢性期教員担当分45点とする。両期の担当分のうち、ともに60%以上で、さらに総合得点60点以上を合格とする。

S(100～90点)：充分に理解している。

A(89～80点)：理解している。

B(79～70点)：概ね理解している。

C(69～60点)：概ね理解されているが、復習に努めること。

D(60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			成するための必要な能力 デイパロマポリシーを達成	豊かな人間性	
授業コード	BJ0201				広い視野	
授業科目名	急性期看護援助論 I				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	柴山健三				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
1) 術前から術後にかけての看護が理解できる。 2) 生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護が理解できる。 3) 周手術患者の周手術期看護過程展開論が理解できる。 4) 急性循環不全患者、脳血管障害および頭部外傷による意識障害患者、呼吸不全患者および多臓器不全患者への看護が理解できる。		
授業内容		
周手術期およびクリティカルな状態にある成人期患者の特徴と身体的・心理的・社会的側面を学修し、術前から術後にかけての看護、生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護について理解できる。具体的には、周手術患者の周手術期看護過程展開論、急性循環不全患者、脳血管障害および頭部外傷による意識障害患者、呼吸不全患者および多臓器不全患者への看護を学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
第1回講義時に課題を説明する。課題の提出は必修である。 予習・復習は30時間程度を資料や教科書を熟読にあて、そのフィードバックは講義時間内に行う。 出席は小テストで確認する。		
教材		
教科書：ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護、中島恵美子、山崎智子、竹内佐智恵 編、メディカ出版・平成25年、3,600+税 円 系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院・平成25年、2,500+税 円(成人看護学概論で購入) 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス、本庄恵子ら 監修、インターメディカ・2016年、3,900+税 円 参考書：基礎・臨床看護技術、任 和子ら 編修、医学書院・2014年、5,500+税 円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	周手術期看護 1 術前の看護	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第1部と第2部の3の熟読
2	周手術期看護 2 術中の看護	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の4の熟読
3	周手術期看護 3 術後の看護（術直後）	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の5の熟読
4	周手術期看護 4 術後の看護（術後回復期、退院後）	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の6の熟読
5	急性期（生命危機）患者への看護 1 急性循環不全（ショック）患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第4章の熟読
6	急性期（生命危機）患者への看護 2 呼吸不全、多臓器不全患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第5章の熟読
7	急性期（生命危機）患者への看護 3 意識障害（脳血管障害・頭部外傷）患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第6と7章の熟読
8	まとめ	
評価方法 および評価基準		
期末試験（筆記試験）80%、課題レポート10%、授業態度10%の総合得点100点満点とし、60点以上を合格とする。 S(100~90点)：充分に理解している。 A(89~80点)：理解している。 B(79~70点)：概ね理解している。 C(69~60点)：概ね理解されているが、復習に努めること。 D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心が必要な能力	
授業コード	BJ0301				
授業科目名	急性期看護援助論Ⅱ				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		
担当教員	柴山健三/中神友子				

講義目的		
1) 成人期の周手術期およびクリティカルな状況にある患者の紙上事例を用いた看護過程の展開および技術演習を通じて、対象者の健康問題に関する問題解決能力を習得する。		
2) 成人期の周手術期およびクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術を習得する。		
授業内容		
周手術期患者および急性期患者を紙上事例に用いて、情報収集・アセスメント・計画立案・計画実施後の評価までの看護診断過程を展開する。周手術期患者への実践的知識と技術として、術前検査(心電図)、酸素療法、ドレーン管理、術後早期離床および退院指導を学修する。クリティカルな状況にある患者への実践的知識と技術として気管挿管の介助、心肺蘇生、自動体外式除細動器の使用を学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
第1回講義時に課題を説明する。課題提出は必須とする。 予習・復習は60時間程度を資料や教科書を熟読することにあて、そのフィードバックは講義時間内に行う。		
教材		
<教科書>・疾患別看護過程の展開、山口瑞穂子ら 監修、Gakken、2014年、5800円+税 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④周手術期看護、中島恵美子ら 編集、メディカ出版、2017年、3600円+税(急性期看護援助論Ⅰで購入) ・系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院、2013年、2500円+税(成人看護学概論で購入) ・写真でわかる臨床看護技術2 アドバンス、本庄恵子ら 監修、インターメディカ、2016年、3900円+税(急性期看護援助論Ⅰで購入) <参考書>・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、任和子ら 監修、2014年、5500円+税、 ・NANDA-I看護診断、上鶴重美ら 監修、医学書院、2015年、3000円+税 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーベルヒロカワ、2013年、2300円+税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1, 2	周手術期・急性期の看護、周手術期の看護過程	成人看護学④「第1部」の熟読、
3, 4	周手術期患者への実践的技術と知識：深部静脈血栓予防	写真でわかる臨床看護技術「第12章」の熟読
5, 6	周手術期患者への実践的技術と知識：呼吸訓練	写真でわかる臨床看護技術「第12章」の熟読
7, 8	周手術期患者への実践的技術と知識：酸素療法、ドレーン管理	写真でわかる臨床看護技術「第1, 10章」の熟読
9, 10	周手術期の看護過程：グループワーク・発表	疾患別看護過程の展開「第4章」の熟読
11, 12	脳神経・呼吸器疾患の急性期看護	疾患別看護過程の展開「第1章」の熟読
13, 14	周手術期患者への実践的技術と知識：早期離床	写真でわかる臨床看護技術「第12章」の熟読
15, 16	消化器・循環器疾患の急性期看護	疾患別看護過程の展開「第2, 4章」の熟読
17, 18	周手術期患者への実践的技術と知識：術後患者の寝衣交換	写真でわかる臨床看護技術「第12章」の熟読
19, 20	周手術期患者への実践的技術と知識：退院指導	疾患別看護過程の展開「第6章」の熟読
21, 22	周手術期患者への実践的技術と知識：術後準備・観察	写真でわかる臨床看護技術「第12章」の熟読
23, 24	クリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術：心肺蘇生	基礎・臨床看護技術「第10章」の熟読
25, 26	クリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術：気管挿管	写真でわかる臨床看護技術「第5章」の熟読
27, 28	まとめの事例展開	
29, 30	まとめの事例展開	

評価方法 および評価基準

期末試験(筆記試験) 80%、課題レポート 10%、授業態度 10%の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。

S (100~90点) : 急性期にある患者の看護の展開、実践方法を十分に理解している

A (89~80点) : 急性期にある患者の看護の展開、実践方法を理解している

B (79~70点) : 急性期にある患者の看護の展開、実践方法を概ね理解している

C (69~60点) : 急性期にある患者の看護の展開、実践方法を概ね理解しているが、復習に努めること

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BJ0401				
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅰ				
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		
担当教員	加藤亜妃子				

講義目的		
1. 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴を理解する。 2. 代表的な慢性疾患を持つ患者の特徴を理解する。 3. 代表的な慢性疾患を持つ患者への看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点を理解する。 4. 代表的な慢性疾患を持つ患者への看護について理解する。		
授業内容		
慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護について理解する。特に、成人期の代表的な疾患を持つ患者の特徴や成人の看護について理解する。具体的には、慢性の呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害、運動機能障害に分けて、なかでも罹患者数が多い疾患をとりあげ、疾患の特徴と患者の特徴や看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点、看護について理解し、慢性期看護の必要性について理解する。		
慢性期看護の考え方、慢性期にある患者の特徴と看護の役割、呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害、運動機能障害を持つ患者の看護		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
授業の前日までに、教科書の該当箇所を読み、授業で扱う疾患や解剖生理について、これまでの関連する科目的教科書や授業資料等で復習をして、授業に参加すること。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）の学修）が必要である。		
小テストなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。また、個別のフィードバックが必要な場合は、時間外に実施する。		
教材		
教科書：成人看護学 慢性期看護論 第3版、鈴木志津恵、藤田佐和編集、ヌーベルヒロカワ・2014、2,600円+税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	慢性期看護の考え方、慢性期にある患者の特徴と看護の役割	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第I章1、2、3、5、II章1、5を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料を復習する。
2	慢性の呼吸機能障害を持つ患者への看護	『成人看護学：慢性期看護論』第IV章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
3	慢性の循環機能障害を持つ患者への看護	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第V章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
4	慢性の脳・神経機能障害を持つ患者への看護	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第VI章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
5	慢性の栄養摂取・消化機能障害を持つ患者への看護	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第VII章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
6	慢性の代謝機能障害を持つ患者への看護	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第VIII章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
7	慢性の内部環境調節障害を持つ患者への看護	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第IX章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
8	慢性の運動機能障害を持つ患者への看護 まとめ	予習：『成人看護学：慢性期看護論』第XII章を読む。 復習：授業で出した課題と授業資料、前回の小テストを復習する。
評価方法 および評価基準		
筆記試験80%、課題レポート10%、授業態度10%の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。		
S(100~90点)：慢性の疾患を持つ患者への看護について十分に理解できている。 A(89~80点)：慢性の疾患を持つ患者への看護について概ね理解できている。 B(79~70点)：慢性の疾患を持つ患者への看護について、不十分な点もあるが理解できている。 C(69~60点)：慢性の疾患を持つ患者への看護について理解しているが、復習に努める必要がある。 D(60点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			感覚するためには、必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成	豊かな人間性		
授業コード	BJ0501				広い視野		
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅱ				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	加藤亜妃子/永坂和子				探究心	○	

講義目的		
1. 成人期の慢性的な疾患を持つ患者の紙上事例を用いた看護展開を通して、対象者の看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス（判断能力、応用能力、問題解決能力）を修得する。		
2. 成人期の慢性的な疾患を持つ患者への看護の実践的知識と技術を習得する。		
授業内容		
慢性の循環機能障害、代謝機能障害、呼吸機能障害を持つ患者の紙上事例を用いて、アセスメントから計画立案までの看護過程を開示する。慢性疾患を持つ患者への実践的知識と技術として、血糖自己測定、インスリン製剤投与、吸引等の看護技術、患者教育のためのコミュニケーションスキルについて学修する。また、がん患者の事例を通して、患者や家族の体験の理解、問題解決への支援、症状緩和の看護、退院支援について学修する。 (共同方式／全30回)		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
毎回の授業で、復習する内容と次回までの事前課題について詳細を説明する。事前課題に取り組んでいない場合は、授業の参加を認めないことがある。 授業中に出された課題は必ず期限を守って提出すること。未提出の場合には、筆記試験は受験できない。 なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）の学修）が必要である。レポートなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。また、個別のフィードバックが必要な場合は、時間外に実施する。		
教材		
教科書： 1. 成人看護学 慢性期看護論 第3版、著者名：鈴木志津恵、藤田佐和編集、ヌーベルヒロカワ・20142、600円+税 2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版）、江川隆子、ヌーベルヒロカワ、2,300円+税 3. NANDA-I 看護診断（最新版）医学書院		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1-6	看護過程の展開① <加藤、永坂、林> 1. 事例紹介 慢性の循環機能障害を持つ患者の病態、治療方法の理解 2. 情報のアセスメント 3. 情報の解釈と統合 4. 看護問題の明確化 5-6. 看護計画の立案・発表	予習 ・『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版）』第1章-第12章を読んでおく。 ・事例を熟読し、患者の疾患・治療について学習しておく。 ・事前課題に取り組む。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
7-8	慢性の代謝機能障害を持つ患者への実践的知識と技術① 血糖自己測定の看護技術（演習）<永坂、加藤、林> 慢性の代謝機能障害を持つ患者への実践的知識と技術② インスリン製剤投与の看護技術（演習）<永坂、加藤、林>	予習 ・血糖自己測定の看護技術について資料を読んでおく。 ・インスリン製剤投与の看護技術について資料を読んでおく。 復習 ・演習の学びのまとめを期日までに提出する。
9-14	看護過程の展開② <永坂、加藤、林> 慢性の代謝機能障害（糖尿病）を持つ患者の病態、治療方法の理解 1. 事例紹介 2. 情報のアセスメント（GW） 3. 情報の解釈と統合（GW） 4. 看護問題の明確化（GW） 5. 看護計画の立案（GW）	予習 ・事例を熟読し、患者の疾患・治療について学習しておく。 ・事前課題に取り組む。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。

15-16	代謝機能障害を持つ患者への看護の実践的知識と技術 成人の患者教育、患者のセルフマネジメント支援 <永坂、加藤、林> 1. 患者教育のための指導内容の立案・計画 (GW) 2. 患者教育のための指導媒体の準備 (GW)	予習 ・成人看護学概論 第10、11回の教科書の該当部分と授業資料を復習しておく。 復習 ・各グループで発表の準備をしておく。
17-18	代謝機能障害を持つ患者への看護の実践的知識と技術② 患者教育のためのコミュニケーションスキル（演習） 看護過程の展開②（看護計画の評価）(GW) <永坂、加藤、林>	予習 ・各グループで発表準備をしておく。 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・患者教育のためのコミュニケーションスキルの学びを作成して期日までに提出する。 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。 ・このセッションのまとめを期日までに提出する。
19-22	看護過程の展開③ <加藤、永坂、林> 慢性の呼吸機能障害を持つ患者の病態、治療方法の理解 1. 事例紹介 2. 情報のアセスメント、解釈・統合 (GW) 3. 看護問題の明確化 (GW) 5. 看護計画の立案 (GW)	予習 ・事例を熟読し、患者の疾患・治療について学習をしておく。 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。 ・このセッションのまとめを期日までに提出する。
23-24	呼吸機能障害を持つ患者への看護の実践的知識と技術 吸引（口腔・鼻腔・気管内吸引）など呼吸器疾患者への看護技術 <永坂、加藤、林>	予習 ・吸引の看護技術について資料を読んでおく。 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
25	がん患者とその家族への看護① <加藤、永坂、林> 事例の紹介、がん患者とその家族、病態、治療方法の理解	予習 ・事例を熟読し、患者の疾患・治療について学習してておく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
26	がん患者とその家族への看護② (GW) <加藤、永坂、林> 事例の情報の解釈と問題解決のための支援 (GW)	予習 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
27	がん患者とその家族への看護③ (GW) <加藤、永坂、林> 症状緩和の看護 (GW)	予習 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
28	がん患者とその家族への看護④ (GW) <加藤、永坂、林> 退院支援 (GW)	予習 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
29	がん患者とその家族への看護⑤ <加藤、永坂、林> 患者のがんと共に生きる体験の理解 (GW)	予習 ・事前課題に取り組んでおく。 復習 ・授業内で不十分な部分を加筆・修正する。
30	がん患者とその家族への看護⑥ <加藤、永坂、林> 発表とまとめ	予習 ・発表の準備をしておく。 復習 ・このセッションのまとめを期日までに提出する。
評価方法 および評価基準		
<p>筆記試験 50%、課題レポート 40%、授業態度 10%の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>S (100~90 点) : 学習目標を十分に達成できている (Excellent)</p> <p>A (89~80 点) : 学習目標を概ね達成できている (Very Good)</p> <p>B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、学習目標を達成できている (Good)</p> <p>C (69~60 点) : 学習目標を最低限達成できている (Pass)</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BJ0601				
授業科目名	がん看護援助論				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		
担当教員	加藤亜妃子				

講義目的

がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助において、必要な知識を習得することができる。

授業内容

がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助において、必要な知識を理解する。具体的には、がんの早期発見とその予防についてその重要性とともに学ぶ。さらに、がんの代表的な治療法である手術・放射線・化学療法における看護について必要な知識を理解できる。またがんリハビリテーションやがん患者が生活していく上で必要な支援内容についても学ぶ。さらに、がんサバイバーへの援助、がん患者の家族・遺族ケアに必要な知識を習得できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

15名の少人数制のコースであり、予習・復習を行い、授業には積極的な姿勢で臨むこと。

予習・復習には、各 30 分程度時間を要する。

小テストなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。

※授業計画は、一部変更の可能性がある。詳細は、初回の授業で説明する。

教材

授業で紹介する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	がんの早期発見と予防、緩和ケアの理念、がん医療のプロセスと全人的苦痛	
2	がんの代表的な治療法と看護（1） 薬物療法・化学療法	
3	がんの代表的な治療法と看護（2） 放射線療法・手術療法	
4	がんリハビリテーション、がんサバイバーへの支援	予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。
5	がん医療・看護における倫理的な課題	
6	チームアプローチと看護師のストレスマネジメント、在宅緩和ケア	
7	終末期にあるがん患者への看護	
8	がん患者の家族のケア・遺族ケア	

評価方法 および評価基準

期末試験 90%、授業の参加態度 10%

S (100~90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B(79~70点)：学習目標を相応に達しているが不十分な点がある（Good）

C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている(Pass)

D(60未満)：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			感覚するために必要な能力 デイリープロマネジメントを達成するための能力	豊かな人間性	
授業コード	BJ0701				広い視野	
授業科目名	がん看護技術論				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	加藤亜妃子				探究心 ○	

講義目的	がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助において、必要な技術を習得することができる。																					
授業内容	がんに罹患し治療を受ける患者の看護援助において、必要な技術を習得する。具体的には、これまでの技術演習を再確認としての、術前・術後ケア、化学療法中のアセスメントと副作用に対する看護ケア、症状マネジメント、リンパ浮腫のケア、統合医療、がん看護におけるコミュニケーション、がん患者と家族への退院支援について理解し、これらについて必要な技術を習得できることをめざす。																					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	<p>15名の少人数制のコースであり、予習・復習を行い、授業には積極的な姿勢で臨むこと。予習・復習には、各30分程度時間を要する。</p> <p>小テストなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。</p> <p>がん看護強化コースの学生のみ受講できる。</p> <p>※授業計画は一部変更する可能性がある。詳細は、初回の授業で説明する。</p>																					
教材	毎回の授業で紹介する。																					
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション がん患者の術前・術後のケア</td> <td rowspan="8">予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>化学療法中のアセスメントと副作用に対する看護ケア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>症状マネジメント</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>リンパ浮腫のケア</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>がん看護におけるコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>がん患者と家族への意思決定の支援</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>統合医療</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>がん患者と家族への退院支援、まとめ</td> </tr> </tbody> </table>		回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	オリエンテーション がん患者の術前・術後のケア	予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。	2	化学療法中のアセスメントと副作用に対する看護ケア	3	症状マネジメント	4	リンパ浮腫のケア	5	がん看護におけるコミュニケーション	6	がん患者と家族への意思決定の支援	7	統合医療	8	がん患者と家族への退院支援、まとめ
回	内 容	学習課題（予習・復習）																				
1	オリエンテーション がん患者の術前・術後のケア	予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。																				
2	化学療法中のアセスメントと副作用に対する看護ケア																					
3	症状マネジメント																					
4	リンパ浮腫のケア																					
5	がん看護におけるコミュニケーション																					
6	がん患者と家族への意思決定の支援																					
7	統合医療																					
8	がん患者と家族への退院支援、まとめ																					
評価方法 および評価基準	<p>課題レポート 50%、授業への参加度 50%</p> <p>S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D (60点未満) : Cのレベルに達していない</p>																					

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			感覚するために必要な能力 ディプロマポリシーを達成するための能力	豊かな人間性	
授業コード	BJ0801				広い視野	
授業科目名	がん看護学外演習				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	加藤亜妃子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的			
がんに罹患し治療を受ける患者の看護を提供する際に、知っておくべき社会資源の実際を理解することができる。			
授業内容			
がんに罹患し治療を受ける患者や家族への看護を提供する際に、知っておくべき社会資源の実際を教授する。病院の中にあるがん患者会や家族会の活動の実際について見学の機会を提供する。またがん患者の就労や経済的な支援の実際を教授する。さらにがん看護分野の認定看護師やがん看護専門看護師の患者や家族のケアの実際について、その体験を講義する。 これらの学びを、ディスカッションを通してさらに深め、がん患者をサポートする人的資源や地域社会における資源の理解を深める演習を行う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
レポートなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。 がん看護強化コースの学生のみ受講できる。 ※授業計画は一部変更する可能性がある。詳細は、初回の授業で説明する。			
教材			
授業内に紹介する。			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	オリエンテーション 講義：がん患者をサポートする地域社会の資源について	予習：学外演習のための事前学習を提示する。	
2	学外演習のための事前準備		
3	学外演習 (がん患者を支援するための施設等の見学を予定)		
4			
5			
6			
7	演習の発表・グループ討議・まとめ		
8	演習の学びの発表		
評価方法 および評価基準			
課題レポート 50%、授業への参加態度 50%			
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)			
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)			
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)			
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)			
D (60 点未満) : C のレベルに達していない			

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学			感覚するために必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成する	豊かな人間性	
授業コード	BJ0901				広い視野	
授業科目名	がん看護演習				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	加藤亜妃子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的	<p>これまで学んだがん看護援助論、がん看護技術論、がん看護学外演習等で習得したがん看護の関連する知識、技術の統合を目指す。また、実際の事例検討を通して、がん看護の分野で働く看護師としての準備性を高める。</p>																					
授業内容	<p>これまで学んだがん看護援助論、がん看護技術論、がん看護学外演習等で習得したがん看護の関連する知識、技術の統合を目指す。また、実際の事例検討を通して、がん看護の分野で働く看護師としての準備性を高める。がん患者や家族の事例を検討し、がん患者と家族の意思決定について、チームでどのようにかかわるかを、ロールプレイ等を通して話し合い検討する。また緩和ケアやがん患者とのコミュニケーションもロールプレイを通して検討する。さらにより良い看護実践や、がん看護について検討する。</p>																					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	<p>これまで学んだ知識と技術を統合されることを心がけ、予習と復習を行う。 ディスカッションには積極的に参加すること。 4年前期の「がん看護援助論」「がん看護技術論」「がん看護学外演習」の科目すべての単位を修得していること。 レポートなどのフィードバックは、その都度授業時間内に行う。 ※授業計画は一部変更する可能性がある。詳細は、初回の授業で説明する。</p>																					
教材	<p>授業内に紹介する。</p>																					
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>がん患者と家族のケア提供についての事例検討 1</td> <td rowspan="9">予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td> <td>がん患者と家族のケア提供についての事例検討 2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事例検討を通して、計画立案 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事例に関する演習の準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>事例に関する演習の発表</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>事例演習のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>		回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	がん患者と家族のケア提供についての事例検討 1	予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。	2	がん患者と家族のケア提供についての事例検討 2	3	事例検討を通して、計画立案 1	4	事例に関する演習の準備	5		6	事例に関する演習の発表	7		8	事例演習のまとめ
回	内 容	学習課題（予習・復習）																				
1	がん患者と家族のケア提供についての事例検討 1	予習：毎回の授業で提示する。 復習：本日の授業資料を復習する。																				
2	がん患者と家族のケア提供についての事例検討 2																					
3	事例検討を通して、計画立案 1																					
4	事例に関する演習の準備																					
5																						
6	事例に関する演習の発表																					
7																						
8	事例演習のまとめ																					
評価方法 および評価基準	<p>演習発表準備・資料等 50%、授業への参加度およびディスカッションの様子 50%</p> <p>S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>																					

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感するためには 豊かな人間性 デイプロマポリシーを達成するためには 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BJ2101				
授業科目名	高齢者看護学概論				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		
担当教員	臼井キミカ/安藤純子				

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の発達課題と高齢者看護の理念及び各種理論について説明できる 2. 加齢現象とその受容過程について理解し、わが国の高齢化現象の特徴を説明できる 3. 高齢者の QOL の向上を志向した看護や高齢者的人権と看護の倫理的責務を理解できる 4. 高齢者虐待の予防と防止活動について理解できる 5. 介護保険サービス内容について説明できる 6. 高齢者の思いと、高齢者を介護する家族の思いを理解できる 		
授業内容		
<p>高齢期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウェルネスと QOL の視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる援助のあり方について理解し、高齢者の人権や権利擁護について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(臼井キミカ／9 回)</p> <p>高齢者看護学を理解するための基盤・高齢者看護の理念と目標と高齢者看護の対象となる人々の特徴・高齢者看護に活用できる理論・アプローチ・療養生活への支援・生かし生かされる地域づくり・高齢者看護学の課題</p> <p>(安藤純子／6 回)</p> <p>高齢者看護学における対象の見方・とらえ方・「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護・療養生活への支援（薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護）・尊厳ある介護と看取り・家族介護者の生活支援</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<ol style="list-style-type: none"> 1. この科目を失格した場合、「在宅高齢者看護学実習」は履修できません。その自覚をもって、授業に臨んでください（20 分以上の遅刻、早退は欠席となります） 2. 高齢者看護学の基礎となる科目であり、主体的な学修を求めます 3. この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ 60 時間の授業外学修（学習課題に示されている内容の学修）が必要です 4. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います 		
教材		
<p>①書名：看護学テキスト NICE 老年看護学概論（改訂第 2 版）「老いを生きる」を支えることとは、著者名：正木治恵、真田弘美編、出版社・出版年：南江堂・2011 年、ISBN 978-4-524-259014、価格：3,024 円</p> <p>②書名：これからの高齢者看護、著者名：島内節、内田陽子編、出版社・出版年：ミネルヴァ書房・2018 年</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	高齢者看護学を理解するための基盤（老いの意味、老年期の理解） (臼井)	老いの意味、老年期の理解について自己学習して講義に参加する。
2	高齢者看護学を理解するための基盤（高齢者をとりまく社会制度） (臼井)	高齢者をとりまく社会制度について最新の情報をインターネットなどで収集して講義に参加する。
3	高齢者看護の理念と目標と老年看護の対象となる人々の特徴（からだ、こころ、かかわり） (臼井)	高齢者看護の対象となる人々の心身の特徴について自己学習して講義に参加する。
4	高齢者看護の対象となる人々の特徴（暮らし、生きがい、歳月の積み重ね） (臼井)	高齢者の生活構造、生活習慣・生活様式と生きがい、生活史、健康歴、文化や価値観について、5 月の連休中に後期高齢者にインタビューしてレポートを作成し、提出する（課題レポート 1）。
5	高齢者看護に活用できる理論・アプローチ (臼井)	IV 章を読み、好みの理論を 1 つとりあげて、連休中にインタビューした後期高齢者の事例を当てはめて説明できるかをレポートし、講義時にその内容を発表する。 小テスト実施。

6	高齢者看護学における対象の見方・とらえ方（対象特性、対象理解） (安藤)	高齢者の特性と高齢者法の理解について自己学習して講義に参加する。
7	高齢者看護学における対象の見方・とらえ方（対象理解に活用できる指標とツール） (安藤)	高齢者の理解に活用できる指標とツールについて自己学習して講義に参加する。
8	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護（安藤）	高齢者の「豊かな生」を創出に必要な支援方法について自己学習して講義に参加する。
9	療養生活への支援（薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護） (安藤)	薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護について自己学習して講義に参加する。
10	療養生活への支援（認知症高齢者への看護1） (臼井)	「認知症の人と家族の会」のホームページの検索や、新オレンジプランに関する情報を収集して講義に参加する。小テスト実施。
11	療養生活への支援（認知症高齢者への看護2） (臼井)	認知症高齢者ケアに関する先駆的な取り組み（実践報告・国内外を問わない）を調べてレポートを作成する（課題レポート2）。
12	尊厳ある介護と看取り (安藤)	第VII章を自己学習して講義に参加する。
13	家族介護者の生活支援 (安藤)	我が国の家族介護者の生活実態について最新の情報を収集して講義に参加する。
14	生かし生かされる地域づくり (臼井)	各自が居住する地域の高齢者に関する社会資源について情報収集し、講義に参加する。
15	高齢者看護学の課題 (臼井)	インターネットや各種学会抄録集（日本老年看護学会・日本看護科学学会・日本認知症ケア学会等）から高齢者看護学の課題について自己学習して講義に参加する。

評価方法 および評価基準

小テスト 20%、期末試験 50%、課題レポート 20%、授業への参加状況 10%

S (100~90点) : 講義で学んだ内容を十分理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を十分に説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を明確にできる。

A (89~80点) : 講義で学んだ内容を理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を概ね説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を明確にできる。

B (79~70点) : 講義で学んだ内容を理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を不十分ながら説明できる。講義に参加し、自己の課題を学ぶことができる。

C (69~60点) : わが国の高齢者看護学の概要と課題を学ぶことができる。講義に参加し、自己の課題を不十分ながら知ることができる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するためには、必要な能力 デイリーマンボリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BJ2201				広い視野	
授業科目名	高齢者看護援助論 I				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	臼井キミカ/安藤純子/甲村朋子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
1. 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、高齢者の機能を総合的に評価できる		
2. 加齢に伴う生活機能障害の特徴とその要因、及び生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する		
授業内容		
<p>高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢者がより“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術について学ぶ。すなわち、高齢者に特徴的な感覚機能障害や摂食・嚥下障害などの老年症候群の原因について理解し、それらの障害がどのように高齢者の生活に影響し、さらに高齢者自身のセルフケアの促進や予防を含めた看護について創造的・実践的に理解できる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(臼井キミカ／2回) 高齢者の理解と基本看護技術</p> <p>(安藤 純子／3回) 老年症候群と看護</p> <p>(甲村 朋子／3回) 加齢変化とフィジカルアセスメントの技術</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>1. 高齢者看護学概論が履修済みであること</p> <p>2. この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ30時間の授業外学修（学習課題に示されている内容の学修）が必要です</p> <p>3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行いますが、個別へのフィードバックは時間外に設定します</p>		
教材		
<p>①書名：看護学テキスト NiCE 老年看護学技術（改訂第2版） 最後までその人らしく生きることを支援する、著者名：真田弘美、正木治恵編、出版社・出版年：南江堂・2017年、ISBN：978-4-524-25902-1 價格：3,456円</p> <p>②書名：生活機能からみた 老年看護過程 第3版+病態・生活機能関連図、著者名：山田律子、萩野悦子、内ヶ島伸也、井出訓編、出版社・出版年：医学書院・2016年、ISBN:978-4-260-02836-3、価格:3,888円</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	高齢者の理解（高齢者の発達的特徴と環境、生活不活発病、老年症候群、老年病）（臼井）	第I章を読み高齢者とその家族を生活機能の視点から考える
2	高齢者看護の基本技術（ヘルスアセスメント）（臼井）	第II章を読み高齢者の身体的・精神的特徴とアセスメントについて説明できる
3	高齢者の生活と看護(加齢変化とフィジカルアセスメントの技術1)（甲村）	第III章 1.呼吸、2.食事、3.排泄を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる
4	高齢者の生活と看護(加齢変化とフィジカルアセスメントの技術2)（甲村）	第III章 4.動作と移動、5.睡眠、6.体温を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる
5	高齢者の生活と看護(加齢変化とフィジカルアセスメントの技術3)（甲村）	第III章 7.清潔、8.コミュニケーション、9.性を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる
6	老年症候群と看護（感覚器障害、尿失禁、便秘・下痢等）（安藤）	第IV章 2.感覚機能障害、9.尿失禁、10.便秘・下痢を読み、対象に求められている看護について考える
7	老年症候群と看護（摂食・嚥下障害、低栄養・脱水等）（安藤）	第IV章 3.摂食・嚥下障害、4.脱水、5.低栄養を読み、対象に求められている看護について考える
8	老年症候群と看護（せん妄、寝たきり、転倒等）（安藤）	第IV章 13.寝たきり、14.せん妄、15.転倒を読み、対象に求められている看護について考える

評価方法 および評価基準

小テスト 10%、期末試験 50%、課題レポート 20%、授業への参加状況 20%

- S (100~90 点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解し、説明できる。
- A (89~80 点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解できる。
- B (79~70 点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に不十分であるが理解できる。
- C (69~60 点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について理解しようと努力している。
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を達成するためには、ディープ・ロマ・ポリシーを達成するためには、必要な能力	
授業コード	BJ2301				
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅱ				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		
担当教員	臼井/安藤/甲村/櫻井				

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の場(自宅や施設・病院等)の特徴を理解し、QOL を高める看護活動について考察できる 2. 加齢に伴う変化や疾病・障害を理解し必要な看護活動について考察できる 3. 高齢期に特徴的な疾患の看護について理解できる 4. 高齢者自らの健康レベルに応じた生活を支援する看護について実践的に考え、理解できる 5. 認知症高齢者の自己決定を支える看護や権利擁護について検討できる 6. 高齢者のアクティビティケアについて理解し企画することができる 7. 高齢者を介護する家族の支援について考察できる 8. 高齢者が最期まで尊厳をもって生活するための支援について理解できる 9. 高齢者の看護を総合的に理解し、看護計画を立てることができる 		
授業内容		
<p>高齢者の加齢に伴う変化や疾病・障害を理解し、個性豊かに高齢期を生きる人々の健康のレベルに応じた生活を支援する看護について学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や権利擁護とその家族の支援について学びを深める。また、高齢者が生活するさまざまな場の特徴を理解し、それぞれの場に応じ、高齢者とその家族の QOL を高める看護活動について考え、高齢者が最期まで尊厳をもって生活するための支援について学ぶ。授業方法はグループ演習を含む。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰが履修済みであること 2. 看護専門科目であり、主体的・積極的な学修を求める 3. 授業評価には授業後の課題レポートを含む 4. 5回以上の欠席で失格となる(20分以上の遅刻・早退は欠席となる)。この科目を失格した場合、「高齢者看護学実習」は履修できなくなることを自覚して授業に臨むこと <p>なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学習課題:予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。課題に対するフィードバックは、可能な限り各講義時間内に行うが、レポートについては各講義時間内にその方法を提示する</p>		
教材		
教科書		
<p>① 書名:看護学テキスト NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する、著者名:真田弘美、正木治恵編、出版社・出版年:南江堂・2011年、ISBN:978-4-524-26063-8 價格:3,456円</p> <p>② 書名:生活機能からみた 老年看護過程 第3版+病態・生活機能関連図、著者名:山田律子、萩野悦子、内ヶ島伸也、井出訓編、出版社・出版年:医学書院・2016年、ISBN:978-4-260-02836-3、價格:3,888円</p>		
参考書		
<p>① 書名:老年看護技術【第2版】—アセスメントとその根拠—、著者名:奥野茂代、大西和子 出版社・出版年:ヌーヴェルヒロカワ・2008年、ISBN 978-4-86174-019-0 價格:2,268円</p> <p>② 書名:高齢者検査基準ガイド-臨床的意義とケアのポイント-, 編者:下方浩史, 出版社・出版年:中央法規・2011年、ISBN:978-4-8030-2 價格:2,592円</p>		
授業計画および学習課題(予習・復習)		
回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	高齢者の健康レベルと生活・療養の場の特徴 (臼井)	高齢者に対する医療・保健・福祉政策の最近の動向について自己学習して講義に参加する
2	高齢者のQOLとコミュニケーション (安藤)	第Ⅲ章「8.コミュニケーション」を読み、高齢者に特徴的なコミュニケーションとQOLの関連について自己学習して講義に参加する
3	高齢者とコミュニケーション(プロセスレコード) (安藤)	講義で用いたプロセスレコードを完成し、提出する(課題レポート1)

4	高齢者の薬物療法 (臼井)	第V章「7. 薬物療法」を読み、高齢者の薬物療法上の留意事項を自己学習して講義に参加する
5	高齢者と急性期の看護 (甲村)	第V章「1. 急性期の看護」を読み、看護の要点を自己学習して講義に参加する
6	高齢者とリハビリテーション看護 (甲村)	第V章「2. リハビリテーション看護」を読み、高齢者のリハビリテーションに必要な要点を自己学習して講義に参加する
7	高齢者看護と権利擁護 (臼井)	概ね半年以内に起きた権利侵害事件を調べてその概要をまとめて講義に参加する。講義後にレポートを提出する（課題レポート2）
8	認知機能障害と看護 (臼井)	第V章「4. 認知機能障害の看護」を読み、必要な看護の要点を自己学習して講義に参加する
9	認知機能障害を持つ高齢者を介護する家族の支援（臼井）	概ね半年以内に起きた「認知症高齢者の家族介護問題」を情報収集し、その問題の背景等について自己学習して講義に参加する
10	死と終末期の看護 (安藤)	第V章「5. 緩和ケアB進行・終末期」を読み、高齢者の死と終末期の看護について自己学習をして講義に参加する
11	高齢者と緩和ケア (安藤)	第V章「5. 緩和ケア」を読み、高齢者の緩和ケアについて自己学習して講義に参加する
12	アクティビティケア① (臼井、安藤、甲村、櫻井)	高齢者の自律と尊厳を支えるアクティビティケアであると判断した活動を情報収集して講義に参加する
13	アクティビティケア② (臼井、安藤、甲村、櫻井)	グループ演習で取り組んだアクティビティケアの取り組みを完成して提出する（課題レポート3）
14	看護過程の展開① (臼井、安藤、甲村、櫻井)	看護過程展開の事例を事前に提示するので、その内容について事前学習して講義に参加する
15	看護過程の展開② (臼井、安藤、甲村、櫻井)	演習した看護過程を完成して提出する（課題レポート4）
評価方法 および評価基準		
期末試験 65%、課題レポート 25%、授業への参加状況 10%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するためには、必要な能力 デイリーマンボリシーを達成するためには、必要な能力 豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BJ2401				
授業科目名	認知症看護援助論				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		
担当教員	安藤純子/甲村朋子				

講義目的		
わが国の認知症発症率の高さと認知症高齢者数の急増に鑑み、先駆的・実践的な認知症高齢者看護について学ぶ。すなわち認知症高齢者の意思を尊重し、権利を擁護することを目的として、認知症高齢者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、質の高い看護実践や生活・療養環境のアセスメントと調整ができるための基本的能力を育成することを目的とする。		
授業内容		
認知症の代表的な原因疾患とその特徴、及び症状に対応した最新の知識と技術について学ぶ。また、最新の薬物療法と非薬物療法の実際について知り、認知症高齢者とその家族に対する質の高い看護実践ができるための基本的技術について学ぶ。さらに、告知やターミナルケアなどの認知症をめぐる今日的な課題や、諸外国の先駆的な取組について知り、課題を明らかにする。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>1. 高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ、高齢者看護援助論Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習が履修済みであること</p> <p>2. この科目的単位を履修するにあたり、おおよそ30時間の授業外学修（学修課題に示されている内容の学修）が必要です</p> <p>3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行いますが、個別へのフィードバックは時間外に設定します</p>		
教材		
その都度資料を配布します		
参考書 書名：認知症の人のためのケアマネジメント センター方式の使い方・活かし方（三訂版）著者名：認知症介護研究研修東京センター他 出版社・出版年：認知症介護研究研修東京センター・2011年 ISBN：978-4-8058-3444-2 價格：3,672円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	認知症の代表的な原因疾患とその特徴と看護（安藤）	認知症の主な原因とその特徴について事前学修する
2	認知症の中核症状とBPSDの予防・緩和（安藤）	認知症の中核症状とBPSDについて事前学修し、それぞれの症状の主な原因・誘因と緩和の具体的な方法について調べて講義に参加する
3	認知症の薬物療法と非薬物療法（安藤）	認知症の主な薬物療法と非薬物療法の概要について事前学修し、講義に参加する
4	わが国と諸外国の認知症に関する保健・医療・福祉制度の概要と課題（甲村）	わが国の最新の認知症施策とその課題について具体的に調べ、更に、北欧、オーストラリア等の先進的な施策について事前学修する
5	認知症看護における倫理的課題と対応（甲村）	3年次後期の高齢者看護学実習で体験した認知症高齢者に対する倫理的課題についてレポートして講義に参加する（個人情報等については匿名化やアレンジをする）
6	認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと調整（甲村）	3年次後期の高齢者看護学実習で担当した事例のアセスメントについてレポートして講義に参加する（個人情報等については匿名化やアレンジすること）
7	認知症高齢者の介護家族の特徴と支援の実際（甲村）	3年次後期の高齢者看護学実習で担当した事例の家族についてレポートして講義に参加する（個人情報等については匿名化やアレンジすること）
8	認知症をめぐる今日的課題（告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア）（安藤）	認知症の当事者への告知等をめぐる今日的課題に関して具体的な事例について調べ、講義に参加する
評価方法 および評価基準		
課題レポート 70%、授業への参加状況 30%		
S(100~90点)：講義目的をほぼ完全に達成している（Excellent）		
A(89~80点)：講義目的を相応に達成している（Very Good）		
B(79~70点)：講義目的を相応に達成しているが不十分な点がある（Good）		
C(69~60点)：講義目的の最低限は満たしている（Pass）		
D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するためには、必要な能力 デイリーマンボリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BJ2501				広い視野		
授業科目名	認知症看護技術論				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	臼井/安藤/甲村/櫻井				探究心	○	

講義目的		
認知症高齢者の健康と尊厳ある生活を支援するために必要なコミュニケーション技術、回想、アクティビティケア、コンフォートケアなどの基本的な援助技術を取り上げ、その原則・視点と実際について実践的に学ぶことを目的とする。		
授業内容		
認知症高齢者の思いを正しく理解し、認知症高齢者の健康と尊厳ある生活を支援するために必要なコミュニケーション技術、回想、アクティビティケア、認知リハビリテーション、コンフォートケアなどの基本的な援助技術を取り上げ、その具体的な実践内容と留意点について実践的に学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>1. 高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ、高齢者看護援助論Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習が履修済みであること</p> <p>2. この科目的単位を履修するにあたり、おおよそ30時間の授業外学修（学修課題に示されている内容の学修）が必要です</p> <p>3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行いますが、個別へのフィードバックは時間外に設定します</p>		
教材		
その都度資料を配付する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	認知症高齢者の特性をふまえたコミュニケーション（安藤）	認知症高齢者への支援においてどのようなコミュニケーションが求められているのかを3年次後期に体験した事柄から特にコミュニケーションを閲して自分の考えをまとめて講義に参加する
2	認知症高齢者とのコミュニケーションの実際（安藤）	認知症高齢者とのコミュニケーションで留意したい内容について自分の考えを具体的に言語化して講義に参加する
3	認知症高齢者の回想法（個人）（臼井）	認知症高齢者に対する個人回想法のプロセスについて事前学修して講義に参加する
4	認知症高齢者の回想法（小集団）（臼井）	認知症高齢者に対する小集团单回想法のプロセスについて事前学修して講義に参加する
5	認知リハビリテーション（甲村）	認知症高齢者に対する認知リハビリテーションについて事前学修して講義に参加する
6	アクティビティケア（甲村）	認知症高齢者に対するアクティビティケアの進め方、留意点について事前学修して講義に参加する
7	認知症高齢者に対するコンフォートケア①（臼井、安藤、甲村、櫻井）	認知症高齢者に対するコンフォートケアの具体例について事前学修して講義に参加する
8	認知症高齢者に対するコンフォートケア②（臼井、安藤、甲村、櫻井）	認知症高齢者に対する具体的なコンフォートケアの内容について事前学修して講義に参加する
評価方法 および評価基準		
課題レポート 70%、授業への参加状況 30%		
S(100~90点) : 講義目的をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A(89~80点) : 講義目的を相応に達成している (Very Good)		
B(79~70点) : 講義目的を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)		
C(69~60点) : 講義目的の最低限は満たしている (Pass)		
D(60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するためには、必要な能力 デイ・プログラム・ポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BJ2601				広い視野		
授業科目名	認知症看護学外演習				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	臼井・安藤・甲村・櫻井				探究心	○	

講義目的		
認知症高齢者のケアでは「最期までその人らしく」を支えることが大切であり、その目的達成のためには各種社会資源の活用や他機関・他職種との連携体制の構築が必須要件である。しかも、本人の思いや認知症の進行・経過に伴って資源・制度が適切に選択できるためには、看護職の役割として資源・制度の概要や関係職種等を深く理解していることが求められる。		
授業内容		
認知症高齢者ケアに必要な社会資源として認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設、「認知症の人と家族の会」愛知県支部等を見学訪問し、その概要・現状と課題について評価分析し、今後よりよい認知症高齢者ケアの方向性について検討する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>1. 高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ、高齢者看護援助論Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論、認知症看護技術論が履修済みであること</p> <p>2. この科目的単位を履修するにあたり、おおよそ30時間の授業外学修（学修課題に示されている内容の学修）が必要です</p> <p>3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行いますが、個別へのフィードバックは時間外に設定します</p>		
教材		
その都度資料を配付する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1 ・ 2	認知症ケアに必要な社会資源の見学 ① グループホーム	質の高い認知症ケアを行うための社会資源としてどのような施策・サービスが必要なのかを事前学修し、特にグループホームでのサービスのあり方を事前学修する
3 ・ 4	認知症ケアに必要な社会資源の見学 ② 国立長寿医療研究センター病院	質の高い認知症ケアを行うための社会資源として国立長寿医療研究センター病院（もの忘れセンター外来・看護外来、高齢者総合診療科、認知症・老年科西病棟など）の概要について事前学修する
5 ・ 6	認知症ケアに必要な社会資源の見学 ③ 「認知症の人と家族の会」愛知県支部	質の高い認知症ケアを行うための社会資源としてセルフヘルプグループ活動としてどのような内容があるのかを事前学修し、認知症の人と家族の会の活動の概要についてインターネット等で調べる
7	1. 見学施設①②の特徴と学んだことのレポート（個人）を作成し発表・意見交換。 2. 見学③で学んだ「認知症の人と家族の会」での当事者の悩みの具体的な内容についてKJ法等を用いてその概要をまとめる。 3. 以上から認知症ケアに関する社会資源の現状と課題についてグループワークする。	これまで見学した認知症ケアに必要な社会資源の概要と特に質を高めるための工夫や課題について各自がレポートを作成して意見交換に臨む
8	私が利用したい・理想と考える認知症ケアの条件についてディスカッションし、まとめ、レポート提出する。	前回のグループディスカッションでの意見交換内容を踏まえて、よりよい認知症ケアについて各自がレポートしてディスカッションに臨む
評価方法 および評価基準		
課題レポート 80%、演習参加状況 20%		
S (100~90点) : 講義目的をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80点) : 講義目的を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70点) : 講義目的を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60点) : 講義目的の最低限は満たしている (Pass)		
D (60点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学			感覚するために必要な能力 デイリーマンボリシーを達成するための知識・技術 判断力 探究心	豊かな人間性					
授業コード	BJ2701				広い視野					
授業科目名	認知症看護演習				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>					
担当教員	臼井キミカ/安藤純子				探究心 <input checked="" type="radio"/>					
講義目的										
これまでに学んだ認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習の内容と、統合実習で担当した認知症高齢者の事例を用いて実践した看護を分析・評価し、認知症高齢者ケアの統合を図ることがこの科目的目的である。										
授業内容										
認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習等で学んだ内容と、統合実習で担当した認知症高齢者の事例を用いて実践した看護を振り返って評価・分析する。不十分であった看護内容については文献を用いて総合的に整理し、よりよい認知症高齢者ケアについて発展的に考察する。										
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）										
1. 高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ、高齢者看護援助論Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習を履修していること。 2. この科目的単位を履修するにあたり、おおよそ30時間の授業外学修（学修課題に示されている内容の学修）が必要です 3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行いますが、個別へのフィードバックします。										
教材										
その都度使用を配布します										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容	学習課題（予習・復習）								
1 2	認知症高齢者看護における倫理的課題の概要とその実際に ついて事例を通じ学ぶ (臼井)	事前に事例を配布するので、よく読んで質問事項をまとめ、自分なりのケア方法を考えて参加すること								
3 4	生活・療養環境のアセスメントの実際とその課題について 事例を通して学ぶ (安藤)	事前に事例を配布するので、よく読んで質問事項をまとめ、自分なりのケア方法を考えて参加すること								
5 6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントとその看護について事 例を通して学ぶ (安藤)	事前に事例を配布するので、よく読んで質問事項をまとめ、自分なりのケア方法を考えて参加すること								
7	認知症の予防活動 (臼井)	認知症の予防活動について先進事例を検索して演習に参加する								
8	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア (臼井)	事前に事例を配布するので、よく読んで質問事項をまとめ、自分なりのケア方法を考えて参加すること								
評価方法 および評価基準										
課題レポート 80% 演習への参加状況 20%										
S (100~90点) : 講義目的をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89~80点) : 講義目的を相応に達成している (Very Good) B (79~70点) : 講義目的を相応に達成しているが不十分な点がある (Good) C (69~60点) : 講義目的の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : Cのレベルに達していない										

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BK0101				
授業科目名	在宅看護学概論				
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		
担当教員	福田由紀子/山本純子				

講義目的

在宅で療養する人とその家族・生活環境、健康上の課題を理解し、質の高い療養生活を安定して継続できるよう支援するために、在宅看護の概念・諸制度を理解し、生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解する。

授業内容

在宅看護の目的と特性を踏まえた社会動向と在宅看護における保健・医療・福祉制度に基づいた在宅ケアプランの理解ができるよう、諸外国・日本の変遷・社会の現状などをグループや個々での課題学修を交えて授業を展開する。また、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を捉えた看護を考えた在宅ケアの特徴及びサービス、多職種の連携、システムや在宅で療養している本人・家族の介護力、負担を理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本科目は在宅看護学における基礎となる科目であり、後期につづく在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱの演習や4年生の在宅看護学実習などの科目の基盤となる科目である。さらに、在宅看護の概念や諸制度・訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえた看護の役割を理解することが必要となるため、社会の動向や自分の生活に関心を持って積極的に受講することが条件となる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。授業評価、確認テストや課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行う。さらに、個別へのフィードバックは時間外に設定する。

教材

教科書：これからのはな看護論：編集者：島内節・亀井智子：ミネルヴァ書房

よくわかる地域包括ケア：編集者：黒田研二 他：ミネルヴァ書房

参考文献：写真でわかる訪問看護 アドバンス：インターメディカル

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅看護の理念・定義 在宅看護の目的と特徴、利用者家族へのかかわり方 (山本)	予習：第1章を熟読する。 復習：在宅看護の歴史から、理念を考え、地域に根ざした在宅看護の役割を理解できる。
2	在宅看護の役割と特徴 (福田)	予習：第2章を熟読し、在宅看護学の役割を考える。 復習：第1回の講義から生活を踏まえた、在宅看護の役割と特徴が理舞できる。
3	在宅看護のためにアセスメント指標 (福田)	予習：第3章を熟読する。 復習：これまでに学んだアセスメントを復習し、アセスメントについて説明できる。在宅看護のアセスメント指標が理解できる。
4	在宅ケアを支える制度 (福田)	予習：第4章を熟読する。新聞やニュースから社会背景や在宅医療・介護制度の変化や問題について把握する。 復習：介護保険・医療保険制度について理解できる。
5	在宅看護とケアマネジメント (山本)	予習：第5を熟読する。 復習：訪問看護師が多職種と連携し、利用者・家族の健康管理とその調整の必要性を理解することができる。
6	在宅における介護予防とリスク予防 (福田)	予習：第6章を熟読する。 復習：高齢者の生活を理解し、介護予防とリスク予防について看護ケアを考えることができる。
7	クオリティーを高める生活支援 (福田)	予習：第7章を熟読する。 復習：在宅療養者の生活支援について理解できる。
8	在宅ケアにおける処方薬治療の継続と看護 (山本)	予習：第8章を熟読する。 復習：各疾患による薬剤の服用の工夫及び内服管理の必要性が理解できる。
9	リスクの高い利用者の予防とケア (山本)	予習：第9章を熟読する。 復習：在宅における重症度の高い利用者のケアニーズ対応と予防が理解できる。
10	うつ・認知症の予防 (福田)	予習：第10章を熟読する。 復習：うつ・認知症について理解し、今後の認知症の予防について考えることができる
11	在宅における医療処置の工夫と留意点 (福田)	予習：第11章を熟読する。 復習：医療処置の工夫と留意点について理解できる。

12	在宅療養者に多い疾患の進行予防とケア （福田）	予習：第12章を熟読する。在宅療養者に多い疾患を調べる。 復習：疾患の進行予防とケアに事例について理解できる。
13	こどもの在宅看護 （山本）	予習：第13章を熟読する。 復習：在宅で療養するこどもを介護する家族を理解する。
14	在宅ケアの効果的な運営 （山本）	予習：第14章を熟読する。 復習：訪問看護ステーションの経営と管理が理解できる。
15	在宅ケアにおける災害看護・まとめ （山本・福田）	予習：第15章を熟読する。 復習：在宅における災害時を予測したケアの必要性が理解できる。

評価方法 および評価基準

期末試験 60%、課題レポート 40%を総合評価とし、60点以上を単位認定とする。

S (100~90点) : 在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題を抽出でき、在宅看護の概念・諸制度が理解できる。また、生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護の基礎的知識を修得し、在宅看護技術・態度が理解できる。さらに、社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

A (89~80点) : 在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題を理解し、在宅看護の概念・諸制度が理解できる。生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護の基礎的知識を理解し、技術・態度が説明できる。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアまたは、多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

B (79~70点) : 在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題と在宅看護の概念・諸制度が理解できる。在宅看護に必要な看護の基礎的知識・技術・態度が説明できる。

C (69~60点) : 在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題、在宅看護の概念・諸制度が理解でき、在宅看護に必要な看護の基礎的知識・技術・態度がわかる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BK0201				
授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ				
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		
担当教員	石井英子/福田由紀子/山本純子				

講義目的

在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫があることを理解できる。また、在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画に沿った看護技術を修得できる。

授業内容

在宅看護学援助論Ⅰについては、日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見極める判断力を養うことができるようシミュレーションによる授業の展開とグループ学習の実施する。また、在宅看護のイメージ化を図ることが重要である。そのため、基本的日常生活や医療的処置など在宅看護の特徴を学修し、その技術を習得する授業内容を進め、在宅ケアにおける役割と対象者と家族が暮らす地域の環境と社会資源やネットワークが理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

在宅看護学授業では、事例を通して、個々の学生に考えさせ、在宅の生活支援と医療依存度の高い療養者及びそこで生活している環境（特にバリアフリーなどの住環境）重視し、設計図を書かせ理解度を評価する。また、グループで仕上げる楽しみに加え、学習意欲が高まるため、時間外での学修を実施する。したがって、授業はやむを得ない理由でない限り、毎回参加する学修の結果を期日・時間の厳守にて決められた資料の提出ができるようにする。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。また、授業では事例から在宅看護過程の展開を一部するためその成果はグループ間で発表できるまでに設定し、共有する。

教材

教科書：在宅看護論 地域療養を支えるケア、出版社：メディカ出版

参考文献：在宅看護論。出版社：医学書院

これからのはなき看護：編集者：島内 節：ミネルヴァ書房：2014

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅療養者のアセスメントと支援 在宅看護の目的と特徴、家族への関わりの理解 (山本純子・福田由紀子)	予習：第1章、第2章を熟読する。 復習：在宅看護の施設、病院の違いと家族支援の特徴を捉えて在宅療養生活の重要性を考えることができる。
2	在宅看護過程展開 在宅で療養している利用者・家族の理解、退院調整 主な疾患の特徴と在宅看護—1 (ADL 低下・自立支援) (山本純子・福田由紀子)	予習：第3章を熟読する。在宅看護学過程の必要性とその概要を理解する。 復習：在宅看護に必要なケア方法を考える指標、家族支援も含めたケア立案が理解できる。
3	在宅看護過程：情報収集～アセスメント グループワークを通して、主な疾患の特徴と在宅看護-Ⅱ（難病患者・医療依存度の高い患者）在宅で療養している利用者・家族の理解、社会資源の活用 (福田由紀子・山本純子)	予習：演習要項、事例概要を熟読し、事例について理解する。 復習：在宅看護に必要なケア立案の具体的な方法を学ぶことができる。それを用いて個々の利用者の疾患の特徴を捉えた看護計画を考えることができる。
4	在宅看護における多職種との連携とケアマネジメント ①関連職種とその役割 ②ケアマネジメント過程と介護保険申請のシミュレーション (石井英子)	予習：第4章を熟読する。 復習：平成21年度版、要介護度認定 一次判定のシミュレーションから訪問看護対象者の援助内容を考える。
5	主な特徴と在宅看護-Ⅲ（終末期療養者・QOL を高めるケア）及び住宅環境整備からの在宅ケアシステム (石井英子)	予習：第5章を熟読する。 復習：あなたの住んでいる部屋の見取り図を書き、在宅療養者の介護サービス計画を立て、援助を説明できる。
6	在宅療養者の QOL を目標にした課題の抽出とグループワークにより 在宅療養者の状況を理解できる。 (石井英子)	予習：在宅療養者の介護サービス計画を立案する。 復習：地域で最後まで生きがいを持って暮らすための因子をグループごとに評価する。
7	在宅看護過程成果達成発表 (山本純子・福田由紀子)	予習：在宅看護過程成果発表の準備ができる。 復習：在宅看護過程の成果と方法が説明できる。
8	訪問看護の課題・まとめ (山本純子・福田由紀子)	予習：在宅看護過程の成果をまとめることができる。 復習：訪問看護の課題をまとめることができる。

評価方法 および評価基準

期末試験 60%、授業態度・課題レポートなど 40 点の総合評価とし、60 点以上を単位認定とする。

- S (100~90 点) : 在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫を理解し、在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画の看護演習の学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A (89~80 点) : 在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫を理解し、在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画の看護演習の学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B (79~70 点) : 在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫を理解し、在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画の看護演習の学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69~60 点) : 在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫を理解し在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画の看護演習の学習目標の最低限は満たしている (Pass) 。
- D (60 点未満) : 在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫を理解し在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画の看護演習の C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			成するための必要な能力 デイパラマポリシーを達成するための必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BK0301				広い視野	
授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ				知識・技術 ○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	山本純子/福田由紀子				探究心 ○	

講義目的		
在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にケアするために必要な対象者、家族支援の看護技術方法を総合的に理解できる		
授業内容		
在宅で療養している対象者の日常生活を「生活行為」として総合的な演習を実施する。それにより、必要な介助を見極める判断能力を養うことができるようシミュレーション授業によるグループ学習の実施により、在宅看護のイメージ化ができる。また、基本的日常生活や医療的処置など在宅看護の特徴を学習し、ケアプランに沿ってその技術を演習し、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きを理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
履修条件：本科目は在宅看護学における実践現場に即した演習科目である。したがって在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰの修得科目を踏まえ、4年次前期に実施する在宅臨地実習のために必要な知識・技術に繋げることを留意する。その科目では疑似体験を通して、実習時に体験するであろう、最小限の心構え、挨拶、看護職に必要である倫理や尊厳などを重視した看護演習を実施する。方法として、ロールプレイングによる練習、課題の提出、グループ間のコミュニケーション力、協調性を評価するがこれらの課題は時間外も設定する。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行う。さらに、個別へのフィードバックは時間外に設定する。		
教材		
在宅看護論 在宅療養を支える技術（株）メディカ出版、2018年		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	クオリティを高める生活支援とリスクの高い利用者の予防とケアとは 初回訪問看護時のコミュニケーション：方法Ⅰ・在宅ケアにおける各専門職間のコミュニケーション：方法Ⅱ（山本純子・福田由紀子）	在宅で療養している利用者宅への初回訪問時における挨拶やコミュニケーション方法をロールプレイングで行うため、その意味づけを理解するために予習しておく。
2	清潔、住宅環境、移動・移乗に関する在宅看護技術の事例①（山本純子・福田由紀子）	基本的な看護技術の復習を行い、看護計画に沿って環境の違いによって工夫するケアが異なることを考え、予習しておく。
3	演習：清潔、住宅環境、移動・移乗に関する在宅看護技術（山本純子・福田由紀子）	基本的な看護技術の復習を行い、看護計画に沿って環境の違いによって工夫するケアが異なることを考え、予習しておく。
4	食生活・嚥下に関する在宅看護技術の事例②（山本純子・福田由紀子）	これまで学修した嚥下に関する看護ケア方法を看護計画に沿って予習をしておく。
5	演習：経管栄養の対象者の留意事項及び看護方法（福田由紀子・山本純子）	これまで学修した嚥下に関する看護ケア方法を看護計画に沿って予習をしておく。
6	排泄に関する在宅看護技術の事例を通して事例③演習：尿道留置カテーテルの対象者の留意事項及び看護方法 演習：ストーマ（人口肛門・人口膀胱）の対象者の留意事項及び看護方法（山本純子・福田由紀子）	これまで学修した排泄方法、医療処置の工夫などを予習し、演習においてその技法が活用できるか予習しておく。
7	演習：認知機能のアセスメント法と援助技術方法の事例④（福田由紀子・山本純子） 認知症の病態、特徴、高齢者の在宅ケア方法 在宅における医療技術、呼吸器に関する技法の演習	認知症の病態、特徴、高齢者の在宅ケアについて予習しておく。また、在宅における医療依存度の高い療養者への医療機器管理、技術方法の予習をしておく。
8	在宅における医療技術、呼吸機能に関する在宅看護技術の事例⑤演習：在宅における中心静脈栄養法、在宅酸素療法の留意事項及び看護方法（福田由紀子・山本純子）	在宅酸素療法をしている療養者のケア方法、在宅酸素の取り扱いなどの医療機器について予習しておく。また、点滴などの管理方法について予習しておく。

評価方法 および評価基準
実技テスト 40%、課題レポート 10%、期末試験 50%で総合評価を行い、60点以上を単位認定とする。
S (100~90 点) : 在宅における演習においてシミュレーション授業によるグループ学習の実施により在宅看護のイメージ化ができる。また、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きの理解を深め、在宅療養の対象者の日常生活を「生活行為」とした総合的な学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
A (89~80 点) : 在宅における演習においてシミュレーション授業によるグループ学習の実施により、在宅看護のイメージ化ができる。また、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きの理解を深め、在宅療養の対象者の日常生活を「生活行為」として総合的な学習目標を相応に達成している (Very Good)
B (79~70 点) : 在宅における演習においてシミュレーション授業によるグループ学習の実施により、在宅看護のイメージ化ができる。また、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きの理解を深め、在宅療養の対象者の日常生活を「生活行為」として総合的な学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
C (69~60 点) : 在宅における演習においてシミュレーション授業によるグループ学習の実施により、在宅看護のイメージ化ができる。また、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きの理解を深め、在宅療養の対象者の日常生活を「生活行為」として総合的な学習目標の最低限は満たしている (pass)
D (60 点未満) : 在宅における演習においてシミュレーション授業によるグループ学習の実施により、在宅看護のイメージ化ができる。また、対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークの働きの理解を深め、在宅療養の対象者の日常生活を「生活行為」として総合的な学修目標のCのレベルに達していない (Fail)

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性					
授業コード	BK0401				広い視野					
授業科目名	終末期看護学				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>					
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>					
担当教員	島内節 / 朝倉由紀 / 山本純子				探究心 <input checked="" type="radio"/>					
講義目的	終末期にある人とその家族の特徴及び看護介入方法について概要を理解できる。また、自己の死生観を表現できる終末期の倫理的配慮に基づく姿勢を学び理解ができる									
授業内容	人の死とは何かを理解することができるよう、終末期ケア・緩和ケアの背景、終末期ケアに関する看護師として倫理的態度を養うことの重要性が理解できる。さらに、対象者が経験する疼痛、薬物療法などの緩和ケアを理解するための授業展開の工夫をとりいれる。また終末期にある人の身体的、社会的、精神的、スピリチュアルな苦痛の特徴と援助方法、対象者だけでなく家族の心理・介護負担などを考慮した自己の死生観と終末期ケアについて、クリティカルシンキングを適応した看護を学べるように展開する。									
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	わが国において多死社会を迎えるにあたり、質の高い終末期看護（終末期ケア・緩和ケア）は重要課題である。これにあたり基礎看護教育の中でも、対象に応じた、終末期看護の理解と、全人的アプローチ方法の習得が必要となる。この科目的修得にあたり、およそ30時間の学外学習時間（予習・復習・課題）が必要である。授業への積極的に参加することが求められる。学生は、授業内容の理解度を示すため、毎回授業終了時教員へのコメントを提出する。教員はコメントを元に授業内容の検討と修正を行いながら学生の理解を深める。また、課題は期日・時間厳守とし、欠席および提出物の遅れは減点対象となる。やむを得ない事情がある場合は教員への事前連絡を行うこと。									
教材	在宅におけるエンド・オブ・ライフケア：看護師が知っておくべき基礎知識：編集者、島内節・内田陽子；ミネルヴァ書房：2015年 成人看護学（緩和ケア）ナーシング・グラフィカ：2018年									
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容	学習課題（予習・復習）								
1	終末期看護の定義、理念、目的、概念と在宅エンド・オブ・ライフケア (島内・山本)	予習：終末期看護の基本的概念、理念、定義を理解できる。また、在宅でのエンド・オブ・ライフの展開を理解できる。加えて、家族も含めた終末期における生活環境と援助について理解できること。								
2	エンド・オブ・ライフケアの現状と課題と病態・身体変化の理解 (島内・朝倉)	予習：資料に基づき、エンド・オブ・ライフケアの現状と課題に対し、クリティカルシンキングを用いて対象者の課題を見いだすことができること。 復習：基礎教科で学んできた病態生理学の知識を応用し、終末期における身体変化と看護介入を理解できること。								
3	本人・家族が望むエンド・オブ・ライフケアと課題 - 喪失・悲嘆・ビリーブメントケア (島内・朝倉・山本)	復習：だされた課題に基づき、エンド・オブ・ライフに関する人々の喪失体験・悲嘆についての理解を深めることができること。 復習：ビリーブメントケアについて学ぶことができる。ビリーブメントケアを予習して授業に臨むこと。								
4	本人・家族が望むエンド・オブ・ライフケアと課題 - 疼痛コントロールと症状緩和(1) (島内・朝倉)	復習：疼痛・症状マネージメントの基本概念と、具体的なマネジメント方法を理解できること。								
5	本人・家族が望むエンド・オブ・ライフケアと課題 - 疼痛コントロールと症状緩和(2) (島内・朝倉)	復習：前回の講義理解を基に症例への応用を理解することができる。そのため、復習し、授業に臨むこと。								
6	エンド・オブ・ライフと倫理と意思決定支援 (朝倉)	予習：倫理原理の復習と実践への適応について理解できる。また意思決定支援の基礎と課題を理解し、症例への応用を理解すること。								
7	本人・家族が望むエンド・オブ・ライフケアと課題 - コミュニケーションと多職種連携 (朝倉)	復習：基礎で学んできたコミュニケーション技術とチーム医療における多職種連携モデルのエンド・オブ・ライフへの適応を理解し、応用できること。								
8	本人・家族が望むエンド・オブ・ライフケアと課題 - 看護の展開とまとめ (島内・山本)	復習：この科目で学んできた内容を総合的に活用する方法が理解できるように前回の復習をしておくこと。								
評価方法 および評価基準										
8回の授業終了後、教員より提出する課題への取り組み、クオリティの高い課題の提出 30%、期末試験（レポート）40%、積極的な授業参加と貢献度 30%										
S (100~90点) : エンド・オブ・ライフをとりまく環境、身体変化、看護課題、倫理的配慮を理解できた。終末期における看護展開を理解する学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)										
A (89~80点) : エンド・オブ・ライフをとりまく環境、身体変化、看護課題、倫理的配慮を理解できた。終末期における看護展開を理解する学習目標を相応に達成している (Very Good)										
B (79~70点) : エンド・オブ・ライフをとりまく環境、身体変化、看護課題、倫理的配慮を理解できた。終末期における看護展開を理解する学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)										
C (69~60点) : エンド・オブ・ライフをとりまく環境、身体変化、看護課題、倫理的配慮を理解できた。終末期における看護展開を理解する学習目標の最低限は満たしている (Pass)										
D (60点未満) : Cのレベルに達していない (Fail)										

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、知識・技術・判断力・探究心を備えている。	豊かな人間性	
授業コード	BK0501				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護援助論				知識・技術	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力	
担当教員	島内節 / 山本純子 / 朝倉由紀				探究心	

講義目的

終末期にある人とその家族の特徴と看護介入を通して、終末期ケアに関する訪問看護体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得する。さらに、自己の死生観を表現ができる。

授業内容

終末期ケアについて、どのような国内外の終末期ケアの制度や背景があるかを理解し、日本における終末期ケアの現状と照らして考えるための授業展開をする。さらに、終末期に携わる専門職の連携を通して人生の終焉について学ぶ。総合的に終末期にある人の身体的・社会的・心理的・靈的苦痛の特徴を理解し、その看護介入を通して、各専門職の連携および訪問看護ステーションのケア体制について理論・知識を統合して学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本科目は強化プログラム在宅・終末期看護の科目であり、看護職として終末期ケアに関する訪問看護体制・終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得する。したがって、授業はやむを得ない理由でない限り、毎回参加する学修の結果を期日・時間の厳守にて決められた資料の提出ができるようにする。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。授業評価や課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行う。さらに、個別へのフィードバックは時間外に設定する。

教材

教科書：在宅におけるエンドオブライフ・ケア 島内節・内田陽子 出版社：ミネルヴァ書房 2015年

参考文献：成人看護学（緩和ケア） 出版社：ナーシン・グラフィカ 2017年

在宅看護論 地域療養を支えるケア 出版社：メディカ出版

在宅看護論② 在宅療養を支える技術 出版社：メディカ出版

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅エンドオブライフケアにおける訪問看護、およびチームケアと関連制度 （山本）	予習：第1章、第2章を熟読する。 復習：在宅エンドオブライフケアの訪問看護、およびチームケアと関連制度が理解できる。
2	病院や施設からの在宅ケア移行における支援 （山本）	予習：第3章を熟読する。 復習：在宅ケア移行におけるケア・支援が理解できる。
3	諸外国の在宅エンドオブライフケアシステム （朝倉）	予習：第19章-②を熟読する。 復習：諸外国の在宅エンドオブライフケアシステムが理解できる。
4	諸外国のエンドオブライフケアの研究動向 （朝倉）	予習：第19章-①を熟読する。 復習：エンドオブライフケアの国際的な動向を理解できる。
5	在宅エンドオブライフを予測する医学的判断と本人・家族への説明 （島内・山本）	予習：第4章を熟読する。 復習：在宅エンドオブライフを予測する医学的判断と説明について理解することができる。
6	在宅エンドオブライフケアのケアパス （島内）	予習：第5章を熟読する。 復習：エンド期におけるケアの目標、ケアパスを理解できる。
7	在宅エンドオブライフにおける基本的ニーズ （島内）	予習：第6章、第7章を熟読する。 復習：エンド期における基本的ニード、ケアが理解できる。
8	在宅エンドオブライフの倫理的配慮、まとめ （島内・山本・朝倉）	予習：これまでの学習内容、配布資料を熟読する。 復習：在宅エンドオブライフの倫理と看護を理解する。

評価方法 および評価基準

筆記試験 40%・課題レポート 50%・取り組み状況 10%を総合評価とし、60 点以上を単位認定とする。

S (100~90 点) : 終末期ケアに関する訪問看護体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢の修得。さらに、自己の死生観を考えられ学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 終末期ケアに関する訪問看護体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢の修得。さらに、自己の死生観を考えられ学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 終末期ケアに関する訪問看護体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢の修得。さらに、自己の死生観を考えられ学習目標の最低限を相応に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 終末期ケアに関する訪問看護体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢の修得。さらに、自己の死生観を考えられ学習目標の最低限は満たしている (Pass)。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			成するため に必要な能力 達成度 目標マトリクス を達成する	豊かな人間性	
授業コード	BK0601				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護技術論				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	山本純子・朝倉由紀				探究心 ○	

講義目的		
在宅看取りの理論と知識・技術を統合して、在宅終末期に必要な技術の修得をすることができる。		
授業内容		
在宅終末期における全人的苦痛への緩和ケア（Palliative Care）、家族看護も含めた支援方法、多職種の連携方法なども含む「在宅終末期」ケアの知識・技術・実際を専門的な視点で統合した看護技術が展開できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
本授業は、選択強化プログラムの在宅・終末期看護の技術をより強みにし、将来、看護職として専門性をもって実践の場で活用できるための授業とする。そのため、在宅で行われている洗髪方法、嚥下障害にある療養者の嚥下状態に見合った技法、在宅酸素の仕組みなどの柔軟で細やかな看護技術を理解する必要がある。老若男女を問わず、死にゆく人々がどのような心理を持ち、死を受け入れるまでのプロセスなども総合的に学ぶために30時間の（予習・復習）をしておく。		
教材		
テキスト：緩和ケア：ナーシンググエアフィカ、宮下光令 参考図書：在宅エンド・オブ・ライフケア実践書、死を迎える人々の人生の質・価値を高めるために：島内節・内田、ミネルヴァ書房、2014年。がん患者の在宅ホスピスケア、川越厚、医学書院出版年：2013年。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅エンドオブライフケアにおける症状マネジメント（症状のメカニズムの理解とケア方法）（朝倉）	予習：全人的「痛み」の緩和方法について参考テキスト予習しておく。
2	在宅エンドオブライフケアにおける症状マネジメント（症状のメカニズムの理解とケア方法）（朝倉）	予習：終末期を迎える人々の全人的「痛み」の緩和方法について参考テキストを用いて予習しておく。
3	自宅でのペインマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケア・在宅エンドオブライフケアにおいて用いる薬剤と治療ケア（朝倉）	復習：医療的ケアの学修（人工呼吸器、栄養障害のある療養者、腎不全）などの処置方法の技法の復習をしておくこと。 予習：コミュニケーション技法についても理解しておくこと。
4	自宅でのペインマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケア・在宅エンドオブライフケアにおいて用いる薬剤と治療ケア（朝倉）	復習：医療的ケアの学修（人工呼吸器、栄養障害のある療養者、腎不全）などの処置方法の技法の復習をしておくこと。
5	在宅エンドオブライフに発生しやすいその他の症状の変化、在宅エンドオブライフにおける心理・精神ケア（山本）	復習：3年次に学修した終末期看護学の理念を基盤に在宅で実践する心身ケアと死にゆく人への最期のケアについて予習しておく。
6	在宅エンドオブライフに発生しやすいその他の症状の変化、在宅エンドオブライフにおける心理・精神ケア（山本）	復習：症状マネジメントで必要な理論・知識を修得するためのWHOの考え方、在宅ホスピスの考え方などの予習をしておく。
7	精神障害を持つ事例のエンドオブライフケア、子どものエンドオブライフのニーズとケア（山本）	復習：精神障害のある倫理的配慮に基づく終末期ケアのあり方について予習しておく。
8	精神障害を持つ事例のエンドオブライフケア、子どものエンドオブライフのニーズとケア（山本）	復習：子どもの終末期について権利擁護及び倫理的配慮及び家族への看護支援について調べておくこと。
評価方法 および評価基準		
8回の技術論評価方法：技術確認テスト50%、課題レポート30%、課題テスト20%を総合的に評価し、単位認定とする。		
S(100~90点)：在宅における症状緩和ケアの考え方及び技術的手法がほぼ完全に達成している。		
A(89~80点)：在宅における症状緩和ケアの考え方及び技術的手法が相応に達成している。		
B(79~70点)：在宅における症状緩和ケアの考え方及び技術的手法が相応に達成しているが不十分な点がある。		
C(69~60点)：在宅における症状緩和ケアの考え方及び技術的手法が最低限は満たしている。		
D(60点未満)：在宅における症状緩和ケアの考え方及び技術的手法がCのレベルに達していない。		

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			成するためには ディプロマポリシーを達成するためには 豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BK0701				
授業科目名	在宅・終末期看護学外演習				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		
担当教員	福田由紀子・山本純子				

講義目的										
療養者・家族が安心して在宅で療養するために在宅に向けた療養移行の対応、指導方法について病院の医師、看護師の情報共有及び連携について説明、見学を通して学び、実際の体験への学修を深めることができる。又、在宅を終の棲家として、療養生活の実際を通し、学ぶ。										
授業内容										
<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者の意思決定を尊重した在宅療養生活への支援を病院及び在宅診療医、多職種間の連携の下、終末期の支援方法を理解できる。 2. 終末期を迎えるための環境や看護体制・制度について理解できる。 3. 在宅における自己実現を理解できる。 4. 自宅ではない終の棲家の選択肢を学び、死と向き合う療養者的心身の理解と尊厳ある死のケアについて理解できる。 										
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）										
履修条件										
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅・終末期看護学に興味を持ち、将来専門職として実践を希望していること。 2. 在宅で暮らす ALS 患者の終の棲家と終末期のあり方を考察し、自己決定支援の重要性が考えられること。 3. 人権擁護、倫理的観点から、療養者・家族・親族などの関わりを通して学び、実習中、実習終了後は専門職としての意識を持ち、プライバシーの保持を遵守すること。 4. ALS の病態整理について熟知し、体験を通して学修を深めること。 <p>上記のことを踏まえ、学外演習にあたり、おおよそ（予習・復習）を含めて 30 時間の時間外学修が必要である。</p>										
教材										
学習課題（予習・復習）終末期看護学、慢性期（成人）、がん看護など。病態整理の予習。										
参考資料：成人看護学概論、エンドオブライフケアと在宅ケア										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
実習計画										
<table border="1"> <tr> <td>実習前学修</td> <td>復習・予習</td> </tr> <tr> <td>在宅・終末期看護の役割、在宅支援の意義、在宅ホスピス、緩和ケアを受けながら在宅終末期をすごす本人・家族の意思決定支援、悲嘆、受容などの心身におけるケアを学修しておくこと。 課題：施設の概要の事前学修を行ったうえで終末期看護の実習に取り組むこととし、その上で自己目標を明確にしておくこと。</td> <td>成人看護学で学修したがん看護などの理解ができること。 復習 5 時間 終末期看護学で学修した終末期に関する主な基本的なケアが理解できること。 復習 15 時間</td> </tr> </table>		実習前学修	復習・予習	在宅・終末期看護の役割、在宅支援の意義、在宅ホスピス、緩和ケアを受けながら在宅終末期をすごす本人・家族の意思決定支援、悲嘆、受容などの心身におけるケアを学修しておくこと。 課題：施設の概要の事前学修を行ったうえで終末期看護の実習に取り組むこととし、その上で自己目標を明確にしておくこと。	成人看護学で学修したがん看護などの理解ができること。 復習 5 時間 終末期看護学で学修した終末期に関する主な基本的なケアが理解できること。 復習 15 時間					
実習前学修	復習・予習									
在宅・終末期看護の役割、在宅支援の意義、在宅ホスピス、緩和ケアを受けながら在宅終末期をすごす本人・家族の意思決定支援、悲嘆、受容などの心身におけるケアを学修しておくこと。 課題：施設の概要の事前学修を行ったうえで終末期看護の実習に取り組むこととし、その上で自己目標を明確にしておくこと。	成人看護学で学修したがん看護などの理解ができること。 復習 5 時間 終末期看護学で学修した終末期に関する主な基本的なケアが理解できること。 復習 15 時間									
実習対象者：在宅・終末期の選択強化プログラムを希望した 4 年生（前期）の学生対象										
<ol style="list-style-type: none"> 2. 実習人数 10 名程度 3. 実習期間 7 月 23 日、24 日（2 日間） 4. 実習場所 ななみの家（ALS 患者のシェアハウス 終の棲家） 5. 実習時間 原則として 9:00~16:00 とする。 6. 実習内容 										
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実習内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 日 目</td> <td> 1. オリエンテーションを受ける（午前） 2. 療養者の情報をカルテと指導者より収集する。 3. 人工呼吸器装着している療養者とのコミュニケーション 4. 日常生活援助（終の棲家として）の 1 日の暮らしの様子を体験する。 5. 療養者の自己実現（買い物・散歩）の生活援助など 午後 実習の学びのカンファレンス </td> <td> * 自己目標を決め、主体的に実習に望む。 * 看護体験を通して学修の振り返りを記録。（プロセスレコードなど） </td> </tr> <tr> <td>2 日 目</td> <td> 1. 日常生活に必要な援助を体験し、コミュニケーションを深める。 2. 医療的技術管理方法と倫理的配慮を意識して積極的に行動する。 3. 最終カンファレンス（実習のまとめ）の発表 </td> <td> ※最終カンファレンスまでに自己目標の達成度及び、総合的な終末期看護の学びをまとめておく。 </td> </tr> </tbody> </table>			実習内容	備考	1 日 目	1. オリエンテーションを受ける（午前） 2. 療養者の情報をカルテと指導者より収集する。 3. 人工呼吸器装着している療養者とのコミュニケーション 4. 日常生活援助（終の棲家として）の 1 日の暮らしの様子を体験する。 5. 療養者の自己実現（買い物・散歩）の生活援助など 午後 実習の学びのカンファレンス	* 自己目標を決め、主体的に実習に望む。 * 看護体験を通して学修の振り返りを記録。（プロセスレコードなど）	2 日 目	1. 日常生活に必要な援助を体験し、コミュニケーションを深める。 2. 医療的技術管理方法と倫理的配慮を意識して積極的に行動する。 3. 最終カンファレンス（実習のまとめ）の発表	※最終カンファレンスまでに自己目標の達成度及び、総合的な終末期看護の学びをまとめておく。
	実習内容	備考								
1 日 目	1. オリエンテーションを受ける（午前） 2. 療養者の情報をカルテと指導者より収集する。 3. 人工呼吸器装着している療養者とのコミュニケーション 4. 日常生活援助（終の棲家として）の 1 日の暮らしの様子を体験する。 5. 療養者の自己実現（買い物・散歩）の生活援助など 午後 実習の学びのカンファレンス	* 自己目標を決め、主体的に実習に望む。 * 看護体験を通して学修の振り返りを記録。（プロセスレコードなど）								
2 日 目	1. 日常生活に必要な援助を体験し、コミュニケーションを深める。 2. 医療的技術管理方法と倫理的配慮を意識して積極的に行動する。 3. 最終カンファレンス（実習のまとめ）の発表	※最終カンファレンスまでに自己目標の達成度及び、総合的な終末期看護の学びをまとめておく。								
評価方法 および評価基準										
実習終了後、事前学修課題の提出、実習記録用紙の提出、最終の学び及びまとめの記録物提出、個人面接（専門職としての姿勢、今後の課題の明確さの評価）と学生評価表、教員、実習指導者の評価を総合的に判断し、単位認定とする。										
実習評価票で評価する（学生自己評価・担当教員評価）										
S (100~90 点) : ほぼ完全に達成している。 A (89~80 点) : 相応に達成している。 B (79~70 点) : 相応に達しているが不十分な点がある。 C (69~60 点) : 最低限は満たしている。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない。										

科目区分	専門科目-広域看護学-在宅看護学			ディプロマポリシーを達成するため必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK0801				広い視野		
授業科目名	在宅・終末期看護演習				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	福田由紀子・山本純子				探究心	○	

講義目的	<p>在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解する。また、終末期に発生する症状の緩和ケア、基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について、実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護技術の修得ができる。</p>																																
授業内容	<p>在宅終末期ケアにおける症状の緩和方法や対症療法について基礎的な技術を修得し、実際の看護方法に沿って学ぶ。さらに、訪問看護ステーションの管理、貢献、連携などを含むマネジメント方法を理解する。これまで学習してきた在宅看護、終末期ケアの理論、知識の集大成として学習を深める。</p>																																
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	<p>本科目は強化プログラム在宅・終末期看護におけるまとめとなる科目であり、事例を通して、在宅終末期ケアにおける知識・技術を習得する。さらに、マネジメント、終末期ケア管理体制を個々の学生に考えさせる。したがって、授業はやむを得ない理由でない限り、毎回参加する学修の結果を期日・時間の厳守にて決められた資料の提出ができるようにする。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。授業評価や課題レポートのフィードバックは、その都度、講義時間内に行う。さらに、個別へのフィードバックは時間外に設定する。</p>																																
教材	<p>教科書：在宅におけるエンドオブライフ・ケア、島内節・内田陽子 出版社：ミネルヴァ書房 2015 参考文献：成人看護学（緩和ケア） 在宅看護論 地域療養を支えるケア 出版社：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 出版社：ナーシング・グラフィカ</p>																																
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>青年期・壮年者のエンド・オブ・ライフのニーズとケア</td> <td>予習：第12章を熟読する。 復習：青年期・壮年者のエンド期の特徴、告知における問題点が理解できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族・親族が抱える問題とケア</td> <td>予習：第13章を熟読する。 復習：エンド期を迎えている家族へのケアと特徴が理解できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状悪化とエンド・オブ・ライフケア</td> <td>予習：第14章、第15章を熟読する。 復習：エンド期における緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状、遺族へのケアが理解できる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>死別前後の特徴的ケア</td> <td>予習：第16章を熟読する。 復習：死別前後のケアについて理解できる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>在宅医療チームの連携及び看護ステーションのエンド・オブ・ライフ・ケアのマネジメント</td> <td>予習：第2章、第17章を熟読する。 復習：エンド期における看護師が多職種と連携し、利用者・家族の健康管理とその調整の必要性を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ケア内容の技術展開</td> <td>予習：演習要項を熟読し、事例を理解する。 復習：エンド期における事例・家族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ケア内容の技術展開</td> <td>予習：事例についてケアプランを作成する。 復習：エンド期における遺族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ケア内容の技術展開とまとめ</td> <td>予習：事例について発表の準備をする。 復習：事例を通して、在宅終末期ケアにおける知識・技術、マネジメントを理解する。</td> </tr> </tbody> </table>						回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	青年期・壮年者のエンド・オブ・ライフのニーズとケア	予習：第12章を熟読する。 復習：青年期・壮年者のエンド期の特徴、告知における問題点が理解できる。	2	家族・親族が抱える問題とケア	予習：第13章を熟読する。 復習：エンド期を迎えている家族へのケアと特徴が理解できる。	3	緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状悪化とエンド・オブ・ライフケア	予習：第14章、第15章を熟読する。 復習：エンド期における緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状、遺族へのケアが理解できる。	4	死別前後の特徴的ケア	予習：第16章を熟読する。 復習：死別前後のケアについて理解できる。	5	在宅医療チームの連携及び看護ステーションのエンド・オブ・ライフ・ケアのマネジメント	予習：第2章、第17章を熟読する。 復習：エンド期における看護師が多職種と連携し、利用者・家族の健康管理とその調整の必要性を理解することができる。	6	ケア内容の技術展開	予習：演習要項を熟読し、事例を理解する。 復習：エンド期における事例・家族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。	7	ケア内容の技術展開	予習：事例についてケアプランを作成する。 復習：エンド期における遺族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。	8	ケア内容の技術展開とまとめ	予習：事例について発表の準備をする。 復習：事例を通して、在宅終末期ケアにおける知識・技術、マネジメントを理解する。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																															
1	青年期・壮年者のエンド・オブ・ライフのニーズとケア	予習：第12章を熟読する。 復習：青年期・壮年者のエンド期の特徴、告知における問題点が理解できる。																															
2	家族・親族が抱える問題とケア	予習：第13章を熟読する。 復習：エンド期を迎えている家族へのケアと特徴が理解できる。																															
3	緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状悪化とエンド・オブ・ライフケア	予習：第14章、第15章を熟読する。 復習：エンド期における緊急時のニーズのケアと災害に伴う病状、遺族へのケアが理解できる。																															
4	死別前後の特徴的ケア	予習：第16章を熟読する。 復習：死別前後のケアについて理解できる。																															
5	在宅医療チームの連携及び看護ステーションのエンド・オブ・ライフ・ケアのマネジメント	予習：第2章、第17章を熟読する。 復習：エンド期における看護師が多職種と連携し、利用者・家族の健康管理とその調整の必要性を理解することができる。																															
6	ケア内容の技術展開	予習：演習要項を熟読し、事例を理解する。 復習：エンド期における事例・家族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。																															
7	ケア内容の技術展開	予習：事例についてケアプランを作成する。 復習：エンド期における遺族について在宅医療チームの連携及びマネジメントが理解できる。																															
8	ケア内容の技術展開とまとめ	予習：事例について発表の準備をする。 復習：事例を通して、在宅終末期ケアにおける知識・技術、マネジメントを理解する。																															

評価方法 および評価基準

課題レポート 80%、演習への取り組み 20%を総合評価とし、60 点以上を単位認定とする。

- S (100~90 点) : 在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解でき、終末期に発生する症状の緩和ケア、基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護演習の学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
- A (89~80 点) : 在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解でき、終末期に発生する症状の緩和ケア、基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護演習の学習目標を相応に達成している (Very Good)
- B (79~70 点) : 在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解でき、終末期に発生する症状の緩和ケア、基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護演習の学習目標の最低限を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69~60 点) : 在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解でき、終末期に発生する症状の緩和ケア、基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護演習の学習目標の最低限は満たしている (Pass)。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BK2101				広い視野		
授業科目名	地域看護・公衆衛生看護学概論				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	三徳和子/森川英子				探究心	○	

講義目的						
1. 人々が暮らす地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法と活動の場について理解する。						
2. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解を深める。						
3. 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮した看護職の役割が理解できる。						
これらの学修を通じて他の専門分野に関心を持ち、ヒューマンケアの実践能力と他職種と連携して、地域環境に根差した社会貢献で生きる力を養う。						
授業内容						
公衆衛生看護活動（保健師活動）は、地域住民の健康水準の向上をめざし、健康増進活動、分野別保健活動（母子、成人、老年、難病、精神、災害、国際等）を行う。方法は家庭訪問、健康診断、健康教育、機能訓練、地域づくり活動などがある。主な活動現場は行政、産業、学校、国際保健分野である。これらの活動について概要を学ぶ。						
留意事項（履修条件他）						
地域看護、公衆衛生看護活動の基礎となる科目であり、在宅看護学および保健師コースと連動する科目である。レポートは図書館等を利用して実情を把握し、具体的な健康課題について、活動の対象、方法を整理し、自分の考えをまとめること。そのためにも、現在の世界、日本の人々の健康課題について関心をもち、健康課題に対する社会の動きを新聞、ラジオなどのメディアや本などで把握し、自分で考えてみよう。人々の健康、家族の健康に関心を持ち、積極的に講義に参加し、発言することが重要である。						
なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業外学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。リアクションペーパーや課題レポートのフィードバックはその都度、講義時間内に行う。個別の質問等のフィードバックは時間外に行う。						
教材						
公衆衛生看護学概論 最新版（医学書院）3000 円、保健医療福祉行政論 最新版（医学書院）2800 円						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容	学習課題（予習・復習）				
1	公衆衛生看護学の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学とは、公衆衛生を基盤とした看護学であり、目指すのは対象集団全体の健康増進と疾病予防をめざしていること、そのために対象者の健康課題を構造的に明らかにする必要があることを理解する。 ・状態として、権利としての健康の概念を知る。 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて、理解し説明することができる。 ・公衆衛生の基盤となる概念を理解し、説明することができる。 				
2	公衆衛生看護学の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の歴史を概観する。 ・公衆衛生看護活動の変遷を知り、特徴を探る。 <p>課題 1：レポート 地域看護活動事例を検索し、現代の保健師活動の課題をまとめてみよう。</p>				
3	社会環境の変化と健康課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化、環境、と健康の社会的決定要因及び健健康課題解決の資源について考えよう。 				
4	公衆衛生看護の基盤となる概念	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の基盤となる概念、公的責任を知り、基本的人権の尊重およびアドボカシー、エンパワメントについて、考えよう。 <p>課題 2：レポート 地域の健康課題を上げ、住民の事例からアドボカシー、エンパワメントについて考えてみよう。</p>				
5	公衆衛生看護学の対象と活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象の特徴、公衆衛生看護の対象としての個人、家族、グループ、組織、地域と集団を知り、活動の方法を知る。 				
6	公衆衛生看護学の場	<ul style="list-style-type: none"> 保健師が活動する場として、行政機関、職域（産業）、学校、医療施設、社会福祉施設などの活動の場を考えてみよう。と、場における具体的な活動役割および役割を知ろう。 				
7	行政の場での保健師活動	<ul style="list-style-type: none"> 行政の場における住民の健康づくり活動、母子保健活動と保健師の役割を知り、必要性を考察しよう。 				
8	行政の場での保健師活動	<ul style="list-style-type: none"> 行政の場における住民の成人・老人保健活動、精神保健活動、難病保健活動について知り、保健師の果たす役割について考えてみよう。 <p>課題 3：健康づくり、母子保健、精神保健、成人保健、老人保健活動の中から、関心のある領域の地域看護活動の実際と課題をまとめてみよう。</p>				
9	産業の場での活動	<ul style="list-style-type: none"> 産業の場における労働者の身体的健康、精神的健康を守るために保健師の役割を知り、考察しよう。 				

10	学校の場での活動	学校の場における児童生徒の健康課題と、身体的健康、精神的健康を守るために方策についてしり、考察しよう。
11	公衆衛生看護活動の計画策定と施策化	保健計画の策定の必要性と策定プロセス、立案と実施について知ろう。 課題：国および地方自治体の保健計画を調べ、その仕組みと作成過程、実施過程を健康問題別に調べまとめよう。
12	公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の実際	公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断に使用するコミュニティ・アズ・パートナーモデルを知り、計画・実践・評価の流れを理解する。
13	公衆衛生看護管理（国際保健：感染症から学ぶ）	公衆衛生看護管理として、国際的な対策の必要な事例をとうして、看護官営の方法を考察する。 課題 4：レポート 国際的な視点から感染症対策が必要な疾患を取り上げ、看護職が行うことが出来る対応の方法とその意義をまとめよう。
14	健康危機管理	・健康危機管理の枠組み、組織的を考える。 ・平常時、災害時、災害直後とその後のニーズと対応を知る。
15	公衆衛生看護活動の実際	公衆衛生看護活動の今後の課題と看護職の役割を考えよう。 課題 5：レポート：①看護師コース、養護教諭コース希望者は各自の立場で、看護職として地域の人々の健康課題とその支援について、出来ることを具体的に考えてみよう。 ②保健師コース希望者は、保健師になりたい理由と、なりたい保健師像、保健師になったらどんな活動がしたいのかについて、まとめよう。
評価方法 および評価基準		
期末試験 70%、課題レポート 20%、課題討議参加 10%		
S (100~90 点)： 公衆衛生看護活動の健康課題別の目的と意義、対象と方法について理解し、今後の対策について自分の考えをもち、人に伝えることができる。		
A (89~80 点)： 地域住民の健康課題と公衆衛生看護活動の関連を理解し、健康課題別に目的と意義、対象と方法を、説明できる。		
B (79~70 点)： 地域住民の健康課題と公衆衛生看護活動の目的と意義を理解し地域看護・公衆衛生看護の用語が説明できる。		
C (69~60 点)： 公衆衛生看護活動と地域住民の健康課題が理解できる。		
D (60 点未満)： Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK2201				広い視野		
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅰ				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力	○	
担当教員	山田裕子/三徳和子/石井英子				探究心	○	

講義目的						
公衆衛生看護活動は、地域の人々が自ら健康とその要因をコントロールし、維持・改善できるよう援助することが求められる。地域の人々を母子、成人、高齢者、精神、難病、感染症などの対象別に健康問題の特徴を理解し、それらに対する健康課題と支援策を学習する。						
授業内容						
対象ごとに動向と法律などの制度、根拠データ、課題、社会資源、指導方法などを理解する。それに基づいて、グループワークを行い、グループ員で関心のある課題を取り上げ、課題に対して地域の中ではどのようなサービスや人々の支援が行われているのかの実際を調べ、まとめて発表を行うことにより、地域の人々が持つ健康課題と支援策を理解できる。						
留意事項（履修条件他）						
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程選択者のみ受講 ・自分自身も社会の一員という認識の下で、グループワークに積極的に取り組むこと。 ・この科目的受講及び単位修得に当たり、予習、復習、課題等により30時間以上の授業時間外の学習が必要である。 ・毎授業終了時には、アクションペーパーの提出を求め、それらのフィードバックは原則次回授業開始時に使う。 						
教材						
標準保健学講座3 対象別地域保健活動						
国民衛生の動向						
看護法令要覧						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容	担当	学習課題（予習・復習）			
1	母子保健の動向	山田	母子の健康関連指標と母子保健施策との関連を理解する。(予習: 国民衛生の動向から代表的な母子保健施策を調べる。復習: 関係法規とその主要な内容をまとめる)			
2	母子保健の課題と保健指導	山田	母子保健各期の保健指導について具体的な方法を知り、健康課題と保健指導の特徴を理解する。(課題: 健やか親子21(第2次)の主要課題と目標値等をノートにまとめる)			
3	母子保健の課題と保健指導	山田	障害の種類、児者の数の推移からわが国の障害者の動向を知る。また、わが国の障害者に関する捉え方や法整備等の対策について経緯を理解する。(課題: 障害児・者に関するトピックを抽出する)			
4	障害児・者の動向	山田	障害児・者対策のあゆみと障害者支援に関する関連法との関係を理解する。保健活動の実際を学ぶ。(課題: 事例を用い、具体的に法・施策と保健師の活動をまとめる)			
5	障害児・者の課題と保健指導	山田	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、支援のあり方を検討する。また、グループ討議の内容は発表する。各自の発表や他の学生の発表時には能動的な態度で討議に参加し理解を深める。(課題: 用いられた事例や設問について、思考過程を列挙する。さらに、その客観的な根拠を抽出し、ノートにまとめる)			
7	母子保健、障害児(者)の課題と保健指導の実際(演習)	山田	成年保健活動について、成年病から生活習慣病への概念や対策の変遷を理解する。(予習: 国民衛生の動向を用いて、成年保健の主要な事柄を確認する)			
8	母子保健、障害児(者)の課題と保健指導の実際(演習)	山田	健康日本21や健康増進法など成年期にかかる主要な法・制度を学ぶ。特に特定健康診査、特定保健指導の特徴を理解する。(課題: 特定健康診査結果の層化と特定保健指導の区分について、具体的データを用いて判別できるようにする)			
10	高齢者保健の動向	三徳	健康日本21や健康増進法など成年期にかかる主要な法・制度を学ぶ。特に特定健康診査、特定保健指導の特徴を理解する。			
11	高齢者保健の課題と保健指導	三徳	高齢者の健康や生活の特徴から在宅要援護高齢者の将来的な生活状況を予測し、家族支援も含めた保健指導を理解する。			
12	高齢者保健の課題と保健指導		成人保健活動について、成年病から生活習慣病への概念や対策の変遷を理解する。(予習: 国民衛生の動向を用いて、成年保健の主要な事柄を確認する)			
13	成人保健の動向	山田	健康日本21や健康増進法など成年期にかかる主要な法・制度を学ぶ。特に特定健康診査、特定保健指導の特徴を理解する。(課題: 特定健康診査結果の層化と特定保健指導の区分について、具体的データを用いて判別できるようにする)			
14	成人保健の課題と保健指導	山田	成年保健活動について、成年病から生活習慣病への概念や対策の変遷を理解する。(予習: 国民衛生の動向を用いて、成年保健の主要な事柄を確認する)			
15	成人保健の課題と保健指導		健康日本21や健康増進法など成年期にかかる主要な法・制度を学ぶ。特に特定健康診査、特定保健指導の特徴を理解する。(課題: 特定健康診査結果の層化と特定保健指導の区分について、具体的データを用いて判別できるようにする)			

16	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）	山田	7～9回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、支援のあり方を検討する。本演習では、生活習慣が確立し、修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解する。	
17	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）			
18	成人・高齢者保健の課題と保健指導（発表）			
19	感染症の動向	石井	感染症対策の歴史的変遷を理解する。各自、母子健康手帳の予防接種の実施状況を先に予習し、復習には、これまでに罹患したことのある感染症と教授された感染症の症状と感染媒体との関連を振り返る。感染者、感染症患者（一類、二類、四類、五類感染症、新感染症、新型インフルエンザ感染症、食中毒）の特徴を調べる。	
20	感染症の課題と保健指導	石井	近年の感染症保健の課題と保健施策を理解する。 エイズや外国人の結核患者との感染経路を復習する。グループごとに感染症の主なる疾患の保健指導内容をリーフレット化し、学生同士での感染の課題を確認する。	
21	感染症の課題と保健指導			
22	精神保健の動向	山田	精神保健の理念と歴史的変遷を理解する。特に、措置を中心とした対策からノーマライゼーション、共生などのkey wordsを基にした現代の法整備について理解する。（予習：社会保障論や社会福祉学の関連事項を確認しておく）	
23	精神保健の課題と保健指導	山田	精神障害者の生活上の障害を理解し、精神障害者を支援する他職種（精神科医、精神保健相談員等）との連携や調整も含めた保健師の活動を理解する。	
24	精神保健の課題と保健指導（演習）	山田	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、支援のあり方を検討する。ここでは、事例への直接的な保健指導よりも、連携の相手や方法等を中心に検討し理解を深める。（課題：配布された事例について、設問ごとに選択肢を選び、その根拠をまとめる）	
25	精神保健の課題と保健指導（発表）			
26	難病対策の動向	山田	難病対策の理念・歴史的変遷を理解する。 難病の定義、難病患者に対する医療等に関する法律、目的、基本理念を調べる。	
27	難病の課題と保健指導（演習と発表）	山田	難病患者を支援する保健師の活動事例から保健指導を考察する。（課題：難病とそれによる障害など必要な難病以外の方やサービスをまとめる）	
28	健康づくり活動の動向	山田	健康増進対策のあゆみと国民健康づくりを理解する	
29	健康づくり活動の課題と保健指導		生活習慣の特徴とその対策・保健指導を理解する。実在する自治体の健康日本21を用いて、理解を深める。（課題：各自の健康に関するデータから生活習慣に対する支援の必要性や健康日本21（第2次）の指標について具体的にレポートする）	
30	健康づくり活動の課題と保健指導			
評価方法 および評価基準				
期末試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で総合的に評価する。				
S (100～90点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を説明することができ、事例に対応した保健指導を考えることができる。さらに、対象ごとに学習した健康課題、法的根拠等を体系的に捉えることができる				
A (89～80点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を概ね説明することができ、事例に対応した保健指導を考えることができる				
B (79～70点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を概ね説明することができる				
C (69～60点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠を理解することができる				
D (60点未満) : Cのレベルに達していない				

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			感覚するためには、必要な能力 デイ・プロマ・ポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK2301				広い視野		
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅱ				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	山田裕子 / 三徳和子 / 石井英子				探究心	○	

講義目的		
公衆衛生看護の基本的な技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築などの活動の方法・技術について理解し、一部の活動方法については、演習により技術を習得する。また、それぞれの活動を繋げて系統的に理解し、政策・施策に向けた活動を理解し、事業の企画・立案と評価について一連の過程を学内演習により学習する。		
授業内容		
公衆衛生看護の基本的な技術である、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築などの活動方法について基本となる理論を理解する。実際に保健指導技術の展開は演習で行い、家庭訪問の展開はロールプレイを用いて学ぶ。また、健康教育は健康課題の改善を図るテーマを設定し、集団を対象とした健康教育を立案、教育媒体の作成とそれを用いた実施、その健康教育の評価に至る一連の過程について、演習体験を通して理解を深める。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程を選択しており、公衆衛生看護援助論Ⅰの受講を終えている者のみ受講 現場での実践が可能なレベルに準じた演習を行うため、授業時間外の準備や練習も行う。予習復習を含め約30時間の授業外の学習が必要である。また、演習はグループで行うため、チームワークを取り円滑に学習を進められるように取り組むこと。 授業中又は授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。原則、フィードバックは、次回授業開始時に行うが、全体での共有の必要がない事項については、個別対応することもある。 		
教材		
標準保健学講座2 地域看護技術 最新版（医学書院）		
国民衛生の動向		
看護法令要覧		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	保健指導の基本	保健師の活動の総体である保健指導について、その目的や特色を理解し、社会情勢や法律とともに歴史的変遷を理解する。（予習：公衆衛生看護援助論Ⅰで学んだ保健指導について種類と特徴を確認する）
2	保健指導の基盤となる理論	保健指導を展開するに当たり用いる理論やモデルの特徴、また、具体的な活用方法を理解する。（課題：保健指導に用いる理論やモデルの特徴を表にまとめる）
3	保健指導の展開1：健康相談とヘルスカウンセリング	保健師の活動の基礎となる個別に対する支援について、その種類と方法を理解する。（復習：前回の授業で学習した保健指導で活用する理論やモデルに当たってはめ考察し、理解を深める）
4	保健指導の展開2：家庭訪問	保健師の特徴的な活動である家庭訪問について、特徴、プロセス、法的根拠を理解する。（課題：公衆衛生看護援助論Ⅰの資料と看護法令要覧から家庭訪問について記述のある法律を抽出し、その対象や特徴などが確認できる一覧表を作成する）
5	演習：家庭訪問（計画）	事例を基に、健康課題・問題を抽出し、その解決に向けた家庭訪問の計画を立案する。（課題：立案した家庭訪問計画に沿ったロールプレイの実施ができるように、計画の拡充と実技練習を十分に行う）
6	演習：家庭訪問（実施と評価）	家庭訪問ロールプレイを行い、実施者、見学者双方の立場で討議し、理解を深める。（課題：家庭訪問について計画とロールプレイの実際から評価・考察し、レポートにまとめる）
7	保健指導の展開3：健康教育	保健師活動における健康教育の位置付けとパラダイムの変遷を知り、対象に合わせた、目的、目標及び場の設定等について理解する。（課題：公衆衛生看護援助論Ⅰ演習（健康づくり）を題材に人の行動変容につながる健康教育について考察する）
8	演習：健康教育（企画・立案）	事例について健康課題を抽出し、グループ・集団へのアプローチが有効な課題について健康教育の計画を立案する。（課題：立案した計画に沿った指導案を作成する）
9	演習：健康教育（教材作成）	指導案で考えた教材を作成する。（課題：次回の実施に向け、作成した教材を使用し、健康教育実施に向けた練習と適宜、計画の修正を行う）
10	演習：健康教育（発表と評価）	立案した計画書、指導案に基づき、教材を使用して健康教育を実施（発表）する。（課題：健康教育の計画で立案した評価の視点で評価を行い、健康教育全体の考察をする）

11	セルフヘルプグループ、地区組織活動の理論・方法論	地区組織活動とは何か、組織の構造と概念を理解する。また、地区組織活動に用いられる諸理論を学ぶ。(課題：各自が居住地の市町村に存在する地区組織とその種類を調べる)
12	住民組織の自立支援・住民組織活動の実際	実際の住民組織の事例を基に、具体的に住民がエンパワメントされる過程や保健師の活動の様子について理解を深める。
13	政策・施策への事業企画・立案と評価	実在する市町村を用いて、具体的な市町村計画と保健事業との整合性について理解を深める。(復習：グループで選択した事例の市町村の現状を調べる)
14	事業計画・立案と評価	13回で学んだ事例のその後について、グループ毎に計画を立案し、評価の視点とその実施時期など具体的に考え、発表資料を作成する。
15	事業計画・立案と評価について発表	14回で作成した資料を基にグループ毎に発表し、討議し、理解を深める。(課題：事業計画と公衆衛生看護管理についてレポートにまとめる)
評価方法 および評価基準		
演習課題 40%、期末試験 60%		
S (100~90 点) : 健康課題を改善するために適した保健指導の方法が選択し、計画を立案し、実施しすることができる。さらに、授業内で実施可能な範囲で評価を行う一連の過程ができる。		
A (89~80 点) : 健康課題を改善するための保健指導の方法を選択し、計画を立案し、実施することができる。さらに適切な評価の視点をあげ、指導のもとで実施することができる。		
B (79~70 点) : 健康課題を解決するために指定された保健指導の方法で計画を立案し、少しの指導で実施することができる。さらに評価の視点をいくつか挙げ、その理由を説明することができる		
C (69~60 点) : 健康課題を解決するために指定された保健指導の方法で計画を立案し、指導のもとで実施することができる。また、評価の視点を考えることができる。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			成すべき能力 ディプロマポリシーを達成するための必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BK2401				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅲ				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	2		判断力 ○	
担当教員	山田・三徳・石井・森川				探究心 ○	

講義目的		
公衆衛生看護学実習の準備科目である。公衆衛生看護活動の具体的な展開を理解し、健康課題・問題に対する計画から実施、評価に至るプロセスを学習する。		
授業内容		
公衆衛生看護活動の理論と実際を用いて、保健所と市町村、事業所、学校等の場での具体的な保健師活動の展開を学習する。特に、公衆衛生看護学実習の実習地となる市町に対して、公衆衛生看護活動の基となる地域診断に重点を置いた演習を展開する。地域の健康課題・問題を明らかにしたうえで、家庭訪問、健康相談、健康教育、組織育成等の公衆衛生看護活動の計画、実践及び評価について繰り返し演習を行い、効果的な学習の場とする。知識の理解に留まらず、技術力を身につける。		
留意事項（履修条件他）		
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師課程選択者のみ受講 ・この科目的受講及び単位修得に当たり、予習、復習、課題等により30時間以上の授業時間外の学習が必要である。特に、演習はグループ単位で行うため、他のメンバーと協働による課題への取り組みが必須である。 ・授業の後半部分は、実習と授業が並行して開講されるため、実習グループ単位を主とした少人数での演習を展開する。 ・授業中又は授業終了時にアクションペーパーの提出を求める。原則、フィードバックは、次回授業開始時に行うが、全体での共有の必要がない事項については、個別対応することもある。 		
教材		
最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メディカルフレンド社 最新版 労働衛生のしおり 最新版 産業保健ハンドブック（産業保健ハンドブックシリーズ①） 最新版		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	公衆衛生看護活動の技術1 公衆衛生看護活動における管理の特色	健看護管理の定義、施設内での看護管理と公衆衛生看護管理の違いについて理解する。更に公衆衛生看護管理の基本と諸相について学ぶ。
2	公衆衛生看護活動の技術2 公衆衛生看護活動における管理内容	公衆衛生看護管理の情報管理、組織運営・管理、事業管理、予算管理、人事管理、地域ケアの質管理について学ぶ。事例検討。
3	公衆衛生看護活動の技術3 健康危機管理とは：自然災害発生時の保健活動	健康危機管理とは何かを理解する。自然災害について、発生における初期、中期、長期の対応について学ぶ。事例検討。
4	公衆衛生看護活動の技術4 感染症集団発生時の保健活動	保健所の体制づくり、感染症発生時の疫学調査、集団発生時の保健活動。
5	公衆衛生看護活動の技術5 地域ケアシステムの構築	地域ケアシステムの概念とは、地域ケアシステムの発展過程、ネットワーク形成とシステムづくり、地域ケアシステム構築のポイント。
6	公衆衛生看護活動の技術6 地域ケアシステムの運営管理	ケアシステムの構築に求められる資質とソーシャルキャピタルについて考える。事例検討。
7	公衆衛生看護における地区診断	地域診断の意義と地域診断に用いるモデルの特徴を理解する。復習（課題）として、コミュニティ・アズ・パートナー・モデルを用いて居住地付近を例に、想定される地域診断の項目を挙げ、具体的な地域診断のイメージをつかむ。
8	公衆衛生看護における地区診断【演習1】	前回の課題について、発表と討議を行い、収集情報の選び方、まとめ方等、学生間の知識の共有を図る。（課題：実習地の地区診断を想定し、地区診断の計画を立てる。）
9	公衆衛生看護における健康情報収集の分析	地域の人々の健康にかかる情報とは何か、前回の演習を基に必要となる情報を選択し、情報の収集と整理について、その具体的な方法を知る。（課題：次回の地区視診について重要項目や情報収集の方法等を確認する。）
10	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習2】地区視診の実際を学ぶ	公衆衛生看護学実習Iの実習地に赴き、実際に地区視診を行う。（課題：視診の結果を整理する。）
11	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習3】地域の客観的情報を収集する	11・12回は、人口静態、人口動態、歴史など地域を構成する人々を中心に必要な情報を収集し、整理する。（課題：情報の整理の仕方を工夫し、地域の特徴がわかる形にする。また、情報の不足はないか追加するデータは何かを検討し、必要な情報は収集する。）
12	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習4】地域の客観的情報を収集する	コミュニケーション・アズ・パートナー・モデルの8つの要素に沿って情報を収集し整理する。（課題：前回の地域を構成する人々と8つの要素を統合し、地域の特性がよくわかる形に工夫する。）
13	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習5】地域の客観的情報を収集する	コミュニケーション・アズ・パートナー・モデルの8つの要素に沿って情報を収集し整理する。（課題：前回の地域を構成する人々と8つの要素を統合し、地域の特性がよくわかる形に工夫する。）
14	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習6】地域の客観的情報を収集する	コミュニケーション・アズ・パートナー・モデルの8つの要素に沿って情報を収集し整理する。（課題：前回の地域を構成する人々と8つの要素を統合し、地域の特性がよくわかる形に工夫する。）

15	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習 7】情報の分析	10～14 回で得た情報を分析、解釈、判断する。分析・判断の課程で新たに必要となった情報を速やかに収集し、分析を深める。
16	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習 8】情報の分析	15・16 回の分析・判断から、地域の顕在化、潜在化している健康に関する課題や問題を見出し、その理由が説明できるような資料にまとめる。
17	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習 8】健康課題の抽出	抽出した健康課題・問題について、優先度を考慮し、その理由が説明できるような資料にまとめる。(課題 : 19 回以降の演習つなぐことができる地区診断か再度検討し、不十分な部分は補う。)
18	公衆衛生看護における健康情報の収集方法及び健康課題の抽出 【演習 9】健康課題の優先順位	19 回～20 回では、10～18 回で行った公衆衛生看護学実習 I の実習地についての地区診断から抽出した健康課題に対する、公衆衛生看護活動の実施計画を立案し、技術演習する。 19 回として、重要課題の中から保健師学生が介入可能な活動について、集団に対する健康教育を想定した企画書を作成する。(課題 : 立案した企画書の内容について精査し、不十分な点を修正する。)
19	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（健康教育） 【演習 10】健康教育の企画	19 回で作成した企画書に基づき、指導案を作成する。 (課題 : 一般論ではなく、実習地域で実施可能な指導案にするため、実施場所や対象の選定などを吟味する。また、指導案とは別に、原稿を作成する。)
20	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（健康教育） 【演習 11】健康教育指導案の作成	20 回で作成した指導案に基づき、使用する媒体を作成する。ここでは、実際に使用する素材、大きさで作成する。(課題 : 出来上がった媒体を用い練習をする。次回使用できるように必要時修正をする。)
21	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（健康教育） 【演習 12】健康教育媒体の作成	20 回で作成した指導案に基づき、実施可能な評価とする。評価に時間をする項目については、その時期と評価の方法について明記する。 (課題 : 評価をどのようにフィードバックするか、新規の事業に繋げるか検討し、その思考過程を記録する。)
22	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（健康教育） 【演習 13】健康教育実技演習	20 回で作成した指導案で健康教育の実技を行う。必要時には、指導案や原稿の修正をし、実施可能なものにする。(復習 : 原稿に頼らなくても実施可能なレベルまで何度も練習する。)
23	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（健康教育） 【演習 14】健康教育の評価	実習計画に沿い、個人・家族の健康課題・問題の改善に向けた家庭訪問の計画を立案する。顕在ニーズだけでなく潜在ニーズも意識し、また、地域特性も考慮した計画とする。
24	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（家庭訪問） 【演習 15】訪問計画の作成	24 回で立案した家庭訪問計画に沿ったデモンストレーションを行い、グループ内で検討する。(復習 : さらに練習を繰り返し、家庭訪問の手技的な完成度を高める。)
25	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（家庭訪問） 【演習 16】家庭訪問実技演習	4 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児の健康診査について、実習地の実情に合わせた実技（計測、問診、発達検査）演習を行う。(復習 : 実習時に問診の実施が可能なレベルまでトレーニングする。)
26	公衆衛生看護の健康課題 地域住民の健康ニーズと保健師活動展開 健康課題と保健師活動の展開（乳幼児健康診査） 【演習 17】乳幼児健診問診等実技演習	産業保健の目的や衛生管理体制について理解する。産業構造と労働者の健康管理の状況について理解する。
27	産業保健活動の展開と地域保健活動の連携：労働衛生：労働衛生の動向と関連法規	産業保健における保健師の役割を理解し、他職種・他部署・他機関との連携・協働、職域保健と地域保健の連携のあり方を理解する。(課題 : 公衆衛生看護実習 II の予定施設について特徴を調べ、職業性疾病等について理解する。)
28	産業保健活動の展開と地域保健活動の連携：域における健康づくり 【演習 18】健康管理と環境測定	虐待事案を通して保健師と養護教諭（学校）との連携の実際について学ぶ。
29	学校保健活動の展開と地域保健活動との連携	公衆衛生看護学実習 II において実施可能な保健活動を選び、具体的な実施計画を検討する。課題として、媒体の作成や実施に関する練習等を行う。
30	学校保健活動の展開と地域保健活動との連携 【演習 19】高校生を対象とした季節の保健	公衆衛生看護学実習 II において実施可能な保健活動を選び、具体的な実施計画を検討する。課題として、媒体の作成や実施に関する練習等を行う。
評価方法 および評価基準		
実技 50%、演習課題レポート 40%、授業参加態度 10%で総合的に評価する。		
S (100～90 点) : 実習地区の特徴を捉えた地区診断を完成させることができ、抽出された課題に対し優先度をつけ、適切な解決策を企画・実施・評価することができる		
A (89～80 点) : 実習地区の特徴を捉えた地区診断を完成させることができ、抽出された課題に対し優先度をつけ、解決策を考えることができる		
B (79～70 点) : 実習地区の地区診断から、抽出された最優先課題に対し、自分なりの解決策を考えることができる		
C (69～60 点) : 実習地区の地区診断から、抽出された最優先課題に対し、最低限の解決策を考えることができる		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			感覚するためには、 ディープなマーリンシーを達成する ために必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BK2501				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論IV				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	三徳和子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的								
公衆衛生看護管理は地域の人々の健康水準の向上を目指して、人、物、金、情報、組織等の資源を効率的・効果的に活用することの必要性が理解できる。								
授業内容								
公衆衛生看護管理は地域の健康課題解決に向けて、保健福祉計画等の策定と実施・評価を行う。このために行われる情報管理、組織の運営管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理・人材育成、地域ケアの質の保証等の活動の必要性について理解する。さらに、健康危機管理について平常時からの管理活動と災害時の活動について学ぶ。								
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師課程選択者のみ受講 ・ この科目的受講及び単位修得に当たり、予習、復習、課題等により 15 時間以上の授業時間外の学習が必要である。特に、演習はグループ単位で行うため、他のメンバーと協働による課題への取り組みが必須である。 ・ 授業は、グループ単位を主とした少人数での演習を行う。 								
教材								
書名：公衆衛生看護管理論								
著者名：平野かよ子 出版社・出版年：メチカルフレンド社・最新版年								
価格：2,730 円								
授業計画および学習課題（予習・復習）								
回	内 容	担当	学習課題（予習・復習）					
1	1. 実習終了後における、公衆衛生看護活動における管理の特色と管理内容の再整理【演習 1】	三徳	(各コマごとに、公衆衛生看護学実習巻 I・II の記録を再度学習してくること) 公衆衛生看護活動の諸相について実習を振り返り(公衆衛生看護管理の情報管理、組織運営・管理、事業管理、予算管理、人事管理、地域ケアの質管理等)新たに気づいたことの再整理を行う。 公衆衛生看護活動のうち、健康危機管理の各分野について実習を振り返り、1つの領域を取り上げ、グループワークを行う。					
2	【演習 1】演習の発表	三徳	グループ討議について発表する					
3	2. 健康危機管理：自然災害発生時の保健活動【演習 2】	三徳	健康危機管理とは何かを実習を通して再理解を進める。自然災害について、発生時における初期、中期、長期の対応について、現場での状況を整理する。自然災害発生時の保健活動について実習から得た情報を整理し、グループで討議する。					
4	【演習 2】演習の発表	三徳	グループ討議について発表する					
5	3. 感染症集団発生時の保健活動【演習 3】	三徳	集団発生を起こす感染症（インフルエンザ、O157など）について医学的対応を整理する。保健所の感染症の集団発生体制づくり、感染症発生時の疫学調査、集団発生時の保健活動について現状と課題及びその対策についてグループワークする。					
6	【演習 3】演習の発表	三徳	グループ討議について発表する					
7	4. 地域ケアシステムの構築と運営管理【演習 4】	三徳	ケアシステムの構築に求められる資質とソーシャルキャピタルについて実習で得た地域実態と課題を整理する。					
8	【演習 4】演習の発表	三徳	グループ討議について発表する					
評価方法 および評価基準								
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。								
S (100~90 点) : 对象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を説明することができ、さらに、対象ごとに学習した健康課題、法的根拠等を体系的に捉えることができる								
A (89~80 点) : 对象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する法的根拠の関連を概ね説明することができ、事例に対応した保健指導を考えることができる								
B (79~70 点) : 对象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を概ね説明することができる								
C (69~60 点) : 对象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠を理解することができる								
D (60 点未満) : C のレベルに達していない								

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			成するための必要能力 デジタルマトリクス達成度	豊かな人間性	
授業コード	BK2601				広い視野	
授業科目名	学校保健				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	松原紀子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
学校保健の概要が分かり、その中心となる養護教諭の職務について理解する。		
<ol style="list-style-type: none"> 学校保健の基本的概要を理解し、国民の健康の保持増進の一環であることを説明できる。 児童生徒の心身の健康実態と学校保健の課題を関連付けて説明ができる。 学校に関わる職員と児童生徒の健康課題への支援のあり方を説明できる。 保健教育の意味や方法について理解し、実践を振り返って説明ができる。 学校保健を構成する組織活動について具体的に説明ができる。 		
授業内容		
学校保健の目的・意義・実際の活動について理解し、教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務・実践能力・資質を培う。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教員の免許状取得のための必修科目である。		
学修到達度を確認するために頻回に小テストを行う。さらに、学修への主体的取り組みを促すために課題学習を課します。この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。小テスト及び課題学習のフィードバックは、その都度講義時間中におこなう。		
教材		
教科書：「学校保健ハンドブック第6次改訂」第6次改訂（第3刷） ぎょうせい 2016年 価格3,348円 (参考書：参考資料等 学校保健実務必携 第4次改訂版 2016年・学校保健マニュアル 2015年)		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、ノートの取り方、学校保健を学ぶ意義づけ、授業計画の説明	養護教諭が学校保健を学ぶ意義について考える（学校保健の構造を理解する） ・今後14回の授業の受け方が理解でき、実行できるようになる
2	健康の概念・学校保健の歴史・国の政策（国や文部科学省の役割と関連法律）	児童生徒における学校保健役割を理解できる
3	学校保健組織活動の概要 学校保健を構成職種 <常勤>校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭等、 <非常勤>校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラー	学校保健関係者の職務内容と連携の必要性が理解できる
4	学校教育計画、学校保健計画、学校安全計画・保健室経営計画	学校保健の課題解決のための組織的計画的方法について理解できる
5	健康観察・健康相談	健康状態の把握の方法が理解できる
6	就学時の健康診断、児童生徒の健康診断・職員の健康診断	健康診断の法的根拠、進め方、各検査項目の目的と意義、方法が理解できる
7	学校安全、危機管理体制	学校における安全管理、安全教育について理解できる
8	学校の応急手当	学校における応急手当のポイントを理解できる
9	児童生徒の心身の健康問題とその対応	児童生徒の健康障害、心の健康問題とその対応策が理解できる
10	学校における感染症とその対策	学校感染症とその対応が理解できる
11	学校環境衛生	学校環境衛生の目的と基準が理解できる
12	健康教育（保健指導と保健学習）	健康教育の方法について理解できる
13	食教育	児童生徒の食生活に関して様々な課題があるその対応として、各政策や校内の対応が実施されていることを理解できる
14	特別支援教育の現状	発達や行動上に困難のある児童生徒への仕組みや教育的な工夫の現状が分かり、保健教育及び保健管理においての予防的な対策や工夫が必要であることが理解できる
15	養護教諭に期待されている今日的課題	現代的な健康課題に対して養護教諭が果たす役割と必要とされる資質が理解でき、今後培って行こうとする意欲を持つ

評価方法 および評価基準

小テスト 30%、期末試験 70%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			感覚するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を達成するためには、ディープ・マ・ポリシーを達成するためには、必要な能力	
授業コード	BK2701				
授業科目名	養護概説				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		
担当教員	松原紀子				

講義目的		
<p>1 教育目標を達成する上での養護教諭の役割を説明できる。</p> <p>2 発育発達過程にある児童生徒等の一般的傾向とそれぞれの個人差を説明できる。</p> <p>3 教育活動中の児童生徒の行動と健康問題を説明できる。</p> <p>4 保健室に来室する児童生徒等の疾病予防・健康増進への対応を説明できる。</p> <p>5 学校環境のアセスメントができ、その解決方略を説明できる。</p> <p>6 各自が目標とする養護教諭像と自己を照らし合わせ、課題認識と解決実践ができる</p>		
授業内容		
<p>前年の「学校保健」の基礎にたち、養護教諭の職務に関する根拠と内容、課題を学ぶ。</p> <p>また、学校保健安全法に基づき、児童生徒の健康管理の具体的な手順を体験し、自己学習の課題を明らかにする。さらに、学際的知識を統合し、今日の児童生徒等の健康状態を的確に把握し、学習指導要領で示された教育目標に達成するために学校、地域の連携方法を学ぶ。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>教員の免許状取得のための必修科目である。</p> <p>学修への主体的取り組みを促すために課題学習を課します。この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。事前、事後に課す課題学習のフィードバックは、その都度講義時間中におこなう。</p>		
教材		
テキスト		
采女智津江:新養護概説 少年写真新聞社 第8版 2015. 價格2,592円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス・学校教育・学校保健・養護教諭	授業開始にあたり、前年の「学校保健」の基礎にたち、「養護」意味考える機会とする授業の進め方、臨み方が理解できる
2	養護教諭制度の変遷と養護教諭の職務内容、関係法規	養護教諭の職務・役割が理解できる
3	健康診断	前年の「学校保健」の基礎（健康診断の法的根拠等）を基に実際の方法について理解でき、手順・方法・技術が習得できる
4	救急処置（アセスメント方法・包帯法等を含む）	学校における救急処置について理解できる
5	健康観察・疾病管理	健康観察・疾病管理の方法を実践し、技術を習得する
6	学校精神保健・健康相談	子どもの心の問題の内容を理解する事例に基づいた健康相談を実践する
7	学校環境衛生	環境衛生に関する養護教諭の役割が理解できる日常測定の方法が分かり実施できる
8	保健教育の進め方（健康実態と課題の把握、集団への保健指導、保健学習への係わり方）	健康実態と課題の把握の方法、集団への保健指導、保健学習への係わり方がわかる
9	保健指導	実際に保健指導が実践できる
10	養護教諭の職務と保健室の機能、保健室経営1	保健室経営の重要性・機能が理解できる
11	保健室経営2	保健室経営計画の作成と評価ができる
12	組織活動① 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割と関係法規、養護教諭との職務上の連携	学校三師と養護教諭の職務上の連携を理解している
13	組織活動② 保健組織活動と学校保健委員会の役割	学校内外との連携が理解でき、学校保健計画が立案できる
14	学校安全と危機管理	危機管理の意義と基本的な考え方が理解できる
15	調査・研究・プレゼンテーションの進め方	学修、他の養護教諭からのインタビューを基に求められる養護教諭像について、自分の考えを発表できる

評価方法 および評価基準

小テスト及び課題レポート 30%、期末試験 70%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-地域看護学			感 る た め に 必 要 能 力	豊かな人間性	
授業コード	BK2801				広い視野	
授業科目名	健康相談活動論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	松原紀子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
養護教諭の専門性と保健室の機能を生かし、児童生徒に生じた心の発達課題に則した健康相談活動が実施できる。		
授業内容		
授業の概要		
<p>1. 健康相談の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりについて事例に即して学ぶ</p> <p>2. 健康相談に生かせる理論や方法を二人組やグループで実践的に学ぶ</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
健康相談活動に関する基本的理解のもとで具体的な事例をあげながら心的要因の把握や支援のあり方について、ロールプレイやグループワーク等を取り入れながら進めていく。そこで、積極的に受講することが条件となる。この講義は、子どもの心身医学、精神医学等が基礎となる。また、課題レポートを課す。この単位を修得するにあたり、およそ30時間の時間外の学修が必要である。また、課題レポート等のフィードバックは、その都度講義時間内に行う。		
教材		
養護教諭がおこなう 健康相談・健康相談活動の理論と実際 三木とみ子・徳山美智子編 価格 3,806 円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス 健康相談活動の沿革・健康相談の沿革・健康相談活動の定義・目的・方法・学校教育と健康相談活動	養護教諭の行う健康相談について自分の考えをまとめる
2	発達段階別的心身の健康問題の特徴の理解と養護教諭の関わり	発達段階における子どもの健康問題をあげ方策についてまとめる
3	心身医学の基礎知識、精神医学の基礎知識、	心身医学と精神医学の基礎知識について整理する
4	健康相談活動に生かすカウンセリング理論と技法	応答の基本的な技法を整理する
5	健康相談活動の原理・構造と必要な資質・能力・技能	健康相談活動の構造を整理する
6	健康相談の実践効果をあげるための視点と方法① 養護教諭の職務の特質を生かすとは、 保健室の機能を健康相談に生かすとは、	養護教諭の職務や保健室の機能を生かした健康相談についてまとめる
7	健康相談の実践効果をあげるための視点と方法② アセスメントの留意点や子どもの気持ちに応じたタッピング「～しながらカウンセリング」の有効性について学ぶ	養護教諭のヘルスマセスメントやタッピングについてまとめる
8	保健室を想定した課題演習① 養護教諭役はバイタルサインチェックを行いながら子どもを観察・話を聞く	バイタルサインの基本をまとめる
9	保健室を想定した課題演習② 養護教諭役は保健室場面を想定し、アセスメント・保健室の施設・設備・資料の活用した対応をする	保健室の施設・設備・資料を活用するとは具体的にどうなことをまとめる
10	子どものさまざまな問題に応じた対応について学ぶ 心因性腹痛・心因性頭痛・虐待・薬物乱用・性逸脱行動・自傷行為（等）の対応と介入方法	事例を選択し、養護教諭がどのように対応すべきかまとめる
11	保健室登校の捉え方と対応 保健室登校について基本的な事項を確認し、その後保健室登校賛成派と「反対派に分かれて討議する	保健室登校の意義、効果、留意点等を調べて、まとめる
12	健康相談活動と連携 健康相談活動において、養護教諭は誰とどうように連携すべきか、 その順序や具体的な相手について学修を深める (意義・対象・内容・方法・情報収集、発信、プライバシー保護)	問題に応じてどのような連携をすべきか調べ、まとめる
13	健康相談活動の記録と事例検討 健康相談活動における記録について学び、事例検討の一つである「インシデント・プロセス」について体験する	記録の意義について把握し、事例検討の意義についてまとめる。

14	健康相談・健康相談活動と保健指導の関連 法9条の保健指導と健康相談・健康相談活動の内容 具体的な事例を取り上げ、関連性を理解し、実施計画と活動実施案を作成する	法9条の保健指導と健康相談・健康相談活動の関連をまとめる
15	健康相談活動の評価 実際の学校の健康相談活動事例（記録）を分析し、定義に即して評価をおこなう	健康相談活動の評価項目や評価の観点をまとめる
評価方法 および評価基準		
小テスト・課題 30%、期末試験 70%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-国際看護学			ディプロマポーリングを達成するため必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK4101				広い視野	○	
授業科目名	国際看護学 I				知識・技術		
配当学年/学期	1 / 後期		単位数		判断力	○	
担当教員	西川まり子		2		探究心	○	

講義目的		
この授業は、国際看護学への導入である。将来、国内における多文化看護のケア提供や国際社会のヘルス分野における貢献を目指す基礎となる世界のヘルスやヘルスシステムを学ぶ。		
授業内容		
国際看護への導入、定義とその必要性からはじめ、初学者に理解しやすいように、世界地図に合わせて、世界のヘルスの状況と特徴や目標とする国連機関を中心とするヘルス分野におけるゴールを学ぶ。具体的には、世界のヘルスと密接に関係する、経済、環境、ジェンダー、人口問題、栄養状態、労働、少年兵士、外傷や事故、伝統医療、難民保健、感染症、ヘルスシステムの概要を学ぶ。初学者にも理解しやすいようにDVDを取り入れて視覚的にも学ぶ。この授業では授業毎に、自分の考えをまとめ、自分の思いを知る。さらに、小グループでディスカッションを行い、知見を深める。		
留意事項（履修条件他）		
この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。全体のフィールドバックは、授業毎のディスカッション後のコメントとその解説を行う。個人のフィールドバックは、授業時間外に適宜行う。		
教材		
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ￥3,200 UNICEF『世界子供白書』最新版、￥240 UNICEF『基礎リーフレット』最新版、￥10		
<資料>		
デイヴィッド ワナー、若井 晋(翻訳)『いのち・開発・NGO』1998、新評論 ISBN13:978-4794804228 ￥3,990 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II, III, 2012、医学映像教育センター ￥29,400×3 ユニセフ、それでも生きる子供たちへ、2008、ガガコミュニケーションズ		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	国際看護学への導入：国際的なヘルスの指標の見方。国際看護学とは。その必要性。国際看護とは。異文化看護。	UNICEF資料：p27-35
2	ナイチンゲール誕生の180年前に フランスからカナダに渡った看護の先駆者 Jeanne Mance ジエン・マンス氏（授業中に Jeanne Mance の資料を読む）	地図、資料配布
3	世界のヘルスと歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。ミレニアムゴール。SDGs と MDGs。（授業中に世界のヘルスのDVD鑑賞）	国際保健：33-36
4	医療経済と世界のヘルス、保険：国、国内格差（ニューヨーク、ブラジル、中国の例） 授業中にLast Train Home のDVD 鑑賞	国際保健：201-203
5	Last Train Home のDVD 鑑賞の続き。海外の保険制度	国際保健：188-191
6	途上国の環境とヘルスの問題（ケニアのスラム：キベラの例） ビデオで鑑賞	国際保健：191-193
7	ヘルスと教育、孤児、ジェンダーの問題。世界のヘルスシステム。「それでも生きる子供たちへ—桑桑（ソンソン）と小猫（シャオマオ）」のDVD 鑑賞	国際保健：15-22
8	世界の人権と倫理、テロとヘルス（ニューヨークの例）とクイズ②	国際保健：26-32、147-150
9	世界の人口と家族計画、FGM、リプロダクティブヘルスの概要	国際保健：113-116
10	世界の栄養状況（栄養不良や肥満）	国際保健：120-124

11	栄養続き。世界のメンタルヘルス、労働衛生、少年兵士、外傷や事故	国際保健 : 125-127、128-131、131-136、141-143
12	世界のヘルスと伝統医療、難民保健（シリア、ニューヨークのカンボジア人）。難民キャンプでの看護師や看護用の移動図書館	国際保健 : 144-145、157-159
13	感染症（1）世界の小児の感染症、エイズ、	国際保健 : 117-118
14	感染症（2）肺炎、下痢、マラリア、その他の感染症や予防接種 世界のヘルスと安全を守る国際協力と国際機関の概要	国際保健 : 163-177 1-4、国民衛生の動向：保健分野における国際協力
15	クイズ③とまとめ	
評価方法 および評価基準		
クイズ3回 80% （地図 10% 中間 30% 期末 40%） 授業のグループ・ディスカッションへの参加度 20%		
S (100~90 点) : 目標に達し、かなり良くできている		
A (89~80 点) : 到達目標に達している		
B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある		
C (69~60 点) : 到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-国際看護学			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK4201				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	国際看護学Ⅱ				知識・技術		
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	西川まり子				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
この授業では、多文化共生社会に向けての看護を医療人類学と併せて学ぶ。将来、施設における文化的背景の異なる人々へ多文化看護を提供する担い手、さらにリーダー的役割を発揮する基礎を日本の現状と交えて学ぶ。		
授業内容		
この授業は、多文化共生看護に向けて、アイデンティティ、国内の移民、留学生、中国残留日本人帰国孤児、外国人旅行者のなどの文化的、社会的背景の異なる人たちへ必要な看護が提供できるような基礎を学ぶ。具体的には、現状、病院での国際内科や通訳のサポート、外国人対応を演習も交えて学ぶ。さらに、外国人看護師との協働、メディカルツーリズム、原住民看護を含める。さらに、身近な外国人にインタビューも交え、具体化する。		
留意事項（履修条件他）		
この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ 60 時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。全体のフィールドバックは、授業毎のディスカッション後のコメントとその解説で行う。個人のフィールドバックは、授業時間外に適宜行う。		
教材		
① 波平恵美子『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院, 2011, ¥2,010 ISBN978-4-260-01317-8 ② 多文化共生センター『医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方』 ¥1,000 ③ 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3,200 <資料> 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II 医学映像教育センター ¥29,400 X 2 映画DVD『オレンジと太陽』		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	映画『オレンジと太陽』①	予習・復習 教科書 ①p2-19、p52-62
2	映画『オレンジと太陽』と共にアイデンティティを学ぶ②	予習・復習 教科書 ①p2-19、p52-62
3	国内の移民、留学生、外国人旅行者、メディカルツーリズム（日本の現状やマルタ共和国、インド、タイなど）	予習・復習 教科書③p218-219
4	医療人類学、伝統医療	予習・復習 教科書①131-150③198-199、156-159
5	外国人ケアの病院施設での対応：国際内科の内容 外国人ケアにおける看護師の現状と対策（通訳との関係も含む）	予習・復習 教科書②の全体をみておく
6	海外の日本人のヘルス、安全対策（JCSOS 等）	予習・復習 教科書②の全体をみておく
7	外国人看護師との協働：DVD 視聴含む、中間試験	予習・復習 資料を読んでおく
8	外国人としての気持ちや体験談（日常生活や医療施設において） 中国残留日本帰国孤児とその配偶者	予習・復習 教科書①p159-188
9	多文化看護体験：コミュニケーション 患者の理解や誤解予防のポイント（演習1）	予習・復習 資料を読んでおくこと
10	外国人患者への対応（演習2）	予習・復習 ケースに従って、実際に対応体験
11	外国人患者への対応（演習3）	予習・復習 ケースに従って、実際の対応体験
12	原住民（オーストラリアのアボリジニー、アメリカのインディアン）	予習・復習 資料を読んでおくこと
13	学生外国人へインタビュー成果グループ発表（1）	予習：インタビュー内容をまとめておく
14	学生外国人へインタビュー成果グループ発表（2）	予習：インタビュー内容をまとめておく
15	まとめ	今までのところを復習しておく

評価方法 および評価基準

試験 60% (中間・期末) レポート 10% 授業への参加度 30%

S (100~90 点)：目標に達し、かなり良くできている

A (89~80 点)：到達目標に達している

B (79~70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある

C (69~60 点)：到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている

D (60 点未満)：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-国際看護学			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BK4301				
授業科目名	国際看護学Ⅲ				
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	2		
担当教員	西川まり子/朝倉由紀				

講義目的		
この授業は、国際社会のヘルス分野における貢献を目指す基礎となる世界の看護を学ぶ。世界の看護師の国境を超えた移動の状況に加え、発展国のアドバンスレベルの看護と諸外国の看護事情をそれぞれの国に焦点をあてて学ぶ。これまで学んだ国際看護学Ⅰ、ⅡにⅢを併せて学ぶことにより幅広い看護を身につけ、学生自身のプロとしての将来の夢を広げる基礎とする。		
授業内容		
この授業は、国際看護学Ⅰ、Ⅱで学んできた内容に付け加えて、世界の看護師の動向をその国のヘルスに焦点をあてながら学ぶ。まず、世界の看護師を大枠の地域別にみての仕事内容や置かれている状況の概要を学ぶ。次に近年問題として挙げられている医療者の国境を超えた移動を表現したメリーゴーランドの理由とその結果を学ぶ。さらに地域によって差のある世界の看護教育や免許制度を学ぶ。最後に具体例として将来の看護を見据えて、発展国での看護の動向をナース・プラクティショナーの現状や問題点、成人期ケア、緩和ケア・終末期ケアの動向、卒業後の研修スタイル等から学ぶ。(西川 13回担当、朝倉 2回担当)		
なお、この科目的単位を履修するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学習（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。確認クイズや課題レポートのフィールドバックは講義内に行うが、個別へのフィールドバックは時間外に設定する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ 60 時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。全体のフィールドバックは、授業毎のディスカッション後のコメントとその解説で行う。個人のフィールドバックは、授業時間外に適宜行う。		
教材		
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ￥3,200 UNICEF『世界子供白書』最新版￥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版、￥10 <資料> 明石康『国際連合一軌跡と展望』2006、岩波新書、ISBN-13:978-4004310525 ￥756 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ￥29400 X 2 デイヴィッド ワーナー、若井 晋（翻訳）『いのち・開発・NGO』1998、新評論、ISBN13:978-4794804228 ￥3990 The International Nursing Foundation of Japan (2008) Nursing in the world. ISBN 978-4-8392-1112-7 ￥13650 Perle Cowen, Sue Moorhead (2014) Current Issues in Nursing, Elsevier Health Sciences. ISBN 0323293190, 9780323293198 Perle Slavik Cowen, Sue Moorhead (2006) Current Issues in Nursing, Mosby Elsevier. ISBN 032303652X, 9780323036528		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	世界の看護への導入	配布資料
2	世界の看護のメリーゴーランド現象やノン・フィジシャンの出現の現状と対策	配布資料
3	アジアのヘルスと看護事情	配布資料
4	オーストラリアのヘルスと看護事情	配布資料
5	カナダのヘルス事情	配布資料
6	南アメリカのヘルスと看護事情。クイズ1。	配布資料
7	アメリカのヘルスと看護事情、免許制度	配布資料
8	アメリカにおける急性期の看護（朝倉先生）	配布資料
9	アメリカにおける 緩和ケア・終末期ケア（朝倉先生）	配布資料
10	ヨーロッパのヘルスと看護事情	配布資料
11	ロシアのヘルスと看護事情	配布資料

12	アフリカのヘルスと看護事情	配布資料
13	中東のヘルスと看護事情	配布資料
14	学生の発表	配布資料
15	クイズ2とまとめ	配布資料
評価方法 および評価基準		
中間クイズ (25%) 期末クイズ (25%) レポート 13×2 回 = 26% 発表 10% 授業への参加度 10%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-広域看護学-国際看護学			感覚するためには 豊かな人間性 デイヴィッド・ワーナー マ・ボリシーを達成するためには 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BK4401				
授業科目名	国際看護学IV				
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		
担当教員	西川まり子				

講義目的																											
この授業は、国際看護学の総集編である。世界の幅広いヘルスや看護、多文化共生看護、実習、世界の看護を学んだ後、それをサポートする国際機関やNGO等の種類や役割を学ぶ。最後に国際看護学の総集編とする。これにより国際社会における将来の目標を見いだし、国際貢献を考えることができる。																											
授業内容																											
この授業は1年からの総集編である。世界のヘルスをサポートする国内、国際組織の中でも特に国際連合、NGO等の役割の主な種類やその役割を学ぶ。その組織に求められる人材、国際組織に正規に参加するための具体的な対策を学ぶ。さらに国際的に看護を支えているICNや身近なNGOも学ぶ。これらの機関の中で、名古屋近辺の身近な所へ実際に出かけて学生たち自身でインタビューを行い発表する。この発表により学生間でお互いに学びあう。																											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）																											
この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ30時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。全体のフィールドバックは、授業毎のディスカッション後のコメントとその解説を行う。個人のフィールドバックは、授業時間外に適宜行う。																											
教材																											
デイヴィッド・ワーナー、若井晋（翻訳）『いのち・開発・NGO』1998、新評論、 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2005) ISBN 4-7644-0527 ¥3800 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版、¥10 <資料> 明石康『国際連合一軌跡と展望』2006、岩波新書、ISBN-13:978-4004310525 ¥756 西川まり子『目で見る国際看護』DVD II、III、医学映像教育センター ¥29400 X 2																											
授業計画および学習課題（予習・復習）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヘルスにおける国際機関、国内機関、NGOへの導入</td> <td>教科書：P207-214</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国連機関：ヘルスに関連する機関（ニューヨーク、ジュネーブその他）、DVD</td> <td>教科書：P207-211</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国連関連の国際機関1：役割</td> <td>教科書：P207-211</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国連関連の国際機関2：役割と求められる人材、JPO、難関を突破しよう</td> <td>資料提供</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護に関連した機関：国際看護師協会 ICN 役割と学会での様子</td> <td>資料提供</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ヘルスに関連したNGO、クイズ</td> <td>教科書：P211-214</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生の成果グループ発表</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ヘルスにおける国際機関、国内機関、NGOへの導入	教科書：P207-214	2	国連機関：ヘルスに関連する機関（ニューヨーク、ジュネーブその他）、DVD	教科書：P207-211	3	国連関連の国際機関1：役割	教科書：P207-211	4	国連関連の国際機関2：役割と求められる人材、JPO、難関を突破しよう	資料提供	5	看護に関連した機関：国際看護師協会 ICN 役割と学会での様子	資料提供	6	ヘルスに関連したNGO、クイズ	教科書：P211-214	7	まとめ		8	学生の成果グループ発表	
回	内 容	学習課題（予習・復習）																									
1	ヘルスにおける国際機関、国内機関、NGOへの導入	教科書：P207-214																									
2	国連機関：ヘルスに関連する機関（ニューヨーク、ジュネーブその他）、DVD	教科書：P207-211																									
3	国連関連の国際機関1：役割	教科書：P207-211																									
4	国連関連の国際機関2：役割と求められる人材、JPO、難関を突破しよう	資料提供																									
5	看護に関連した機関：国際看護師協会 ICN 役割と学会での様子	資料提供																									
6	ヘルスに関連したNGO、クイズ	教科書：P211-214																									
7	まとめ																										
8	学生の成果グループ発表																										
評価方法 および評価基準																											
クイズ40% インタビューレポート30% 発表20% 授業への参加度10% S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点)：学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good) C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：Cのレベルに達していない																											

科目区分	専門科目-広域看護学-国際看護学			ディプロマポーリングを達成するため必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK4501				広い視野	○	
授業科目名	国際看護学海外研修				知識・技術		
配当学年/学期	2 / 前期		単位数		判断力	○	
担当教員	西川まり子				探究心	○	

講義目的
この海外研修では、国際看護学Ⅰ～Ⅱで学んできたことを踏まえて、海外の大学と病院を中心とした施設で、看護の実際を見学し、見聞を広げる。また、現地で実際に英語を使用して生活し看護の授業を受ける。さらに多文化社会に身を置くことにより、自分と異なる言葉や文化を持つ人々の理解を深める。
授業内容
この研修は、実際に海外にかけて、人種のるつぼである多文化社会が共存する都市で生活をする。現地での看護の授業を受けて海外の看護の授業を体験する。大学の講義から、研修国の看護を取り巻く現状を知る。地元の評価の高い病院や施設での看護と貧しい方々への看護の両方を見学してその特徴や、そこで働いている看護師の多文化看護や専門家としての体験や気持ちを聞き、学びを深める。さらに学生自身が日本との看護・医療や文化の違いを学生のレベルで見出す。学部生のレベルで、研修国での看護研究について知り、将来に備える。さらに入々の安全保障のための国際看護の視点から国際機関の見学を含める。これらの学びを毎日、研修日記に記録し振り返る。
留意事項（履修条件他）
海外へ渡航するにあたって、以下の点を注意すること
① 特に体調面に問題がないこと。体調面、安全面で、自分でも気を配り、無理をしないこと。 ② 既往歴や現病歴のある人は必ずその旨を申し出ること。海外保険加盟が必要(全員が同じ保険に加入する)。 ③ 学生の安全のために海外の情勢や相手校の都合により場合によっては、突然の研修の変更や中止もあり得るので連絡には留意すること。 ④ 学生が安全かつ効果的に学ぶことができるよう支援をするが、訪れる国の法や秩序を乱すようなことはしないこと。 ⑤ この科目的単位を修得するにあたり、安全と研修が効果的に遂行できるように <u>必ず全部の事前オリエンテーションへの出席を求める</u> 。それを含めておおよそ30時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修)が必要である。
全体のフィールドバックは、毎日の研修修了時のディスカッション後のコメントとその解説を行う。個人のフィールドバックは、全員での研修時間外に適宜行う。
教材
これまで国際看護学Ⅰ、Ⅱで使用してきた下記の本①～⑤と配布資料 ① 波平恵美子『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院、2011、￥2,010 ISBN978-4-260-01317-8 ② 多文化共生センター『医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方』 ￥1,000 ③ 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ￥3,200 ④ UNICEF『世界子供白書』最新版￥240、 ⑤ UNICEF『基礎リーフレット』最新版、￥10 ⑥ その他、海外看護研修参加資料を渡します。
授業計画および学習課題（予習・復習）
事前学習： ① 自分で、研修先の国の社会状況と医療や看護を調べておく。 ② これまで学んできた、国際看護学Ⅰ、Ⅱの復習をしておく。 ③ 海外研修を受講するにあたり、渡航に伴う健康と安全管理について受講した内容を十分に復習しておく。 ④ 配布資料をよく読んでおく ⑤ 事前オリエンテーションの内容を十分理解する。
研修は、基本的に、午前中は講義の受講、午後は午前中の授業を踏まえての施設の見学である。
日程： 日本出発～ニューヨーク到着：到着後、当日は休養する。 ① 研修1日目：研修中、現地で安全に健康で過ごすためのオリエンテーション、①多文化共存社会でのニューヨークにおけるヘルスシステムとNPを含む看護の役割。 ② 研修2日目：午後の病院見学の説明。看護の評価の高い総合病院でのNPや看護師の役割。貧しい方々へのケア施設見学。

- ③ 研修3日目：午前は国際機関と大学施設見学。午後はフリー時間。
- ④ 研修4日目：NP, DNP が活躍している最新施設見学。公衆衛生関連施設見学。
- ⑤ 研修5日目：講義。ナーシングホーム見学。
海外研修の振り返りとまとめ。

ニューヨーク出発（日付け変更線）－日本到着

評価方法 および評価基準

事前オリエンテーションと研修への参加度 50% 研修での学びの日記 50%

S (100~90点)：研修国の状況を把握し、研修に積極的に参加し、学びの目標に達し、かなり良くできている

A (89~80点)：研修国の状況を把握し、研修に積極的に参加し、学びの目標に達している

B (79~70点)：研修国の状況を把握し、研修に参加し、学びの目標に達しているが不十分な点がある

C (69~60点)：到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている

D (60点未満)：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-広域看護学-精神看護学			感覚するためには、必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BK6101				広い視野		
授業科目名	精神保健看護学概論				知識・技術	○	
配当学年/学期	2 / 前期		単位数		判断力	○	
担当教員	郷良淳子		2		探究心	○	

講義目的						
1. 現代社会の精神保健の課題について、その背景の問題も含めて理解できる。						
2. 精神保健の諸問題を考える上での基礎的な知識を習得できる。						
3. 精神科医療の特徴を理解し、課題について考える事ができる。						
4. 自身の心の健康やストレス、その対処について考えることができる。						
授業内容						
<p>精神保健看護学は、人間の精神に関わる看護に関する学問であり、対象は、すべての看護学領域にある人と精神障害を持つ人である。この講義では、精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識を習得する。具体的には、精神看護の基本概念となる①心と心の健康について、②心の健康と精神疾患の予防、③精神保健の歴史的変遷や法律を学ぶ。また精神看護を展開する際の看護師の倫理観を養う。</p> <p>さらに、精神保健看護に関連する現代社会における課題をその要因や問題の様相、精神保健看護の側面からの対策について理解する。</p>						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
<p>毎回の講義時には指定する予習と復習をして、出席すること。</p> <p>疾病治療論Ⅱの精神医学（7コマ）での学びと関連付けて学ぶこと。</p> <p>日常の生活でも授業で学んだことを関連させて事象を見る目を持ち、具体的な現象からその背景を読み解く力を養うよう努力してください。この授業には、30時間の予習と復習の自己学習が必要です（各回予習1時間、復習1時間）。フィードバックは、授業中に都度行います。</p> <p>14回目の「当事者の体験世界」は、精神障害を持つ方に来ていただく都合で、時間割の日程以外になるかもしれません、追って授業中に周知します。</p> <p>出席ペーパーは、15回分を1枚として使用します。</p>						
教材						
<p>出口禎子編集 ナーシンググラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 2017年 2600円+税</p> <p>出口禎子編集 ナーシンググラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 メディカ出版 2017年 3200円+税</p>						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容	学習課題（予習・復習）				
1	この授業のガイダンス 心の健康・不健康とは 自身の傾向を知る（TEG）	<p>予習：テキスト精神看護学①pp. 12-13 pp. 28-32 を読み、自分自身の精神的な県境状態について考えておくこと 復習：配布資料のポイント、TEGの資料 心の健康・不健康の定義を自分で考える 自身の傾向を理解する</p>				
2	自己理解とコミュニケーション、人格の発達	<p>予習：テキスト精神看護学①pp. 50-58 を読み、人格の発達と母子関係についてそのキーワードを理解しておくこと 自分のコミュニケーションの傾向と前回のTEGの傾向から自分自身の理解についてノートにまとめる 復習：改めて自分自身の傾向について考えること コミュニケーションを発展させていく方法について自分の意見を説明できるようにしてておくこと</p>				
3	人格の発達の続き、精神分析の基本的な知識-自我・防衛機制、	<p>予習：テキスト精神看護学①pp. 28-34 pp. 41-44 pp. 50-58 を読み、自我と防衛機制について考えておくこと 復習：こころの構造、代表的な防衛機制を説明できるようにしてておくこと</p>				
4	精神分析の基本的な知識-非言語的表現 コラージュ療法	準備するもの：雑誌の写真等きりぬき、はさみ、のり				
5	ライフサイクル エリクソンの発達課題 成長発達段階における心の健康・不健康 乳児期から思春期の発達 課題と心の健康について考える	<p>予習：テキスト精神看護学①pp. 34-35 pp. 60-72 を読んで、乳児期から思春期の心の不健康な状態を考えておくこと 復習：乳児期から思春期の心の不健康な状態について、具体的な事象をいくつかその背景やその内容について説明できるようにしておくこと</p>				

6	ライフサイクル 成長発達段階における心の健康・不健康 成人期・老年期の発達課題と心の健康について考える	予習：テキスト精神看護学①pp. 34-35 pp. 60-72 を読んで、成人期・老年期の心の不健康な状態を考えておくこと 復習：成人期・老年期の心の不健康な状態について、具体的な事象をいくつかその背景やその内容について説明できるようにしておくこと
7	ストレスと危機、ストレス対処、心的外傷とその対応	予習：テキスト精神看護学①pp. 34-41 pp. 178-184 精神看護学②pp. 46-50 を読んで、ストレス、ストレッサーについて考える、また自身のストレス対処の方法についてまとめてくる 復習：ストレス、ストレッサー、心的外傷の特徴と対応について説明できるようにしておくこと、自身のストレス対処方法を増やすことができる
8	小テスト/精神医療の歴史	予習：欧米で精神障害者がどのように扱われてきたのか、テキスト精神看護学①pp. 142-153 を読んで調べておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
9	精神医療の歴史および精神保健看護に関連する法律	予習：日本で精神障害者がどのように扱われてきたのか、テキスト精神看護学①pp. 154-176 を読んで調べておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
10	精神医療における倫理【授業後レポート提出】	予習：前回渡した資料を読んで、どうしてこのようなことが起るか、自分なりの意見をまとめておくこと A4 1枚にまとめて提出 テキスト精神看護学①pp. 130-139 を読んで倫理について考えておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
11	精神科病院の治療と看護	予習：テキスト精神看護学②pp. 174-186 を読んで、精神科病院の看護について考えておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
12	地域精神保健【授業後レポート提出】	予習：テキスト精神看護学①pp. 136-139 テキスト精神看護学②pp. 191-214 を読んで地域で生活する精神障がい者とそのケアについて考えておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
13	精神障害からの回復：リカバリー概念とレジリエンス	予習：精神障害から回復することとはについて、自分で考えをもっておくこと 復習：授業で押されたポイントについて説明できるようにしておくこと
14	当事者の体験世界【授業の感想を提出】	予習：テキスト精神看護学②pp. 191-214 復習：当事者の体験とこれまでの授業での歴史や倫理の知識をつなげて考える
15	精神看護・精神科看護とはまとめ【授業後レポート提出】	予習：これまでの授業から精神科看護について思うことを A4 1枚にまとめる 復習：精神科看護について自身の考えを説明できる

評価方法 および評価基準

授業中に提示したレポート 20%、小テスト 30% 期末試験 50%

S (100~90 点) : 現代社会の精神保健の課題や精神保健の諸問題の基礎的知識について十分に説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通して理解を深め、ストレス対処について具体的に考えられる。授業に積極的かつ主体的に取り組むことができる。

A (89~80 点) : 現代社会の精神保健の課題や精神保健の諸問題の基礎的知識について概ね説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通して理解を深め、ストレス対処について概ね具体的に考えられる。授業に主体的に取り組むことができる。

B (79~70 点) : 現代社会の精神保健の課題や精神保健の諸問題の基礎的知識について、不十分ながら説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通して理解し、ストレス対処について不十分ながらも考えられる。授業に概ね主体的に取り組むことができる。

C (69~60 点) : 現代社会の精神保健の課題や精神保健の諸問題の基礎的知識について考えることができ、自身のメンタルヘルスとストレス対処についても取り組める。授業に真面目に取り組もうと努力している。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-広域看護学-精神看護学			成するための必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BK6201				広い視野	
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	松浦利江子/郷良淳子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的									
精神看護における援助方法について理解できる									
授業内容									
精神看護に必要な基本的な援助方法を学ぶ。精神状態をアセスメントするための面談方法や対人関係論からみた精神看護を通して、対人援助技術の具体を演習する。さらに、集団精神療法的アプローチとしてのグループダイナミクスやグループを活用した援助技術を、演習を通して理解できるようにする。精神障害を持つ人の家族へのアプローチの重要性と基本的な関わりについて理解できるようにする。これらを通して、精神看護に必要な基本的なスキルの必要性とアプローチ方法の基礎を学び、「精神看護援助論Ⅱ」の具体的な精神看護の展開の学びにつなげる。									
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）									
<p>「精神保健看護学概論」の学びをふまえること。自らの精神状態のアセスメントを行い、主体的に学ぶこと。</p> <p>なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（「学習課題（予習・復習）」に示されている内容などについて）が必要である。</p> <p>小テストなどのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。また、個別のフィードバックが必要な場合は、時間外に実施する。</p>									
教材									
<p>書名：出口禎子・松本佳子・鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ 精神看護学①』第4版 2017年 2,600円 出口禎子・松本佳子・鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②』第4版 2017年 3,200円</p>									
授業計画および学習課題（予習・復習）									
回	内 容	学習課題（予習・復習）							
1	対人関係論と精神看護1（松浦）9/27	⑦『精神看護学①』3章(p. 50-58)、10章(p. 151-152)を読み、対象との関係についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
2	対人関係論と精神看護2（松浦）10/4	⑦『精神看護学②』第4章(p. 139-142)、第5章(p. 144-149)を読み、対象との関係についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
3	精神状態のアセスメントとコミュニケーション技術（松浦、郷良）10/11	⑦『精神看護学②』第1章(p. 14-19)、第5章(p. 144-149)を読み、代表的な精神障害の諸症状についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
4	精神看護における面接：コミュニケーションが困難な人へのアプローチ（三浦、郷良）10/18	⑦『精神看護学②』(p. 22-25)を読み、発達障害についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
5	精神看護における家族（松浦、郷良）10/25	⑦『精神看護学①』(p. 199-117)を読み、家族が抱える問題についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
6	精神看護とグループ（三浦、郷良）11/1	⑦『精神看護学①』第1章(pp. 15-18)を読み、SSTについて精神看護学①を読んでイメージしておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
7	当事者の体験世界を知る：当事者の体験世界を知る精神科看護師の話（松浦）11/8	レポート ⑩配布資料							
8	リエゾン精神看護（松浦）11/29	⑦『精神看護学①』6章(p. 94-98)、12章(p. 185-191)、『精神看護学②』3章(p. 104-106)を読み、リエゾン精神看護についてある程度予習しておくこと。 ⑩配布資料、⑦部分							
評価方法 および評価基準									
期末試験 70%、レポート 5%、授業におけるリアクションペーパーの内容 25%。以上より総合的に評価。									
S (100~90点) : 精神看護における援助方法を十分に説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Excellent)。									
A (89~80点) : 精神看護における援助方法を概ね説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Very Good)。									
B (79~70点) : 精神看護における援助方法を不十分ながら説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Good)。									
C (69~60点) : 精神看護における援助方法を学ぶことができる。グループワークにも誠実に取り組もうと努力している (Pass)。									
D (60点未満) : Cのレベルに達していない									

科目区分	専門科目-広域看護学-精神看護学			感るるために必要な能力 デイパラマポリシーを達成するための能力	豊かな人間性		
授業コード	BK6301				広い視野		
授業科目名	精神看護援助論 II				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	松浦利江子/三浦藍/郷良淳子				探究心	○	

講義目的

- 精神看護における援助方法について理解できる。
- 代表的な精神疾患の治療と看護についての基本的な知識を習得することができる。
- 事例を用いた看護過程の展開を行い、精神科看護における看護実践の素地を養うことができる。
- 精神看護における倫理について説明できる。

授業内容

「精神保健看護学概論」、「精神看護援助論 I」での学びを振り返りながら、代表的な精神疾患や精神障害を持つ人の治療や看護を理解する。さらに精神看護を実践するうえで基盤となる理論（オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）や精神状態のアセスメント技術を用いた事例への看護展開の演習を通して、理解を深める。また、ロールプレイを通して対人援助技術について理解し、さらに精神看護の援助方法を理解し、具体的な精神看護実践の基礎的な力を高める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

「疾病・治療論 II（精神医学：安藤勝久先生）」、「精神保健看護学概論」、「精神看護援助論 I」の学びをいかすこと。

なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容）が必要である。

小テストなどのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。また、個別のフィードバックが必要な場合は、時間外に実施する。

教材

教科書①：出口禎子 松本佳子 鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ精神看護学①』第4版 2017年 2,600円

出口禎子 松本佳子 鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②』第4版 2017年 3,200円

教科書②：田中美恵子編 精神看護学 第2版：学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2015年 2,592円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程（含. 精神状態のアセスメント MSE の具体的展開）（三浦） 4/11	⑦教科書①『精神看護学②』pp132-134、教科書②pp10-23、39-50を読み、セルフケア理論の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
2	統合失調症（急性期）をもつ人の看護（松浦） 4/18	⑦教科書①『精神看護学②』pp25-29, 230-233を読み、統合失調症の急性期にある人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
3	統合失調症（慢性期）をもつ人の看護（松浦） 4/25	⑦教科書①『精神看護学②』pp234-237を読み、統合失調症の慢性期にある人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
4	統合失調症をもつ人の看護（松浦） 5/2	⑦教科書①『精神看護学②』pp192-201を読み、統合失調症の人の社会復帰に必要な看護について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
5	気分障害をもつ人の看護（松浦） 5/9	⑦教科書①『精神看護学②』pp30-37, 242-245を読み、気分障害をもつ人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
6	パーソナリティ障害をもつ人の看護（松浦、郷良） 5/16	⑦教科書①『精神看護学②』pp81-83, 238-242を読み、パーソナリティ障害をもつ人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
7	摂食障害と薬物依存をもつ人の看護（三浦、郷良） 5/23	⑦教科書①『精神看護学②』pp58-62, 250-255を読み、摂食障害と薬物依存をもつ人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分
8	不安障害をもつ人の看護（鈴木、郷良） 5/30	⑦教科書①『精神看護学②』pp38-45, 246-250を読み、不安障害をもつ人の特徴について考える。 ⑦配布資料、⑦部分

9	地域での精神看護の活動：精神科訪問看護やデイケアでの看護師の役割（松浦、郷良） 6/6	⑦教科書『精神看護学②』pp202-215 を読み、精神疾患をもつひとの地域における生活について考える。 ⑧配布資料、⑨部分
10	事例による看護過程の展開①(松浦、三浦、郷良、鈴木) 6/13	⑦・⑧配布資料 提示された事例について看護過程の展開についての準備をする。その際、教科書①②を活用する。
11	事例による看護過程の展開②(松浦、三浦、郷良、鈴木) 6/20	⑦・⑧配布資料 提示された事例について看護過程の展開についての準備をする。その際、教科書①②を活用する。
12	事例による看護過程の展開③(松浦、三浦、郷良、鈴木) 6/27	⑦・⑧配布資料 提示された事例について看護過程の展開についての準備をする。その際、教科書①②を活用する。
13	事例による看護過程の展開④(松浦、三浦、郷良、鈴木) 7/4	⑦・⑧配布資料 提示された事例について看護過程の展開についての準備をする。その際、教科書①②を活用する。
14	ロールプレイと看護場面の再構成①（松浦、三浦、郷良、鈴木） 7/11	⑦教科書①『精神看護学②』pp272-277 を読み、看護場面の再構成の必要性について考える。 ⑧配布資料、⑨部分
15	ロールプレイと看護場面の再構成②とまとめ：精神看護学実習に向けて看護の役割を理解する（松浦） 7/18	⑦看護場面の再構成の必要性について振り返りをする。 ⑧配布資料、⑨部分
評価方法 および評価基準		
期末試験 60%、授業参加状況 40%。以上により総合的に評価。		
S (100~90 点) : 精神看護における援助方法を十分に説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Excellent) 。		
A (89~80 点) : 精神看護における援助方法を概ね説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Very Good) 。		
B (79~70 点) : 精神看護における援助方法を不十分ながら説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる (Good) 。		
C (69~60 点) : 精神看護における援助方法を学ぶことができる。グループワークにも誠実に取り組もうと努力している (Pass)		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門科目-統合看護			成するための必要能力 デプロマポリシーを達成するための必要能力	豊かな人間性	
授業コード	BL0101				広い視野	
授業科目名	家族看護論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	山崎あけみ/川原妙				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
家族支援の基礎理論を理解し、その支援技術を学ぶ。学習目標： ①システムとしての家族を説明することができる②家族看護に関する主な理論やモデルについて説明することができる ③患者家族と向き合うためのコミュニケーション技術を実施することができる ④家族看護の必要性について述べることができる		
授業内容		
授業内容は、①現代家族の理解 ②家族看護の諸理論の理解 ③家族看護の実際で構成する。①現代家族の理解では、現在家族の機能と形態の変化について学ぶ ②家族看護の諸理論では、家族看護実践事例とつなげながらシステム理論、ストレスコーピング理論、等の家族看護の諸理論を説明し、理解を深める。③家族看護の実践例では、ペーパーペイシメントを通じて家族支援のアセスメント・介入について学び、家族看護の必要性を学ぶ。		
留意事項（履修条件他）		
* この科目的単位を修得するにあたり、「学習課題(予習・復習)」に示されている授業時間外学修が 60 時間程度必要。 * 平常点 (30%) 8 回すべて出席したら 30 点 欠席 1 回につき 5 点減点します。確認テスト (30%) のフィードバックは講義時間内に行う。レポート (40%) は、教科書の 8 つの事例から一つを選び 原稿用紙に手書きで 800 字程度に「家族像を理解するときのポイント」「家族看護過程を展開する時のポイント」をまとめてください。		
教材		
テキスト：山崎あけみ、原礼子編集、家族看護学 19 の臨床場面と 8 つの実践事例から考える、2015 年、南江堂、2484 円 参考文献：その都度紹介		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	家族を看護の対象として捉える	第 I 章 1-3 を熟読する。 「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」3 作品の主人公家族のジェノグラムとエコマップを作成し、違いを検討する
2	家族看護の諸理論	第 I 章 1-2 第 II 章 1 を熟読する。
3	自宅で家族を看取る ビデオ画像の分析	確認テスト① ビデオを見ながらまとめたノーツを提出
4	実践例 医療的ケアが必要なこどもと家族の在宅支援	第 IV 章 実践例② を熟読する。
5	実践例 教育期の脳腫瘍患者・家族の生活構造 - 機能に変容を促す看護実践	第 IV 章 実践例④ を熟読する。
6	家族とのコミュニケーション技術	家族とのコミュニケーション DVD から学ぶ。
7	家族看護過程とは	第 II 章 3 を熟読する。
8	現代家族の理解	第 III 章 1-2 を熟読する。 確認テスト② 現代家族の特徴についてノーツを提出
評価方法 および評価基準		
平常点(授業への参加状況、プレゼンテーションなど)30%、レポート 40%、試験 30%により評価する。 S (100~90 点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルについて十分に説明でき、その諸理論を選択しながらコミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことができる A (89~80 点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルについて概ね説明でき、その諸理論を選択しながらコミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことができる。 B (79~70 点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルの説明と諸理論の選択について不十分な点もあるが、コミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことに誠実に対応できる。 C (69~60 点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルのについて考えることができ、コミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことを努力している D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

科目区分	専門科目-統合看護			成するためには、ディプロマボリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BL0201				広い視野	
授業科目名	看護過程				知識・技術 ○	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	篠崎/内藤/伊藤/三浦/山口/大林				探究心 ○	

講義目的
看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導けるようにクリティカルに考えることができることを目指す。具体的には以下のとおりである。
1. 看護過程の概念と基本的知識について理解する
2. 看護過程のプロセスについて理解する
3. NANDA-Iを使用して事例に対し、看護過程の展開を通して対象に有効な看護介入・成果の選択、計画立案を理解する
4. 実際の看護過程を通して、クリティカルシンキングを理解する

授業内容
看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断を導くとともにクリティカルに考えることができるように授業と演習を展開する。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象との関わりで得たことを客観的に言語化した記録によって伝達できるように学修する。対象によって異なる理論を用いて看護過程を展開することを理解し、その展開方法の導入とする。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
看護過程では、既に学修した「看護学概論Ⅰ」「看護コミュニケーション論」「生活援助方法論」「生活援助方法演習」「診療援助方法論」「診療援助方法演習」などの知識と技術が必要となる。さらにこの科目履修後に開講される臨地実習「基礎看護学実習Ⅱ」において学修した内容を実際の患者に実践する。また、模擬患者参加型演習を行い、個別に看護過程の展開を経験する。したがって常に主体的に参加し、問題意識を明確にして授業に出席することを求める。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。

確認テストや課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。

教材
1. NANDA-I 看護診断（最新版）医学書院
2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版），江川隆子，HIROKAWA.
3. 看護診断・共同問題によるすぐに役立つ標準看護計画，（最新版），鶴田早苗，照林社.
4. 「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」（改訂版），内藤直子他、ふくろう出版.
授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護過程の概念と基本的知識 看護過程とは	看護学概論 p 172-179 を再読し、看護過程の役割と過程を理解する
2	看護過程の概念と基本的知識 看護過程の基本的知識	看護の視点とアセスメントの枠組みを理解する
3	看護過程と記録	看護における情報の記録に関する法・記録の構成要素・看護過程における記録の書き方を理解する
4	紙上事例ガイダンス・事例紹介・フェイスシートの書き方	復習：事例を理解する・フェイスシートを作成する
5	病態関連図	予習：脳梗塞について調べる 復習：紙上事例の病態関連図を作成する
6	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	予習：ゴードンの機能的健康パターンを理解する 復習：事例による情報を整理する
7	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	復習：情報の整理と看護問題の気づき
8	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	復習：情報の整理と看護問題の気づき
9	フォーカスアセスメント・看護診断	予習：NANDA-I 看護診断について 復習：事例を展開する
10	フォーカスアセスメント・看護診断	復習：事例を展開する
11	看護計画の立案・優先順位と目標設定の考え方	復習：事例を展開する
12	看護計画の立案	復習：事例を展開する
13	看護計画の実施と評価	復習：事例を展開し完成する

14	事例紹介・ロイ適応モデルの4様式による情報整理とアセスメント・病態関連図の考え方	予習：ロイモデルの構成要素を理解し、教材4(p8-18, 38-45)、教材5(p8-14, 174-189)熟読 復習：事例の情報を深く理解する
15	オレムのセルフケア不足看護理論	予習：自身のセルフケア状況を把握する 復習：配布資料
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、課題レポート 50%		
S (100~90点)	看護過程に必要な知識と技術を十分に活用することができ、また正しい看護診断が導けるように十分にクリティカルに考えることができる	
A (89~80点)	看護過程に必要な知識と技術を活用することができ、また正しい看護診断が導けるようにクリティカルに考えることができる	
B (79~70点)	看護過程に必要な知識と技術を概ね活用することができ、また正しい看護診断が導けるように概ねクリティカルに考えることができる	
C (69~60点)	看護過程に必要な知識と技術を不十分であるか活用することができ、また正しい看護診断を導けるようにクリティカルに考えようと努力している	
D (60点未満)	Cのレベルに達していない	

科目区分	専門科目-統合看護			ディプロマポリシー達成ために必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BL0301				広い視野	
授業科目名	ヘルスアセスメントⅠ				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	篠崎/伊藤/服部/大林				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的		
看護の対象に対して必要な看護を実践するために、対象を系統的に観察し身体的側面からとらえることができる能力の修得を目指す。具体的には以下の能力を目指す。		
1. ヘルスアセスメントとは何か、看護になぜ必要かを理解する。 2. フィジカルイグザミネーションに必要な技術を学び実践する。 3. 系統的フィジカルイグザミネーションを実践する。 4. フィジカルイグザミネーションで得られた情報から、看護の対象者の生活行動における問題点を判断する。		
授業内容		
ヘルスアセスメントは、看護の対象を身体的側面からとらえるために系統的に観察し、対象に必要な看護へと導くための重要な位置づけである。この科目では、ヘルスアセスメントの一つのアセスメントツールであるフィジカルアセスメントについて、身体を系統的に観察し、アセスメントするための知識と技術を講義および演習を通して学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護専門領域の基礎となる科目である。既習の解剖生理学ⅠAB・ⅡAB、生化学、栄養学、微生物学での履修内容が重要となる。したがって、毎回の講義時には授業時間のほかにおよそ30時間の指定する学習課題（予習と復習）が必要である。課題提出は時間厳守とする。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
指定図書 ：・ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント：メディカ出版、2018、3200円 参考図書 ：・フィジカルアセスメント完全ガイド第2版：藤崎郁、学習研究社、2012、3990円 ・ベイツ診察法第2版、福井次矢、井部俊子、山内豊明日本語版監修：メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015、9000円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメントとは何かを言語化する
2	フィジカルアセスメントの目的、フィジカルイグザミネーション	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションを理解する テキストp 12-42
3	スクリーニング（基本情報の聞きとり、一般状態の観察）	①演習事前課題
4	スクリーニング 演習・アセスメント記載	テキストp 12-42
5・6	系統的フィジカルアセスメント 呼吸器系	事前課題①、テキストp 53、p 89-98（ベイツp 295～333）
7・8	系統的フィジカルアセスメント 呼吸器系 演習	②演習事前課題
9・10	系統的フィジカルアセスメント 循環器系	事前課題②、テキスト p51-62、p 99-115、p 165-187（ベイツ p 335～407、p 493～522）
11・12	系統的フィジカルアセスメント 循環器系 演習	③演習事前課題
13・14	系統的フィジカルアセスメント 筋・骨格系	事前課題③、テキスト p 152-165（ベイツ p 601～685）
15・16	系統的フィジカルアセスメント 筋・骨格系 演習	④演習事前課題
17・18	系統的フィジカルアセスメント 神経系	事前課題④、テキスト p 80-88（ベイツ p 687～767）、p 165-187
19・20	系統的フィジカルアセスメント 神経系 演習	⑤演習事前課題
21	系統的フィジカルアセスメント 消化器系	事前課題⑤、テキスト p 128-151（ベイツ p 437～491）
22	系統的フィジカルアセスメント 感覚器系	テキスト p 70-79（ベイツ p 173～293）
23・24	系統的フィジカルアセスメント 消化器系 演習	⑥演習事前課題
25	まとめ・確認テスト	知識の確認テストにむけての学修をする
26	アセスメントについて	事例についてのアセスメントを完成させる
27・28	技術の確認・事例について考える	技術の確認にむけてのトレーニングおよび事例についてのアセスメント
29・30	技術のフィードバック・事例についてのフィードバック	技術の確認にむけてのトレーニングおよび事例についてのアセスメント

評価方法 および評価基準

確認テスト 50%、技術の確認 50%

- | | |
|----------------|---|
| S (100~90 点) : | ヘルスアセスメントの基本的知識を修得し、フィジカルイグザミネーションを正しい方法で適切に実施できる |
| A (89~80 点) : | ヘルスアセスメントの基本的知識を概ね理解し、フィジカルイグザミネーションを正しい方法で実施できる |
| B (79~70 点) : | ヘルスアセスメントの基本的知識がわかり、フィジカルイグザミネーションを概ね実施できる |
| C (69~60 点) : | ヘルスアセスメントの基本的知識を知り、フィジカルイグザミネーションをなんとか実施できる |
| D (60 点未満) : | C のレベルに達していない |

科目区分	専門科目—統合看護			感覚するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性	
授業コード	BL0401				広い視野	
授業科目名	ヘルスアセスメントⅡ				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	柴山/郷良/深谷/安藤/福田/山本/藏本/櫻井/星				探究心 ○	

講義目的		
1. 看護師になるうえで必要な基本的なヘルスアセスメントとその技術の獲得を目指す 2. ヘルスアセスメントⅠおよびその後の領域—成人（急性期）看護学、小児看護学、母性看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学—におけるアセスメントと看護技術を、復習を通して習熟度を高める		
授業内容		
卒業目前の4年後期に大学で学んだヘルスアセスメントのスキルで看護職となるうえで重要なスキルの強化を目的とし、領域を横断して行う。成人（急性期）看護学、小児看護学、母性看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学における重要なスキルを習得する。病院・施設・在宅でのヘルスアセスメントで必要な内容で、特にこれまでの学びでの弱い点を重点的に学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
ヘルスアセスメントに関連して、これまでの上記の領域およびヘルスアセスメントⅠで必要な内容を復習したうえで授業に臨むこと。この授業を学ぶにあたり、予習と復習に60時間が必要です。フィードバックはその都度授業時間内に行います。6領域の教員によるオムニバスであり、不定期のスケジュールで実施します。時間割をよく確認して臨むこと（変更の可能性があります）。		
教材		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	高齢者のヘルスアセスメント① -動作と移動について-（安藤・櫻井）10/22（月）3限	予習：テキスト老年看護学技術 第Ⅱ章老年看護の基本技術-ヘルスアセスメントと第Ⅲ章高齢者の生活と看護-加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 1.呼吸 4.移動と動作を熟読し参加する 復習：課題レポート
2	周産期および新生児の健康問題に関する到達度の低い看護技術演習①（藏本・星）10/24（水）2限	予習：母性看護援助論ⅠおよびⅡの資料を熟読し、基礎知識を再確認すること。（資料および教科書を持参すること） 復習：妊娠婦および胎児の健康状態のアセスメントと看護の根拠を理解すること。
3	周産期および新生児の健康問題に関する到達度の低い看護技術演習②（藏本・星）10/25（木）2限	予習：母性看護援助論ⅠおよびⅡの資料を熟読すること（資料および教科書を持参すること） 復習：褥婦および新生児の健康状態のアセスメントと看護の根拠を理解すること。
4	精神状態のアセスメント （郷良） 10/29（月）3限	予習：精神看護援助論Ⅰ 1回目の資料の精神状態のアセスメントおよび援助論Ⅱの事例のGWの資料を熟読のこと （これらの資料を持参すること） 復習：精神状態のアセスメントの項目が理解できるまで資料を熟読すること
5	不安のアセスメント （郷良） 10/29（月）4限	予習：これまで受け持った患者の1事例を選び、その患者の不安の状態と不安について自らあるいは看護師がかかわっていたケアの内容を授業までにA4 1ページにまとめてくること 復習：不安の状態とアセスメントおよびそのケアの根拠と内容が理解できるまで資料を熟読すること
6	在宅看護学実習における技術到達度の低い看護技術演習①（山本） 11/2（金）2限	予習：在宅看護援助論Ⅱで学修した生活行為の実践方法について教材、資料を熟読すること。 復習：臨地実習で実践した生活行為技法の到達度を確認しておく。
7	小児と家族の健康問題に関する到達度の低い看護技術演習①（深谷） 11/6（火）1限	予習：「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「小児看護援助論Ⅱ」授業資料を熟読、「小児看護学実習」で経験した技術の振り返りをして授業に臨む。 復習：講義資料を振り返り、次回の演習に備える。

8	小児と家族の健康問題に関連する到達度の低い看護技術演習②(深谷) 11/7(水)1限	予習：「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「小児看護援助論Ⅱ」授業資料を熟読、「小児看護学実習」で経験した技術の振り返りをして授業に臨む。 復習：講義内容・講義資料を振り返る。
9	意識障害の初期観察 (柴山) 11/9(金)4限	教科書「救急看護学」と資料を熟読して講義に臨み、講義後に再度教科書と資料を熟読してください。
10	腹膜炎の観察 (柴山) 11/9(金)5限	教科書「救急看護学」と資料を熟読して講義に臨み、講義後に再度教科書と資料を熟読してください。
11	高齢者のヘルスアセスメント② -排泄について- (安藤・櫻井) 11/12(月)3限	予習：テキスト老年看護学技術 第Ⅱ章老年看護の基本技術-ヘルスアセスメントと第Ⅲ章高齢者の生活と看護-加齢変化とフィジカルアセスメントの技術3. 排泄を熟読し参加する 復習：課題レポート
12	在宅看護学実習における技術到達度の低い看護技術演習②(福田) 11/15(木)2限	
13	呼吸と胸郭の初期観察 (柴山) 11/30(金)4限	教科書「救急看護学」と資料を熟読して講義に臨み、講義後に再度教科書と資料を熟読してください。
14	成人期のフィジカルアセスメントのポイントまとめ (柴山) 11/30(金)5限	教科書「救急看護学」と資料を熟読して講義に臨み、講義後に再度教科書と資料を熟読してください。
15	高齢者のヘルスアセスメントのポイント (安藤・櫻井) 12/3 3限	予習：高齢者の加齢変化①と②の課題を期限までに完成させ提出する 復習：講義資料を熟読すること
評価方法 および評価基準		
<p>成人看護学4回分 27点、高齢者看護学 21点、小児・母性・精神・在宅看護学 各13点 100点満点で60点以上を合格とする。それぞれの領域で評価方法を示しますので、領域の教員の指示に従ってください。</p> <p>S(100~90点) : 6領域におけるヘルスアセスメントとその技術を十分に獲得し、その根拠も十分に説明できる</p> <p>A(89~80点) : 6領域におけるヘルスアセスメントとその技術を必要な内容を獲得し、その根拠も必要な内容を説明できる</p> <p>B(79~70点) : 6領域におけるヘルスアセスメントとその技術を必要な内容を不十分ながらも獲得し、その根拠もおおむね説明できる</p> <p>C(69~60点) : 6領域におけるヘルスアセスメントとその技術を最低限獲得し、その根拠も最低限説明できる</p> <p>D(60点未満) : Cに達していない</p>		

科目区分	専門科目-統合看護			成するためには、 豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 ディプロマポリシーを達成するためには、 必要な能力	
授業コード	BL0501				
授業科目名	看護教育論				
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		
担当教員	渡邊順子				

講義目的		
1. 日本の看護教育制度の成り立ちと課題について討議し、看護専門職教育のありかたを考える。 2. 日本の看護教育課程の成り立ちと課題について討議し、看護基礎教育のありかたを考える。 3. 看護・看護学教育の展望について探求する。		
授業内容		
<p>学士課程における看護教育を受け、様々な看護の場に向かう時期において、看護・看護学を学ぶ意義について吟味し、看護専門職教育のありかたを考える。学生自らが学んでいる看護基礎教育とは何かを明確にしたうえで、その変遷、今日的課題を明確にする。看護教育方法について、諸外国との比較から多様な考え方を学び、興味・関心を高める。</p> <p>すべての授業に出席し、授業時間内外の学習活動に積極的に関わり、学生個々の意見や考え方は、クラスの他の人にとっても貴重な教育資源となる。大学での学習ルールを尊重し、共に学びあう雰囲気に貢献する教育的姿勢を培う。</p>		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
この科目的単位を修得するためには、約30時間の授業時間外の学習（予習・復習課題に示されている内容）が必要である。討議・プレゼンのフィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書：杉森みどり・舟島なをみ 著：「看護教育学(最新版)」、医学書院、(最新版)		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	日本の看護教育制度の歴史的変遷 看護教育と看護<学>教育の現状課題	予習：教科書の看護教育制度論の章を熟読し、用語を理解しておく。 復習：グループ討議の準備として、教育制度の課題に関する自身の意見を整理する。
2	日本の看護教育制度の歴史的変遷からみた 看護教育と看護<学>教育の現状課題について グループ討議とプレゼン／全体討議	予習：教科書以外から教育制度に関する情報を収集する。 復習：教育制度の課題を列挙する。
3	日本の看護教育課程の歴史的変遷 カリキュラムとシラバス 学ぶことと教えること	予習：教科書の看護教育課程論の章を熟読し、用語を理解しておく。 復習：グループ討議の準備として、教育課程の課題に関する自身の意見を整理する。
4	日本の看護教育課程の歴史的変遷からみた カリキュラムとシラバスの現状課題について グループ討議とプレゼン／全体討議	予習：教科書以外から教育課程に関する情報を収集する。 復習：教育課程の課題を列挙する。
5	諸外国の看護教育制度と教育課程を知る 主に英国、米国、アジアを中心に考える	予習：教科書の諸外国の看護教育に関する知見を熟読する。 復習：グループ討議の準備として、諸外国の看護教育の課題に関する自身の意見を整理する。
6	諸外国と日本の看護教育制度と教育課程の相違について グループ討議とプレゼン／全体討議	予習：教科書以外から諸外国の看護教育に関する情報を収集しておく。 復習：諸外国の看護教育の課題を列挙する。
7	私が考える看護教育／前半グループのプレゼンと討議	予習：これまでの討議内容を整理しておく。 復習：看護教育に関する新たな知見を整理する。
8	私が考える看護教育／後半グループのプレゼンと討議	予習：これまでの討議内容を整理しておく。 復習：看護教育に関する新たな知見を整理する。
評価方法 および評価基準		
期末試験 40%、全体討議の参加状況 30%、プレゼン課題 30%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している		
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している		
B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある		
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-統合看護			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BL0601				
授業科目名	災害看護学				
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		
担当教員	畠吉節末				

講義目的							
'災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う'ことをねらいに2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学ぶ。							
授業内容							
災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学ぶ。具体的には①災害および災害看護に関する基礎的知識、②災害が人々の健康や生活に及ぼす影響、③個人の備えと地域防災の課題と対策、④災害サイクルに応じた看護支援活動のあり方について学ぶ。⑤こころのケア、トリアージ等については学内模擬演習により体験的に理解する。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。被災地・被災者及び災害時に活動した看護者から学ぶ真摯な姿勢を持って授業に臨んでほしい。レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。							
教材							
教科書：災害看護—看護の専門知識を統合して実践につなげる（看護学キットNICE）酒井明子編、南江堂・2008年、2,415円							
授業計画および学習課題（予習・復習）							
回	内 容	学習課題（予習・復習）					
1	導入：私たちは災害から何を学んだのか。今、災害看護を学ぶ意味。災害および災害看護に関する基礎的知識 ・災害、災害看護の定義　・災害、災害看護の歴史　・災害サイクルと看護活動　・災害の種類と疾病構造、災害サイクル	シラバス内容の熟読 被災体験の確認を含めたアンケートを授業開始時に提出。					
2	災害発生時における社会の対応や仕組み、個人の備え、組織の備え ・災害に関する制度　・災害情報と伝達の仕組み　・災害時の地域アセスメント　・国内外における災害関係機関の支援体　・災害ボランティア活動、個人の備え、大学内の災害時の備え	教科書の読解					
3	災害時に看護が果たす役割、災害各期の看護活動 ・災害時に期待される能力と災害看護の基本姿勢　・災害サイクル各期の看護活動　・避難所・仮設住宅・復興住宅における看護・地域住民との連携 こころのケア ・災害時の被災者及び援助者の心理とこころのケア演習　・災害と心理的反応、ASD（急性ストレス障害）PTSD（外傷性ストレス症候群）DMORT（災害遺族・遺体対応チーム）	文献：サバイバル・ギルトを読み考察を書き 4講開始前に提出					
4	災害時に必要な技術 ・トリアージの概念　・トリアージの方法（演習）　・応急処置：CRPとAEDの重要性と方法（演習）、AEDの配置状況の確認　・搬送の手段、場所、順位	トリアージのチャレンジのシートを5講開始前に提出					
5	課題別演習 ・大学の備えの確認と備えの提案　・大学構内の環境の確認　・個人の備え　・大学が避難所になった場合のレイアウト　・被災地の心のケア・生活援助の工夫等　・新聞記事に見る災害のとらえ方	発表媒体の作成（パワーポイントとして作成）					
6	演習成果の発表1	他のグループの発表の聞き取りシートを作成し8講開始前に提出					
7	演習成果の発表2・まとめ・学びのアンケート	他のグループの発表の聞き取りシート・学びシートの作成					
評価方法 および評価基準							
課題レポート40%、期末試験60%							
S(100~90点)：学習目標をほぼ完全に達成している							
A(89~80点)：学習目標を相応に達成している							
B(79~70点)：学習目標を相応に達しているが不十分な点がある							
C(69~60点)：学習目標の最低限は満たしている							
D(60点未満)：Cのレベルに達していない							

科目区分	専門科目-統合看護			成するため に必要な能力 デイパラボリシーを達成	豊かな人間性	
授業コード	BL0701				広い視野	
授業科目名	緩和ケア・ターミナル看護論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	岩井美世子/井上さよ子				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的																											
ターミナル期にある人とその家族の心理社会的特徴を理解できる。またこの時期の人々への介入方法の実際について理解できる。具体的には、グリーフケア、緩和ケアについてその大枠を理解できる。また自らの死生観を振り返り、それを表現できる。これらを通して、ターミナル期にある人々やその家族への倫理的な配慮とは何かを理解できる。																											
授業内容																											
緩和ケア・ターミナル看護論の学習は、診断時からや人生の最終段階における緩和ケアについて、具体的な事例を挙げながら理論から実践で構成する。 これらの知識をリフレクションしながら自己の死生観を養い、人生の最終段階における患者・家族への看護師に求められる姿勢を培う。																											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）																											
この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。テスト・レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。																											
教材																											
教科書：系統看護学講座 別巻 [7] 緩和ケア 恒藤暁著、医学書院、2014 参考文献：特になし																											
授業計画および学習課題（予習・復習）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生と死について（岩井）</td> <td>生と死にまつわる書籍や映画を見て、生と死について考える機会を作る。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ターミナル期にある人と家族の心理社会的特徴（岩井）</td> <td>第10章Aを熟読し、人生の最終段階における患者・家族の特徴を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ターミナル期における倫理的課題、介入の実際（岩井）</td> <td>第3章を熟読し、人生の最終段階における患者・家族の倫理的課題について考える。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>グリーフケアについて、介入方法の実際（岩井）</td> <td>第11章Aを熟読し、家族について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>緩和ケアと介入方法の実際（井上）</td> <td>第2章を熟読し、チーム医療について知る。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>全人的苦痛のある人の特徴と看護介入1（井上）</td> <td>第7章Aを熟読し、全人的苦痛について振り返る。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>全人的苦痛のある人の特徴と看護介入2（井上）</td> <td>第8章Aの①～③までを熟読する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生自身の死生観を表現する（井上）</td> <td>事前課題として、講義を通して培ってきた自身の死生観をA4一枚のレポートにまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	生と死について（岩井）	生と死にまつわる書籍や映画を見て、生と死について考える機会を作る。	2	ターミナル期にある人と家族の心理社会的特徴（岩井）	第10章Aを熟読し、人生の最終段階における患者・家族の特徴を考えることができる。	3	ターミナル期における倫理的課題、介入の実際（岩井）	第3章を熟読し、人生の最終段階における患者・家族の倫理的課題について考える。	4	グリーフケアについて、介入方法の実際（岩井）	第11章Aを熟読し、家族について考えることができる。	5	緩和ケアと介入方法の実際（井上）	第2章を熟読し、チーム医療について知る。	6	全人的苦痛のある人の特徴と看護介入1（井上）	第7章Aを熟読し、全人的苦痛について振り返る。	7	全人的苦痛のある人の特徴と看護介入2（井上）	第8章Aの①～③までを熟読する。	8	学生自身の死生観を表現する（井上）	事前課題として、講義を通して培ってきた自身の死生観をA4一枚のレポートにまとめる。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																									
1	生と死について（岩井）	生と死にまつわる書籍や映画を見て、生と死について考える機会を作る。																									
2	ターミナル期にある人と家族の心理社会的特徴（岩井）	第10章Aを熟読し、人生の最終段階における患者・家族の特徴を考えることができる。																									
3	ターミナル期における倫理的課題、介入の実際（岩井）	第3章を熟読し、人生の最終段階における患者・家族の倫理的課題について考える。																									
4	グリーフケアについて、介入方法の実際（岩井）	第11章Aを熟読し、家族について考えることができる。																									
5	緩和ケアと介入方法の実際（井上）	第2章を熟読し、チーム医療について知る。																									
6	全人的苦痛のある人の特徴と看護介入1（井上）	第7章Aを熟読し、全人的苦痛について振り返る。																									
7	全人的苦痛のある人の特徴と看護介入2（井上）	第8章Aの①～③までを熟読する。																									
8	学生自身の死生観を表現する（井上）	事前課題として、講義を通して培ってきた自身の死生観をA4一枚のレポートにまとめる。																									
評価方法 および評価基準																											
確認テスト0%、課題レポート30%、期末試験70%																											
S(100~90点)：期末試験の点数+レポートが自己の死生観を的確に表現でき、なおかつ患者・家族の価値観を理解できている内容である																											
A(89~80点)：期末試験の点数+レポートが概ね自己の死生観を表現でき、なおかつ患者・家族の価値観を理解できている内容である																											
B(79~70点)：期末試験の点数+レポートが不十分な点もあるが自己の死生観を表現でき、なおかつ患者・家族の価値観を理解できている内容である																											
C(69~60点)：期末試験の点数+レポートが自己の死生観について考え、なおかつ患者・家族の価値観を理解しようと努力している内容である																											
D(60点未満)：Cのレベルに達していない																											

科目区分	専門科目-統合看護			感覚するために必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成	豊かな人間性	
授業コード	BL0801				広い視野	
授業科目名	看護総合科目				知識・技術 ○	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 ○	
担当教員	三井明美				探究心 ○	

講義目的		
4年間の学びを総復習し、知識を統合する		
授業内容		
看護師として働くにあたり必要とされる知識全て		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護師国家試験に準ずる内容である。予習・復習には30時間が必要である。フィードバックはその都度授業時間内に行う。		
教材		
オリジナルテキスト 2240円 IBSNなし 講義時に配布し、集金する。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	人体の構造と機能	予習 特になし
2	疾病・社会保障	講義の最後に指示します
3	成人看護学	講義の最後に指示します
4	老年看護学	講義の最後に指示します
5	母性看護学	講義の最後に指示します
6	小児看護学	講義の最後に指示します
7	精神看護学	講義の最後に指示します
8	在宅看護論	講義の最後に指示します
評価方法 および評価基準		
期末試験 100%		
S (100~90点) : 看護学の知識が十分習得できている		
A (89~80点) : 看護学の知識が習得できている		
B (79~70点) : 看護学の知識がおおむね習得できている		
C (69~60点) : 最低限の看護学の知識が習得できている		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

科目区分	専門科目-統合看護			感覚するためには、コミュニケーション能力を達成するためには、知識・技術を達成するためには、判断力を達成するためには、探究心を達成するためには、	豊かな人間性	
授業コード	BL0901				広い視野	
授業科目名	ストレスマネジメント論				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	1		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	郷良淳子/服部希恵				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的					
1. 看護師が抱えるストレスの内容がわかる 2. 新人看護師としてストレスにどう対処していけばいいかが理解できる					
授業内容					
看護師が抱えるストレスとストレスの対処方法について理解できる。また、新人看護師が抱くストレスやそのサポートについて学ぶ。さらに新人看護師（看護職）となっていく上で、自身のストレスとその耐性、およびコーピングの方法を考え、ストレスマネジメント能力の向上を目指す。これらを通して、主体的にストレスにさらされたときに、自己で、またはサポートを用いてストレスに対処できる力を養うことを目的とする。					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）					
この授業は30時間の予習と復習が最低限必要です。またマネジメントに必要な内容については、十分な復習を必要とします。皆さんの今後にかかることなので、授業で学んだ認知再構成と呼吸法・リラクセーション方法、自ら気づいたストレス対処方法が実際に使えるように日々練習してください。レポート等のフィードバックはその都度講義時間内に行います。					
教材					
授業中に別途示します。					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	看護師のストレス（郷良） 11/5 3限	予習：自分が看護師となってストレスと思うことを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業で学んだことからもストレスになることについて考え、まとめる	予習：自分が看護師となってストレスと思うことを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業で学んだことからもストレスになることについて考え、まとめる	予習：自分が看護師となってストレスと思うことを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業で学んだことからもストレスになることについて考え、まとめる	予習：自分が看護師となってストレスと思うことを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業で学んだことからもストレスになることについて考え、まとめる
2-3	ストレスマネジメントとしての認知再構成（服部） 11/8 3-4限	予習：これまで自分が行ったストレスマネジメント方法をいくつか取り上げ、それぞれ役立ったか、どのように役立ったかをまとめる 復習：授業で学んだ認知構成法を行う	予習：これまで自分が行ったストレスマネジメント方法をいくつか取り上げ、それぞれ役立ったか、どのように役立ったかをまとめる 復習：授業で学んだ認知構成法を行う	予習：これまで自分が行ったストレスマネジメント方法をいくつか取り上げ、それぞれ役立ったか、どのように役立ったかをまとめる 復習：授業で学んだ認知構成法を行う	予習：これまで自分が行ったストレスマネジメント方法をいくつか取り上げ、それぞれ役立ったか、どのように役立ったかをまとめる 復習：授業で学んだ認知構成法を行う
4	ストレスマネジメントの方法 呼吸法・リラクセーション（郷良） 11/12 4限	予習：ストレスマネジメント方法を新聞やネットなどで調べること 復習：授業での学んだ呼吸法やリラクセーションを行う	予習：ストレスマネジメント方法を新聞やネットなどで調べること 復習：授業での学んだ呼吸法やリラクセーションを行う	予習：ストレスマネジメント方法を新聞やネットなどで調べること 復習：授業での学んだ呼吸法やリラクセーションを行う	予習：ストレスマネジメント方法を新聞やネットなどで調べること 復習：授業での学んだ呼吸法やリラクセーションを行う
5	看護師のストレスと看護師のサポートの実際（服部） 11/22 3限	予習：職場のメンタルヘルス対策について調べる 復習：看護師のストレスマネジメントで自分ができることをまとめ	予習：職場のメンタルヘルス対策について調べる 復習：看護師のストレスマネジメントで自分ができることをまとめ	予習：職場のメンタルヘルス対策について調べる 復習：看護師のストレスマネジメントで自分ができることをまとめ	予習：職場のメンタルヘルス対策について調べる 復習：看護師のストレスマネジメントで自分ができることをまとめ
6-7	新人看護師（看護職）のストレスマネジメント演習（郷良） 11/22 4限 11/30 2限	予習：2-3回目の内容を復習 復習：授業で学んだ方法を復習すること	予習：2-3回目の内容を復習 復習：授業で学んだ方法を復習すること	予習：2-3回目の内容を復習 復習：授業で学んだ方法を復習すること	予習：2-3回目の内容を復習 復習：授業で学んだ方法を復習すること
8	看護師のストレスマネジメントのまとめ（郷良） 11/30 3限	予習：自分のストレスについてどうマネジメントするかを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業のディスカッションからさらにマネジメント方法を増やしていく	予習：自分のストレスについてどうマネジメントするかを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業のディスカッションからさらにマネジメント方法を増やしていく	予習：自分のストレスについてどうマネジメントするかを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業のディスカッションからさらにマネジメント方法を増やしていく	予習：自分のストレスについてどうマネジメントするかを A4 1枚にまとめてくること 復習：授業のディスカッションからさらにマネジメント方法を増やしていく
評価方法 および評価基準					
予習のレポート：10% 授業での演習の取り組みや参加態度：40% 授業のリアクションペーパー10% 最終レポート40%					
S (100~90点) : ストレスとそのマネジメント方法が十分に説明でき、そのマネジメント方法も予習を含み十分に実施できる。					
A (89~80点) : ストレスとそのマネジメント方法がその実践に必要な要素を説明でき、そのマネジメント方法も予習を含み必要な内容を実施できる。					
B (79~70点) : ストレスとそのマネジメント方法がその実践に必要な要素を説明でき、そのマネジメント方法も予習を含み内容を十分ではないが実施でき、復習により必要な内容が実施できる。					
C (69~60点) : ストレスとそのマネジメント方法がその実践に必要な要素が最低限説明でき、そのマネジメント方法は、最低限実施でき、かなりの時間の復習により必要な内容が実施できる。					
D (60点未満) : Cに達していない					

科目区分	専門科目－統合看護			感覚するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	豊かな人間性		
授業コード	BL1001				広い視野		
授業科目名	研究方法論				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	藤原奈佳子/山田裕子/北川眞理子				探究心	○	

講義目的		
1. 研究課題について科学的な分析の必要性と方法を学ぶ。 2. 文献の批判的吟味のしかたを学ぶ。		
これらの学修を通して、「看護研究」（4年次通年）および将来、具体的な研究に取り組む際に必要な研究の基礎知識、技術を培うことを目的とする。		
授業内容		
日常おこる現象や、看護実践の場における観察から研究課題を発見する感性を涵養し、その根拠を提示するための科学的なアプローチのしかたや分析方法を考える力を培う。また文献を活用して自らの研究課題を深めることができます。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
「基礎ゼミナール」（1年次前期）、「統計学」（1年次後期）、「疫学」（2年次後期）など既に履修した科目と関連するのでこれらの科目を復習しておく。なお、この科目の単位を取得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学修課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。フィードバックはその都度講義時間内に行う。		
教材		
教科書：系統看護学講座、別巻 看護研究、坂下玲子、他編著、医学書院、2016年（または最新版）、2,400円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	実践と研究	どのように根拠に基づく実践へつなげるか考える（予習 教科書：序章 C①、②、第1章 B①、第1章 B をよく読み、なぜ看護研究を学ぶのかを考え、授業に臨むこと）
2	研究の種類と特徴	研究目的に応じた研究方法についての研究デザインを概観する（予習 教科書：第5章 A をよく読み、多様な研究デザインがあることを理解した上で授業に備えること）
3	ケースレポートと事例研究	実践能力の向上につながるケースレポートと事例研究の違いを理解する。（予習 教科書：第5章 D②をよく読み授業に備えること）
4	文献の検索、整理、引用	文献検索の目的と方法、文献データベースの利用、資料のまとめ方を学ぶ（予習 教科書：第3章 B①②をよく読み、各自で「文献」を用意して授業に備えること。第3章 D①②をよく読み、人間大学附属図書館のホームページ< https://lib.uhe.ac.jp/drupal/ >⇒データベース・電子ジャーナル、をクリックして大府キャンパスで利用可能なデータベースは何かを確認し授業に備えること）
5	文献の読み方①	論理的思考を補うためのいわゆる批判的吟味（クリティック）をする際の基準を研究内容ごとに学び、クリティカルシンキング（批判的思考）のしかたを学ぶ（予習 教科書：第9章付録のワーク⑨またはワーク⑩に目を通し、授業に備えること）
6	文献の読み方②	
7	調査方法（観察法、面接法）①	質的研究には、どんなデザインがあるのか、そのデザイン別に、利点欠点を明らかにし、特徴を学ぶ。特に調査方法として観察法と面接法について理解する。（第2回で学んだ質的研究について、教科書：第5章 B①をよく読み、授業に備えること）
8	調査方法（観察法、面接法）②	質的データの分析について、事例を基に具体的なイメージをつかむ。課題として、各自で配布された例題を質的に分析し、提出する。（教科書：第5章 D、第6章 D、G、第7章 A）
9	調査方法（質問紙法）	質問紙法の種類と特徴、データ収集方法、配慮などについて学ぶ（予習 教科書：第5章 E①をよく読んで授業に備えること）
10	調査方法（実験法、準実験法）	実験法の種類と特徴、データ収集方法、配慮などについて学ぶ（教科書：第5章 E③、第6章 H）
11	研究における倫理①	看護は、人間を対象として行われる実践の科学である。研究における倫理的配慮について、倫理ガイドライン、擁護されるべき権利を理解する（予習 教科書：第4章 A②をよく読み授業に備えること）
12	研究における倫理②	研究における倫理的配慮について、文献をとおして調べる（第4回で学んだ文献の検索を復習し、授業に備えること）
13	研究計画書の作成①	研究を進めてゆくにあたり、研究の全過程の構想を計画書としてまとめる際に記述する内容を理解する（教科書：第8章）
14	研究計画書の作成②	第13講のつづき
15	研究成果の発表	研究成果は、誰に何のために伝えるのか。発表の論理的、効果的な提示方法を理解する。（予習 教科書：第9章を読み、研究成果を伝える意義や方法を確認しておくこと。）

評価方法 および評価基準

課題レポート 50%、期末試験 50%

S (100~90 点) : 研究課題について科学的な分析の必要性と研究目的に応じた適切な研究方法を考えることができ、必要な文献を検索した上で文献の批判的吟味がほぼできる

A (89~80 点) : 研究課題について科学的な分析の必要性と研究目的に応じた適切な研究方法を考えることができ、必要な文献を検索した上で文献の批判的吟味を考慮して読むことができる

B (79~70 点) : 研究課題について科学的な分析の必要性と研究方法を考えることができ、必要な文献が検索でき、丁寧に読むことができる

C (69~60 点) : 研究課題について科学的な分析の必要性と研究方法を考えることができ、文献を丁寧に読むことができる

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-総合看護学			ディプロマポリシーを達成するため必要能力	豊かな人間性		
授業コード	BL1101				広い視野		
授業科目名	看護研究				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 通年	単位数	2		判断力	○	
担当教員	倉田節子 他 33 名				探究心	○	

講義目的

研究のプロセスを理解し、研究とは何かを主体的に学ぶ。また、このプロセスをたどることによって、看護研究が看護実践の向上に必要不可欠であることを理解し、将来の看護研究活動への基礎とする。

具体的な目標は、下記のとおりである。

1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探すことができる。
2. 先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。
3. 研究課題周辺の文献検討ができる。
4. 研究目的・方法を記述することができる。
5. 現実的・具体的な研究計画書を作成する。
6. 研究計画を発表する。

授業内容

これまでに修得した様々な看護学実習と看護専門科目、ならびに関連領域科目を統合し、看護学を志向できる能力を身につける。学生は、自分の関心に合わせた研究領域とテーマを出し、テーマに適合する教員の指導のもとに看護研究について、主体的に学ぶ。その中で、研究計画の立て方、研究デザインの選び方、データの収集方法と分析方法を学ぶ。さらに、個別または小グループで先行研究や関連文献を幅広く検討、研究課題を明確化し、現実的・具体的な研究計画書を作成する。また、グループ（領域等）ごとで発表会を開催し、成果を発表する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

研究方法論を履修し、単位を修得していること。討論や教員の指導をふまえ、図書館等を利用し、自主的に取り組むこと。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修が必要である。フィードバックはその都度行う。

教材

教科書：担当教員より紹介

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 川村 佐和子編 メディカ出版 (2014) 2,592 円
(3 年前期研究方法論で使用テキスト)

参考文献： 適宜、担当教員より紹介

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1-4	看護研究課題決定のための課題抽出、文献検索	
5-9	看護研究課題決定後の文献検索、まとめ	
10-14	課題に沿った研究方法の検討	事前学習： 授業計画に沿って、積極的に自己学習を進める。研究テーマに関する書籍や文献をまとめ、理解に努めること。
15-17	研究の立案・プロセス作成	
18-19	倫理的配慮や倫理審査について	事後学習： 討論や教員の指導をふまえ、図書館等を利用し、自分自身の課題についてまとめること。
20-23	研究の実施と個別指導	
24-26	まとめ（研究計画書）の作成及び個別指導	
27-28	研究計画の発表に向けての準備	
29-30	グループ（領域等）での研究計画発表会、研究計画書の提出	

評価方法 および評価基準

研究計画書等 60%、授業の参加状況、研究への取り組み、研究計画の発表等 40%として総合的に評価する。60 点以上を単位認定とする。

S (100~90 点) : 目標を十分に達成できている (Excellent)

A (89~80 点) : 目標を概ね達成できている (Very Good)

B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、目標を達成できている (Good)

C (69~60 点) : 目標を最低限達成できている (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			感覚するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を達成するためには、ディプロマポリシーを達成するためには、必要な能力	
授業コード	BM0101				
授業科目名	基礎看護学実習 I				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		
担当教員	篠崎・伊藤・服部・山口・大林・栗田				

講義目的
<p>基礎看護学実習 I は、保健・医療の患者との関わりの実際を見学し、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機付けとすることをねらいとしている。また、看護専門職者に求められる基本的な態度を習得する。この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面ももつ。</p> <p>具体的な目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療の分野における看護職者の役割と看護の機能を説明できる。 2. 看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた行動ができる。 <p>学生は医療施設において、看護活動（①日常生活行動への援助 ②診療への援助）の見学、および対象者をとりまく療養環境の概要を把握し、看護職者の役割と看護の機能について学ぶ。さらに実習で関わる全ての人たちに、看護学生として他者を重んじた行動をとることで、看護専門職者に求められる基本的な態度についても学ぶ。</p>
授業内容
<p>基礎看護学実習 I は、実習オリエンテーション、事前学習、病院実習、実習成果報告会で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設は、病院を使用する。 2. 実習場所は、病院の成人系の病棟とする。 3. 学生を 16 グループ（95 名を 1 グループ 5~6 人）にわける。 4. 1 人の教員は、同一施設の 2 グループを受け持つものとする。 5. 実習方法は、次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習手引きに沿って説明する。 また、各実習施設のオリエンテーションを行う。担当は教員。 2) 事前学習として以下の 2 点に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ①実習施設の特徴 ②実習に向けて自己の課題 3) 病院実習では以下の内容を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①施設オリエンテーション：実習施設の概要（病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と他職種の連携など）の説明を受ける。担当は病院の教育担当者。 ②施設見学：様々な看護活動の場、患者を取り巻く環境として、施設内にはどのような関連部門があるのか、どのような職種の人々が働いているのか、また構造や環境面で患者にどのような配慮や工夫がなされているのかを知る。担当は病院の教育担当者および臨地実習指導者。 ③病棟オリエンテーション：実習グループにわかれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者。 ④シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動（シャドーイング）し、看護師の行う看護実践を見学する。 担当は臨地実習指導者および病棟看護師。 ⑤学生振り返り：実習グループごとに病院実習での学びを共有する。担当は教員と臨地実習指導者。 4) 実習成果報告会は以下の内容を行う。 <p>学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習 I における自己の体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う。具体的には、異なる実習グループで体験報告会を行い、クラス全体で実習成果報告会を行う。担当は教員および臨地実習指導者。</p>
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
<p>履修要件：看護学概論 I ・ II の失格者ではないこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習（病院実習、帰学日）時間の 4/5 に満たない場合は、単位認定できない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。
教材

授業計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：7月30日～8月3日

実習場所：1) 半田市立半田病院 2) 名古屋第一赤十字病院 3) 名古屋大学医学部附属病院 4) 八千代病院

実習計画：
（午前）
月 〈病院〉 ①施設オリエンテーション ②施設見学
火 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習
水 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習
木 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習
（午後）
〈病院〉 ③病棟オリエンテーション ④学生振り返り
〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り
〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り
〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り
金 実習成果報告会 ①グループの体験報告 ②クラス全体の実習成果報告会 ③個人のまとめ

評価方法 および評価基準

出席状況、実習記録、実習態度を総合して実習指導教員・単位認定者が行う。

S (100～90点)：目標を十分に達成できている。

A (89～80点)：目標を概ね達成できている。

B (79～70点)：不十分な点はあるが、目標を達成できている。

C (69～60点)：目標を最低限達成できている。

D (60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門科目-臨地実習			感 る た め に 必 要 な 能 力	豊かな人間性	
授業コード	BM0201				広い視野	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ				知識・技術	
配当学年/学期	2 / 後期	単位数	2		判断力	
担当教員	篠崎・伊藤・服部・山口・大林・栗田				探究心	

講義目的
基礎看護学実習Ⅱは、これまでの講義や演習で学んだ看護過程を構成する基本的要素に関する知識とその応用を、臨床の場で活用し、その記録を作成することによって、断片的になりがちな知識と技能を統合することをねらいとしている。学生は、医療施設において看護過程を展開する。成人・老年期の患者を1名受持ち、実習を行う。
具体的な目標は以下のとおりである。
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技法など学んだ知識と技能を使用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。 2. フィジカルアセスメント技法など学んだ知識と技能を使用し、対象者の状態を把握し、必要な援助を判断する。 3. 対象者の個別性を考慮した生活行動の援助計画を立案し、実施、評価する。
授業内容
基礎看護学Ⅱは、実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、シャドーイング実習、看護過程展開実習、実習成果報告会で構成される。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設は、病院を使用する。 2. 実習場所は、成人・老年期にある入院患者を主とする病棟とする。 3. 学生は、19グループ（1グループ6人）で実習する。 4. 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とする。 5. 実習方法は、次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。また、各施設のオリエンテーションを行う。担当は教員。 2) 病院実習では以下の内容を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 施設オリエンテーション：実習施設の概要（病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と他職種の連携など）の説明を受ける。担当は各実習施設の代表者。 ② 病棟オリエンテーション：実習グループにわかれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者。 ③ シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動（シャドーイング）し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者および病棟看護師。 ④ 看護過程実習：1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の流れを経験する。看護過程の展開における思考過程の指導は、教員が臨地実習指導者と連携して行い、実施・評価についての指導・監督は病棟看護師および臨地実習指導者が行う。 ⑤ 学生カンファレンス：グループごとに施設実習での学びを報告し、共有する。担当は教員と臨地実習指導者。 3) 実習成果報告会は以下の内容を行う。 学内にて、他の実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習Ⅱにおける自己の体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う。具体的には、複数の実習グループで体験報告会を行い、その後クラス全体で実習成果報告会を行う。担当は教員および臨地実習指導者
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
履修要件：基礎看護学実習Ⅰ、生活援助方法論、生活援助方法演習、診療援助方法論、診療援助方法演習、看護コミュニケーション論、看護過程の単位を修得しており、ヘルスマセメントⅠの失格者ではないこと。実習期間、すべての出席を原則とする。実習（病院実習、帰学日）時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。本実習には、30時間程度の予習・復習が必要である。
教材

授業計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：平成30年2月18日～3月1日

実習場所：1) 名古屋第一赤十字病院 2) 刈谷豊田総合病院 3) 藤田保健衛生大学病院

実習計画：

1週目	(午前)	(午後)
月〈病院実習〉	①施設オリエンテーション ②病棟オリエンテーション	〈病棟実習〉③受け持ち患者紹介 ④学生カンファレンス
火〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護ケアの見学・参加	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護ケアの見学・参加 ②学生カンファレンス
水〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護ケアの見学・参加	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護ケアの見学・参加 ②学生カンファレンス
木〈大学〉	①看護過程展開	〈大学〉①看護過程展開
金〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護ケアの見学・参加	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護ケアの見学・参加 ②学生カンファレンス
2週目	(午前)	(午後)
月〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
火〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
水〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
木〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	〈病棟実習〉①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
金〈大学〉	実習成果報告会 ①グループの体験報告 ②全体での実習成果報告会 ③個人のまとめ	

評価方法 および評価基準

出席状況、実習記録、実習態度を総合して実習指導教員・単位認定者が行う。

S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A(89～80点)：学習目標を概ね達成している (Very Good)

B(79～70点)：学習目標を達成しているが不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			感覚するためには、多感性を達成するためには、豊かな人間性 豊かな視野 知識・技術 判断力 探究心	
授業コード	BM0301				
授業科目名	小児看護学実習				
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	2		
担当教員	倉田節子・深谷久子・植松裕子				

講義目的							
健康な子どもと健康障害をもつ子どもの双方に関わる体験をとおして、成長・発達過程にある子どもの特性とその家族へのかかわりが理解できる。							
さらに、子どもの成長・発達および健康レベルに応じた小児看護の実践に必要な基礎的能力を修得する。							
授業内容							
病棟、外来、保育園での実習をとおして、子どもに愛情と関心をもち、子どもの目線となって子どもが体験している世界を共有するとともに、子どもと家族を理解する。子どもと家族を対象に、倫理的配慮にもとづいた看護を実践する。							
1. 病棟では、1名の患児を受持ち、看護過程の展開方法と看護の実際について理解する。 2. 病院によっては、外来での診療、乳児健診等をとおして、小児科外来の機能と役割を理解する。 3. 保育園では、保育活動に参加することをとおして、健康な乳幼児の成長・発達と日常生活の援助について理解する。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
1. 「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「小児看護援助論Ⅱ」および「基礎看護学実習Ⅱ」の単位修得が履修の前提条件となる。 2. 小児感染症等の抗体価を確認し、必要な予防接種を含め感染予防に備えておくこと。 3. この科目的単位を修得するにあたり、およそ60時間の学修（学習課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。毎日の実習内容のフィードバックは、適宜、全体・グループ・個別に実習時間内・実習時間外に行う。 4. 成績評価について (1) 実習期間、全ての出席を原則とする。 (2) 実習記録が期限内に提出され5分の4以上の出席がある場合に評価対象とする。							
教材							
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2,800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3,300円税 参考書：適宜紹介する							
授業計画および学習課題（予習・復習）							
回	内 容	学習課題（予習・復習）					
実習期間：平成30年8月27日～平成31年3月1日							
実習場所： 1) 病院：(1) あいち小児保健医療総合センター；(2) 藤田保健衛生大学病院；(3) 名古屋大学医学部附属病院；(4) 半田市立半田病院；(5) 大同病院 2) 保育園：(1) 大府保育園；(2) 桃山保育園；(3) 杞山保育園；(4) 追分保育園；(5) 共長保育園；(6) 若宮保育園 実習計画：詳細は「小児看護学実習の手引き」に準ずること							
1日目	：学内実習（オリエンテーション、事前学習状況の確認、技術演習） 予習：教科書の熟読、小児に関して履修した科目的授業内容の復習、課題レポート（事前） 復習：課題レポート、小児看護技術						
2～9日目	：臨地実習 予習：実習記録（実習前） 復習：実習記録（実習後）						
10日目	：学内実習（実習の総合的まとめ・実習成果報告会） 予習：実習記録（学内実習前） 復習：実習記録、学内実習内容						

評価方法 および評価基準

実習内容、出席状況、実習記録等を総合的に評価する。

S (100~90 点) : 実習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80 点) : 実習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70 点) : 実習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60 点) : 実習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			成するために必要な能力 ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	豊かな人間性	
授業コード	BM0401				広い視野	
授業科目名	母性看護学実習				知識・技術 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	2		判断力 <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	杉下・藏本・星・内藤				探究心 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的
地域の周産期医療の中核を担う病院における看護職の活動について系統的に学習する。外来での健康診査・保健指導を見学し、妊娠・分娩・産褥各期の特徴と看護ケアの実際を学ぶ。病棟ではベッドサイドケアを通して、妊産褥婦および早期新生児を身体的・心理的・社会的側面から理解し、母子の特性を理解した上で必要性に応じてウエルネス看護診断にもとづいて看護過程の展開ができる。また、周産期における母子関係や家族へのサポートの重要性を理解し、援助方法を学ぶ。実習の全過程を通じ、生命の尊厳と生命を守り育していくことの重要性を学ぶ。
授業内容
<ol style="list-style-type: none"> 実習施設は、4施設を使用する。 実習場所は、産科病棟、新生児室、産科外来とする。 学生は小グループに分かれ、1グループごとに実習する。 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とする（実習計画は以下のとおり）。 実習方法は、母子（または妊婦）を1~2事例を受け持ち、看護過程の展開を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 妊産褥婦及び新生児を受け持ち、母子への看護を実践する。 分娩見学、新生児の観察及び沐浴を実践する。 妊産褥婦の外来健康診査及び母親教室等の保健指導の実際を見学する。 妊産褥婦、新生児とその家族との関わりを通して、生命の尊厳と生命倫理について考える機会をもつ。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
<p>履修条件：母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。</p> <p>授業時間外の学修：授業時間外学修では、充分な予習と復習をして知識や技術の確認をすること。本科目の単位修得にあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。</p>
留意事項：実習目標を達成できるよう臨地実習要項、母性看護学実習の手引きを熟読し、積極的かつ主体的に実習に取り組む姿勢が必要である。実習期間は全出席を原則とする。実習（病院実習・学内学習日）時間の4/5未満の出席では、単位修得ができない。期限までに実習記録の提出がない場合は単位修得とみなされない。
教材
<ol style="list-style-type: none"> 母性看護学概論 「1」：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2016 母性看護学各論 「2」：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2016 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 北川真理子他、メジカルフレンド社、2015 あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例 内藤直子他、ふくろう出版、3,000円+税 2017年（平成29年度）人間環境大学看護学部臨地実習要項・母性看護学実習の手引き 母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの講義資料
授業計画および学習課題（予習・復習）
実習施設：愛知県内4施設に分かれて実習を行う
実習計画：
<第1週目>
月（学内） オリエンテーション、看護技術の自己学習、課題レポートの確認・看護技術の確認
火 病棟オリエンテーション、受け持ち対象の情報収集から対象の各期におけるアセスメントを項目毎に行い、その統合からウエルネス看護診断を導き看護過程の計画立案を行う
水 看護過程の展開：計画立案、看護援助実践、看護援助評価
木 看護過程の展開、看護援助実践、看護援助評価
金 看護過程の展開、看護援助実践、看護過程の評価、中間カンファレンス

<第2週目>

月	看護過程の展開、看護援助実践、看護援助評価
火	看護過程の展開、看護援助実践、看護援助評価
水（午後学内）	産科外来見学、午後からは学内で記録をまとめる
木	看護過程の展開、看護援助実践、看護援助評価
金（学内）	最終カンファレンス・実習記録のまとめ、実習記録の提出（16時まで）

*施設や対象により変更する可能性がある

評価方法 および評価基準

実習目標の到達度（75%）、実習における関心・意欲・態度（15%）、学習レディネス（10%）を基に、看護過程の到達度、看護援助技術、関心・意欲・態度、学習レディネスなどを、形成的かつ絶対評価法の双方向の視点から、実習担当教員を中心に母性看護学実習科目担当の全教員で、総合的に評価する。

詳細な評価項目は、母性看護学実習手引きの「母性看護学実習評価表」に準ずる

S（100～90点）：母性看護学実習の目標は、ほぼ完全に達成している。（Excellent）

A（89～80点）：母性看護学実習の目標は、相応に達成している。（Very Good）

B（79～70点）：母性看護学実習の目標は、相応に達しているが不十分な点がある。（Good）

C（69～60点）：母性看護学実習の目標は、最低限ではあるが満たしている。（Pass）

D（60点未満）：Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			成才をめざすための必要な能力 デイリーマップボーナス達成	豊かな人間性	○	
授業コード	BM0601				広い視野	○	
授業科目名	急性期看護学実習				知識・技術	○	
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	3		判断力	○	
担当教員	柴山健三・中神友子				探究心	○	

実習目的

- 成人期の周手術期およびクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、対象者およびその家族に対して専門的援助を実施するための看護実践能力を育成する。
- 手術室や集中治療室の見学および救急実習を通して、急性期医療における看護の役割と機能を経験および理解し実践できるようにする。

実習方法

- 実習施設は、3病院施設と大府市消防署を使用する。
- 病院の実習場所は、成人を主な入院患者とする外科系および急性期内科病棟とする。
- 学生は21グループ（1グループ5名）に分かれて実習する。
- 学生1人当たりの実習期間は、3週間の集中実習とする（実習計画は以下のとおり）。

但し、救急実習は平成31年3月上旬に大府市消防署で実施する。
- 病院の実習方法は、次のとおりとする。
 - 受け持つ患者は、急性期にある周手術患者または内科急性期患者とする。
 - 医療施設に入院している成人期の患者を受け持ち、看護を実践する。
 - 手術室および集中治療室などを見学する。手術および集中治療患者の看護を実践する。

留意事項（履修条件他）

履修要件は1年から3年前期までの専門基礎科目および専門科目の必修科目の単位をすべて修得していること。

- 実習期間は全出席とする。
- 出席日数が実習時間の4/5に満たない場合には単位認定できない。
- 欠席した実習時間は補修し、補修後に評価する。
- 原則として再実習は行わない。

教材

教科書：疾患別看護過程の展開、山口瑞穂子ら 監修、Gakken・2014年、5,800+税 円

ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護、中島恵美子、山崎智子、竹内佐智恵 編、メディカ出版・平成25年、3,600+税 円（急性期看護援助論Ⅱで購入）

系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院・平成25年、2,500+税 円（成人看護学概論で購入）

写真でわかる臨床看護技術2 アドバンス、本庄恵子ら 監修、インターメディカ・2016年、3,900+税 円（急性期看護援助論Ⅰで購入）

参考書：基礎・臨床看護技術、任 和子ら 編修、医学書院・2014年、5,500+税 円

NANDA-I 看護診断、上鶴重美ら 編修、医学書院・2015年、3,000+税 円

ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーベルヒロカワ・平成25年、2,300+税 円

実習計画および学習課題（予習・復習）

週	曜日	学習課題（予習・復習）
第1週	月、火	オリエンテーション、受け持ち患者の選定・アセスメント、看護実践
	水	学内（記録の整理、）
	木、金	看護実践
第2週	月、火	看護実践
	水	学内（病棟中間カンファレンス準備等）
	木、金	看護実践
第3週	月、火	看護実践 手術室見学実習、手術見学、集中治療室（ICU）実習
	水	学内（事例発表の準備等）
	木、	事例発表、評価面接
	金	看護実践 救急実習（平成31年3月実施予定）

評価方法 および評価基準

実習態度、実習記録、を総合して評価する。

S (100~90 点) : 充分に理解している。

A (89~80 点) : 理解している。

B (79~70 点) : 概ね理解している。

C (69~60 点) : 概ね理解されているが、復習に努めること。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			感覚するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心を達成するためには、ディープ・マ・ボリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心	
授業コード	BM0701				
授業科目名	慢性期看護学実習				
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	3		
担当教員	永坂和子・加藤亜妃子・林容子				

実習目的	
<p>成人期にあり、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象者とその家族に対し、セルフケア能力の増進、残存機能を活用し、療養生活を支援する看護を学ぶ。あるいは、ターミナル期にある対象者に対し、心理社会的に必要な看護やセルフマネジメントを支援する必要な看護を学ぶ。また科学的根拠にもとづいた安全・安楽な看護が提供できる知識・技術・態度を修得する。各疾患の治療・病態・病期に対応した看護援助を理解し、疾患の理解を踏まえたアセスメント、看護計画立案、看護実践および評価の一連のプロセスを踏むことができる。</p>	
実習方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設は、3施設を使用する。 2) 実習場所は、成人を主な入院患者とする病棟とする。 3) 学生は、1グループ5名に分かれて実習する。 4) 学生1人当たりの実習期間は、3週間の集中実習とする（実習計画は以下のとおり）。 5) 実習方法は、次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療施設に入院している成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、対象者に必要な看護を実践する。 (2) 受け持つ対象は、慢性期にある患者とする。 (3) 受け持った対象および家族に対して、健康教育を含む患者・家族教育あるいは支援を行う。 	
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>履修用件は1年から3年前期までの専門基礎科目および専門科目の必修科目の単位をすべて履修していること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習期間は、原則として全出席とする。 2) 出席日数が実習時間の4/5に満たない場合は単位認定できない。 3) 欠席した実習時間は補修し、補修後に評価する。 4) 原則として再実習は行わない。 	
教材	
<p>教科書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 慢性期看護論 第3版、著者名：鈴木志津恵、藤田佐和編集、ヌーベルヒロカワ・2014、2,600円+税 2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版）、江川隆子、ヌーベルヒロカワ、2,300円+税 3. NANDA-I 看護診断（最新版）医学書院 <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 成人看護学概論 第2版、大西和子、岡部聰子 編、ヌーベルヒロカワ・2009 	
実習計画および学習課題（予習・復習）	
週	実習内容および学習課題
1週目	<p>月：オリエンテーション 施設の概要の説明、受持患者の選定、情報収集 火：受持患者の情報収集、アセスメント、看護計画の立案 水：大学帰校日（情報の整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画立案） 木：計画に沿って看護実践 金：計画に沿って看護実践、午後：カンファレンスⅠ（看護問題の明確化）</p>
2週目	<p>月：計画に沿って看護実践 火：計画に沿って看護実践 午後：カンファレンスⅡ（看護計画の発表） 水：大学帰校日（看護計画の評価・修正、記録の整理） 木：評価・計画に沿って看護実践 金：計画に沿って看護実践</p>
3週目	<p>月：計画に沿って看護実践、評価 火：計画に沿って看護実践、評価 水：計画に沿って看護実践、評価、カンファレンスⅢ（看護計画の評価、実習での学びの発表） 木：大学帰校日（評価面接、記録の整理、ケース発表の準備） 金：最終カンファレンス（ケース発表、討議） 午後：記録の整理と提出</p>

評価方法 および評価基準

実習態度、実習記録を総合して評価する。

S (100~90 点) : 目標を十分に達成できている (Excellent)

A (89~80 点) : 目標を概ね達成できている (Very Good)

B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、目標を達成できている (Good)

C (69~60 点) : 目標を最低限達成できている (Pass)

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			感 ^る するために必要な能力 デイ ^ア プロマ ^ス ボリシ ^ー を達成 ^{する}	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BM0801				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	在宅高齢者看護学実習				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	臼井・安藤・石井・甲村・櫻井・様田				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

実習目的
<p>1. 在宅高齢者との交流を通して、在宅で暮らす高齢者や介護している家族の思いを理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者である在宅高齢者との対話を通して、高齢者を理解できる 2) 疾病や障害を抱えて生きる在宅高齢者の思いを理解できる 3) 利用者である在宅高齢者を介護している家族の思いを理解できる 4) 看護学生として、看護倫理に基づく行動をとることができる <p>2. 在宅高齢者の支援に必要な各種技術や看護活動の場と、各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者である在宅高齢者の支援に必要な各種技術について理解できる 2) 利用者である在宅高齢者への看護活動の場を理解できる 3) 各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解できる <p>3. 加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験を通して高齢者の自立支援への知識を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験をすることで補助具の説明ができる 2) 在宅高齢者の自立支援への知識を深める <p>4. 介護家族の介護負担軽減を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法と留意点を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護家族の介護負担について在宅高齢者のかかわり、職員の説明から理解できる 2) 各種介護・福祉用具の使用方法の説明を受け、使用方法・留意点について理解できる
実習方法
在宅高齢者看護学実習は、実習オリエンテーション、事前・事後学習、施設実習（カンファレンスを含む）、学習成果発表会で構成する
<p>1. 実習施設は、高齢者のための複合型施設、通所リハビリテーション施設または通所介護施設、回想（歴史資料館）、福祉用具施設で行う</p> <p>2. 通所リハビリテーション施設または通所介護施設での実習は、1グループの学生数を5~6名とする</p> <p>3. 高齢者のための複合型施設、回想（歴史資料館）と福祉用具施設での実習は、学生数を26~29名程度のグループとする</p>
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
高齢者看護学概論の失格者ではないこと
教材
<p>① 書名：看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは、著者名：正木治恵、真田弘美編、出版社・出版年：南江堂・2011年、ISBN 978-4-524-26062-1、価格：3,024円</p> <p>② 書名：看護学テキスト NiCE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する、著者名：真田弘美、正木治恵編、出版社・出版年：南江堂・2011年、ISBN：978-4-524-26063-8 価格：3,456円</p>
実習計画および学習課題（予習・復習）
実習期間：7月30日（月）～8月3日（金）
実習場所：高齢者のための複合型施設、通所リハビリテーション施設または通所介護施設、回想（歴史資料館）
福祉用具施設
各実習施設の実習内容と学習課題：
<p>【高齢者のための複合型施設での実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要についてのオリエンテーション ・施設内の設備等の見学 ・各施設における支援を見学 ▶ 学習課題 ・各施設の目的、制度、役割と機能について理解できる。 ・各施設での支援内容を理解できる。

【通所リハビリテーション施設(デイケア)または通所介護施設(デイサービス)での実習】

- ・施設の概要についてのオリエンテーション
- ・施設内の設備等の見学
- ・看護職員等の役割と業務、利用者である在宅高齢者に対する支援を見学
- ・看護職員以外の役割と業務、利用者である在宅高齢者に対する支援を見学
- ・利用者である在宅高齢者との交流

►学習課題

- ・利用者である在宅高齢者との交流を通して、高齢者を理解できる。
- ・疾病や障害を抱えて生きる在宅高齢者の思いを理解できる。
- ・利用者である在宅高齢者を介護している家族の思いを理解できる(連絡帳等)。
- ・利用者である在宅高齢者の支援に必要な各種技術について理解できる。
- ・利用者である在宅高齢者への看護活動の場を理解できる。

【福祉用具施設での実習】

- ・施設の概要についてのオリエンテーション
- ・福祉用具施設の見学
- ・福祉用具の使用および体験
- ・高齢者への支援の方法を見学

►学習課題

- ・加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験をすることで補助具の説明ができる。
- ・高齢者の自立の支援への知識を深める。
- ・介護家族の介護工夫を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法と留意点を知る。

【回想（歴史資料館）での実習】

- ・施設概要について
- ・施設内の見学

►学習課題

- ・各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解できる。

【実習のまとめ】

- ・グループ討議
- ・発表
- ・実習記録の提出（翌週8月6日月曜日の12時締め切り）

►学習課題

- ・他者の意見を尊重しつつも自身の考えを伝えることができる。
- ・学びの内容と制度等を関連付けて説明できる。
- ・学びを共有することで、自己の学びを深めることができる。
- ・意見等を要約し、発表することができる。

評価方法 および評価基準

実習記録 60%、出席状況 20%、参加態度 20%

S (100~90点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明することができ、他者に理解できるように実習記録用紙へ記述することができた。

A (89~80点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明することができ、実習記録用紙へ記述することができた。

B (79~70点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解することができ、不十分であるが実習記録用紙へ記述することができた。

C (69~60点) : 課題に取り組み、実習目的の内容を理解することができた。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 感るための必要能力 ディープマーリシーを達成するための必要能力	
授業コード	BM0901				
授業科目名	高齢者看護学実習				
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	3		
担当教員	臼井・安藤・甲村・櫻井				

実習目的
様々な特性を持つ高齢者の看護を、学内での学びを実習場面において具体的に理解し必要な指導のもと、介護老人保健施設等で看護実践を行うことを目的とする
1. 介護老人保健施設等において支援を必要とする高齢者を受け持ち、高齢期を生きる人々とその家族を理解する 1) 高齢者の身体的・生理的变化を理解できる 2) 高齢者の心理的・精神的变化を理解できる 3) 家族の発達段階での高齢者の変化を理解できる 4) 高齢者の個別の健康問題・健康障害を理解できる 5) 高齢者が自分の健康状態をどのように自覚しているかを理解できる
2. 対象者のニーズや生活に必要な看護支援をアセスメントし、高齢者のQOLを高める看護実践能力を養う 1) 健康障害を、死に対する不安・恐怖・自尊感情の低下、孤独、無力との関連で説明できる 2) 高齢者の生活習慣・価値観・家族状況を考慮したケアプランを立案できる 3) 高齢者のQOLを高めるための看護を実践できる
3. 治療終了後および自宅生活へ復帰するためのリハビリテーションの場である介護老人保健施設等の機能と役割を理解するとともに在宅復帰支援とその課題を明らかにする 1) 高齢者の自己決定を尊重した援助が実施できる 2) 高齢者を尊重した言葉づかい、名前の呼び方ができる 3) ケアにおける高齢者の人権と権利の擁護のあり方を考察できる 4) 高齢者の生活習慣・価値観・家族状況を考慮した援助が実施できる
4. 高齢者に必要な看護支援やアクティビティケア、特に認知症高齢者への支援について実践的に理解する 1) アクティビティ活動（歌唱、体操など）に参加して高齢者と一緒に楽しみ、共有することができる 2) 高齢者の生活背景や生活史を考慮して、話を傾聴することができる 3) 視覚障害を考慮して、字の大きさ・色彩・光線に注意して話すことができる
5. 他職種と協働して提供される支援や社会資源の活用について学び、高齢者が尊厳をもって最後まで生活できる看護支援活動と老年看護の役割について理解する 1) 多様な職種のメンバーとの連携・協働のあり方について理解できる 2) 高齢者のケアの中で看護職に期待される役割の一部を実践できる 3) 地域社会資源サービスとの連携および継続看護の視点が理解できる
実習方法
実習は介護老人保健施設等で行う 実習期間は3週間の集中実習とする 介護老人保健施設等に入所している高齢者を受け持ち、看護過程を展開・分析・評価する。また小集団を対象としたアクティビティケアの企画・実践・評価を行う 保健医療福祉職員との連携とチームケアを体験し、他の専門職との意見交換を行う
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
1. 1年から3年前期までの該当領域のすべての単位を修得していること 2. すべての出席を原則とし、実習期間4/5以上の出席を満たしていないものは単位認定できない 3. 期日までに記録類を提出しない場合は単位認定できない

教材
① 書名：看護学テキスト NICE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは、著者名：正木治恵、真田弘美編、出版社・出版年：南江堂・2011年、ISBN 978-4-524-26062-1、価格：3,024円
② 書名：看護学テキスト NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する、著者名：真田弘美、正木治恵編、出版社・出版年：南江堂・2011年、ISBN：978-4-524-26063-8 価格：3,456円
③ 書名：生活機能からみた 老年看護過程 第3版+病態・生活機能関連図、著者名：山田律子、萩野悦子、内ヶ島伸也、井出訓編、出版社・出版年：医学書院・2016年、ISBN:978-4-260-02836-3、価格:3,888円
実習計画および学習課題
<p>【第1週目】</p> <p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち高齢者の決定 ・受け持ち高齢者の疾患・障害等の理解のための文献・情報収集、看護技術の復習、情報収集 ・受け持ち高齢者のこれまでの生活歴・健康歴・価値観を知る ・受け持ち高齢者の1日の過ごし方の理解 ・ケアへ参加しながら身体状況・表情・様子の理解 ・疾患、障害の程度の理解 <p>日々の実習目標に沿って援助を実施</p> <p>看護目標の立案</p> <p>初期計画の立案</p> <p>カンファレンス（事例発表）</p>
<p>【第2週目】</p> <p>看護目標に基づいた看護計画の立案・実践・評価・修正</p> <p>看護目標に基づいたアクティビティ活動の計画・実践</p> <p>日々の実習目標に沿って援助を実施</p> <p>中間カンファレンス（看護初期計画の発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスでの検討結果からの初期計画の評価・修正
<p>【第3週目】</p> <p>修正された看護目標に基づいた看護計画の立案・実践・評価</p> <p>施設最終カンファレンス</p> <p>実習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの学びの共有
評価方法 および評価基準
<p>評価方法 実習記録 50%、実践内容 40%、出席状況 10%</p> <p>S (100~90点) 自ら積極的に課題に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明・実施することができ、他者に理解できるように実習記録用紙へ記述することができた</p> <p>A (89~80点) 自ら課題に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明・実施することができ、実習記録用紙へ記述することができた</p> <p>B (79~70点) 指導・助言を受けて課題に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明・実施することができ、実習記録用紙へ記述することができた</p> <p>C (69~60点) 指導・助言を何度も受けて課題に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明・実施することができ、実習記録用紙へ記述することができた</p> <p>D (60点未満) Cのレベルに達していない</p>

科目区分	専門科目-臨地実習			豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心 成るために必要な能力 ディプロマポリシーを達成するに必要な能力	
授業コード	BM0501				
授業科目名	精神看護学実習				
配当学年/学期	3 / 後期	単位数	2		
担当教員	松浦・三浦・鈴木				

実習目的

対象者の体験に添って、患者一看護師関係を発展させていくことができる。また、発達段階、病態、治療、セルフケアの状況を統合的に考え、対象者にとって必要な看護を実践する。さらに精神科病院における他職種の役割と連携について学び、対象者が必要とする社会資源について理解する。加えて、精神看護における倫理的課題を考え、看護職者としての倫理観を育むことを目指す。これらを通して、学生自身が自己洞察を深め、精神看護の意義と看護師の役割を理解する。

実習方法

精神看護学実習は、学内オリエンテーション、施設・病棟オリエンテーション、病棟実習（カンファレンス含）、事前・事後学習にて構成される。

1. 実習施設は、精神科病院を使用する。
 2. 学生 1 人当りの実習期間は、2 週間の集中実習とする。
 3. 実習方法は次の通りとする。
 - 1) 実習オリエンテーション：実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を手引きに沿って説明する。
 - 2) 施設オリエンテーション：実習施設の概要について説明を受ける。施設によっては実習開始前に実施する。
 - 3) 病棟オリエンテーション：実習病棟の概要について説明を受ける。
 - 4) 病棟実習では以下の内容を行う。
 - ① 原則として患者 1 名を受け持ち、対象者の価値観を尊重しながらかかわり、看護過程を展開する。
 - ② 対象者の病態や受けている治療、生活リズムを理解しながら、対象者と援助関係を形成する。
 - ③ 対象者看護援助に必要な情報を収集、アセスメントし、看護計画を立案、実施する。
 - ④ 病棟や病院で行われているさまざまな治療的または援助的なアプローチを学び、他職種の役割や精神障害の社会資源について知る。
 - 5) カンファレンスを学生主体で運営する。

留意事項（履修条件ほか）

履修条件：1年から3年前期までの専門基礎科目と専門科目のうち、必修科目的単位をすべて習得していること。

留意事項：

- ・実習期間すべての出席を原則とする。
 - ・実習時間（帰学日含む）の4/5以上の出席がない者は、単位認定できない。
 - ・実習記録の提出がない場合には、単位の認定はできない。
 - ・実習に関するフィードバックは、実習中その都度と実習の最終日の面接内で行う。
 - ・この実習での単位を習得するにあたり、およそ30時間の実習時間外の学修が必要である。

教材

実習中は以下の教材を参考とすること。

- 精神保健看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病・治療論Ⅱ（精神医学）での配布資料
 - 田中美恵子編 精神看護学 第2版：学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2015年 2,592円
 - 出口禎子 松本佳子 鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ精神看護学①』第4版 2017年 2,600円
出口禎子 松本佳子 鷹野朋実編『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②』第4版 2017年 3,200円

実習計画および学習課題（予習・復習）				
実習期間：平成30年9月10日～平成31年3月1日				
実習場所：1) 共和病院 2) 北林病院 3) 刈谷病院				
実習計画	AM	PM		
第1週 (月)	病院・病棟オリエンテーション	13:30～受け持ち患者決定 情報収集、対象者のリズムに沿って行動 15:30～16:00 ショートカンファレンス		
第1週 (火)	8:30～申し送り 情報収集、対象者のリズムに沿って行動	13:30～情報収集、対象者のリズムに沿って行動 15:30～16:00 ショートカンファレンス		
第1週 (水)	大学帰校日（教員との面接、記録整理、自己学習） 2日間で集めた情報を整理し、看護問題を検討する。 提出物：前日までの記録、プロセスレコード、フェイスシート、アセスメントシート			
第1週 (木)	8:30～申し送り 情報収集、対象者のリズムに沿って行動	13:30～情報収集、対象者のリズムに沿って行動 15:30～16:00 ショートカンファレンス		
第1週 (金)	8:30～申し送り 情報収集、対象者のリズムに沿って行動	13:30～16:00 三者面談 ケアプラン立案に向けて、学生・指導者・教員で話しあう		
第2週 (月)	8:30～申し送り 立案したプランをもとに看護援助実践	13:30～立案したプランをもとに看護援助実践（適宜ケアプラン修正） 15:30～16:00 ケースカンファレンス		
第2週 (火)	8:30～申し送り 立案したプランをもとに看護援助実践 (適宜ケアプラン修正)	13:30～立案したプランをもとに看護援助実践（適宜ケアプラン修正） 15:00～16:00 倫理カンファレンス		
第2週 (水)	8:30～申し送り 立案したプランをもとに看護援助実践 (適宜ケアプラン修正)	13:30～立案したプランをもとに看護援助実践（適宜ケアプラン修正） 15:30～16:00 ケースカンファレンス		
第2週 (木)	8:30～申し送り 立案したプランをもとに看護援助実践 (適宜ケアプラン修正)	13:30～立案したプランをもとに看護援助実践（適宜ケアプラン修正） 対象者との関係の終結 15:00～16:00 最終カンファレンス		
第2週 (金)	大学帰校日（教員との面接、記録整理、レポート作成） 提出物：全記録、評価表、レポート			
評価方法 および評価基準				
出席状況、実習記録、実習態度、目標達成度を総合して実習指導教員（単位認定者）が行う。また、実習における到達目標と評価の視点は、精神看護学実習要項を参照すること。				
S (100～90点) : 実習要項の実習目標に照らし合わせ、すべてにおいて適切に十分実施できる。				
A (89～80点) : 実習要項の実習目標に照らし合わせ、すべてにおいて適切でいくつかを十分に実施できる。				
B (79～70点) : 実習要項の実習目標に照らし合わせ、すべてにおいて適切に実施できる。				
C (69～60点) : 実習要項の実習目標に照らし合わせ、いくつかを適切に実施し、ほかは適切に実施しようと努力している。 (Pass)				
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。				

科目区分	専門科目-臨地実習			感覚するために必要な能力 デイ・プロマ・ボリシーを達成するための知識・技術と判断力、探究心	豊かな人間性	○	
授業コード	BM1001				広い視野	○	
授業科目名	国際看護学実習				知識・技術	○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	1		判断力	○	
担当教員	西川まり子				探究心	○	

講義目的

国際看護学実習はこれまで講義、演習や海外研修などで学んできたことを基に、実践現場でより具体的に学ぶ。将来において、充実した外国人ケアを実践するための基礎となる。

具体的な目標は以下のとおりである。

1. 文化的背景の多様な外国人患者を受け入れ、ケアする時の医療施設の特徴や工夫、責任を理解する。
2. 医療施設や地域での通訳や保険を含めた外国人患者のサポートシステムを理解する。
3. 異文化ケアを介して国際看護学の将来に向けての課題を考えることができる。

授業内容

- 1) 実習施設は、2施設を使用する。
- 2) 実習場所は、外来や他部門（例えば医事課、臨床検査室、薬局、通訳ボランティア部等）を含み、外国人対応の準備等の見学実習：ただし外来患者の入院による病棟訪室や外来でのバイタルサイン測定程度は実施可能
- 3) 実習期間は、5日間 + 学内1コマ
- 4) 実習時間は、8:30 am ~ 3:30pm その後カンファレンスは30分程度（病院内）*その日の状況で、時間の変動可能。
- 5) すべての実習グループ終了後に1コマの統合カンファレンス（大学内）

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位を修得するにあたり、おおよそ30時間の授業時間外の学修課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。全体のフィールドバックは、授業毎のディスカッション後のコメントとその解説で行う。個人のフィールドバックは、授業時間外に適宜行う。

教材

- ① 波平恵美子『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院, 2011, ¥2,010 ISBN978-4-260-01317-8
- ② 多文化共生センター『医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方』 ¥1,000
- ③ 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644- ¥3,200

実習計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：病院に5日間

実習場所： 神戸海星病院、JA 愛知厚生連 豊田厚生病院

臨地	月	病院：オリエンテーション
	火	病院：
	水	病院：
	木	病院：
	金	病院：発表とまとめ

まとめ（1コマ程度）：学内の統合カンファレンスで実習中の学びを学生間で交換し、学び合う。各施設で用紙にまとめた発表とグループの再編成でディスカッションを行い、より広く学び合う。

評価方法 および評価基準

実習記録 30%、発表（グループ） 10%、レポート 10% 実習と統合カンファレンスへの積極的な参加度 50%

S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79~70点) : 学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

科目区分	専門科目-臨地実習			感覚するためには、 豊かな人間性 広い視野 知識・技術 判断力 探究心	○	
授業コード	BM1101				○	
授業科目名	在宅看護学実習				○	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	2		○	
担当教員	石井・福田・山本・山田・木田				○	

講義目的
在宅看護学実習では、地域で療養生活している人々とそれを支える家族の生活実態、並びにそこで展開されている看護実践を知り、在宅における看護支援のあり方を学ぶ。また、病院・施設から在宅・施設療養への移行、施設・在宅から入院などのプロセスを通して看護職間や多職種間の連携及び地域包括ケアシステムの関連性などについて学ぶ。また、地域で生活する療養者への地域在宅ケアサービスの一環としての訪問看護の機能と役割を理解し、療養者に対して倫理的態度の重要性を学ぶ。
授業内容
<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーションの機能と役割の理解ができる 療養者とその家族について、生活状況を踏まえた療養上の課題について理解できる。 療養者・家族がもつ、療養上の課題に対する訪問看護師の役割と、その支援が理解できる。 保健・医療・福祉に携わる多職種との連携について理解することができる。 実習への取り組みについて主体的に実施することができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
在宅看護学は、在宅看護概論 2 単位、在宅看護援助論 I ・ II で 2 単位、実習 2 単位からなる。修得内容は在宅看護の概念理解、在宅看護に関連する法体系の理解、在宅看護の展開方法の理解、在宅における看護技術の理解、在宅ケアシステムの関連及び社会資源の活用などである。すなわち、在宅看護学ではこうした多様な学修とその他、終末期看護学の習得を終えて実習に望む。この科目的修得にあたり、おおよそ 30 時間の（予習・復習）時間外学修が必要である。実習地域の地図、社会資源など、時間外に設定する。
教材
テキスト：在宅看護論 在宅療養を支える技術（株）メディカ出版, 2018 年 参考本：写真でわかる訪問看護 アドバンス：インターメディカ・ これからのは在宅看護論：島内節、亀井智子編者、ミネルヴァ書房, 2016
授業計画および学習課題（予習・復習）
実習期間：平成 30 年 4 月～ 7 月 実習場所：11箇所 2週間 1 訪問看護ステーションソレイユ 2 訪問看護ステーションこんばす 3 訪問看護ステーション太陽緑 4 訪問看護ステーション太陽 高蔵寺 5 訪問看護ステーション太陽千種 6 すみれ訪問看護ステーション 7 訪問看護ステーション ななみ 8 訪問看護ステーション空 9 訪問看護ステーション豆大ふく 10 訪問看護ステーション ありす 11 八千代訪問看護ステーション 実習計画は、在宅看護学実習手引きに準じること。 1日 実習オリエンテーション 2日～6日 施設でオリエンテーション、受持ち事例及びそれ以外の訪問看護師と同行訪問し、受け持ち事例の看護計画の情報整理、アセスメント、計画、実施を行う。 7日～9日 実施したケアの評価を行い、再修正し、看護計画の展開を行う。また、地域ケアシステムによる連携の仕組み、サービス調整会議の見学、各地域の専門職間の連携によるケアの見学・参加をする。 10日 学内での総合的なまとめ
評価方法 および評価基準
実習評価票で評価する（自己評価・担当教員評価） S (100~90 点) : 在宅看護学実習目標をほぼ完全に達成している。 A (89~80 点) : 在宅看護学実習目標を相応に達成している。 B (79~70 点) : 在宅看護学実習目標を相応に達しているが不十分な点がある。 C (69~60 点) : 在宅看護学実習目標の最低限は満たしている。 D (60 点未満) : 在宅看護学実習目標 C のレベルに達していない。

科目区分	専門科目-臨地実習			感 る た めに 必 要 能 力	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BM1201				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護学実習 I				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	3		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	石井・三徳・山田・荒金				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的
公衆衛生看護学実習 I では、地域で生活している人々の健康水準の向上と QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。また、人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動のあり方を学ぶ。更に、地域の人々の健康や QOL の向上を目指すために、地域の人々の健康課題を明確にし、解決策を考え地域に働きかける実践技術を修得する。
授業内容
<p>1) 地域の健康課題の明確化と計画・立案することができる</p> <p>2) 公衆衛生看護の対象と活動の場に応じた対象別実践力を養う</p> <p>3) 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価することが理解できる</p> <p>4) 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化することの必要性が理解できる</p> <p>5) 地域の健康危機管理のあり方を理解することができる</p> <p>6) 専門的な自律と継続的な質の向上能力を支援する必要性が分かる。</p>
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
公衆衛生看護学 I の実習施設は、愛知県の保健所 4 か所、名古屋市保健所 2 か所、豊田市保健所 1 か所、3 市、1 町を使用する。 公衆衛生看護学実習 I は、地域看護・公衆衛生看護学概論 2 単位、公衆衛生看護学援助論 I ・ II ・ III で 5 単位、4 年次前期：公衆衛生看護学実習 I 4 単位 180 時間 この科目的修得にあたり、およそ 30 時間の時間外学修が必要である。実習地域の地図、社会資源など、時間外に設定する。
教材
<p>学習課題（予習・復習）</p> <p>テキスト：2016 標準保健学講座 3 対象別地域保健活動、標準保健学講座 2 地域看護技術 最新版（医学書院）</p> <p>国民衛生の動向、看護法令要覧</p>
授業計画および学習課題（予習・復習）
<p>実習期間：平成 30 年 4 月～7 月</p> <p>実習場所：11 箇所 4 週間</p> <p>1 愛知県西尾保健所 2 愛知県半田保健所 3 愛知県知多保健所 4 愛知県衣浦東部保健所 5 西尾市保健センター 6 大府市保健センター 7 安城市保健センター 8 美浜町保健センター 9 名古屋市西区保健所 10 名古屋市守山区保健所 11 豊田市保健所</p> <p>実習計画は、公衆衛生看護学実習手引きに準じること。</p> <p>実習 1 日目は、実習集合オリエンテーション</p> <p>2 日～20 日までは、保健所管内地区踏査、保健事業見学・体験、健康教室対象者把握、健康教室計画書作成、健康教室媒体作成、健康教室実施など健康教育の企画・立案し、実施するとともに評価を行い、事業化・施策化の方法論と過程の実現を図れるように学ぶ。</p> <p>なお、実習施設により、特定の健康課題の解決に向けて家庭訪問、相談、健康教育、健康診断・保健指導、地区組織育成のための保健活動の PDCA サイクルに参加するとともに、地域住民と協働する活動にも積極的に参画する。</p>
評価方法 および評価基準
<p>実習評価票で評価する（自己評価・担当教員評価）</p> <p>S (100~90 点) : 公衆衛生看護学 I 実習目標をほぼ完全に達成している。</p> <p>A (89~80 点) : 公衆衛生看護学 I 実習目標を相応に達成している。</p> <p>B (79~70 点) : 公衆衛生看護学 I 実習目標を相応に達しているが不十分な点がある。</p> <p>C (69~60 点) : 公衆衛生看護学 I 実習目標の最低限は満たしている。</p> <p>D (60 点未満) : 公衆衛生看護学 I 実習目標 C のレベルに達していない。</p>

科目区分	専門科目-臨地実習			成するために必要な能力 ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	豊かな人間性	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード	BM1301				広い視野	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ				知識・技術	<input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	4 / 後期	単位数	2		判断力	<input checked="" type="radio"/>	
担当教員	石井・三徳・山田・荒金				探究心	<input checked="" type="radio"/>	

講義目的
公衆衛生看護学実習Ⅱでは、地域で生活している人々の健康水準の向上とQOLの向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。更に、人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人・家族と集団および地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。また、地域保健医療福祉において関係機関・関係職種と連携して構築する保健師の活動を理解する。
授業内容
<p>1) 地域の健康づくり活動を理解し、必要性を考察することができる。</p> <p>2) 地域の健康問題解決のためのネットワークおよびシステムについて理解し、他機関・他職種と連携・協働のあり方を考察することができる。</p> <p>3) 産業保健分野における公衆衛生看護活動を理解する。特に、作業環境・作業方法等の労働環境の特徴と健康の関連について具体的な事例を通して述べることができる。</p> <p>4) 学校保健分野における公衆衛生看護活動を理解する。養護教諭として健康保持への指導・援助、健康・安全管理について理解することができる。</p>
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
公衆衛生看護学Ⅱの実習施設は、愛知県内の産業保健施設2か所、健康保健管理1か所、学校保健高等学校1か所を使用する。公衆衛生看護学実習Ⅱは、地域看護・公衆衛生看護学概論2単位、公衆衛生看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで5単位、公衆衛生看護学実習Ⅰ4単位180時間終了後に行う。
この科目的修得にあたり、およそ8時間の時間外学修が必要である。実習地域の地図、社会資源など、時間外に設定する。
教材
<p>学習課題（予習・復習）</p> <p>テキスト：2016標準保健学講座3 対象別地域保健活動、標準保健学講座2 地域看護技術 最新版（医学書院）</p> <p>国民衛生の動向、看護法令要覧</p>
授業計画および学習課題（予習・復習）
<p>実習期間：平成30年9月～11月</p> <p>実習場所：4箇所 1週間</p> <p>1) 産業保健実習（A）：株式会社豊田自動織機、豊田合成株式会社</p> <p>2) 健康増進施設（B）：あいち健康プラザ</p> <p>3) 学校保健実習（C）：岡崎学園高等学校</p> <p>実習計画は、公衆衛生看護学実習手引きに準じること。</p> <p>実習施設は、産業保健、健康保健管理、学校保健の3分野にわたる。</p> <p>5日間の中で、産業保健は2日間、学校保健1日、健康保健管理1日である。実習オリエンテーションはそれぞれの施設においてオリエンテーションを受ける。</p>
評価方法 および評価基準
<p>実習評価票で評価する（自己評価・担当教員評価）</p> <p>S(100～90点)：公衆衛生看護学Ⅱ実習目標をほぼ完全に達成している。</p> <p>A(89～80点)：公衆衛生看護学Ⅱ実習目標を相応に達成している。</p> <p>B(79～70点)：公衆衛生看護学Ⅱ実習目標を相応に達しているが不十分な点がある。</p> <p>C(69～60点)：公衆衛生看護学Ⅱ実習目標の最低限は満たしている。</p> <p>D(60点未満)：公衆衛生看護学Ⅱ実習目標Cのレベルに達していない。</p>

科目区分	専門科目-臨地実習			ディプロマポリシーを達成するためには、豊かな人間性、広い視野、知識・技術、判断力、探究心の5つの能力が求められます。	
授業コード	BM1401				
授業科目名	統合実習				
配当学年/学期	4 / 前期	単位数	2		
担当教員	倉田節子 他 21 名				

実習目的			
既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を修得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で、実習病棟のケアプランに則って、必要なケアを判断し提供することや、保健医療福祉チームの中で、安全かつ効率的に看護実践を提供していくための役割遂行、看護管理、他職種との連携・協働について理解し、専門職業人として必要な態度や課題を明確にする。			
実習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 複数の対象者を受け持ち、看護ケアの優先度を考慮したうえで、必要な看護を判断し実際に看護を提供することができる。 看護職間での目標の共有、役割分担、情報伝達など、効果的な看護ケアのためにどのようなシステムがとられているか理解することができる。 「目標管理」の観点から、看護マネージメントのしくみと機能について理解することができる。 他職種との連携・協働の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護職の位置付けを理解することができる。 			
実習方法			
<ol style="list-style-type: none"> 学生5人程度で1グループを編成し、1人当たり約2週間の集中実習を行う。 実習する看護領域は、高齢者看護学、在宅看護学、成人看護学（慢性期、急性期）、小児看護学、精神看護学、母性看護学である。 看護部長や看護師長から医療施設における看護マネージメントに関する臨床講義を受ける。 目標設定のもとに行う看護管理の実際が医療現場でどのように展開されているか、参加観察、インタビュー、委員会等へ参加する。 毎日グループ単位でカンファレンスを行い、体験したことに基づいた学習を発表、討議し、理解を深める。 最終日には領域ごとにすべてのグループが集まり、統合実習として学習できたことの共有を図る。 実際の実習計画は、看護領域ごと実習の手引きを沿って、詳細な説明を受ける。（実習計画例は別表） 			
実習計画例			
週	曜日	午前	午後
第1週目	月	看護部長による臨床講義	病棟看護長や専門看護師等による臨床講義
	火	受け持ち患者の決定、情報収集、計画立案	
	水	病棟のケアプランに沿って見学実習	
	木	優先度を考慮した看護ケアの実践と評価	
	金	優先度を考慮した看護ケアの実践と評価	
第2週目	月	看護部長室スタッフの勤務の実際の見学 (参加観察、インタビュー、委員会参加など)	
	火	一般病棟師長の勤務の実際の見学 (参加観察、インタビュー、委員会参加など)	
	水	優先度を考慮した看護ケアの実践と評価	
	木	他部門の見学	施設内実習成果報告会
	金	学習成果発表会 記録整理・提出	
留意事項（履修条件他）			
<ol style="list-style-type: none"> 3年後期の該当領域の単位を修得、4年前期に在宅看護学実習を履修していること。 臨地実習要項に準ずる。 			
教材			

評価方法 および評価基準

実習目標の到達度 80%、実習態度 20%

実習の評価は、原則として実習を担当する看護学領域で評価を行う。

S (100~90 点) : 目標を十分に達成できている

A (89~80 点) : 目標を概ね達成できている

B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、目標を達成できている

C (69~60 点) : 目標を最低限達成できている

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

実習目標ごとの評価指標

1. 複数の対象者を受け持ち、看護ケアの優先度を考慮したうえで、必要な看護を判断し実際に看護を提供することができる。

S : 複数の対象者に対して優先度を考慮した看護ケアを提供することができる。

A : 指導者の助言・指導の下、複数の対象者に対して優先度を考慮した看護ケアを提供することができる。

B : 指導者の助言・指導の下、指導者と一緒に、複数の対象者に対して優先度を考慮した看護ケアを提供することができる。

C : 複数の対象者を受け持つことができる。

D : C のレベルに達していない。

2. 看護職間での目標の共有、役割分担、情報伝達など、効果的な看護ケアのためにどのようなシステムがとられているか理解することができます。

S : 看護職間での目標の共有、役割分担、情報伝達など、効果的な看護ケアのためにとられているシステムを説明することができる。

A : 看護職間での目標の共有、役割分担、情報伝達など、効果的な看護ケアのためにとられているシステムを理解できる。

B : 他のメンバーと協働して効果的な看護ケアを提供できるよう、報告・伝達することの必要性が理解できる。

C : 看護職間での目標の共有の実際がわかる。

D : C のレベルに達していない。

3. 「目標管理」の観点から、看護マネジメントのしくみと機能について理解することができる。

S : 実習施設及び看護部門の目標管理を説明できる。

A : 病棟・セクションの目標管理の一部を説明することができる。

B : チームリーダーのリーダーシップの在り方を理解できる。

C : 看護チームの一員としてメンバーシップの在り方がわかる。

D : C のレベルに達していない。

4. 他職種との連携・協働の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護職の位置付け、及び、専門職として必要となる看護職の役割を理解することができます。

S : 他職種との連携・協働の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護職の位置付けを理解し、専門職として必要となる看護職の役割を説明することができる。

A : 他職種との連携・協働の実際を知り、保健医療福祉チームにおける看護職の位置付けを理解し、チームの中での看護職の役割を理解することができる。

B : 具体的な事例をもとにした他職種との連携・協働の実際から医療福祉チームにおける看護職の役割を理解することができる。

C : 具体的な事例をもとに、他職種との連携・協働の実際がわかる。

D : C のレベルに達していない。